

2021 年度入試状況分析



国公立大分析 〈文部科学省発表確定志願者数+独自日程〉

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

Point of Data

①志願状況全体概況

- 国公立大全体では2年連続減少し、志願者数は43万人を下回った
- 国立大は10年連続減少、公立大も2年連続減少

②系統別志願状況

- 薬学系、総合科学系はやや増加、その他の系統はいずれも前年度並か減少

③地区別志願状況

- 前期は東海を除き減少、北海道、東北、北関東の減少が目立つ
- 後期は前年度減少した地区で増加

④データネット目標ライン別志願者数集計

- 前期はCグループを除きやや減少、後期はA・Fグループでやや減少

⑤2段階選抜実施状況

- 第1段階選抜不合格者数は中期・後期で大幅増加
- 不合格者数最多は前期が東京大、中期・後期では岐阜大

⑥志願者数が多い大学

- 志願者数最多は6年連続で千葉大

⑦増減が目立った大学

- 増加数最多は千葉大、減少数最多は横浜国立大

⑧難関国立10大学志願状況

- 前期…5大学が増加、5大学が減少、10大学全体で微減
- 後期…募集人員が多い神戸大、九州大は増加、北海道大は減少

⑨医学部医学科志願状況

- 医学科全体の減少傾向に歯止め。前期は7年ぶりに微増、後期は2年連続減少

⑩大学別志願状況

①志願状況全体概況

□一般選抜志願者数は2年連続減少へ

〔設置・日程別志願状況〕

文部科学省が2月24日に発表した2021年度国公立大一般選抜の確定志願状況、及び独自日程の国際教養大、新潟県立大、三条市立大、叡啓大の大学発表の確定志願者数を合計すると、志願者数は429,563人で、前年度と比べて13,503人(97)の減少でした。大きく志願者数が減少した前年度に続いて、2年連続減少となりました。しかし、募集人員も国公立大全体で1,093人(募集人員前年度対比指数99)減少したことで、志願倍率は4.41倍→4.32倍へわずか0.09ポイントのダウンに留まりました。

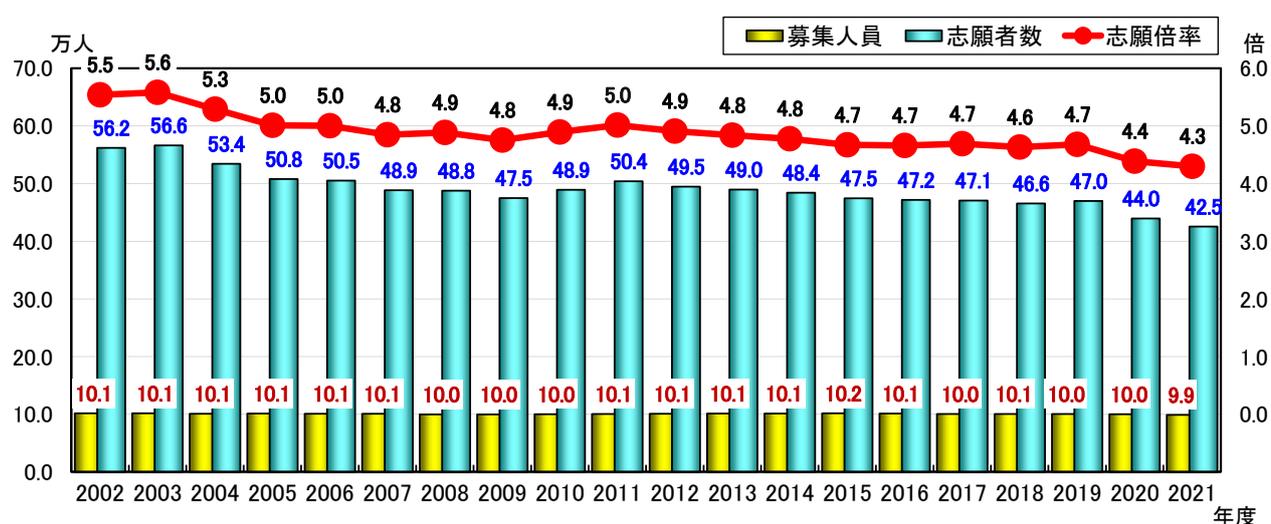
設置	日程	2021年度					2020年度		
		募集人員	志願者数	志願倍率	増減数	指数	募集人員	志願者数	志願倍率
国立	前期	63,716	177,178	2.78	-5,594	97	63,828	182,772	2.86
	後期	13,201	118,753	9.00	-5,667	95	14,168	124,420	8.78
	合計	76,917	295,931	3.85	-11,261	96	77,996	307,192	3.94
公立	前期	16,198	58,178	3.59	-2,102	97	16,223	60,280	3.72
	後期	3,487	42,168	12.09	+1,501	104	3,572	40,667	11.38
	中期	2,364	29,091	12.31	-2,335	93	2,355	31,426	13.34
	独自	450	4,195	9.32	+694	120	363	3,501	9.64
	合計	22,499	133,632	5.94	-2,242	98	22,513	135,874	6.04
合計	前期	79,914	235,356	2.95	-7,696	97	80,051	243,052	3.04
	後期	16,688	160,921	9.64	-4,166	97	17,740	165,087	9.31
	中期	2,364	29,091	12.31	-2,335	93	2,355	31,426	13.34
	独自	450	4,195	9.32	+694	120	363	3,501	9.64
	合計	99,416	429,563	4.32	-13,503	97	100,509	443,066	4.41

※専門職大学である静岡県立農林環境専門職大を除く。

志願者数減少の背景に、下記の3点が考えられます。

- ① 前年度の弱気な出願による既卒受験生の減少に伴い、大学入学共通テスト(以下「共通テスト」)の志願者数が4.0%減少したことに加えて、学校一斉休校に伴う学習の遅れや共通テストが大学入試センター試験(以下「センター試験」)よりも難易度がアップするという予想やコロナ禍による無理な受験を回避する受験生の増加もあり、例年を大きく上回る欠席率となり、国公立大志望者の基礎数となる共通テスト受験者数が8.2%減少。
- ② コロナ禍の中、長距離移動を敬遠し、都市部在住の受験生の地方国公立大への出願が減少。
- ③ 共通テストにおける文系3教科型(国語、地歴・公民、外国語)の平均点ダウンにより、文系3教科型入試を行う募集単位への慎重な出願。

【確定志願者数推移】(独自日程除く)



□国立大は10年連続減少、公立大も2年連続減少

【設置別】

国立大……前期は5,594人(97)、後期は5,667人(95)といずれも減少しました。この結果、国立大全体では11,261人(96)の減少で、10年連続減少となりました。

公立大……前期は2,102人(97)、中期は2,335人(93)とそれぞれ国立大と同様に減少しましたが、後期は1,501人(104)のやや増加でした。この増加の要因は、共通テストの900点満点の予想平均点が文理いず

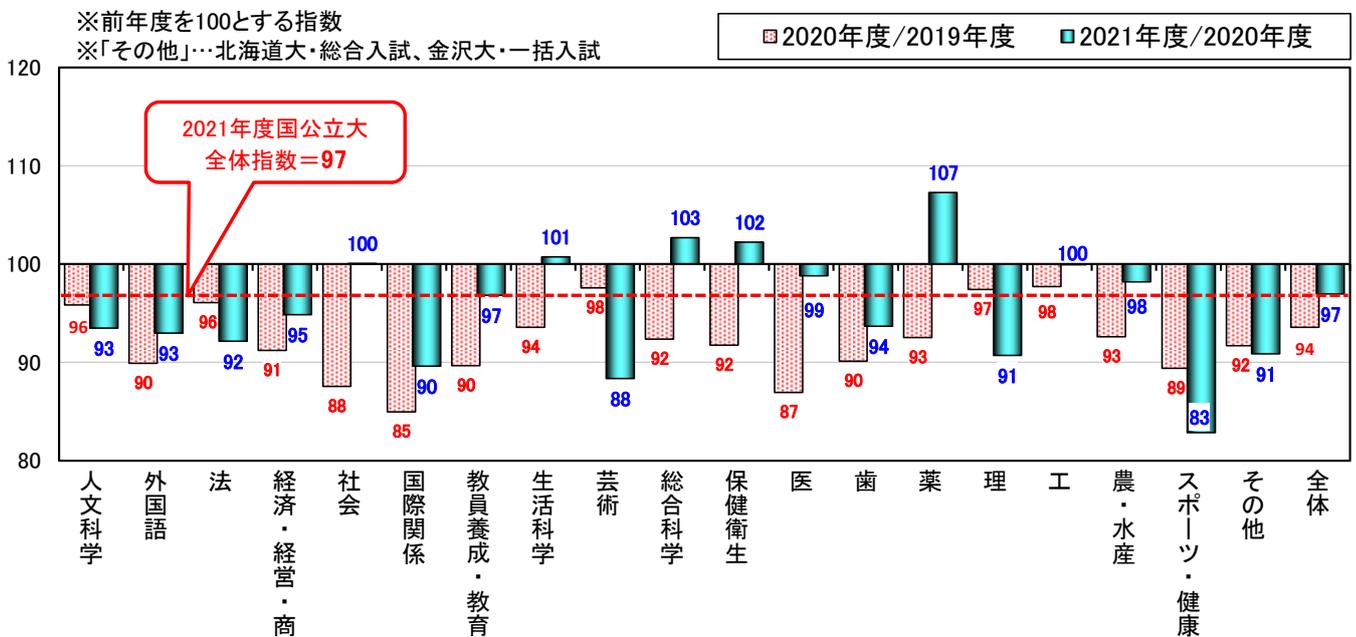
れもアップし、後期までしっかり出願した受験生が増えたこと、コロナ禍による地元国公立大の人気の高まり、共通テストでの合格目標得点が低く、地方において人気の高い保健衛生系の単科大学が多いことなどが要因と考えられます。公立大全体では2,242人(98)の微減で、5年ぶりの減少となった前年度に引き続き2年連続の減少となりました。

【日程別】

- 前期………募集人員は前年度並ですが、志願者数は7,696人(97)減少したため、志願倍率は3.04倍→2.95倍とわずかに0.09ポイントダウンし、3倍を下回りました。
- 後期………志願者数は4,166人(97)のやや減少でしたが、後期廃止の大学もあり、募集人員は1,052人(94)減少したため、志願倍率は9.31倍→9.64倍と0.33ポイントアップしました。
- 中期………志願者数は2,335人(93)のやや減少で、前年度の微減に続いて2年連続減少。募集人員は9人(100)増加で前年度並だが、志願倍率は13.34倍→12.31倍に1.03ポイントダウン。

②系統別志願状況

□薬学系、総合科学系はやや増加



薬(107)、総合科学(103)はやや増加でしたが、これら以外の系統は保健衛生(102)、生活科学(101)、社会(100)、工(100)、医(99)、農・水産(98)は前年度並で、他の11系統は減少で、特にスポーツ・健康(83)は大幅減少でした。

文系の系統では、コロナ禍の影響を強く受けた国際関係(90)は減少、外国語(93)はやや減少しました。また、法(92)は法曹界や上級公務員などを取り巻く厳しい環境による人気低下の影響が継続しており、前年度よりさらに減少しました。人文科学(93)は前年度の減少率が小さかったですが、厳しい経済環境を背景に就職直結型の系統でないことへの不安から減少率が大きくなりました。社会(100)は公立大での大幅増加が目立ち、微増ですが文系の系統で唯一の増加となりました。

理系では、理(91)は厳しい経済環境からより実学的である工への流れに加えて、コロナ禍で個別試験を中止し、共通テストの成績のみで選抜を行った横浜国立大・理工でこの系統に含まれる学科の志願者数合計(45)が半減以下だった影響が大きく、減少しました。工(100)は理で述べた実学志向もあり、人気は堅調でした。前年度は低人気だった農・水産(98)は微減に留まりました。特に、共通テスト重視の配点で、共通テストの高得点を生かそうとした層が流入した山形大・農(280)、宮崎大・農(176)の大幅増加の影響がありました。

メディカル系は、経済環境が悪化する中で、職業直結型の系統であることから人気が高まりました。医(99)は近年入学定員の増加で間口が広がり、既卒生が減少したことによる減少が続いていましたが、前年度並でした。コロナ禍による医療への関心が高くなったことに加えて、地方を中心に経済環境の悪化から職業に直結する医師を目指す理系上位層が他学部志望変更しなかったことが影響しました。医とは異なり、歯(94)は歯科医師の将来への不安と共通テストの平均点アップにより医からの歯への志望変更が減少したことによりやや減少しました。薬(107)は、医同様に職業直結型であることに加えて、コロナ禍におけるワクチンや治療薬開発の話題が多く報道されたことから関心が高まり、やや増加しました。保健衛生(102)は比較的共通テストの目標ラインが低い地方公立大での設置が多く、共通テストの平均点アップの影響と地元志向によって微増となりました。

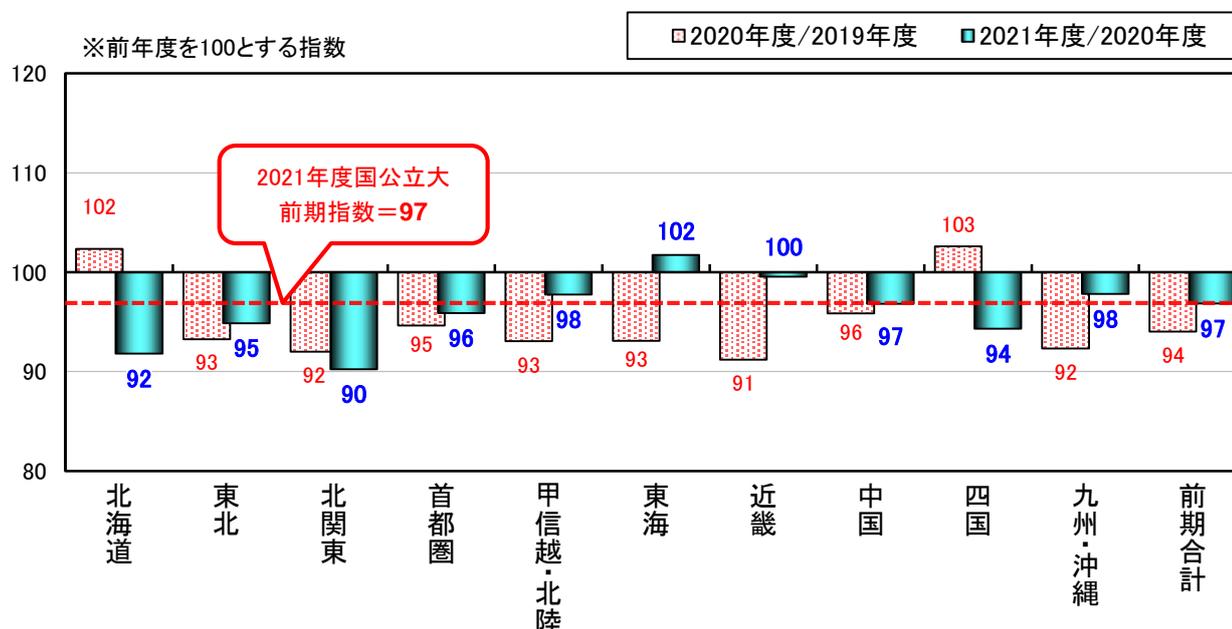
文理いずれからも志願者がいる系統では、オリンピック・パラリンピック効果が薄れたスポーツ・健康(83)は大幅減少し、この系統に含まれる学部で増加したのは埼玉県立大・保健医療福祉(健康)のみでした。教育を取り巻く厳しい環境から敬遠されてきた教員養成・教育(97)ですがやや減少に留まり、前年度より減少率が小さくなりました。地方での厳しい経済環境により、就職直結型の系統として狙われた影響が見られます。総合科学(103)はやや増加で、この系統に含まれる兵庫県立大・社会情報科学<中>(174)の激増と新設された筑波大・総合選抜理系Ⅲ、群馬大・情報の志願者数が加わったことが影響しました。

③地区別志願状況

□前期は東海を除き減少、北海道、東北、北関東の減少が目立つ

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



○北海道(92)… 13大学中9大学が減少。

【志願者数】公立千歳科学技術大(+170人)が理工系への人気の高さと札幌都市圏からのロケーションの良さから増加数が大きかった。一方で、その影響を受けた室蘭工業大(-591人)の減少数が大きかった。遠距離移動を嫌った志願動向により北海道大(-370人)も減少数が大きかった。

【志願者指数】公立千歳科学技術大(181)が激増、小樽商科大(110)は増加。一方で、室蘭工業大(51)、名寄市立大(68)、公立はこだて未来大(83)が大幅減少、帯広畜産大(86)、札幌市立大(90)、北見工業大(91)が減少。

○東北(93)…17 大学中 9 大学が減少。

【志願者数】福島県立医科大(+467 人)が保健科学を新設したことで増加数が大きく、弘前大(-644 人)、秋田県立大(-290 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】福島県立医科大(222)が 2 倍以上の激増、山形県立米沢栄養大(195)、山形県立保健医療大(132)が大幅増加。一方で、秋田県立大(67)、弘前大(71)が大幅減少、宮城教育大(89)、会津大(89)、青森公立大(90)、岩手大(91)、秋田大(91)は減少。

○北関東(90)…10 大学中 9 大学が減少。

【志願者数】群馬県立県民健康科学大(+21 人)のみが増加。一方で、高崎経済大(-505 人)、筑波大(-211 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】群馬県立県民健康科学大(110)のみ増加。一方で、前橋工科大(69)、高崎経済大(75)、茨城県立医療大(83)が大幅減少、宇都宮大(86)、筑波技術大(90)、群馬県立女子大(92)は減少。

○首都圏(96)…19 大学中 13 大学が減少。

【志願者数】千葉大(+291 人)、東京農工大(+276 人)、横浜市立大(+198 人)の増加数が大きかった。一方で、コロナ禍への対応から全学部で個別試験の実施を取りやめた横浜国立大(-967 人)は前期では全国で 2 番目に大きな減少数だった。東京都立大(-435 人)、東京芸術大(-318 人)、東京学芸大(-258 人)などの減少数が大きかった。

【志願者指数】東京農工大(123)が大幅増加、横浜市立大(110)、埼玉県立大(109)が増加。一方で、横浜国立大(66)が大幅減少、東京学芸大(86)、東京医科歯科大(87)、電気通信大(88)、東京外国語大(88)、東京芸術大(91)、東京都立大(82)は減少。

○甲信越・北陸(98)…22 大学中 14 大学が減少。

【志願者数】後期廃止により募集人員が増加した金沢大(+1,098 人)が 1 千人以上の増加数で、前期では全国で最も多い増加数だった。これに次いで、三重大(+542 人)の増加数も大きかった。一方で、公立諏訪東京理科大(-565 人)、富山大(-426 人)、新潟大(-335 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】石川県立看護大(170)、公立小松大(148)、金沢大(142)、長野大(141)、敦賀市立看護大(140)、山梨県立大(132)が大幅増加。一方で、新潟県立看護大(50)、公立諏訪東京理科大(50)、長野県看護大(67)、山梨大(79)、都留文科大(80)が指数 80 を下回る大幅減少。地区内で大きな増減に分かれた。

○東海(102)…14 大学中 8 大学が減少。

【志願者数】三重大(+542 人)が増加、愛知教育大(-159 人)が減少した。

【志願者指数】岐阜県立看護大(140)、三重大(122)が大幅増加。一方で、三重県立看護大(64)が大幅減少、愛知教育大(88)、浜松医科大(88)が減少。

○近畿(100)…25 大学中 14 大学が減少。

【志願者数】神戸大(+625 人)の増加数が目立ち、前期では全国で 2 番目に大きな増加数だった。和歌山県立医科大(+273 人)は薬の新設で増加、大阪大(-471 人)、京都大(-302 人)、滋賀大(-222 人)が減少。

【志願者指数】和歌山県立医科大(206)は倍増の激増、京都教育大(119)、奈良教育大(117)は大幅増加。一方で、奈良県立大(66)、神戸市看護大(72)、兵庫教育大(81)、奈良女子大(82)、京都府立大(83)、滋賀大(83)は大幅減少。

○中国(97)…16 大学中 12 大学が増加。

【志願者数】山口大(+438 人)、下関市立大(+273 人)の増加。一方で、島根県立大(-1,284 人)の減少数が目

立ち、前期では全国で最も大きな減少数だった。山陽小野田市立山口東京理科大(-431人)、島根大(-348人)、広島大(-223人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】下関市立大(143)、新見公立大(136)、福山市立大(126)、広島市立大(125)、県立広島大(120)は大幅増加。一方で、島根県立大(34)、山陽小野田市立山口東京理科大(52)、山口県立大(81)、島根大(84)は大幅減少。

○四国(94)…9大学のうち5大学が減少。

【志願者数】愛媛大(+171人)は増加。一方で、徳島大(-472人)、高知工科大(-309人)は減少。

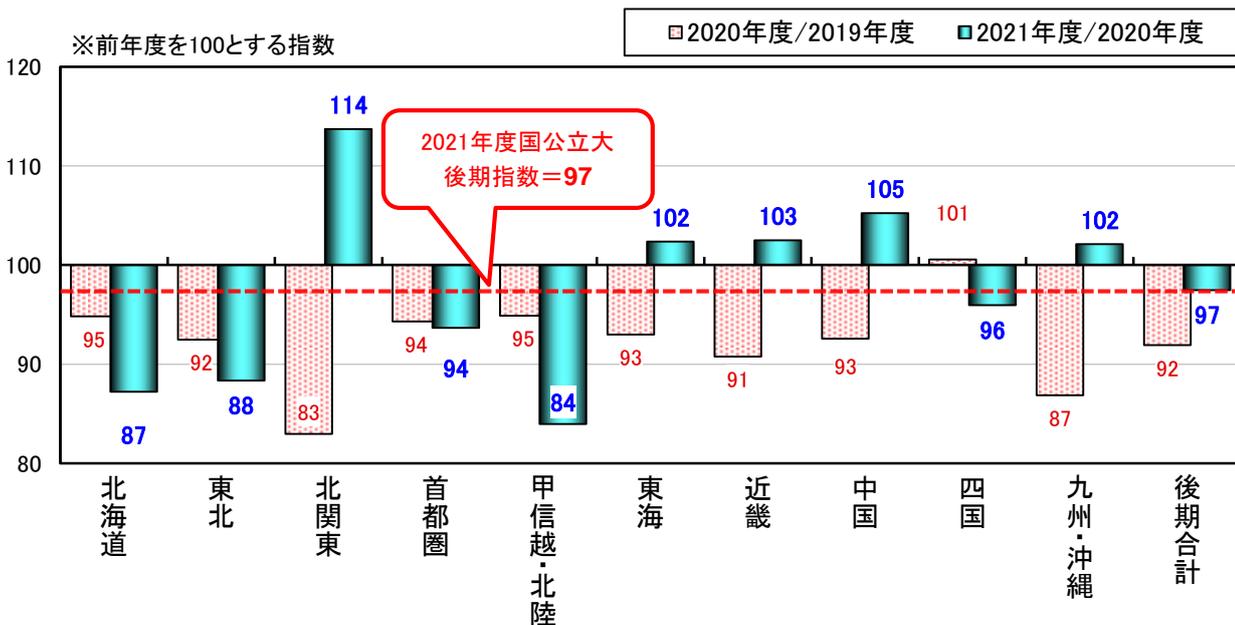
【志願者指数】高知県立大(114)は大幅増加、愛媛大(106)、香川大(106)はやや増加。一方で、高知工科大(75)、徳島大(81)などは大幅減少、高知大(92)、鳴門教育大(92)は減少。

○九州・沖縄(98)…23大学のうち13大学が減少

【志願者数】鹿児島大(+307人)、宮崎大(+225人)は増加。一方で、大分大(-636人)、熊本大(-303人)、佐賀大(-206人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】九州歯科大(162)、沖縄県立看護大(147)、宮崎県立看護大(145)、福岡県立大(124)、宮崎大(115)は大幅増加。一方で、大分大(69)、宮崎公立大(71)、福岡女子大(81)、熊本県立大(84)は大幅減少。

<後期日程>



○北海道(87)…9大学中6大学が減少。後期廃止の札幌市立大を除いても(88)の減少。

【志願者数】室蘭工業大(+235人)の増加数が大きかった。一方で、北海道大(-761人)の減少数が大きく、後期では全国で2番目に大きい減少数だった。北見工業大(-460人)、旭川医科大(-205人)も減少した。

【志願者指数】公立はこだて未来大(361)は3.6倍の激増、室蘭工業大(149)、小樽商科大(142)は大幅増加。一方で、旭川医科大(52)は2年連続大幅減少、帯広畜産大(62)、北見工業大(71)、北海道大(82)は大幅減少。

○東北(88)…14大学中9大学が減少。

【志願者数】増加数が目立った大学はなく、弘前大(-562人)、福島大(-523人)、秋田大(-325人)の減少数が大きかった。

- 【志願者指数】青森公立大(142)、山形県立米沢栄養大(124)は大幅増加。一方で、弘前大(65)、福島大(76)、秋田大(81)は大幅減少。福島県立医科大(86)、宮城教育大(90)、岩手県立大(91)、東北大(92)は減少。
- 北関東(114)…8 大学中 6 大学が増加。
 【志願者数】茨城大(+693 人)、高崎経済大(+318 人)の増加数が大きかった。一方で、前橋工科大(-213 人)の減少数が大きかった。
 【志願者指数】高崎経済大(130)、茨城県立医療大(124)、茨城大(121)、群馬大(119)は大幅増加。一方で、前橋工科大(74)は大幅減少。
- 首都圏(94)…15 大学中 8 大学が増加。後期廃止の東京工業大を除いても(96)のやや減少。
 【志願者数】千葉大(+1,062 人)は、後期では全国で最も大きい増加数だった。一方で、前期同様にコロナ禍への対応から全学部で個別試験の実施を取りやめた横浜国立大(-2,425 人)は、後期では全国で最も大きい減少数だった。
 【志願者指数】千葉大(127)、埼玉県立大(123)は大幅増加。一方で、横浜国立大(49)は半減以下の激減、東京外国語大(72)は大幅減少、横浜市立大(87)、東京医科歯科大(87)、お茶の水女子大(88)は減少。
- 甲信越・北陸(84)…13 大学中 7 大学が増加。後期廃止の金沢大と長野県看護大を除くと(96)のやや減少。
 【志願者数】富山大(+345 人)、富山県立大(+342 人)の増加数が大きかった。一方で、新潟大(-466 人)、福井大(-437 人)、福井県立大(-343 人)の減少数が大きかった。
 【志願者指数】敦賀市立看護大(206)、富山県立大(181)、石川県立看護大(155)、石川県立大(117)が大幅増加。石川県の公立 2 大学は、金沢大後期廃止の影響が見られた。一方で、山梨県立大(69)、福井県立大(74)、福井大(80)、新潟大(81)は大幅減少。
- 東海(102)…13 大学中 7 大学が増加。
 【志願者数】三重大(+318 人)、名古屋市立大(+247 人)の増加数が大きかった。一方で、静岡大(-228 人)、静岡文化芸術大(-196 人)の減少数が大きかった。
 【志願者指数】浜松医科大(162)、愛知県立大(123)、名古屋市立大(120)、三重大(115)が大幅増加。一方で、静岡文化芸術大(70)は大幅減少。
- 近畿(103)…21 大学中 11 大学が増加。
 【志願者数】兵庫県立大(+708 人)は後期では全国で 2 番目に大きい増加数だった。神戸大(+296 人)も増加数が大きかった。一方で、滋賀大(-326 人)、滋賀県立大(-192 人)の減少数が大きかった。
 【志願者指数】京都教育大(198)、兵庫県立大(146)、神戸市看護大(136)は大幅増加。京都工芸繊維大(113)、大阪府立大(112)は 10%を上回る増加。一方で、福知山公立大(63)は大幅減少。滋賀大(87)、奈良女子大(87)、滋賀県立大(89)などは 10%を上回る減少。
- 中国(105)…14 大学中 9 大学が増加。
 【志願者数】山口大(+607 人)、県立広島大(+492 人)、岡山大(+337 人)の増加数が大きかった。一方で、島根県立大(-506 人)、広島大(-282 人)、島根大(-257 人)の減少数が大きかった。
 【志願者指数】岡山県立大(189)、県立広島大(160)は激増、岡山大(125)、山口大(124)、山口県立大(122)、広島市立大(121)が大幅増加。一方で、島根県立大(51)は半減近い大幅減少、公立鳥取環境大(78)も大幅減少。
- 四国(96)…9 大学中 6 大学が減少。
 【志願者数】徳島大(+233 人)の増加数、愛媛大(-200 人)の減少数が大きかった。
 【志願者指数】徳島大(111)、愛媛県立医療技術大(111)が増加。一方で、高知県立大(73)、香川県

立保健医療大(73)、鳴門教育大(83)は大幅減少。

○九州・沖縄(102)…21 大学の中 14 大学が増加。

【志願者数】宮崎大(+505 人)、鹿児島大(+256 人)、九州大(+227 人)、福岡県立大(+212)の増加数が大きかった。一方で、琉球大(-426 人)、佐賀大(-290 人)、北九州市立大(-226 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】福岡県立大(149)、沖縄県立芸術大(145)、沖縄県立看護大(138)、宮崎県立看護大(134)、宮崎公立大(124)、宮崎大(121)、福岡教育大(120)が大幅増加。一方で、大分県立看護科学大(72)、琉球大(83)は大幅減少。

<中期日程>

今年度から中期を実施する長野県看護大を除いた 21 大学中 16 大学が減少。

【志願者数】公立小松大(+399 人)、静岡県立大(+367 人)、長野県立大(+210 人)の増加数が大きく、下関市立大(-750 人)、公立諏訪東京理科大(-482 人)、大阪府立大(-380 人)、釧路公立大(-376 人)、山陽小野田市立山口東京理科大(-326 人)、奈良県立大(-313 人)、都留文科大(-293 人)、岡山県立大(-208 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】静岡県立大(149)、公立小松大(147)、長野県立大(145)、新見公立大(143)、公立千歳科学技術大(123)は大幅増加。一方で、奈良県立大(67)、公立諏訪東京理科大(72)、釧路公立大(74)、下関市立大(77)、山陽小野田市立東京理科大(84)は大幅減少。

<独自日程>

国際教養大、新潟県立大に新設の三条市立大、叡啓大が加わり 4 大学 6 学部となった。

【志願者数】新設の三条市立大が 802 人の志願者数で志願倍率は 11.1 倍、叡啓大が 64 人の志願者数で志願倍率は 6.4 倍だった。国際教養大(-155 人)、新潟県立大(-17 人)は減少。

【志願者指数】新潟県立大(99)は前年度並、国際教養大(88)は減少。

次に、地区別に増減数が 150 人以上かつ増減率が 15%以上の大学をまとめました。

○北海道

前期	増加	公立千歳科学技術大	+170人	理工系への人気の高さと札幌都市圏からのロケーションの良さから増加数が大きかった。志願倍率も1.7倍→3.0倍にアップ。
	減少	室蘭工業大	-591人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科とも大幅減少で、(創造)(34)は前年度2倍以上の激増の反動で激減。
後期	増加	室蘭工業大	+235人	(創造工)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(システム理化)(340)は前年度大幅減少の反動で3倍以上の激増。
		公立はこだて未来大	+162人	前年度激減の反動で3倍以上の激増。志願倍率も2.5倍→9.0倍にアップ。
	減少	北海道大	-761人	歯の募集停止もあり2年連続減少。学部別では、水産(113)は増加、(理)(103)はやや増加。一方で、農(65)、経済(67)、医(保健)(74)、獣医(75)、薬(76)、法(81)、工(84)は大幅減少。
		北見工業大	-460人	2年連続減少。学科別では、(地球環境工)(60)、(地域未来デザイン)(81)ともに大幅減少。
		旭川医科大	-205人	個別試験の入試科目で理科+面接→外国語+面接に変更した(医)(35)は2年連続減少の激減。(看護)(88)は2年連続減少。
減少	帯広畜産大	-161人	前年度3年ぶりに激増した反動で大幅減少。	
中期	減少	釧路公立大	-376人	2年連続減少。学科別では、(経営)(97)はやや減少、(経済)(66)は大幅減少。

○東北

前期	増加	福島県立医科大	+467人	保健科学を新設したことと前年度大幅減少の反動で倍以上の激増。
	減少	弘前大	-644人	医(医)(75)は募集人員の変更、個別試験の入試科目で数学+外国語+面接→総合問題+面接に変更で大幅減少。理工(63)、教育(67)は2年連続減少、人文社会科学(68)、農学生命科学(78)は大幅減少。
		秋田県立大	-290人	2年連続増加の反動で大幅減少。
後期	減少	弘前大	-562人	農学生命科学(39)は2年連続減少で激減、理工(64)は2年連続増加の反動で大幅減少、教育(77)は2年連続大幅減少。
		福島大	-523人	農(130)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、人文社会(61)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
		秋田大	-325人	医(保健)の募集停止、国際資源(75)は3年連続大幅減少、理工(83)は大幅減少。

2021 年度入試状況分析【国公立大】

○北関東

前期	減少	高崎経済大	-505人	経済(59)は前年度大幅増加の反動で激減、地域政策(88)は3年連続減少。
		宇都宮大	-199人	共同教育(119)は2年連続減少の反動で大幅増加。工(83)は大幅減少で4年連続減少。国際(63)は系統の不人気もあり大幅減少。農(70)は大幅減少で2年連続減少。
		前橋工科大	-192人	2年連続減少で、学科別では、(システム生体)(116)のみ大幅増加で、他の4学科は(生命情報)(54)、(建築)(69)、(生物)(70)、(社会環境)(80)と大幅減少。
後期	増加	茨城大	+693人	理(216)は倍増以上の激増、工(129)、人文社会科学(118)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、教育(125)は大幅増加。一方で、農(44)は前年度激増の反動で大幅減少。
		高崎経済大	+318人	4年連続減少の反動から大幅増加。
	群馬大	+186人	共同教育(142)、医(保健)(140)が大幅増加。	
	減少	前橋工科大	-213人	2年連続減少で、学科別では、(システム生体)(116)のみ大幅増加で、他の4学科は(社会環境)(62)、(生命情報)(71)、(建築)(80)、(生物)(82)と大幅減少。

○首都圏

前期	増加	東京農工大	+276人	工(129)は2年連続減少の反動で大幅増加、農(114)は増加。
	減少	横浜国立大	-967人	コロナ禍への対応から全学部で個別試験の実施を取りやめた影響で、大幅減少。
		東京学芸大	-258人	(教育)(72)は大幅減少で2年連続減少。(特別支援)(78)は大幅減少。(初等)(87)は減少。(中等)(94)はやや減少で3年連続減少。
後期	増加	千葉大	+1,062人	薬(180)は4年連続減少の反動で大幅増加、法政経(131)、工(128)、理(124)、文(118)、医(116)は大幅増加。
	減少	横浜国立大	-2,425人	募集人員減少とコロナ禍対策として個別試験の実施を取りやめた影響で、半減以下の大幅減少。志願倍率も9.4倍→5.0倍に減少。
		東京外国語大	-412人	系統への不人気の影響で6年連続減少。

○甲信越・北陸

前期	増加	金沢大	+1,098人	後期募集停止で前期の募集人員が大幅増加の影響で、大幅増加。
		長野大	+158人	社会福祉(264)は前年度激減の反動で激増。環境ツーリズム(137)は大幅増加。企業情報(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
		公立小松大	+155人	生産システム(312)は前年度大幅減少の反動で3倍以上の激増。国際文化交流(130)は前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。保健医療(87)は減少で2年連続減少。
		山梨県立大	+151人	看護(261)は4年連続減少の反動で2.6倍の激増。国際政策(133)は前年度半減以下の激減の反動で大幅増加。人間福祉(56)は半減近い激減。
	減少	公立諏訪東京理科大	-565人	前年度2.5倍の激増の反動で半減。
		山梨大	-241人	生命環境(69)、工(80)は2年連続大幅減少。教育(86)は2年連続減少。
		福井大	-211人	教育(61)は2年連続大幅減少。医(73)は前年度増加の反動で大幅減少。
後期	増加	富山県立大	+342人	工(304)は2年連続減少の反動で3倍以上の激増。看護(83)は大幅減少で2年連続減少。
	減少	新潟大	-466人	教育、創生の後期募集停止もあり大幅減少。経済科学(63)は大幅減少。農(64)、理(77)は前年度激増の反動で大幅減少。歯(159)、法(140)は大幅増加。
		福井大	-437人	工(72)、医(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。教育(92)は2年連続減少。国際地域(227)は前年度7割減の激減の反動で2.2倍以上の激増。
		福井県立大	-343人	看護福祉(67)は大幅減少で3年連続減少。海洋生物(71)は2年連続増加の反動で大幅減少。経済(73)は大幅減少で3年連続減少。
中期	増加	公立小松大	+399人	生産システム(182)、国際文化交流(138)、保健医療(124)は大幅増加。
	減少	長野県立大	+210人	グローバル(167)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
		公立諏訪東京理科大	-482人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○東海

前期	増加	三重大	+542人	教育(157)、医(134)、工(120)、生物資源(115)は大幅増加。
後期	増加	名古屋市立大	+247人	人文社会(173)は激増、芸術工(126)は大幅増加、経済(111)は増加。総合生命理(97)はやや減少で、2018年度新設以来初めて減少。
	減少	静岡文化芸術大	-196人	文化政策(65)は大幅減少で4年連続減少、デザイン(82)も大幅減少で2年連続減少。
中期	増加	静岡県立大	+367人	薬(149)は大幅増加で、2017年度以降前年度の反動による増減が継続。

○近畿

前期	増加	和歌山県立医科大	+273人	医(142)は前年度半減以下の激減の反動で大幅増加、保健看護(119)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。新設の薬は185人の志願者数で志願倍率2.6倍。
	減少	滋賀大	-222人	データサイエンス(85)は2年連続大幅減少。経済(90)も2年連続減少。経済夜は募集停止。
		京都府立大	-177人	文(64)は大幅減少、公共政策(90)は減少。
後期	増加	兵庫県立大	+708人	環境人間(569)は前年度半減以下の激減の反動で5倍以上の激増、国際商経(179)は激増、看護(147)は大幅増加、工(113)は増加。
中期	減少	奈良県立大	-313人	地域創造(67)は大幅減少で2年連続減少。

○中国

前期	増加	下関市立大	+273人	経済(143)は大幅増加で3年連続増加。
		広島市立大	+171人	情報科学(158)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、芸術(107)はやや増加。
	減少	島根県立大	-1,289人	人間文化(59)は2018年度新設以来初めて減少で激減、総合政策は国際関係、地域政策に改組したが、1,040人の激減。
		山陽小野田市立山口東京理科大	-431人	工(52)は前年度大幅増加の反動で激減。
後期	増加	島根大	-348人	教育(68)、法文(68)、医(79)、総合理工(79)は大幅減少。一方で、生物資源科学(130)、人間科学(123)は大幅増加。
		山口大	+607人	工(192)は激増、医(120)は大幅増加、国際総合科学(114)は増加。
		県立広島大	+492人	地域創生(354)は改組2年目で激増、生物資源科学(139)は大幅増加、保健福祉は改組で269人の志願者で志願倍率は14.2倍
		岡山大	+337人	経済(202)は2年連続減少の反動で倍以上の激増、法(156)、医(143)、農(127)、理(125)、歯(117)は大幅増加、文(113)は増加。
	広島市立大	+182人	情報科学(184)は前年度大幅減少の反動で激増。	
中期	減少	島根県立大	-506人	人間文化(55)は前年度3倍以上の激増の反動で激減、総合政策から改組の国際関係、地域政策は、国際関係が115人の志願者で志願倍率は11.5倍、地域政策が152人の志願者で志願倍率は7.6倍。
		下関市立大	-750人	経済(77)は全学科減少で大幅減少。
		山陽小野田市立山口東京理科大	-326人	薬(79)は大幅減少、工(90)は減少。

○四国

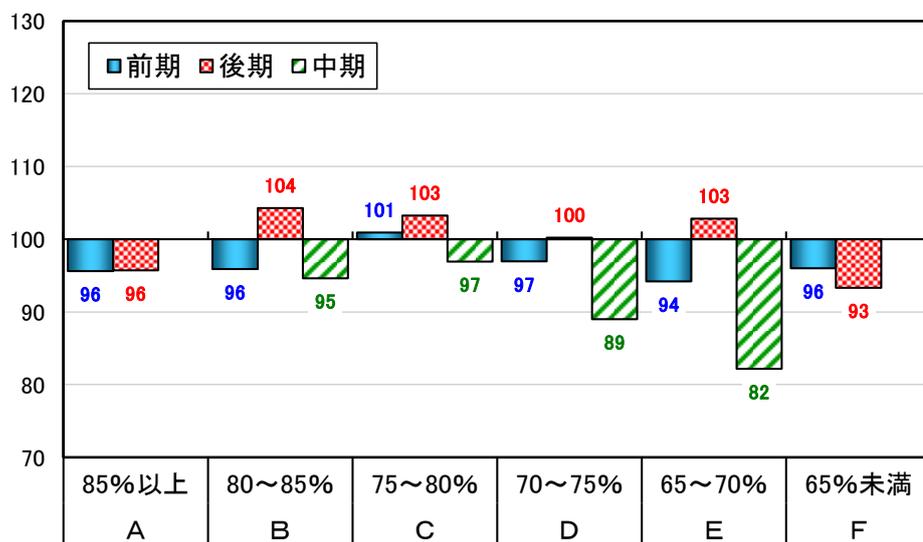
前期	減少	徳島大	-472人	総合科学(41)、生物資源産業(58)はどちらも前年度大幅増加の反動で激減、歯(79)、理工(81)、薬(82)は大幅減少。
		高知工科大	-309人	環境理工(29)は激減、システム工(70)、情報(78)は大幅減少。

○九州・沖縄

前期	増加	九州歯科大	+175人	歯(162)は3年連続減少の反動で大幅増加。
	減少	大分大	-636人	医(54)、教育(57)、理工(71)、経済(84)は大幅減少、福祉健康科学(88)は減少。
後期	増加	宮崎大	+505人	農(177)、教育(132)、地域資源創成(121)は大幅増加。
	減少	福岡県立大	+212人	看護(197)は2年連続減少の反動で激増、人間社会(136)は大幅増加。
		琉球大	-426人	農(51)は激減、工(65)は大幅減少、理(92)は減少。

④データネット目標ライン別志願者数集計

□前期はCグループを除きやや減少、後期はA・Fグループでやや減少



左記のグラフは、2021年度のデータネット(駿台予備学校/ベネッセコーポレーション主催、共通テスト自己採点集計)において、募集単位ごとに設定された合格目標ライン(B判定ライン、合格可能性60%)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で得点率により6つのグループ分けを行い、日程別に各グループの志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。

前期全体では(96)のやや減少ですが、Cグループが微増な以外は、他のグループはやや減少の範囲に収まっており、合格目標ラインの違いによる大きな差はありません。共通テストの平均点アップにより、概ね当初の志望に従って出願が行われたことがうかがえます。詳しく見ていくと、Aグループ(96)はやや減少で、横浜国立大のこのグループに含まれる学部的大幅減少と、秋田大、福井大、高知大などの医学部医学科の前年度の反動による減少が影響しました。Bグループ(96)もやや減少で、東京外国語大、横浜国立大、筑波大などのこのグループに含まれる学部の減少が影響しました。Cグループ(103)はやや増加ですが、宮崎大のこのグループ

に含まれる学部的大幅増加や難関大看護系などの増加が目立ちました。

後期全体では(101)ですが、AグループとFグループがやや減少ですが、Bグループ～Eグループは増加傾向で、近年見られたような後期出願を断念といった、極端な弱気な動向は見られません。これは、共通テスト平均点アップと翌年以降に大きな入試改革を控えていないという入試を取り巻く環境変化の影響と思われる。詳しく見ていくと、Aグループ(96)とFグループ(93)はやや減少です。Bグループ(104)のやや増加は、このグループに含まれる学部で県立広島大の激増や新潟大、岡山大といった大学的大幅増加が影響しました。

公立大のみの中期は、すべてのグループで減少しており、Dグループ、Eグループでは10%以上も減少しています。先にも述べたように、共通テストを文系3教科型で利用する大学もあることから、この文系3教科型の平均点ダウンも影響しました。なお、もともと対象大学が少なく募集人員も少ないため、特定大学に志願者が集中しやすく指数が大きく変化する傾向があることから、あくまでも参考としてご覧ください。

⑤ 2段階選抜実施状況

□ 第1段階選抜不合格者数は中期・後期で大幅増加
 不合格者数最多は前期が東京大、中期・後期では岐阜大

〔2段階選抜実施状況(不合格者数)〕

	前期				中期・後期				合計			
	2021年度	2020年度	増減数	指数	2021年度	2020年度	増減数	指数	2021年度	2020年度	増減数	指数
国立大	1,448	1,730	-282	84	3,546	1,879	+1,667	189	4,994	3,609	+1,385	138
公立大	691	408	+283	169	605	503	+102	120	1,296	911	+385	142
合計	2,139	2,138	+1	100	4,151	2,382	+1,769	174	6,290	4,520	+1,770	139

〔2段階選抜不合格者数の多い上位10大学〕

順位	前期				中期・後期			
	2021年度		2020年度		2021年度		2020年度	
1	東京大	482	東京大	605	岐阜大	762	一橋大	298
2	東京都立大	445	東京都立大	326	電気通信大	480	岐阜大	268
3	愛媛大	201	大阪大	186	東京都立大	413	奈良県立医科大	226
4	一橋大	149	高知大	149	千葉大	351	山梨大	206
5	福島県立医科大	142	熊本大	113	一橋大	261	東京都立大	195
6	信州大	94	大分大	90	東北大	198	東京工業大	162
7	千葉大	83	浜松医科大	88	宮崎大	176	福井大	142
8	旭川医科大	78	秋田大	87	浜松医科大	157	旭川医科大	127
9	金沢大	64	一橋大	62	山梨大	157	宮崎大	111
10	高知大	53	千葉大	61	奈良県立医科大	146	東京医科歯科大	105
全体	2,139		2,138		4,151		2,382	

2段階選抜の第1段階選抜不合格者数は、前年度は全体で2,800人以上減少しましたが、今年度は全体で1,770人(139)、前期で1人増加、中期・後期で1,769人増加となりました。共通テストの平均点アップにより、比較的強気な出願が行われたことがうかがえます。

前期では2,139人で、国立大は282人(84)の2年連続大幅減少、公立大は283人(169)の大幅増加でした。大学別では、東京大が文二を除き2段階選抜を実施し、2年連続不合格者数最多となりましたが、不合格者数は605人→482人(80)と大幅減少しました。2番目に多かったのは東京都立大ですが、志願者数は減少しましたが不合格者数は326人→445人と大幅増加しました。3番目に多かったのは愛媛大で、前年度実施はありませんでしたが、医(医)が後期を廃止して前期の募集人員を40人→55人と15人増加(募集人員前年度対比指数138)し、志願者数が306人→531人(174)と激増したため201人の不合格者が出ました。

中期・後期では4,151人で、国立大は1,667人(189)の激増、公立大は102人(120)の大幅増加でした。大学別では、岐阜大が不合格者数最多でした。医(医)の志願者が前年度大幅減少の反動で、645人→1,141人(177)の激増となり多くの不合格者が出ました。2番目に多かったのは電気通信大です。志願者数は49人減少(98)でしたが、コロナ対策による試験教室の定員減により、2段階選抜が実施されました。なお、2016年度の学域入試に変更してから2段階選抜を実施するのは初めてのことです。

なお、2022年度入試での出願にあたっては、2段階選抜実施の有無、予告倍率の変更などに注意を払うとともに、第1段階選抜合格者数の実数をチェックして、予告倍率通りに実施されたか、それとも緩和されたかを把握したうえで出願校を決定することが大切です。さらにこれに加えて、コロナ禍の状況により、試験教室の使い方も変わってくるので、例年以上に大学からの発表への注意が必要です。

⑥ 志願者数が多い大学

□ 志願者数最多は、6年連続で千葉大

〔志願者数上位10大学〕

大学	2021年度			2020年度			志願者 増減数	志願者指数	
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		2021年度 ／ 2020年度	2020年度 ／ 2019年度
千葉大	2,069	11,565	5.6	2,084	10,212	4.9	+1,353	113	96
神戸大	2,301	10,236	4.4	2,311	9,315	4.0	+921	110	94
東京大	2,960	9,089	3.1	2,960	9,259	3.1	-170	98	98
北海道大	2,442	8,621	3.5	2,436	9,752	4.0	-1,131	88	94
大阪府立大	1,153	8,057	7.0	1,165	8,089	6.9	-32	100	96
東京都立大	1,097	7,758	7.1	1,194	7,885	6.6	-127	98	92
九州大	2,251	7,629	3.4	2,335	7,241	3.1	+388	105	96
京都大	2,658	7,424	2.8	2,635	7,699	2.9	-275	96	96
富山大	1,435	7,231	5.0	1,429	7,312	5.1	-81	99	87
大阪大	2,878	6,991	2.4	2,878	7,462	2.6	-471	94	99

※志願者指数は前年度の志願者数を100とする指数

上の表は、文部科学省発表の最終確定値、大学全体の志願者数が多かった国公立大の上位10大学をまとめたものです。志願者数が7,000人以上だった大学は9大学で、前年度より2大学少なくなりました。ただ、前年度は10大学が全て減少だったのに対して、今年度は増加した大学が3大学ありました。10大学のうち、第3位の東京大、第10位の大阪大はいずれも前期のみの募集です。第8位の京都大の後期は、特色入試として実施の法学部のみの募集です。また、第5位の大阪府立大は中期でも募集している大学です。

2021年度入試での志願者数が最も多かったのは、6年連続で千葉大でした。志願者数は今年度も1万人を上回り、2010年度から12年連続で志願者数が1万人を上回りました。

第2位の神戸大は、3年連続減少の反動もあって900人以上の増加で、2017年度以来1万人を上回りました。難関大の中では共通テストの比重が比較的高く、さらに個別試験が標準的な出題なので、共通テストが高得点を取りやすかったことで目標得点をクリアできた層がそれを生かして出願したことが要因です。

第4位の北海道大は、2年連続減少で、1,000人以上の減少となりました。難関大の中では、他県からの入学者が多い大学ですが、コロナ禍で道外からの志願者数が減少しました。

第5位に大阪府立大、第6位に東京都立大という大都市圏の公立大が入っています。いずれも募集人員は1,200人にも満たない大学ですが、一部の学部で大阪府立大では中期での募集を、東京都立大では共通テスト3教科型の募集を行っています。こういった、他の国公立大や私立大との併願者を多く獲得できる入試方式を

実施している効果もあり、受験生数が多い大都市圏に立地する利点と難易度が最難関大に次ぐ位置ということも有利に働き、志願者数が多くなっています。なお、大阪府立大は、2022 年度から大阪市立大と統合し大阪公立大となり、公立大学では国内最大規模の大学になります。

第 7 位の九州大は、3 年連続減少の反動で増加となり、千葉大、神戸大と並んで増加した大学となりました。

大都市圏以外の大学では、第 8 位に富山大が入っています。北陸新幹線の開通以降、首都圏からの交通の利便が良くなり志願者数が増加した大学ですが、今年はコロナ禍の影響でその効果は無かったものの、地元志向と目標得点がそれほど高くないことが出願動向に影響し、81 人 (99) の微減に留まり、志願倍率 5 倍を維持しました。

⑦増減が目立った大学

□増加数最多は千葉大、減少数最多は横浜国立大

大学全体の志願者数の増減数が 500 人以上だった大学をまとめました。500 人以上増加した大学は 10 大学で前年度より 4 大学増加しました。設置別では、前年度は国立 3 大学、公立 3 大学でしたが、今年度は国立 7 大学、公立 3 大学と国立大の増加が目立ちました。

増加数が最も多かった大学は千葉大で、1,353 人(113)増加しました。前年度のやや減少だったことに加えて、共通テストの平均点が高かったこともあり、後期までしっかりと出願した受験生が多かったことから前年度以上に志願者を集めました。次いで、山口大までが 1,000 人以上の増加でした。前年度前期、後期ともに大幅減少した募集単位が多かった反動で志願者を集めたことが増加要因です。

一方で、500 人以上減少した大学は 17 大学で前年度より 8 大学少なくなりました。設置別では、前年度は国立 18 大学、公立 7 大学でしたが、今年度は国立 14 大学、公立 3 大学となりました。減少数が最も多かった大学は横浜国立大で、3,392 人(55)減少しました。コロナ禍対策として個別試験を実施せず、共通テストの得点のみでの選抜となったことから、個別試験を受験したい受験生が出願を回避したことから全学部で減少しました。以下、島根県立大、弘前大、北海道大、金沢大、公立諏訪東京理科大の上位 6 大学が 1,000 人以上の減少でした。公立大の島根県立大と公立諏訪東京理科大は前年度大幅増加の反動で大幅減少でした。金沢大は後期募集を停止した影響で、前期のみでは大幅増加でした。弘前大、北海道大は、他の地域からの志願者の流入が減少したことが影響したと考えられます。

〔増加数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2021年度 ／ 2020年度	2020年度 ／ 2019年度	2021 年度	2020 年度	
千葉大	+1,353	113	96	11,565	10,212	前期はやや増加、後期は大幅増加。薬<後>(180)は4年連続減少の反動で激増、法政経<後>(131)は大幅増加で3年連続増加、教育<前>(127)は2年連続減少の反動で大幅増加。
山口大	+1,045	119	78	6,633	5,588	前期は増加、後期は大幅増加。工<後>(192)、工<前>(174)は前年度大幅減少の反動で全学科増加の激増。医(保健)<後>(146)は2年連続減少の反動で大幅増加。
神戸大	+921	110	94	10,236	9,315	前期、後期とも増加。法<後>(147)、文<後>(136)、海事科学から改組で募集人員増加の海洋政策科学<前>(131)、募集人員増加の工<前>(130)、国際人間科学<前>(117)は大幅増加。
三重大	+860	118	96	5,565	4,705	前期、後期とも大幅増加。教育<前>(157)、医<前>(134)、工<前>(120)、生物資源<前>(115)は大幅増加。教育<後>(196)、医<後>(162)は激増、生物資源<後>(116)は大幅増加。

2021年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2021年度 ／ 2020年度	2020年度 ／ 2019年度	2021 年度	2020 年度	
宮崎大	+730	119	76	4,623	3,893	前期、後期とも大幅増加。地域資源創成<前>(176)は2年連続減少の反動で激増、農<前>(175)は前年度大幅減少の反動で激増。農<後>(177)は激増、教育<後>(132)、地域資源創成<後>(121)は大幅増加。
兵庫県立大	+702	112	85	6,502	5,800	前期は増加、後期は大幅増加、中期はやや減少。環境人間<前>(132)、社会情報科学<前>(126)、工<前>(122)は大幅増加。環境人間<後>(569)は前年度減少の反動で激増、国際商経<後>(179)は激増、看護<後>(147)は大幅増加。
茨城大	+652	112	86	6,213	5,561	前期は微減、後期は大幅増加。人文社会科学<前>(115)は前年度大幅減少の反動で全学科増加の大幅増加。理<後>(216)は倍増以上の激増、工<後>(129)、教育<後>(125)、人文社会科学<後>(118)は大幅増加。
県立広島大	+630	142	64	2,122	1,492	前期、後期とも大幅増加。開設2年目の地域創生<前>(140)、生物資源科学<前>(125)は大幅増加。地域創成<後>(354)は3.5倍以上の激増、生物資源科学<後>(139)は大幅増加。
鹿児島大	+563	111	86	5,638	5,075	前期、後期ともに増加。理<前>(144)、工<前>(143)、教育<前>(133)、水産<前>(128)は大幅増加。理<後>(202)は前年度大幅減少の反動で倍増以上の激増、歯<後>(170)は前年度激減の反動で激増、教育<後>(118)は大幅増加。
公立小松大	+554	147	74	1,729	1,175	前期、中期とも大幅増加。生産システム<前>(312)は前年度減少の反動で激増、国際文化交流<前>(130)も前年度減少の反動で大幅増加。生産システム<中>(182)、国際文化交流<中>(138)、保健医療<中>(124)は大幅増加。

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2021年度 ／ 2020年度	2020年度 ／ 2019年度	2021 年度	2020 年度	
横浜国立大	-3,392	55	95	4,189	7,581	コロナ禍対策から個別試験の実施を取りやめたため前期、後期ともに大幅減少。理工<前>(50)は半減、都市科学<前>(62)、募集人員減少の教育<前>(71)、募集人員増加の経済<前>(65)は大幅減少。理工<後>(45)、経済<後>(48)、経営<後>(54)などは大幅減少。
島根県立大	-1,795	40	229	1,179	2,974	前期、後期とも大幅減少。人間文化<前>(59)、看護栄養<前>(65)は大幅減少、総合政策から国際関係、地域政策に改組したが、2学部で<前>(20)と激減。人間文化<後>(55)、国際関係、地域政策は2学部で<後>(48)と大幅減少。
弘前大	-1,206	68	92	2,610	3,816	前期、後期とも大幅減少。理工<前>(63)、教育<前>(67)、人文社会科学<前>(68)、医<前>(75)、農学生命科学<前>(78)は大幅減少。募集人員減少の農学生命科学<後>(39)は激減、理工<後>(64)、教育<後>(77)は大幅減少。
北海道大	-1,131	88	94	8,621	9,752	前期はやや減少、後期は大幅減少。後期募集停止で募集人員増加の歯<前>(76)、総合入試文系<前>(81)、医<前>(84)、水産<前>(84)は大幅減少。農<後>(65)、経済<後>(67)、医<後>(74)、獣医<後>(75)、薬<後>(76)、法<後>(81)、工<後>(84)は大幅減少。
金沢大	-1,087	77	94	3,729	4,816	後期募集を停止したため前期は募集人員増加もあり大幅増加。人間社会<前>(118)、理工<前>(116)は大幅増加。新規実施の融合学域<前>は、志願者数141人で志願倍率は3.5倍。
公立諏訪 東京理科大	-1,047	64	210	1,823	2,870	前期は半減、中期とも大幅減少。工<前>(50)は前年度2.5倍以上の激増の反動で半減。工<中>(72)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
新潟大	-801	87	112	5,173	5,974	前期は減少、後期は教育、創生の募集停止で大幅減少。創生<前>(62)、教育<前>(74)、歯<前>(79)、医<前>(81)、法<前>(85)は大幅減少。農<後>(64)は前年度激増の反動で大幅減少、経済科学<後>(63)、理<後>(77)は大幅減少。

2021年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2021年度 ／ 2020年度	2020年度 ／ 2019年度	2021 年度	2020 年度	
大分大	-795	78	82	2,783	3,578	前期は大幅減少、医(看護)募集停止の後期は減少。医<前>(54)、教育<前>(57)、理工<前>(71)、経済<前>(84)は大幅減少。福祉健康科学<後>(47)、教育<後>(74)、理工<後>(76)は大幅減少。
山陽小野田市立 山口東京理科大	-757	74	123	2,176	2,933	前期、中期とも大幅減少。工<前>(52)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。薬<中>(79)は前年度増加の反動で大幅減少、工<中>(90)は減少。
東京工業大	-664	85	91	3,638	4,302	前期はやや減少、後期は募集停止。環境社会理工<前>(87)、物質理工<前>(91)は減少、理<前>(93)、情報理工<前>(96)、工<前>(97)はやや減少。
福島大	-652	83	103	3,125	3,777	前期は減少、後期は大幅減少。人文社会<前>(82)は大幅減少。人文社会<後>(61)は大幅減少。
福井大	-648	81	101	2,749	3,397	前期、後期とも大幅減少。教育<前>(61)、医<前>(73)は大幅減少。工<後>(72)、医<後>(81)は大幅減少。
東京外国語大	-613	80	91	2,528	3,141	前期は減少、後期は大幅減少。国際日本<前>(55)は大幅減少で2年連続減少、国際社会<前>(89)、言語文化<前>(91)は減少。国際社会<後>(72)は大幅減少で6年連続減少。
島根大	-605	86	125	3,836	4,441	前期は大幅減少、後期は減少。募集人員減少の法文<前>(68)、総合理工<前>(79)は大幅減少。医<後>(54)は大幅減少、募集人員減少の総合理工<後>(70)、生物資源科学<後>(75)も大幅減少。
滋賀大	-548	86	77	3,317	3,865	前期は大幅減少、後期は減少。データサイエンス<前>(85)は2年連続大幅減少、経済<前>(90)は減少で2年連続減少。経済<後>(80)は2年連続大幅減少、データサイエンス<後>(96)はやや減少で2年連続減少。
広島大	-505	92	91	6,111	6,616	前期はやや減少、後期は減少。歯<前>(62)、生物生産<前>(70)は大幅減少。生物生産<後>(33)は激減、歯<後>(46)、法<後>(75)、工<後>(76)、経済<後>(82)は大幅減少。
秋田大	-503	86	95	3,106	3,609	前期は減少、後期は大幅減少。国際資源<前>(66)、医<前>(74)は大幅減少。医<後>(70)、国際資源<後>(75)、理工<後>(83)は大幅減少。

⑧難関国立 10大学志願状況

□前期は5大学増加、5大学減少

〔確定志願者数 前年度対比増減数〕

大学	年度	志願者数(最終確定値)								
		前期			後期			全体		
		人数	増減数	指数	人数	増減数	指数	人数	増減数	指数
北海道大	2021年度	5,104	-370	93	3,517	-761	82	8,621	-1,131	88
	2020年度	5,474	-369	94	4,278	-220	95	9,752	-589	94
	2019年度	5,843	+10	100	4,498	+482	112	10,341	+492	105
	2018年度	5,833	+293	105	4,016	-80	98	9,849	+213	102
	2017年度	5,540	-198	97	4,096	-85	98	9,636	-283	97
東北大	2021年度	4,499	+115	103	1,251	-103	92	5,750	+12	100
	2020年度	4,384	-429	91	1,354	-85	94	5,738	-514	92
	2019年度	4,813	-429	92	1,439	+41	103	6,252	-388	94
	2018年度	5,242	+315	106	1,398	+242	121	6,640	+557	109
東京大	2021年度	9,089	-170	98				9,089	-170	98
	2020年度	9,259	-224	98				9,259	-224	98
	2019年度	9,483	-192	98				9,483	-192	98
	2018年度	9,675	+141	101				9,675	+141	101
	2017年度	9,534	+256	103				9,534	+256	103
東京工業大	2021年度	3,638	-152	96				3,638	-664	85
	2020年度	3,790	-432	90	512	+15	103	4,302	-417	91
	2019年度	4,222	-7	100	497	+28	106	4,719	+21	100
	2018年度	4,229	+62	101	469	-54	90	4,698	+8	100
	2017年度	4,167	+275	107	523	+14	103	4,690	+289	107
一橋大	2021年度	2,564	+74	103	1,036	-39	96	3,600	+35	101
	2020年度	2,490	-197	93	1,075	-48	96	3,565	-245	94
	2019年度	2,687	-248	92	1,123	-78	94	3,810	-326	92
	2018年度	2,935	+28	101	1,201	-376	76	4,136	-348	92
	2017年度	2,907	+167	106	1,577	+145	110	4,484	+312	107
名古屋大	2021年度	4,581	+159	104	54	-1	98	4,635	+158	104
	2020年度	4,422	-314	93	55	-12	82	4,477	-326	93
	2019年度	4,736	-16	100	67	+14	126	4,803	-2	100
	2018年度	4,752	+29	101	53	-7	88	4,805	+22	100
	2017年度	4,723	+4	100	60	-18	77	4,783	-14	100
京都大	2021年度	7,045	-302	96	379	+27	108	7,424	-275	96
	2020年度	7,347	-164	98	352	-162	68	7,699	-326	96
	2019年度	7,511	-350	96	514	+142	138	8,025	-208	97
	2018年度	7,861	-14	100	372	-115	76	8,233	-129	98
	2017年度	7,875	-154	98	487	+163	150	8,362	+9	100
大阪大	2021年度	6,991	-471	94				6,991	-471	94
	2020年度	7,462	-74	99				7,462	-74	99
	2019年度	7,536	-331	96				7,536	-331	96
	2018年度	7,867	+470	106				7,867	+470	106
	2017年度	7,397	+60	101				7,397	-3,037	71
神戸大	2021年度	6,194	+625	111	4,042	+296	108	10,236	+921	110
	2020年度	5,569	-364	94	3,746	-280	93	9,315	-644	94
	2019年度	5,933	+299	105	4,026	-320	93	9,959	-21	100
	2018年度	5,634	-337	94	4,346	+293	107	9,980	-44	100
	2017年度	5,971	+195	103	4,053	-60	99	10,024	+135	101
九州大	2021年度	5,175	+161	103	2,454	+227	110	7,629	+388	105
	2020年度	5,014	-225	96	2,227	-82	96	7,241	-307	96
	2019年度	5,239	-7	100	2,309	-170	93	7,548	-177	98
	2018年度	5,246	+56	101	2,479	-276	90	7,725	-220	97
	2017年度	5,190	+95	102	2,755	+111	104	7,945	+206	103
難関国立 10大学合計	2021年度	54,880	-331	99	12,733	-866	94	67,613	-1,197	98
	2020年度	55,211	-2,792	95	13,599	-874	94	68,810	-3,666	95
	2019年度	58,003	-1,271	98	14,473	+139	101	72,476	-1,132	98
	2018年度	59,274	+1,043	102	14,334	-373	97	73,608	+670	101
	2017年度	58,231	+727	101	14,707	-2,940	83	72,938	-2,213	97

2021 年度入試状況分析【国公立大】

2021 年度入試の難関国立 10 大学(北海道大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大)の確定志願者数は、増加および減少がそれぞれ 5 大学と同数で、全体では 1,197 人(98)の微減で 3 年連続減少しました。

日程別では、前期では 331 人(99)の微減で 3 年連続減少しました。神戸大(111)は増加、名古屋大(104)、東北大(103)、一橋大(103)、九州大(103)がやや増加でした。一方、北海道大(93)、大阪大(94)、東京工業大(96)、京都大(96)はやや減少、東京大(98)は前年度並となりました。

後期では、866 人(94)で 2 年連続減少しました。募集人員が多い九州大(110)、神戸大(108)は増加、北海道大(82)は大幅減少となりました。募集人員が少ない大学では、特色入試として募集する法(108)のみの京都大は増加、東北大(92)は 2 年連続減少、一橋大(96)はやや減少で 4 年連続減少、地域枠として募集する医(医)のみの名古屋大は前年度並でした。

〔確定志願者指数 文理別前年度対比指数〕

大学	前期			後期			前期・後期 合計
	文系	理系	合計	文系	理系	合計	
北海道大	97	92	93	83	82	82	88
東北大	96	106	103	105	86	92	100
東京大	94	101	98				98
東京工業大		96	96				85
一橋大	103		103	96		96	101
名古屋大	105	103	104		98	98	104
京都大	95	96	96	108		108	96
大阪大	92	95	94				94
神戸大	106	116	111	121	101	108	110
九州大	102	104	103	102	115	110	105
難関大合計	98	100	99	102	89	94	98

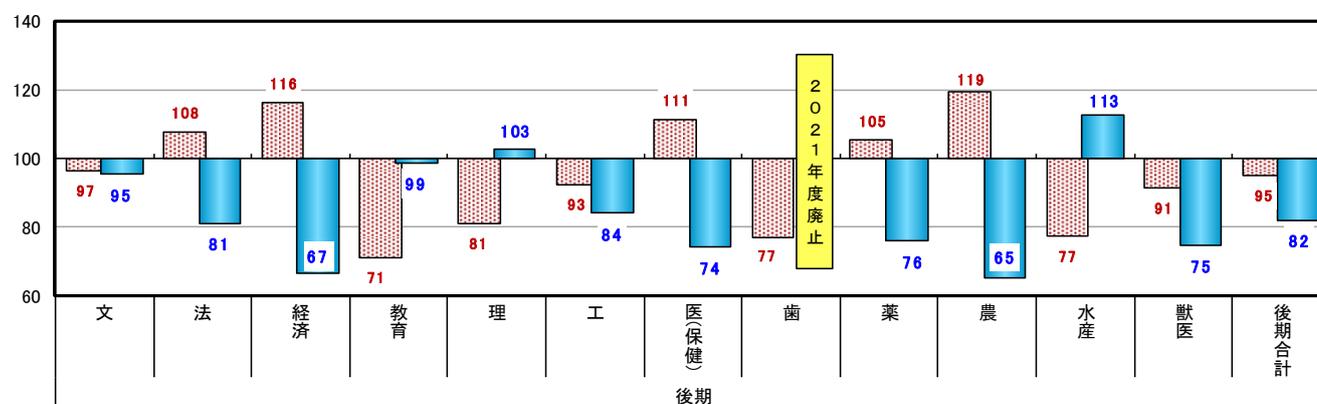
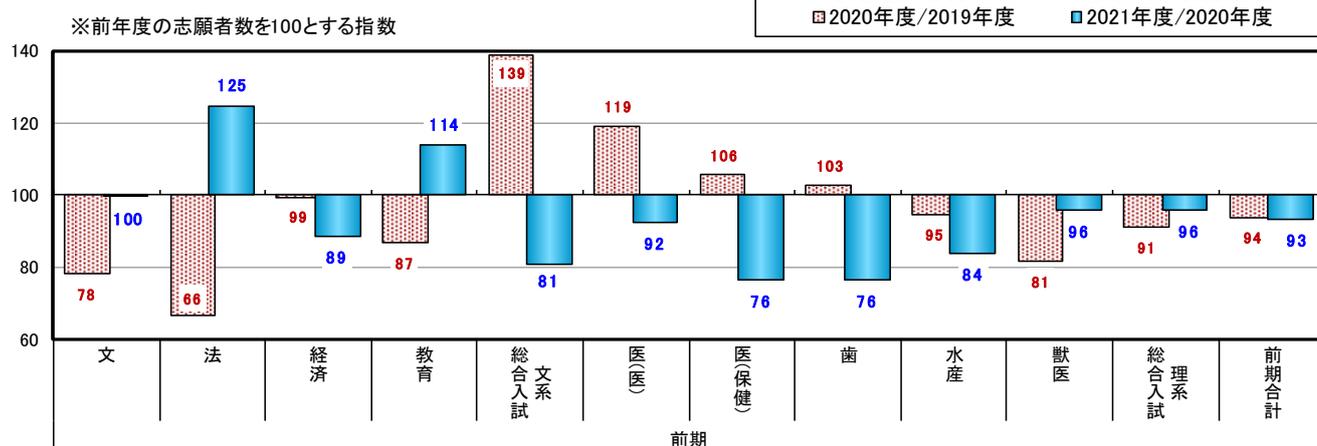
文理別に志願者数を見ると、前期は、文系は 4 大学で増加、5 大学で減少、理系は 5 大学が増加、4 大学が減少と増減した大学数が拮抗しました。

一方、後期は、文系は 4 大学で増加、2 大学で減少、理系は 2 大学で増加、3 大学で減少でした。いずれも比較的募集人員が多いことで最難関大からの併願先として狙われる神戸大は文系(121)、理系(101)、九州大は文系(102)、理系(115)と増加でしたが、北海道大は文系(83)、理系(82)と大幅減少で、コロナ禍の影響が表れているものと思われます。

〔大学別志願状況〕

北海道大：コロナ禍で道外からの理系の志願者減少

前期：-370人 後期：-761人



入試変更点	選抜方法：歯…後期廃止 募集人員：歯…<前>30人→38人、<後>8人→0人 ※総合型選抜及び国際総合入試の選考による欠員の扱いによるもの 理(地球惑星科学)…<後>5人→9人 医(医)…<前>97人→101人 医(保健/看護)…<前>60人→63人 歯…<前>38人→39人 工(応用理工系)…<後>34人→38人 工(環境社会工)…<後>49人→52人 水産…<前>105人→111人 総合入試(総合科学)…<前>247人→248人 個別試験：歯<前>…数+理2+外→数+理2+外+面 ※面接追加

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、コロナ禍による道外からの志願者数の減少もあって、総合入試が導入された2011年度以降で最も少ない志願者数となった理系学部が目立った。前期は370人(93)のやや減少で2年連続減少。総合入試が導入された2011年度以降、志願者数5,400人以上を維持してきたが、5,104人まで減少した。文理別では、文系は41人(97)のやや減少、理系は329人(92)の減少だった。後期は761人(82)の大幅減少で2年連続減少。廃止された歯を除いても(85)の大幅減少。総合入試が導入された2011年度以降、志願者数4,000人以上を維持してきたが、3,517人まで減少した。文理別では、文系は2年連続増加の反動もあって、182人(83)の大幅減少、理系も歯の廃止の影響もあって、579人(82)の大幅減少で2年連続減少。廃止された歯を除いても(85)の大幅減少。なお、2段階選抜は一部の募集単位で実施予告倍率を上回ったが緩和されて、前期、後期ともに実施されなかった。

<前期日程>

- 文(100)は、大幅減少の反動はなく前年度並。志願倍率は3.1倍で、2015年度以降続いていた、前年度の反動による増減の継続が止まった。
- 法(125)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.0倍→2.5倍とアップした。
- 経済(89)は、系統への人気低下もあり、3年連続減少。
- 教育(114)は、前年度減少の反動で増加。2015年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 総合入試文系(81)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 総合入試理系(96)は、3年連続減少。志願倍率2.5倍は総合入試が導入された2011年度以降で最も低倍率。選抜群別では、前年度大幅減少だった(数学重点)(122)が大幅増加、(総合科学)(100)が前年度並。前年度唯一増加した(化学重点)(85)は大幅減少。
- 医(医)(92)は大幅増加の反動で減少。総合型選抜(旧AO入試)の欠員を加えた募集人員による志願倍率は3.6倍→3.3倍に

ダウン。

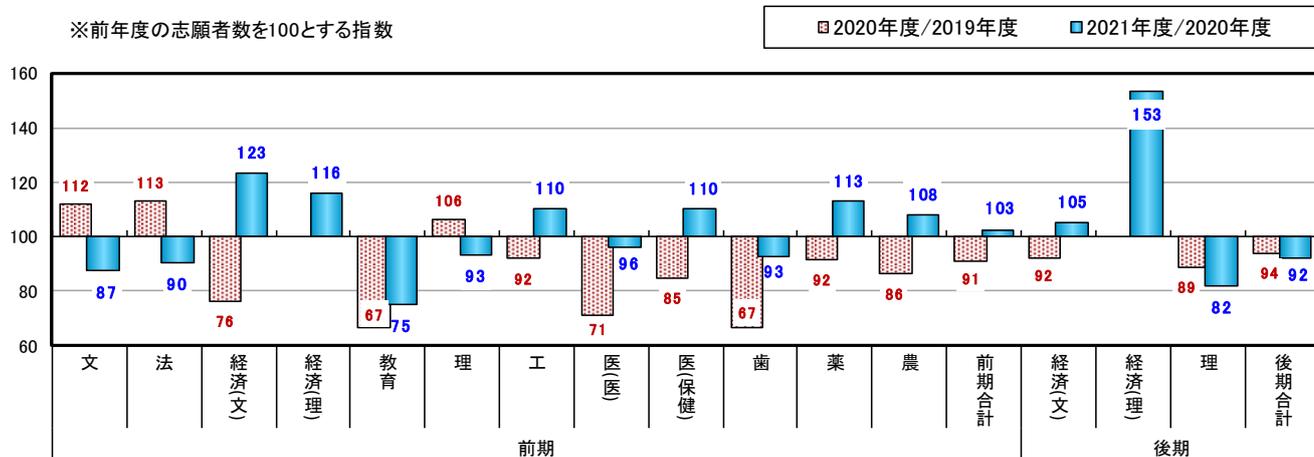
- 医(保健)(76)は、前年度増加の反動もあり大幅減少。志願倍率 2.3 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。2016 年度以降、前年度の反動による増減が続いている。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(68)、(保健/理学療法)(72)、(保健/検査技術科学)(73)が大幅減少。さらに、(保健/看護学)(83)も大幅減少で、総合型選抜(旧 A O 入試)の欠員を加えた募集人員による志願倍率は 1.9 倍となり、総合入試が導入された 2011 年度以降で初めて 2 倍を下回った。
- 歯(76)は、募集人員が 8 人増加の 38 人となり、さらに総合型選抜(旧 A O 入試)の欠員を加えた最終的な募集人員が 39 人となったが、大幅減少。この結果、志願倍率 2.2 倍は、総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。
- 水産(84)は、大幅減少で 2 年連続減少。志願倍率 4.4 倍は、総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。
- 獣医(96)は、前年度大幅減少に続きやや減少。総合型選抜(旧 A O 入試)の欠員を加えた募集人員による志願倍率 2.5 倍は、総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。

〈後期日程〉

- 文(95)は、やや減少で 2 年連続減少。
- 法(81)は、2 年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率も 11.0 倍→8.9 倍にダウン。
- 経済(67)は、2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も 12.8 倍→8.6 倍にダウン。
- 教育(99)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。
- 理(103)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。学科・分野別では、前年度大幅減少の(数学)(119)が大幅増加、地球惑星科学(77)は大幅減少。
- 工(84)は 2 年連続減少。志願倍率 7.5 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。学科・分野別では、(情報エレクトロニクス)(117)のみ大幅増加で、(応用理工系学)(61)と(環境社会学)(73)の大幅減少が目立った。
- 医(保健)(74)は、2 年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率 8.0 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(71)、(保健/検査技術科学)(67)が大幅減少。志願倍率 8.0 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。
- 薬(76)は、3 年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率 8.0 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。
- 農(65)は、2 年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率 6.0 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。
- 水産(113)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 獣医(75)は、2 年連続減少。志願倍率 5.3 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。

東北大：前期はやや増加、後期は 2 年連続減少

前期：+115 人 後期：-103 人



入試変更点

書類提出：全学部<前><後>…主体性評価チェックリスト追加
 主体性評価については、志願票に調査書と対応した 5 項目のチェック項目を設け、志願者がこれをチェックする自己申告方式により評価する。合否ラインで志願者が同点で並んだ場合に使用。

第 1 段階選抜基準変更：理<後>…約 20 倍(通過予定人数：1,160 人)→約 10 倍(通過予定人数：580 人)

募集人員：文<前>…170 人→147 人 法<前>…118 人→112 人
 経済(文系)…<前>155 人→147 人、<後>30 人→25 人
 教育…<前>60 人→49 人 農…<前>112 人→105 人
 医(保健/放射線技術科学)…<前>29 人→25 人 医(保健/検査技術科学)…<前>29 人→25 人

共通テスト：経済(文系)<前>…国<100>+歴公 2<200>+数 2<100>+(理 or 理基 2)<100>+外<100>=総点<600>
 →国<100>+歴公 2<250>+数 2<100>+(理 or 理基 2)<100>+外<100>=総点<650>
 (理系)<前>…国<150>+歴公 2<100>+数 2<150>+理 2<100>+外<100>=総点<600>
 →国<150>+歴公 2<100>+数 2<150>+理 2<100>+外<150>=総点<650>

個別試験：経済(文系)<前>…国<200>+数<200>+外<200>=総点<600>→国<300>+数<300>+外<300>=総点<900>
 (理系)<前>…数<200>+理<200>+外<200>=総点<600>→数<300>+理<300>+外<300>=総点<900>
 理<後>…数+理 2 →数+理 2 +面 ※面接追加 歯<前>…数+理 2 +外→数+理 2 +外+面 ※面接追加

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は、115 人(103)のやや増加で3年ぶりに増加。募集人員減少の影響はなかった。文理別では、文系は55 人(96)のやや減少で3年連続減少、理系は170 人(106)のやや増加で3年ぶりに増加。後期は、103 人(92)のやや減少で2年連続減少。

<前期日程>

- 文(87)は、募集人員の減少と前年度増加の反動により減少したが、募集人員(前年度募集人員対比指数86)も減少したため、競争緩和はなく志願倍率は2.7倍で変化なし。
- 法(90)は、募集人員の減少と前年度増加の反動により減少したが、募集人員(前年度募集人員対比指数95)も減少したため、競争緩和はほとんどなく志願倍率は3.1倍→3.0倍のわずかなダウンに留まった。
- 経済(123)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。方式別では(文系)(123)は大幅増加に加えて、募集人員(前年度募集人員対比指数95)の減少もあり、志願倍率は2.2倍→2.9倍にアップ。新設2年目の(理系)(116)は周知が進んだこともあり、大幅増加で志願倍率は3.6倍で(文系)の2.9倍を上回った。
- 教育(75)は、2年連続大幅減少したが、募集人員(前年度募集人員対比指数82)も減少したため、競争緩和は小さく志願倍率も2.9倍→2.7倍にわずかなダウンに留まった。
- 理(93)は、2年連続増加の反動でやや減少。志願倍率も2.8倍→2.6倍にわずかにダウン。系別では、地球科学系(103)がやや増加、一方で、物理系(91)、数学系(91)は減少、生物系(94)、化学系(95)はやや減少。
- 工(110)は、2年連続減少の反動で増加。志願倍率も2.5倍→2.8倍にアップ。学科別では、5学科全てが増加し、特に(電気情報物理工)(117)、(化学・バイオ)(115)は大幅増加。
- 医(医)(96)は、やや減少で4年連続減少。前年度、全学部・学科で唯一2段階選抜が実施されたが、志願倍率は3.2倍で予告倍率約3倍を超えたことで、2段階選抜が実施された。
- 医(保健)(110)は、3年連続減少の反動で増加。募集人員(前年度募集人員対比指数93)も減少したため、志願倍率は2.1倍→2.5倍にアップ。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(167)、(保健/検査技術科学)(138)の2専攻が大幅増加、一方で(保健/看護)(75)は大幅減少。
- 歯(93)は、前年度大幅減少に引続き2年連続減少。志願倍率も5.0倍→3.4倍→3.1倍にダウン。
- 薬(113)は、2年連続減少の反動に加えて、系統人気の高まりもあり増加。
- 農(108)は、募集人員減少の影響はなく、2年連続減少の反動で増加。

<後期日程>

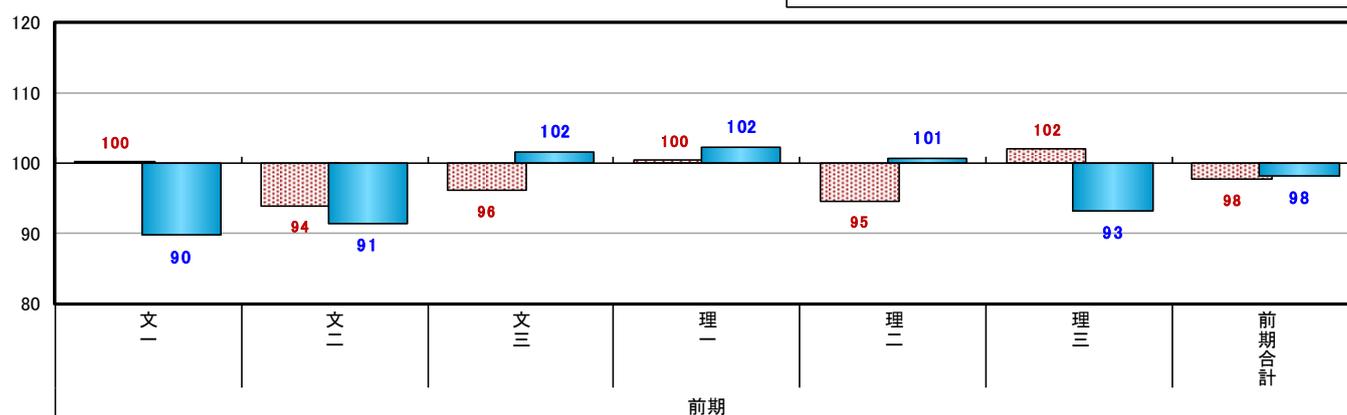
- 経済(111)は、2年連続増加。方式別では(文系)(105)は、(文系)のみの募集だった時代から2年連続減少の反動からやや増加。募集人員(前年度募集人員対比指数83)も減少したため、志願倍率は14.3倍→18.0倍にアップ。新設2年目の(理系)(153)は周知が進んだこともあり大幅増加で、志願倍率も5.8倍→8.9倍にアップ。
- 理(82)は、コロナ禍の影響で遠隔地からの志願者減少の影響もあり2年連続減少。志願倍率も15.0倍→12.3倍にダウン。系別では、全ての系が減少で、特に(生物系)(65)、地球科学系(68)、(物理系)(81)は大幅減少。

東京大：大学全体では微減で3年連続減少、合格者女子占有率20%へ

前期：-170人

※前年度の志願者数を100とする指数

□2020年度/2019年度 □2021年度/2020年度



入試変更点 共通テスト：英(筆記(200点))※リスニング利用しない→英(リーディング(140点)+リスニング(60点))

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、170 人(98)の微減で3年連続減少。文理別では、文科類が218 人(94)のやや減少で2年連続減少、理科類が48 人(101)の微増で3年ぶりの増加だった。増加および減少した科類はそれぞれ3科類ずつだった。なお、第1段階選抜は、文科二類で志願倍率が実施予告倍率に達せず実施されなかった。さらに、3月10日に一般選抜前期の合格者発表が行われ、一般選抜における女子占有率が20.0%となった。

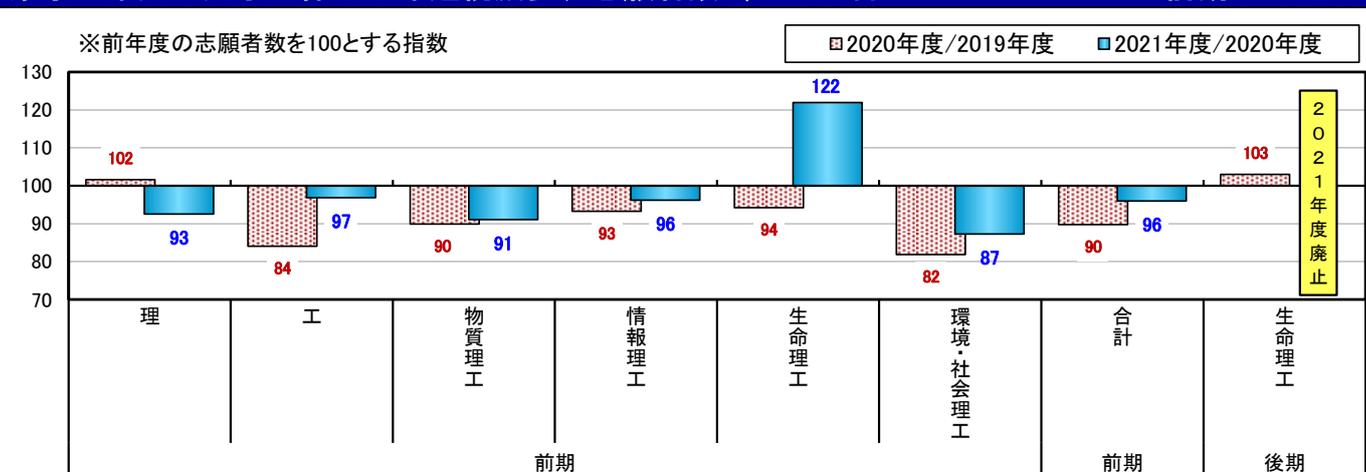
<前期日程>

- 文科一類(90)は、前年度まで4年連続増加の反動で減少。
- 文科二類(91)は、模試やデータネットの動向では増加傾向だったが、データネットでの高い目標ラインや第1段階選抜ラインを敬遠して、3年連続減少。志願倍率は2.88倍で第1段階選抜実施予告倍率3.0倍に達しなかった。
- 文科三類(102)は、4年連続減少の反動は小さく、微増に留まった。
- 理科一類(102)は、微増だが2年連続増加。
- 理科二類(101)は、2年連続減少の反動は小さく、微増に留まった。
- 理科三類(93)は、難関医学部医学科への敬遠傾向と共通テスト超高得点層の減少によりやや減少で、前年度4年ぶりの増加から再び減少に転じた。
- 第1段階選抜合格率 ※〔 〕内は合格者最低点
 文科一類…95.2%〔562点〕、文科二類…実施なし、文科三類…96.7%〔600点〕、文科類全体…97.0%
 理科一類…92.7%〔699点〕、理科二類…94.0%〔629点〕、理科三類…88.8%〔534点〕、理科類全体…92.9%
- 文理別の合格率は、文科類全体は前年度よりも4.1ポイントアップ、一方で理科類全体は0.8ポイントアップしたが、3年連続で理科類の方が高い合格率となった。
- 第1段階選抜の合格者最低点は、最も高い理科一類でも得点率77.7%と東京大志望者にとっては低い得点に留まった。

<推薦入試> ※〔 〕内は前年度数値

- 募集人員100人程度に対して、志願者数は267人〔173人〕、合格者数は92人〔73人〕。
- 各高校の推薦人数の緩和により、志願者数は267人と過去6回で最も多かった。この結果、合格者数も最も多くなった。
- 学部別合格者数：法…10人〔8人〕、経済…10人〔3人〕、文…10人〔5人〕、教育…5人〔7人〕、教養…5人〔5人〕
 工…27人〔23人〕、理…12人〔12人〕、農…6人〔3人〕、薬…2人〔3人〕、医(医)…3人〔3人〕
 医(健康総合科学)…2人〔1人〕
- 工、理、農、薬を除いた募集単位で募集人員を充足する合格者を発表した。
- 科類別合格者数：文科一類…11人〔8人〕、文科二類…10人〔4人〕、文科三類…18人〔15人〕
 理科一類…34人〔32人〕、理科二類…16人〔11人〕、理科三類…3人〔3人〕

東京工業大：大学全体で3年連続減少、志願者数3,600人台へ 前期：-152人



入試変更点 選抜方法：生命理工<後>…後期廃止
 募集人員：生命理工…<前>105人→135人、<後>35人→0人

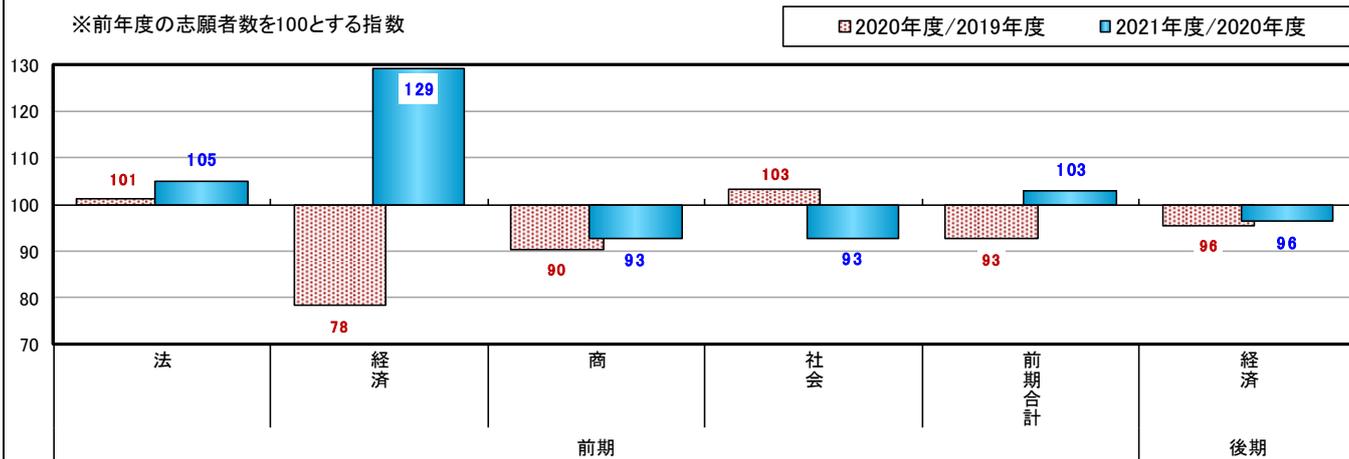
COMMENT ※〔 〕内の数値は志願者数の前年度対比指数

生命理工の後期が廃止となり、前期のみの募集となり、前期募集人員は30人(募集人員前年度対比指数103)増加した。大学全体では、152人(96)の減少で3年連続減少。前期志願者数は2011年度入試以来の3,600人台で、志願倍率も2010年度入試以来の4倍を下回った。

<前期日程>

- 理(93)は、前年度微増だったが、やや減少。
- 工(97)は、前年度大幅減少の反動はなく、やや減少。
- 物質理工(91)は、志願倍率は前年度2.7倍と6つの学院で2番目の低倍率だったが、さらに志願者数が減少して2.5倍までダウンした。
- 情報理工(96)は、9倍を超える高い志願倍率を敬遠して2年連続やや減少したが、それでも志願倍率は6つの学院で最も高倍率の8.8倍だった。
- 生命理工(122)は、大幅増加だが、後期の廃止で募集人員が30人(募集人員前年度対比指数129)増加したため競争は緩和して、志願倍率は2.2倍にダウンして、6つの学院で最も低倍率だった。
- 環境・社会理工(87)は、前年度大幅減少の反動はなく、さらに減少して、減少率は6つの学院で最も大きかった。志願倍率も、前年度の3.9倍→3.4倍にダウンした。

一橋大：前期は3年ぶりにやや増加、後期は4年連続減少 前期：+74人 後期：-39人



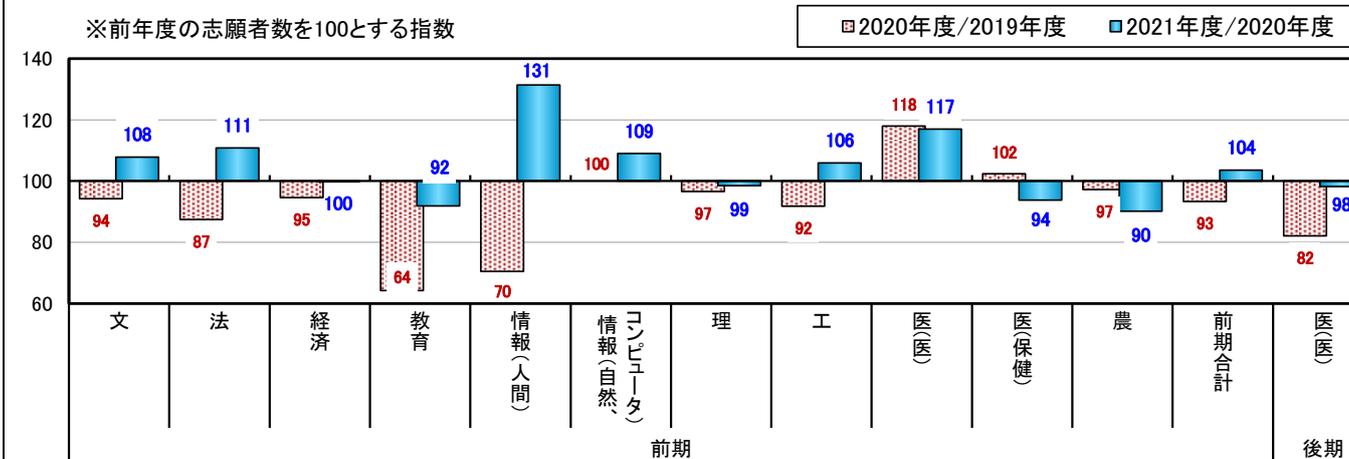
入試変更点 出願方法：紙の願書での出願→インターネット出願

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は74人(103)のやや増加で3年ぶりの増加。後期は39人(96)のやや減少で経済のみの募集となった2018年度以降4年連続減少、経済のみでも3年連続減少。ハイレベルな競争が敬遠されている。なお、第1段階選抜が実施され、合格率は74.8%だった。

- <前期日程>
- 法(105)は、前年度の微増の引き続き、やや増加。
 - 経済(129)は、2年連続減少の反動で大幅増加。志願者数も700人に迫る人数となった。
 - 商(93)は、やや減少して2年連続減少。2004年度以来の700人を下回る志願者数となった。
 - 社会(93)は、やや減少。2014年度以降、前年度の反動による増減が継続。
 - 第1段階選抜は、法と経済で実施され、合格率は法が91.9%と緩かったが、経済は84.2%と厳しかった。

名古屋大：前期は文系、理系ともやや増加 前期：+159人 後期：-1人



入試変更点 第1段階選抜基準変更：医(医)<後>…センター試験が900点満点中720点以上の者→12倍(通過予定人数：60人)
 個別試験：医(医)<前>…国+数+理2+外+面 ※国：国語総合、現代文B、古典B
 →国+数+理2+外+書類審査 ※国：国語総合、現代文B(古文・漢文を除く)
 ※面→書類審査はコロナ禍対策によるもの
 (保健)<前>…数+理2+外→国+数+理2+外 ※国：国語総合、現代文B(古文・漢文を除く)

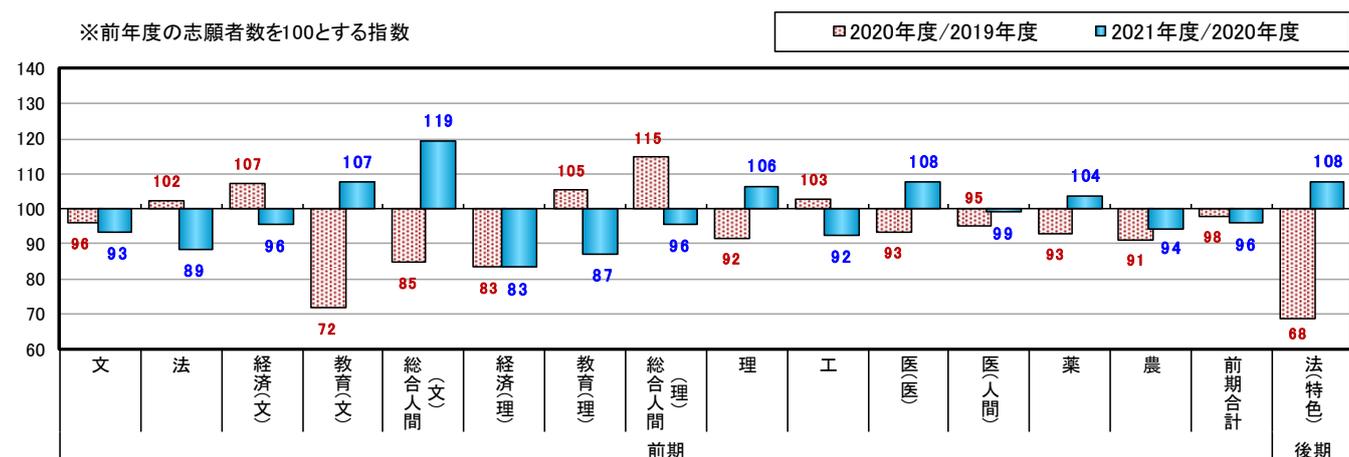
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は159人(104)のやや増加。文理別では、文系は61人(105)のやや増加、理系も98人(103)のやや増加。後期は医(医)(愛知県内枠)のみの募集だが、当初2段階選抜を廃止する予定だったが、コロナ禍対策として基準を変更して実施となり、前年度大幅減少の反動はなく、1人(98)減少の前年度並。

- <前期日程>
- 文(108)は、2年連続減少の反動で増加。
 - 法(111)は、増加で前年度の反動による増減が継続。
 - 経済(100)は、微減だが3年連続減少。
 - 教育(92)は、減少で2年連続減少。
 - 情報(116)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(自然情報)(148)は、2年連続減少の反動で大幅増加、(人間・社会情報)(131)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(コンピュータ科学)(87)は減少で前年度の反動による増減が継続。

- 理(99)は、微減だが3年連続減少。
- 工(106)は、前年度減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、前年度唯一増加した学科だった(電気電子情報工)(91)は減少、一方で、他の6学科は増加。特に、(エネルギー理工)(135)、(物理工)(119)、化学生命工(115)の3学科が大幅増加。
- 医(医)(117)は、個別試験の国語の出題範囲を現代文のみにしたことに加えて、コロナ禍対策として面接を書類審査に変更した。これらの負担減により大幅増加、志願倍率も3.3倍→3.8倍にアップ。2012年度入試での4.4倍以来の高倍率。
- 医(保健)(94)は、個別試験で国語が追加された負担増によりやや減少。専攻別では、(保健/理学療法)(109)は増加、(保健/看護)(107)、(保健/放射線技術科学)(104)はやや増加。一方で、(保健/検査技術)(64)は大幅減少、(保健/作業療法)(90)は減少。
- 農(90)は、減少で3年連続減少。学科別では、(応用生命科学)(100)は前年度と同じ志願者数。他の2学科は(資源生物科学)(75)は大幅減少、(生物環境科学)(92)は減少。

京都大：前期合計では8年連続減少、法のみ後期は増加 前期：-302人 後期：+27人



入試変更点 選抜方法：第1段階選抜基準変更
 理<前>…センター試験の合計が900点満点中630点以上→共通テストの合計が900点満点中概ね70%以上
 医(医)<前>…センター試験の合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3倍まで→約3倍
 募集人員：理…<前>306人→301人
 農…<前>54人→52人
 受入学生数(目安)：
 ※国際コース入学手続き確定に伴う変更(2021年1月13日発表)
 工(地球工)…<前>152人→175人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は302人(96)のやや減少で8年連続減少。文理別では、文系は114人(95)のやや減少で3年連続減少、理系も188人(96)のやや減少で7年連続減少。特色入試として実施の法のみ募集の後期は、27人(108)の増加で、前年度の反動による増減が継続。

<前期日程>

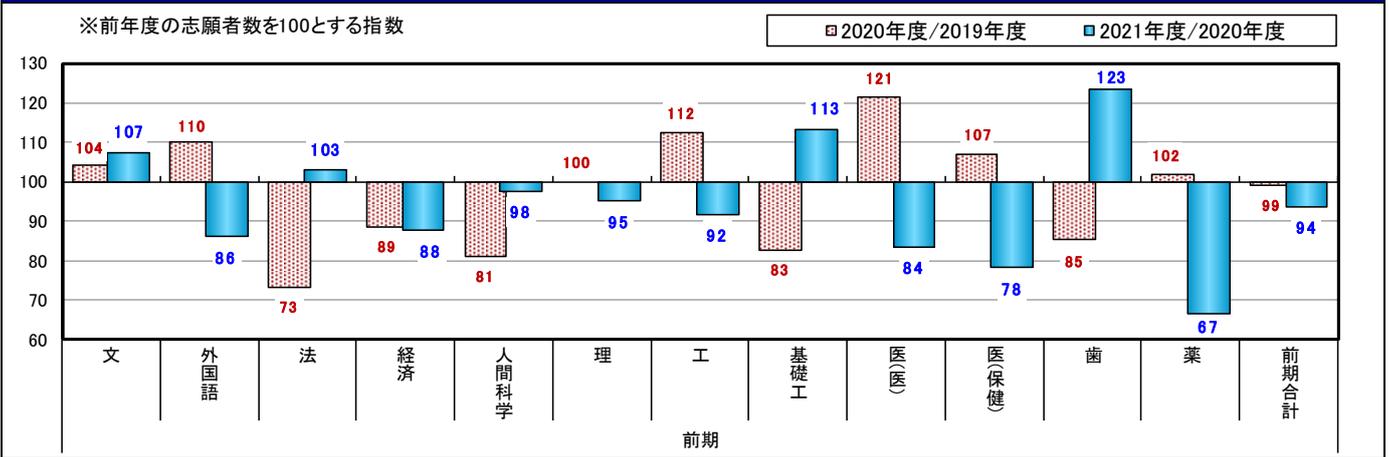
- 文(93)は、やや減少で2年連続減少。
- 法(89)は、減少で前年度の反動による増減が継続。
- 経済は、(文系)(96)は前年度の反動でやや減少、(理系)(83)は前年度に続いて2年連続大幅減少。
- 教育は、(文系)(107)は前年度大幅減少の反動でやや増加、(理系)(87)は2年ぶりに減少。
- 総合人間は、(文系)(119)は2年連続減少の反動で大幅増加、(理系)(95)は前年度大幅増加の反動と共通テストは地歴公民の得点のみを利用するため理系での選択率の高い地理Bの難化の影響でやや減少。
- 理(106)は、前年度減少の反動でやや増加
- 工(92)は、前年度やや増加の反動と共通テストで利用する国語、地歴公民、外国語の3教科の中の地歴公民において、理系の選択率の高い地理Bの難化の影響で減少した。学科別では、6学科すべてが減少し、特に(情報)(82)は、人気が高い系統だが、前年度増加の反動と難化傾向への警戒から大幅減少。
- 医(医)(108)は、2年連続減少の反動で増加したが、志願者数は3年連続300人を下回った。
- 医(人間健康科学)(99)は、微減だが、4年連続増加が見られない。
- 薬(104)は、2年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まり、志願者数は3年連続200人を下回った。
- 農(94)は、系統への不人気を反映して2年連続減少で、志願者数も2年連続で700人を下回った。
- 志願倍率の基準による第1段階選抜は、総合人間(文系)(理系)で実施されたが、いずれも合格率は90%を超えた。また、経済(理系)は志願倍率が第1段階選抜実施予告倍率を超えたが、実施されなかった。

<特色入試> ※〔 〕内は前年度数値

- 後期募集の法を除くと、募集人員145人〔138人〕に対して、志願者数は551人〔563人〕、合格者数は118人〔107人〕。志願倍率は3.8倍〔4.1倍〕で0.3ポイントダウンした。コロナ禍による志願者数の減少が見られた。
- 学部・学科・コース・入試方式別の合格者数は以下のとおり。

文…11人 [10人]、経済…17人 [18人]、教育…5人 [6人]、総合人間…5人 [5人]
 理…11人(数理学入試6人、生物科学入試5人) [5人]
 工(建築)…1人 [0人]、(工業化学)…6人 [4人]、(情報)…3人 [3人]、(電気電子工)…6人 [3人]、
 (物理工)…4人 [3人]、(地球工)…3人 [2人]
 医(医)…2人 [2人]、(人間健康科学/先端看護科学)…21人 [19人]、
 (人間健康科学/先端リハビリテーション科学—理学療法)…5人 [4人]、
 (人間健康科学/先端リハビリテーション科学—作業療法)…2人 [5人]
 薬(薬科学)…3人 [4人]、(薬)…2人 [0人]
 農(食料・環境経済)…2人 [3人]、(資源生物科学)…2人 [4人]、(応用生命科学)…2人 [4人]
 (地域環境工)…2人 [1人]、(森林科学)…3人 [1人]、(食品生物科学)…0人 [1人]

大阪大：大学全体では3年連続減少、増加は4学部のみ **前期：-471人**



入試変更点

2段階選抜新規実施：人間科学<前>…約2.4倍で実施
 第1段階選抜基準変更：薬<前>…約4倍(通過予定人数：260人)→約2.5倍(通過予定人数：163人)
 共通テスト：工<前>…国<150>+歴公<50>+数2<50>+理2<50>+外<50>=総点<350>
 →国<75>+歴公<50>+数2<75>+理2<50>+外<50>=総点<300>
 個別試験：工<前>…数<250>+理2<250>+外<150>=総点<650>→数<250>+理2<250>+外<200>=総点<700>
 医(医)<前>…面(1回のみ)
 →面(複数の面接官による評価を参考にして場合によっては複数回行う)
 歯<前>…数<200>+理2<200>+外<200>+面<200>=総点<800>
 →数<300>+理2<300>+外<300>+面<300>=総点<1,200>
 薬<前>…数+理2+外→数+理2+外+論+面 ※論文、面接を追加

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期のみの募集で471人(94)のやや減少で3年連続減少。増加したのは4学部のみで、増減が目立ったのは歯(123)が大幅増加、基礎工(113)が増加。一方で、薬(67)、医(保健)(78)、医(医)(84)が大幅減少、外国語(86)、経済(88)、工(92)が減少。

- <前期日程>
- 文(107)は、やや増加で、2年連続増加。
 - 外国語(86)は、コロナ禍の影響も加わった系統への低い人気と前年度増加の反動で減少。専攻別では、25専攻中で増加は7専攻のみ。(外国語/モンゴル語)(49)が半減以下、(外国語/インドネシア語)(55)、(外国語/フィリピン語)(55)、(外国語/フランス語)(67)の3専攻が減少率30%を上回る大幅減少。一方で、はっきりと増加したのは、(外国語/中国語)(110)、(外国語/ポルトガル語)(108)の2専攻のみ。
 - 法(103)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。学科別では、(法)(106)は前年度大幅増加の反動でやや増加。一方で、(国際公共政策)(96)はやや減少で前年度大幅減少に続いて2年連続減少。
 - 経済(88)は、系統への人気の低下もあり、2年連続で減少。
 - 人間科学(98)は、微減だが3年連続減少。志願者数は247人で、募集人員が115人になった2017年度以降では最少。
 - 理(95)は、やや減少。志願倍率は5年連続で3倍を下回った。学科・コース別では、(生物科学/生命理)(139)、(生物科学/生物科学)(130)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で(数学)(81)は2年連続増加の反動で、(物理)(85)は3年連続増加の反動でいずれも大幅減少。
 - 工(92)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、前年度は全ての学科が増加したが、一転して5学科全てが減少。(電子情報工)(86)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、他の4学科もいずれも前年度増加の反動で減少。
 - 基礎工(113)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、前年度は全ての学科が減少したが、一転して4学科全てが増加し、工とは対照的。特に、系統への人気が高い(情報)(119)、電子物理学(118)がいずれも大幅増加。
 - 医(医)(84)は、前年度大幅増加の反動と関西の難関大医学部医学科志望者の京大・医への強気な出願の影響で大幅減少。志願倍率は2.9倍→2.5倍にダウンしたが、過去5年間では2番目の高倍率で厳しい入試は継続。
 - 医(保健)(78)は、前年度3年ぶりの増加から大幅減少。志願倍率は再び2倍を下回った。専攻別では、(保健/検査技術科学)(66)、(保健/放射線技術科学)(73)はいずれも大幅減少、(保健/看護)(91)は減少。

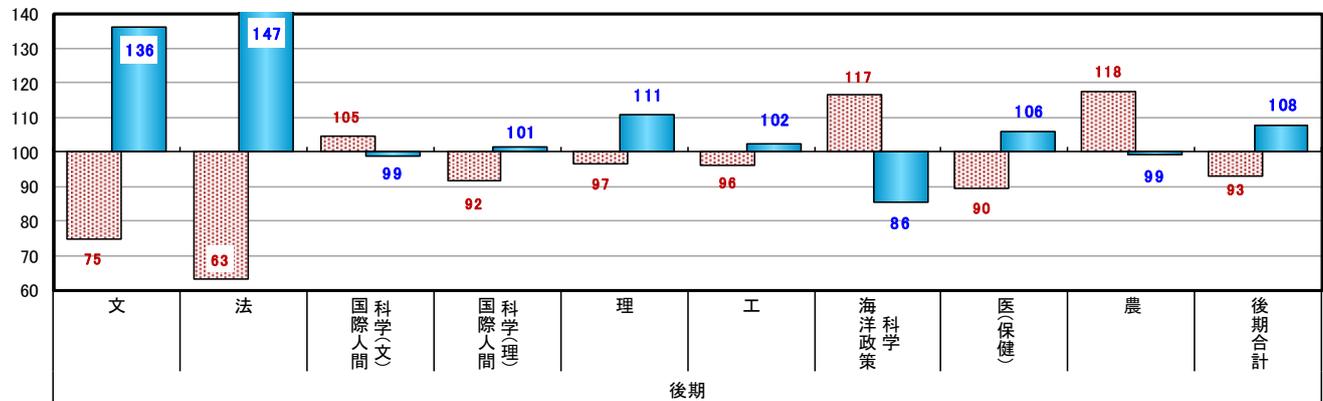
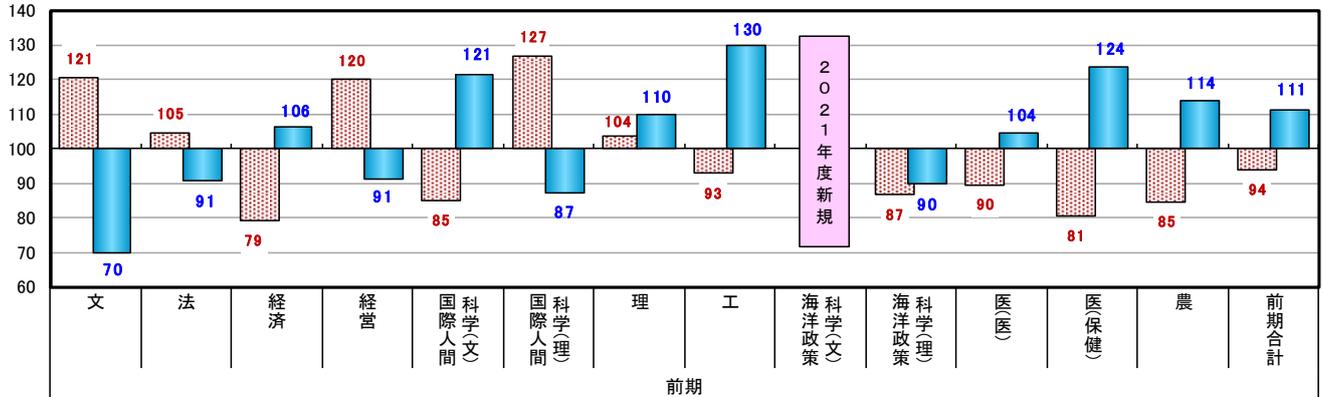
- 歯(123)は、2年連続減少の反動で大幅増加。
- 薬(67)は、3年連続増加の反動と個別試験に小論文と面接を追加したことによる負担増から大幅減少。

神戸大：前期、後期ともに反動により増加

前期：+625人 後期：+296人

※前年度の志願者数を100とする指数
海洋政策科学(理)、海洋政策科学は、前年度海事科学との比較

□2020年度/2019年度 □2021年度/2020年度



入試変更点

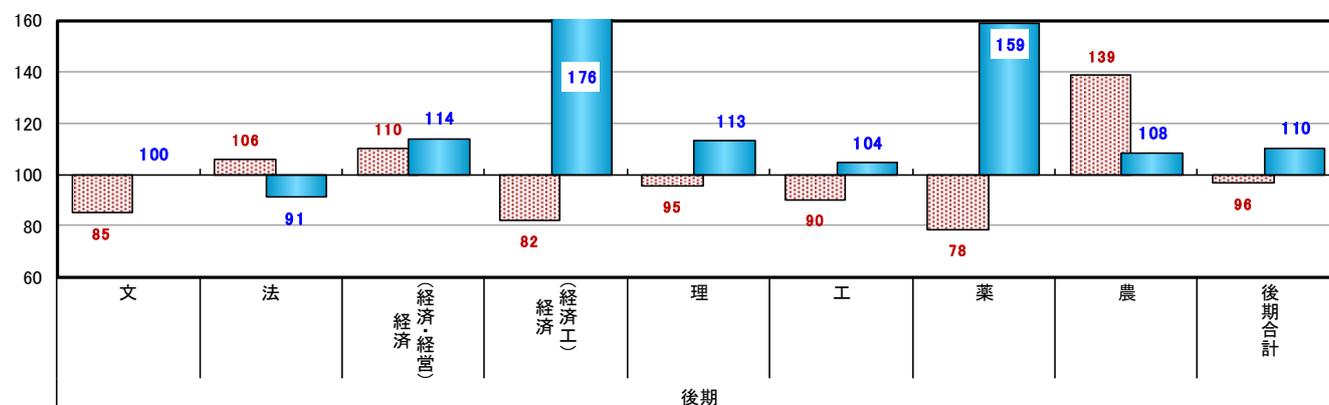
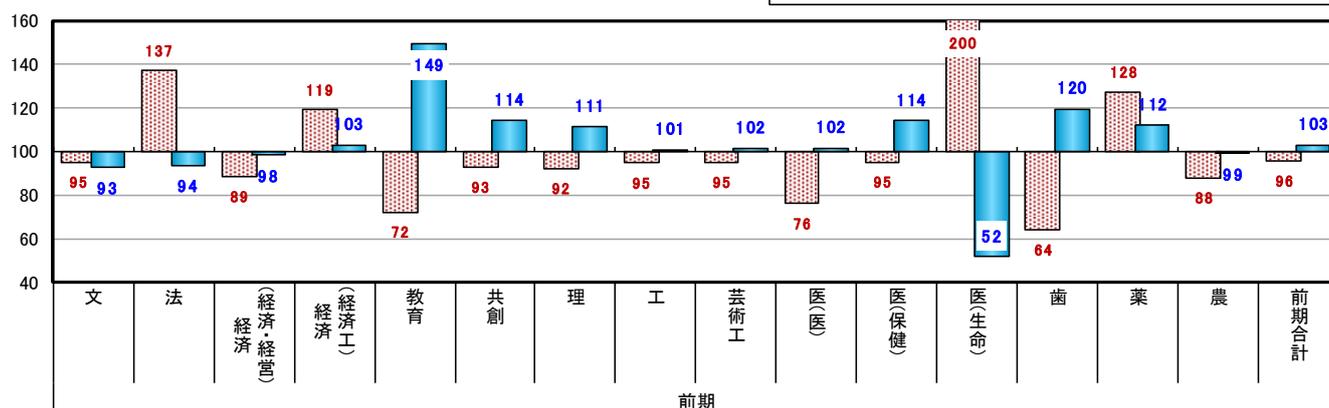
学部改組：海事科学(グローバル輸送科学、海洋安全システム科学、マリンエンジニアリング)…<前>143人、<後>47人
→海洋政策科学(海洋政策科学)…<前>(理系科目重視)115人、(文系科目重視)30人、<後>(理系科目重視)40人
第1段階選抜基準変更：医(医)…センター試験900点満点中650点以上の者→約3倍(通過予定人数：276人)
選抜方法：医(保健/作業療法)…後期廃止
募集人員：医(保健/作業療法)…<後>3人→0人
工(応用化学)…<前>78人→85人、<後>26人→18人
(情報知能工)…<前>85人→90人、<後>20人→15人
農(資源生命科学/応用植物)…<前>22人→21人
共通テスト：工(応用化学)<後>…国<120>+歴公<50>+数2<50>+理2<180>+外<200>=総点<600>
→国<100>+歴公<50>+数2<50>+理2<200>+外<120>=総点<520>
(機械工)<前>…国<125>+歴公<75>+数2<50>+理2<50>+外<75>=総点<375> ※理：物 or 化 or 生 or 地学
→国<80>+歴公<40>+数2<50>+理2<50>+外<50>=総点<270> ※理：物+化
<後>…国<120>+歴公<50>+数2<50>+理2<180>+外<120>=総点<520>
→国<80>+歴公<40>+数2<40>+理2<160>+外<160>=総点<480>
(情報知能工)<前>…国<125>+歴公<75>+数2<50>+理2<50>+外<50>=総点<350>
→国<50>+歴公<50>+数2<50>+理2<50>+外<50>=総点<250>
<後>…国<120>+歴公<50>+数2<50>+理2<150>+外<180>=総点<550>
→国<50>+歴公<50>+数2<50>+理2<200>+外<150>=総点<500>
(建築)<前>…国<125>+歴公<75>+数2<50>+理2<50>+外<75>=総点<375>
→国<100>+歴公<50>+数2<50>+理2<50>+外<50>=総点<300>
<後>…国<120>+歴公<50>+数2<50>+理2<130>+外<250>=総点<600>
→国<100>+歴公<50>+数2<50>+理2<150>+外<200>=総点<550>
(市民工)<後>…国<100>+歴公<50>+数2<50>+理2<150>+外<200>=総点<550>
→国<100>+歴公<50>+数2<30>+理2<150>+外<170>=総点<500>
個別試験：工(機械工)<前>…数<150>+理2<150>+外<125>=総点<425>
→数<180>+理2<180>+外<170>=総点<530>
<後>…数<280>→数<320>
(情報知能工)<前>…数<150>+理2<150>+外<150>=総点<450>
→数<200>+理2<200>+外<150>=総点<550>

	<p>〈後〉…数<250〉→数<300〉 (建築)〈前〉…数<150〉+理 2 <150〉+外<125〉=総点<425〉→数<200〉+理 2 <150〉+外<150〉=総点<500〉 〈後〉…数<200〉→数<250〉 (市民工)〈後〉…数<250〉→数<300〉</p>
COMMENT	※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
	<p>大学全体では、前期は前年度減少の反動で 625 人(111)の増加。文理別では、文系は 148 人(106)のやや増加、理系は 477 人(116)の大幅増加。改組された海洋政策科学を除くと、前年度から同じ増減が連続した学部(医学部は学科)は理(110)のみ。後期は 2 年連続減少の反動で 296 人(108)の増加。文理別では、文系は 267 人(121)、理系は 29 人(101)の増加。すべての学部(医学部は学科)で前年度と逆の増減。</p>
	<p>〈前期日程〉 ○文(70)は、前年度大幅増加の反動から大幅減少。志願倍率は 3.0 倍→2.1 倍にダウンして、2014 年度以来の低倍率。 ○法(91)は、前年度やや増加の反動で減少。 ○経済(106)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。方式別では、募集人員が 160 人と最大の(総合)(109)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(数学)(65)は大幅減少で志願者数は募集人員と同数に留まり志願倍率は 1.0 倍。 ○経営(91)は、前年度大幅増加の反動で減少。志願倍率も 3.9 倍→3.6 倍へダウン。 ○国際人間科学(117)は、前年度減少の反動で大幅増加。募集単位別では、前年度 5 募集単位別中唯一増加の(環境共生(理科系))(87)が反動で減少、他の 4 つの募集単位は増加と前年度と逆の増減となった。特に(環境共生(文科系))(135)、(発達コミュニティ)(127)の大幅増加が目立った。 ○理(110)は、3 年連続増加。学科別では、前年度 2 年連続大幅増加だった(惑星)(76)、(生物)(77)、(数学)(77)はいずれも 80%を下回る大幅減少だが、前年度大幅減少の反動による(物理)(188)、(化学)(184)の激増で学部全体では増加となった。 ○工(130)は、大幅増加。学科別では、大幅減少の(電気電子工)(82)を除いた 5 学科で増加。特に、(情報知能工)(193)、(機械工)(175)は激増。系統への人気も高い(情報知能工)は、志願者数 416 人で募集人員が 85 人以上になった 2017 年度以降で最多、募集人員が 5 人増加(募集人員の前年度対比指数 106)して 90 人となったが、志願倍率は 4.6 倍の高倍率となった。 ○海洋政策科学は、海事科学を改組し、新規に(文系科目重視)を新設した。(理系科目重視)(90)は旧海事科学との比較では、2 年連続減少だが、募集人員の減少(募集人員の前年度対比指数 80)で志願倍率は 2.8 倍→3.1 倍にアップし、競争は激化した。一方で、(文系科目重点)は 5.5 倍の高倍率だった。 ○医(医)(104)は、3 年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まった。共通テスト 360 点：個別試験 450 点と比較的共通テストの比重が高く、共通テストにおける超高得点層の減少も影響した。 ○医(保健)(124)は、前年度大幅減少の反動から大幅増加。専攻別では、4 専攻全てが増加。(保健/看護)(112)以外の 3 専攻は大幅増加。特に(保健/検査技術科学)(155)は 50%以上の大幅増加。 ○農(114)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科・コース別では、6 つの募集単位のうち、(資源生命科学/応用植物)(94)のみ減少で、他の 5 つの募集単位はいずれも増加。特に、(食料環境システム/生産環境工)(143)、(資源生命科学/応用動物)(122)、(食料環境システム/食料環境経済)(120)が大幅増加。</p>
	<p>〈後期日程〉 ○文(136)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加し、志願者数は募集人員が 20 人になった 2017 年度以降で最多。志願倍率も 10.9 倍→14.9 倍にアップ。 ○法(147)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2 年振りに志願者数は 600 人を上回り、志願倍率も 10 倍を超えた。 ○国際人間科学(99)は、2017 年の学部改組後初めて増加した前年度とほぼ同数の志願者数。学科別では、(発達コミュニティ)(83)が大幅減少、一方で前年度大幅減少した(子ども教育)(123)は大幅増加。 ○理(111)は、2 年連続減少の反動で増加。学科別では、前年度まで 3 年連続減少だった(物理)(145)が大幅増加、一方で(生物)(86)が大幅減少。 ○工(102)は、前年度並。学科別では、(建築)(133)、(情報知能工)(118)が大幅増加、一方で(市民工)(73)、(機械工)(83)が大幅減少。 ○医(保健)(106)は、2 年連続減少の反動により、やや増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(132)が大幅増加。 ○農(99)は、前年度の反動による大幅な増減が止まり、前年度並。学科・コース別では、(食料環境システム/食料環境経済)(113)、(生命機能科学/応用生命科学)(111)が増加、前年度ほぼ倍増だった(食料環境システム/生産環境工)(83)は大幅減少。</p>

九州大：前期はやや増加、後期は3年連続減少の反動で増加 前期：+161人 後期：+227人

※前年度の志願者数を100とする指数

■ 2020年度/2019年度 ■ 2021年度/2020年度



入試変更点

学科改組：工…エネルギー科学、建築、電気情報工、物質科学工、地球環境工、機械航空工
 →I群：電気情報工、II群：材料工、応用化学、化学工、融合基礎工(物質材料コース)
 III群：融合基礎工(機械電気コース)、機械工、航空宇宙工、量子物理工
 IV群：船舶海洋工、地球資源システム工、土木工、V群：建築
 VI群：入学時にI～Vの学科群を特定しない一括募集 ※学科群別募集

選抜方法：経済(経済工)〈後〉…提出書類に志望理由書追加

募集人員：経済(経済・経営)…〈前〉110人→93人、〈後〉31人→26人
 芸術工(インダストリアルデザイン)…〈前〉(コース別)：25人→20人
 芸術工(未来構想デザイン)…〈前〉(コース別)：15人→10人
 医(保健/看護)…〈前〉59人→58人
 農…〈前〉172人→170人、〈後〉24人→22人

共通テスト：共創…得点換算(複数基準)→みなし満点
 対象試験：英検、GTEC、GTEC CBT、IELTS、TEAP、TOEFL iBT
 →ケンブリッジ英検、英検、GTEC、GTEC CBT、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT

個別試験：文(人文)〈後〉…論<300>→論I<250>、論II
 ※論IIは志望理由等についての論述を課し、学部の趣旨やアドミッションポリシー等に照らし合わせて適格・不適格を判断する(不適格の場合は共通テストと論Iの成績にかかわらず不合格となることもある)

法〈後〉…論→講義に関する理解度確認試験 ※教員による講義(45分)ののち理解度確認試験(90分)を行う
 理(化学)〈後〉…理<400点>→理<600点> ※配点変更

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は161人(103)のやや増加で、前年度やや減少の反動が見られた。文理別では、文系は21人(102)の微増、理系は140人(104)のやや増加。後期は227人(110)の増加で、3年連続減少の反動が見られた。文理別では、文系は16人(102)の微増、理系は211人(115)の大幅増加。

〈前期日程〉

- 文(93)は、やや減少で、2年連続減少。
- 法(94)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。
- 経済(101)は、前年度並。学科別では、(経済・経営)(98)は微減で2年連続減少。一方で、(経済工)(103)はやや増加で2年連続増加と対照的。
- 教育(149)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加し、志願者数は2011年度以来の130人を上回った。志願倍率も2.5倍→3.7倍にアップ。
- 共創(114)は、前年度やや減少の反動で増加。新設4年目で志願者数が最も多かった。
- 理(111)は、前年度5年ぶりに減少したが、再び増加に転じた。学科別では、(生物)(135)、(化学)(133)は大幅増加、(地球惑星科学)(109)(数学)(103)はやや増加、一方で(物理)(87)は減少。
- 工(101)は、学科改組を実施し、募集も学科群別募集となった。志願者数は前年度並で、2年連続で1,400人を下回った。学群別の志願倍率は、(I群)2.8倍、(VI群)2.5倍、(III群)2.1倍、(II群)2.0倍、(V群)2.0倍、(IV群)1.5倍だった。
- 芸術工(102)は、微増。新設2年目の(学科一括)(184)は周知が進み大幅増加、志願倍率も2.9倍→5.4倍に大幅アップ。コース別募集では、(芸術工/環境設計)(100)が前年度並だが、他の4コースはいずれも減少。特に、(芸術工/未来構想デザイン)(67)、(芸術工/メディアデザイン)(85)が大幅減少。
- 医(医)(102)は、前年度大幅減少の反動は小さく微増に留まった。なお、第1段階選抜は、志願倍率が2.51倍と第1段階選抜基準の約2.5倍とはほぼ同じだったが、実施されなかった。
- 医(保健)(114)は、2年度減少の反動で増加。専攻別では、3専攻ともに増加で、特に(保健/放射線技術科学)(119)、(保健/看護)(117)は大幅増加。
- 医(生命科学)(52)は、前年度倍増の反動で半減近い大幅減少。募集人員が少ないので前年度対比指数は極端になりやすいが、2016年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 歯(120)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 薬(112)は、2年連続増加。学科別では、(創薬科学)(115)は大幅増加、(臨床薬)(110)は増加。
- 農(99)は、系統への低い人気もあり、微減だが2年連続減少。

〈後期日程〉

- 文(100)は、前年度並。2015年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 法(91)は、前年度やや増加の反動で減少。2016年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 経済(131)は、大幅増加で志願倍率は2017年度以来で10倍を上回った。学科別では、(経済・経営)(114)で2年連続増加、(経済工)(176)の大幅増加で、2012年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 理(113)は、3年連続減少の反動で増加。学科別では、(物理)(83)が大幅減少、(地球惑星科学)(90)が減少。
- 工(104)は、やや増加で6年ぶりに増加。改組された学科群別の志願倍率は、(VI群)が10.1倍で最も高く、(IV群)が6.2倍で最も低かった。
- 薬(159)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(創薬科学)(203)が倍増以上の激増、(臨床薬)(126)は大幅増加。
- 農(108)は、2年連続増加。志願倍率も5.8倍→8.1倍→9.5倍とアップが継続した。

⑨医学部医学科志願状況

□医学部全体の減少傾向に歯止め。前期は7年ぶりに微増、後期は2年連続減少

〔志願者数推移〕

		2021年度	増減数	指数	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度
募集人員	前期	3,604	+7	100	3,597	3,644	3,676	3,699	3,683	3,653	3,614	3,592
	後期	408	-46	90	454	524	539	541	556	586	611	651
	合計	4,012	-37	99	4,049	4,168	4,215	4,240	4,239	4,239	4,225	4,243
志願者数	前期	14,773	+31	100	14,742	16,390	17,064	18,093	18,342	18,999	19,919	19,674
	後期	7,110	-294	96	7,404	9,081	8,969	9,927	10,073	11,047	12,586	12,813
	合計	21,883	-263	99	22,146	25,471	26,033	28,020	28,415	30,046	32,505	32,487
志願倍率	前期	4.10			4.10	4.50	4.64	4.89	4.99	5.20	5.51	5.48
	後期	17.43			16.31	17.33	16.64	18.35	18.12	18.85	20.60	19.68
	合計	5.45			5.47	6.11	6.18	6.61	6.70	7.09	7.69	7.66

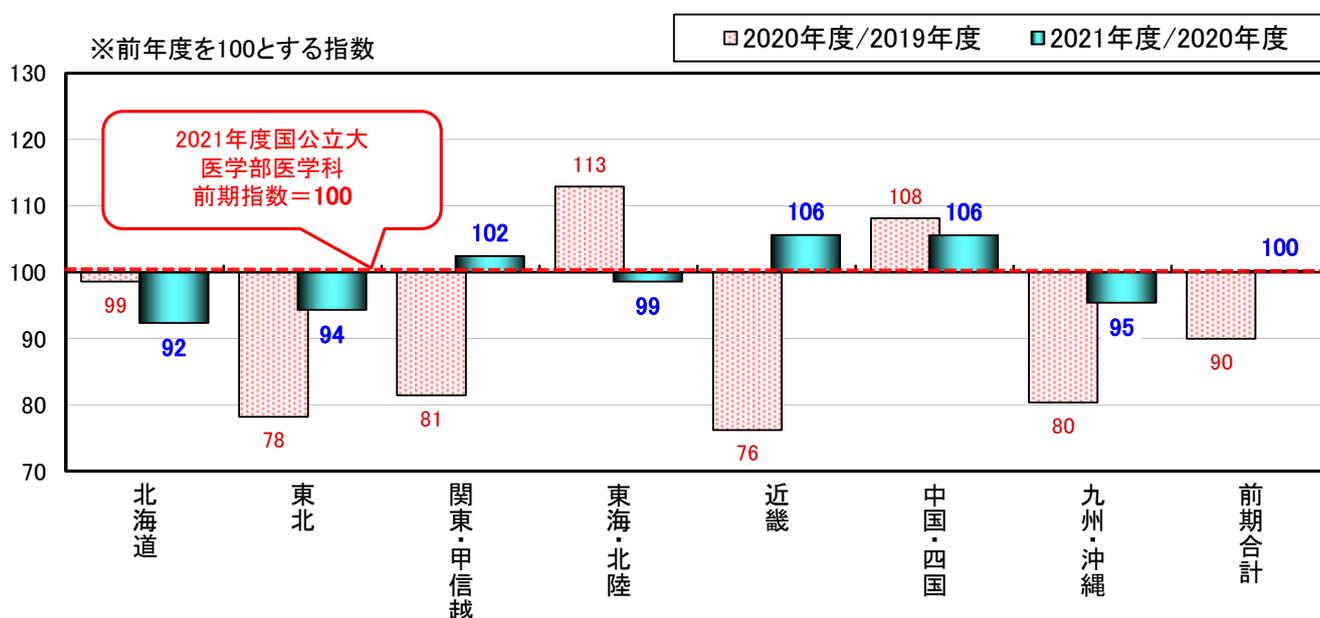
医学部医学科(以下「医学科」)全体の志願者数は、後期募集廃止大学の増加、医学科入学定員増による既卒受験生の減少などの減少要因がありましたが、コロナ禍の中で医学への関心の高まりと共に、固い志望動機を持つ医学科志望者の他系統への志望変更が抑制された結果、263人(99)の微減に留まり、前年度並で医学科志望者の減少傾向に一定の歯止めがかかりました。

日程別では、前期は31人(100)の微増ですが、7年ぶりに減少が止まりました。一方で、後期は294人(96)のやや減少で2年連続減少しました。この要因は、香川大、愛媛大の後期募集廃止でした。この2大学を除いた大学合計での比較では、(109)と増加しました。この結果、志願倍率は前期が4.10倍→4.10倍と変化はなく、後期は16.31倍→17.43倍と1.12ポイントアップとなり、後期で競争が厳しくなりました。

□前期の地区別では北海道、東北、九州・沖縄が減少

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



前期合計では31人(100)の微増でした。地区別では、近畿(106)、中国・四国(106)はやや増加、関東・甲信越(102)は微増となりました。一方で、北海道(92)は減少、東北(94)、九州・沖縄(95)はやや減少、東海・北陸(99)は微減となりました。

○北海道(92)：旭川医科大(100)は第1段階選抜基準が厳しくなったが、前年度と全く同じ志願者数。札幌医科大(86)、北海道大(92)が減少。

○東北(94)：福島県立医科大(159)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、秋田大(67)は前年度大幅増

加の反動で大幅減少。弘前大(75)は入試科目が変更となり、総合問題と面接のみとなったため教科の学力に自信を持つ層に敬遠され大幅減少。山形大(89)は減少で5年連続減少。

- 関東・甲信越(102)：信州大(128)は第1段階選抜基準が厳しくなったが、前年度大幅減少の反動で大幅増加、筑波大(117)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、新潟大(89)は減少で2年連続減少、群馬大(93)はやや減少で2年連続減少。
- 東海・北陸(99)：三重大(135)は大幅増加で2年連続増加、名古屋大(117)はコロナ禍対応として面接を書類審査に変更した影響もあり、2年連続大幅増加。一方で、福井大(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、岐阜大(87)は前年度大幅増加の反動で減少、富山大(88)は減少で2年連続減少。
- 近畿(106)：和歌山県立医科大(142)は前年度半減以下の減少の反動で大幅増加、京都府立医科大(111)、大阪市立大(110)、京都大(108)、神戸大(104)、滋賀医科大(103)はいずれも前年度減少の反動で増加。一方で、前年度唯一増加だった大阪大(84)は大幅減少、奈良県立医科大(94)は2年連続減少。
- 中国・四国(95)：愛媛大(174)、香川大(133)は後期廃止により前期募集人員増加のため大幅増加、徳島大(140)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、前年度の反動による増減が継続。一方で、高知大(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、島根大(86)、岡山大(95)は前年度増加の反動で減少、鳥取大(93)はやや減少で3年連続減少。
- 九州・沖縄(106)：長崎大(149)、宮崎大(131)、琉球大(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、大分大(62)は地元出身者枠新設もあり大幅減少、熊本大(68)、鹿児島大(75)は2年連続減少、佐賀大(89)は3年連続減少。

〈後期日程〉

後期合計では294人(96)のやや減少で2年連続減少しました。

地区別では、1大学のみ地区では、山口大のみ募集の中国・四国(20)は香川大、愛媛大の後期廃止のため8割減の激減。香川大、愛媛大を除く山口大(99)のみでは前年度並。旭川医科大のみ募集の北海道(35)は第1段階選抜基準の変更による激減で2年連続大幅減少、志願倍率は35.9倍→12.5倍に緩和。奈良県立医科大のみ募集の近畿(92)は前年度大幅増加の反動で減少しました。

複数大学の募集がある4地区では増減が目立ったのは、東海・北陸(140)、九州・沖縄(116)で大幅増加。一方で、東北(94)はやや減少。

- 東北(94)：山形大(77)は大幅減少で2年連続減少。秋田大(104)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。
- 関東・甲信越(100)：千葉大(116)のみ大幅増加で2年連続増加。一方で、東京医科歯科大(89)は2年連続減少、山梨大(95)はやや減少で2年連続減少。
- 東海・北陸(140)：岐阜大(177)は前年度大幅減少の反動で激増、浜松医科大(162)は2年連続激増、三重大(151)、富山大(126)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、福井大(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 九州・沖縄(116)：全大学が増加。琉球大(129)、鹿児島大(111)、宮崎大(111)は前年度減少の反動で増加、佐賀大(111)は2年連続増加。

〔大学別志願状況〕

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2021年度		2020年度		志願倍率			コメント
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2021年度	2020年度	2019年度	
北海道	旭川医科大	前		550	350	±0	100	40	279	46	279	7.0	6.1	9.0	<変更点>第1段階選抜基準:約10倍⇒約5倍 <個>数<100>+外<100>+面<150> =総点<350> ⇒数<150>+外<150>+面<50> =総点<350> ※面接:集団⇒個人 志願者数は前年度と同数だが、募集人員に特別選抜の欠員増がなかったため、志願倍率は7.0倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は72.0%だった。
		後		600	250	-187	35	8	100	8	287	12.5	35.9	40.1	
	北海道大	前		300	525	-28	92	101	338	102	366	3.3	3.6	3.0	減少で、前年度の反動による増減が継続。 ※募集人員は総合型・国際総合入試の欠員部の4人を含む(2020年度5人)。
	札幌医科大	前		700	700	-6	90	20	52	20	58	2.6	2.9	4.0	一般枠は減少で、志願倍率は2.9倍⇒2.6倍にダウン。先進研修連携枠は大幅減少で、志願倍率は4.8倍⇒4.0倍にダウン。
		先進研修連携枠			-40	85	55	222	55	262	4.0	4.8			
東北	弘前大	前		1000	500	-75	69	50	168	50	243	3.4	4.9	8.1	<変更点>募集人員:(定着枠)20人⇒15人 <個>数<300>+外<300>+面<300> =総点<900> ⇒面<200>+総合問題<300> =総点<500> 入試科目変更で総合問題と面接のみとなったため教科の学力に自信を持つ層に敬遠され、2年連続大幅減少。
			定着枠	1000	500	-13	88	15	96	20	109	6.4	5.5	15.5	
	東北大	前		250	950	-9	96	77	243	77	252	3.2	3.3	3.4	やや減少で4年連続減少。
	秋田大	前		550	400	-120	67	55	244	55	364	4.4	6.6	3.6	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も6.6倍⇒4.4倍にダウン。
		後		700	300	+12	104	20	312	20	338	15.6	16.9	16.8	<変更点>募集人員:(地域枠)0人⇒4人 新規に地域枠を実施。一般枠の志願倍率は16.9倍⇒15.6倍にダウン。
			地域枠	450	250			4	38			9.5			
	山形大	前		900	700	-56	89	65	214	65	270	3.3	4.2	3.8	<変更点>募集人員:(一般枠・定着枠)65人⇒(一般枠)65人、(地域枠)8人 募集人員増加だが、減少で5年連続減少。
		地域枠					8	27			3.4				
		後		900	100	-45	77	15	147	15	192	9.8	12.8	13.9	大幅減少で2年連続減少。志願倍率も12.8倍⇒9.8倍にダウンし、1桁台となった。
福島県立医科大	前		650	660	+117	161	50	310	50	193	6.2	3.9	7.1	前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は一般枠で3.9倍⇒6.2倍に、地域枠で2.4倍⇒4.0倍にどちらもアップ。 ※2020年度地域枠の募集人員には推薦入試欠員分の2人を含む。	
		地域枠			+43	156	30	120	32	77	4.0	2.4	6.2		
関東・甲信越	筑波大	前		900	1400	+39	133	44	158	49	119	3.6	2.4	3.0	<変更点>募集人員:(一般枠)49人⇒44人 (地域枠)19人⇒18人 <個>数+理2+外+適性試験 ※数:数II+数III+数B ⇒数+理2+外+適性試験 ※数:数I+数II+数III+数A+数B 一般枠は募集人員減少だが、4年連続減少の反動で大幅増加。地域枠は募集人員減少もあり、前年度倍増の反動で大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は69.6%だった。
			茨城県枠			-9	84	8	48	9	40	2.7	4.4	2.0	
			全国枠					10		10	17		1.7		
	群馬大	前		450	450	-5	97	65	164	65	169	2.5	2.6	3.6	一般枠はやや減少、地域医療枠は大幅減少でどちらも2年連続減少。
			地域医療枠			-9	73	6	24	6	33	4.0	5.5	6.5	
	千葉大	前		450	1000	+53	119	82	331	82	278	4.0	3.4	3.4	一般枠は大幅増加、地域枠は半減近い大幅減少と対照的。
			地域枠			-41	52	15	44	15	85	2.9	5.7		
		後		450	1000	+108	139	15	388	15	280	25.9	18.7	18.0	一般枠は大幅増加、地域枠は半減以下の大幅減少と対照的。
	地域枠				-48	48	5	45	5	93	9.0	18.6			
東京大	前		110	440	-28	93	97	385	97	413	4.0	4.3	4.2	<変更点><共テ>英(筆記) ⇒英(リーディング+リスニング) やや減少で、前年度4年ぶりの増加から再び減少に転じた。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は88.3%だった。	

2021 年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2021年度		2020年度		志願倍率			コメント
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2021年度	2020年度	2019年度	
関東・甲信越	東京医科歯科大	前		180	360	-28	92	79	316	81	344	4.0	4.2	3.9	<変更点>募集人員:81人⇒79人 募集人員減少で前年度やや増加だったが、減少となった。
		後		500	200	-18	89	10	150	10	168	15.0	16.8	20.2	減少で2年連続減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.0%だった。
	横浜市立大	前		1000	1200	+20	108	58	260	58	240	3.7	3.2	4.2	<変更点>第1段階選抜基準:約3倍 ⇒共通テスの配点の合計点原則750点以上、倍率約3倍 募集人員:(地域枠)14人⇒(地域枠)10人 前年度大幅減少の反動で増加。
			地域枠					10		14					
			診療科枠					2		2					
	新潟大	前		750	1200	-37	89	80	307	80	344	3.8	4.3	6.0	減少で2年連続減少。志願倍率も4.3倍→3.8倍にダウン。
山梨大	後		1100	1200	-50	95	90	1057	90	1107	11.7	12.3	14.4	<変更点><共テ>国<200>+歴公<100>+数<200> +理<200>+外<300>=総点<800> ⇒国<200>+歴公<100>+数<200> +理<200>+外<600> =総点<1,100> 配点変更もあり、減少で2年連続減少。志願倍率は12.3倍→11.7倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は85.3%だった。	
信州大	前		450	600	+104	128	95	476	95	372	5.0	3.9	6.3	<変更点>第1段階選抜基準:約5倍⇒約4倍 <共テ>※理:物or化or生or地学 ⇒※理:物or化or生 第1段階選抜の基準が厳しくなったが、大幅増加で前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.3%だった。	
東海・北陸	富山大	前		900	700	-30	88	60	214	60	244	3.6	4.1	5.5	<変更点><個>数<200>+理<200>+外<200> +面<100>=総点<800> ⇒数<200>+理<200>+外<200> +面<100>=総点<700> 減少で2年連続減少。志願倍率も4.1倍→3.6倍にダウン。
		後		1200	350	+77	126	20	378	20	301	18.9	15.1	16.3	3年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率は15.1倍→18.9倍にアップ。第1段階選抜は、実施予告倍率の15倍を上回ったが実施されなかった。
	金沢大	前		450	1050	+8	103	84	320	84	312	3.8	3.7	2.9	<変更点><個>数<200>+理<200>+外<200> +面<100>=総点<700> ⇒数<300>+理<200>+外<300> +面<150>=総点<1,050> やや増加で、2年連続増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は79.7%だった。
	福井大	前		900	700	-68	74	55	193	55	261	3.5	4.7	4.0	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も4.7倍→3.5倍にダウン。
		後		450	220	-73	81	25	320	25	393	12.8	15.7	10.1	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も15.7倍→12.8倍にダウン。
	岐阜大	前		800	1200	-53	87	37	357	37	410	9.6	11.1	8.4	前年度大幅増加の反動で減少。志願倍率も11.1倍→9.6倍にダウン。
後			400	1200	+496	177	25	1141	25	645	45.6	25.8	22.5	2年連続減少の反動で激増。後期で最も志願者数が増加し、志願倍率は25.8倍→45.6倍となった。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は33.2%だった。	
浜松医科大	前		450	700	-20	94	64	292	66	312	4.6	4.7	4.8	<変更点>募集人員:(一般枠)66人⇒64人 (地域医療枠)9人⇒11人 2年連続増加の反動で、一般枠はやや減少、地域医療枠は半減近い大幅減少。	
		地域医療枠	450	700	-38	51	11	39	9	77	3.5	8.6			
	後		900	350	+136	162	15	357	14	197	23.8	14.1	8.5	<変更点>募集人員:(一般枠)14人⇒15人 (地域医療枠)1人⇒0人 2年連続激増。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は56.0%だった。	
名古屋大	前		900	1650	+50	117	90	345	90	295	3.8	3.3	2.8	<変更点><個>国+数+理+2+外+面 ※国:現、古、漢 ⇒国+数+理+2+外+書類審査 ※国:現 ※面⇒書類審査はコロナ禍対策として コロナ禍対策として面接が書類審査となったこともあり、2年連続大幅増加。	
	後	愛知県内	900	0	-1	98	5	54	5	55	10.8	11.0	13.4	<変更点>第1段階選抜基準変更:センター試験が900点満点中720点以上の者 ⇒12倍 ※当初実施なしだったが コロナ禍対策として12倍で実施 コロナ禍対策として第1段階選抜基準が変更となったこともあり、微減だが2年連続減少。	

2021年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2021年度		2020年度		志願倍率			コメント
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2021年度	2020年度	2019年度	
東海・北陸	三重大	前		600	700	+103	135	70	401	70	298	5.3	4.0	3.6	大幅増加で2年連続増加。志願倍率も4.0倍→5.3倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は93.8%だった。
			医療枠					5		5					
		後		600	300	+62	151	10	183	10	121	18.3	12.1	13.8	2年連続減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は55.2%だった。
	名古屋市立大	前		550	1200	+14	107	60	208	70	194	3.5	2.8	2.7	<p><変更点>第1段階選抜基準変更:センター試験が500点満点中375点以上の者 ⇒共通テストが550点満点中75%以上の者 募集人員:70人⇒60人 <変更点><共テ>国<100>+歴公<50>+数2<125> +理2<125>+外<100>=総点<500> ※理:物or化or生or地学 ⇒国<125>+歴公<75>+数2<125> +理2<100>+外<125> =総点<550> ※理:物+化 <個>数<150>+理2<200>+外<150> +面<200>=総点<700> ※理:物or化or生 ⇒数<300>+理2<400>+外<300> +面<200>=総点<1,200> ※理:物+化</p> <p>2年連続増加で、志願倍率も2.8倍→3.5倍にアップ。</p>
	滋賀医科大	前		600	600	+22	113	55	197	55	175	3.6	3.2	5.8	<p><変更点><共テ>英(筆記) ⇒英(リーディング+リスニング)</p> <p>5年連続減少の反動で増加。</p>
			地域枠	600	600	-15	78	5	53	5	68	10.6	13.6		
	京都大	前		250	1000	+21	108	105	299	105	278	2.8	2.6	2.9	<p><変更点>第1段階選抜基準変更:センター試験の合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3倍まで ⇒約3倍</p> <p>2年連続減少の反動で増加。 ※募集人員に特色入試欠員分の3人を含む(2021,2020年度とも)。</p>
	大阪大	前		500	1500	-46	84	95	233	95	279	2.5	2.9	2.4	<p><変更点>面(1回のみ) ⇒面(複数の面接官による評価を参考にし、場合によっては複数回行う)</p> <p>大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。志願倍率は2.4倍→2.9倍→2.5倍に変動。</p>
近畿	神戸大	前		360	450	+11	104	92	261	92	250	2.8	2.7	3.0	<p><変更点>第1段階選抜基準変更:センター試験が900点満点中650点以上の者 ⇒約3倍</p> <p>3年連続減少の反動は小さくやや増加。</p>
	京都府立医科大	前		450	600	+28	111	100	277	100	249	2.8	2.5	3.0	<p><変更点>第1段階選抜基準変更:4倍⇒3倍 <個>数+理2+外+面⇒数+理2+外+面+論</p> <p>前年度大幅減少の反動で増加。</p>
	大阪市立大	前		650	800	+20	110	75	225	75	205	2.8	2.6	3.5	<p><変更点>出願資格:(大阪府指定医療枠) 大阪府出身者のみ出願可 ⇒全国から出願可</p> <p>2年連続減少の反動で増加。</p>
			前	指定枠					5		5				
	奈良県立医科大	前		450	450	-10	94	22	153	22	163	7.0	7.4	9.3	やや減少で2年連続減少。
		後		300	900	-80	92	53	888	53	968	16.8	18.3	15.0	前年度大幅増加の反動で減少。
	和歌山県立医科大	前		600	700	+56	143	64	187	64	131	2.9	2.0	4.7	前年度半減以下の大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も一般枠2.0倍→2.9倍、医療枠2.7倍→3.7倍にアップ。
		前	医療枠			+16	140	15	56	15	40	3.7	2.7	5.7	
中国	鳥取大	前		900	700	-27	93	58	359	58	386	4.5	4.9	7.0	<p><変更点>第1段階選抜基準変更:実施なし⇒共通テストが900点満点中600点以上の者</p> <p>3年連続減少で、志願倍率も4.9倍→4.5倍にダウン。</p>
			鳥取県枠					14		14					
			兵庫県枠					2		2					
			島根県枠					5		5					
	島根大	前		700	460	-64	85	55	363	55	427	6.6	7.8	6.1	一般枠は前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も7.8倍→6.6倍にダウン。定着枠は前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
		前	定着枠			+1	104	3	27	3	26	9.0	8.7	5.1	
	岡山大	前		900	1200	-18	95	98	359	98	377	3.7	3.8	3.3	2年連続増加の反動は小さくやや減少に留まった。
	広島大	前		900	1800	+11	102	90	495	90	484	5.5	5.4	6.6	前年度大幅減少の反動は小さく微増に留まった。

2021 年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2021年度		2020年度		志願倍率			コメント
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2021年度	2020年度	2019年度	
中国	山口大	前		900	600	-3	99	55	306	55	309	5.6	5.6	3.2	<変更点><共テ>※理:化+(物or生) ⇒※理:(物or化or生)→2 前年度大幅増加の反動は小さく前年度並。
			後	900	500	-2	99	7	212	7	214	21.2	21.4	38.1	
			地域枠	900	500			3		3					
四国	徳島大	前		900	400	+61	140	64	212	64	151	3.3	2.4	3.4	前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.4倍→3.3倍にアップ。
			後												
	香川大	前		700	700	+95	133	70	382	50	287	4.8	4.9	4.6	<変更点>第1段階選抜基準:約5倍⇒約4倍 募集人員:59人(医療推進枠:9人含む) ⇒79人(医療推進枠:9人含む) 後期募集停止による募集人員の増加もあり、大幅増加で3年連続増加。志願倍率も7.7倍→9.7倍にアップ。 2段階選抜が実施され、実施予告倍率の約4倍を上回ったが実施されなかった。
			地域枠					9		9					
	愛媛大	前		450	700	+225	174	55	531	40	306	9.7	7.7	5.7	<変更点>募集人員:40人⇒55人 <個>数+理2+外+面 ⇒数+理2+総合問題(英文含む)+面 後期募集停止による募集人員増加もあり、大幅増加で3年連続増加。志願倍率も7.7倍→9.7倍にアップ。 2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は62.1%だった。
			後							25	432		17.3	12.6	
高知大	前		900	1000	-106	74	55	294	55	400	4.9	6.7	4.3	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も6.7倍→4.9倍にダウン。	
		地域枠					5		5				5.8		
九州・沖縄	九州大	前		450	700	+5	102	110	276	110	271	2.5	2.5	3.2	前年度大幅減少の反動は小さく、微増に留まり、志願者数は2年連続300人を下回った。
	佐賀大	前		630	400	-30	89	50	242	50	272	4.8	5.4	5.7	3年連続減少。志願倍率も5.4倍→4.8倍にダウン。
		後		630	280	+24	111	10	239	10	215	23.9	21.5	20.4	2年連続増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は61.5%だった。
	長崎大	前		450	800	+138	149	76	422	76	284	5.6	3.7	5.2	2年連続大幅減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は90.0%だった。
	熊本大	前		400	800	-155	68	90	332	90	487	3.7	5.4	5.6	大幅減少で2年連続減少。志願倍率も5.4倍→3.7倍にダウン。
	大分大	前		450	550	-107	62	55	178	65	285	2.7	4.4	4.4	<変更点>募集人員:(一般枠)65人 ⇒(一般枠)55人、(地元枠)10人 地元枠が新設され一般枠の募集人員が減少。大幅減少で志願倍率も4.4倍→2.7倍にダウン。
		地元枠					10								
	宮崎大	前		900	600	+70	131	50	296	50	226	5.9	4.5	8.5	前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も4.5倍→5.9倍にアップ。
		後		900	300	+38	111	20	397	20	359	19.9	18.0	19.4	増加で志願倍率も18.0倍→19.9倍と20倍に迫った。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は55.7%だった。
	鹿児島大	前		900	920	-83	75	69	249	69	332	3.6	4.8	5.2	大幅減少で2年連続減少。志願倍率も4.8倍→3.6倍にダウン。
後			900	320	+30	111	23	291	23	261	12.7	11.3	15.8	前年度大幅減少の反動で増加。	
琉球大	前		900	800	+50	119	70	314	70	264	4.5	3.8	5.4	2年連続減少の反動で大幅増加。	
	後		1000	300	+92	129	25	413	25	321	16.5	12.8	18.2	前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も12.8倍→16.5倍にアップ。	

2021 年度入試状況分析【国公立大】

〔志願者数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
愛媛大	531 (55)	岐阜大	1,141 (25)
広島大	495 (90)	山梨大	1,057 (90)
信州大	476 (95)	奈良県立医科大	888 (53)
福島県立医科大	430 (80)	千葉大	433 (20)
長崎大	422 (76)	琉球大	413 (25)

〔志願者数が少なかった大学〕

前期日程		後期日程	
奈良県立医科大	153 (22)	名古屋大	54 (5)
大分大	178 (65)	旭川医科大	100 (8)
群馬大	188 (71)	山形大	147 (15)
福井大	193 (55)	東京医科歯科大	150 (10)
筑波大	206 (62)	三重大	183 (10)

※()内は募集人員。一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数を掲載。

〔増加数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
愛媛大	+225	岐阜大	+496
福島県立医科大	+160	浜松医科大	+136
長崎大	+138	琉球大	+92
信州大	+104	富山大	+77
和歌山県立医科大	+72	三重大	+62

〔減少数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
鳥取大	-1,185	山口大	-216
高知大	-504	旭川医科大	-187
横浜市立大	-460	奈良県立医科大	-81
弘前大	-440	福井大	-73
山形大	-299	山梨大	-50

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数で増減を算出。

〔志願倍率が高かった大学〕

前期日程		後期日程	
愛媛大	9.7	岐阜大	45.6
岐阜大	9.6	佐賀大	23.9
旭川医科大	7.0	浜松医科大	23.8
奈良県立医科大	7.0	千葉大	21.7
島根大	6.7	山口大	21.2

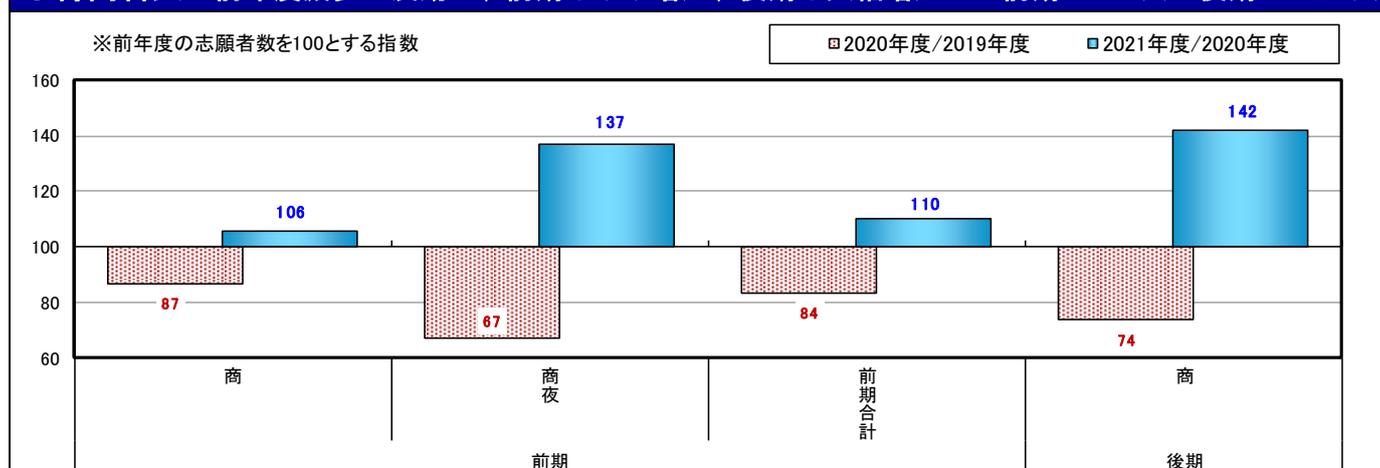
〔志願倍率が低かった大学〕

前期日程		後期日程	
大阪大	2.5	山形大	9.8
九州大	2.5	名古屋大	10.8
群馬大	2.6	山梨大	11.7
大分大	2.7	旭川医科大	12.5
京都府立医科大	2.8	鹿児島大	12.7
大阪市立大	2.8		
神戸大	2.8		
京都大	2.8		

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の募集人員、志願者数で算出。

⑩大学別志願状況

小樽商科大：前年度減少の反動で、前期はやや増加、後期は大幅増加 前期：+74人 後期：+121人

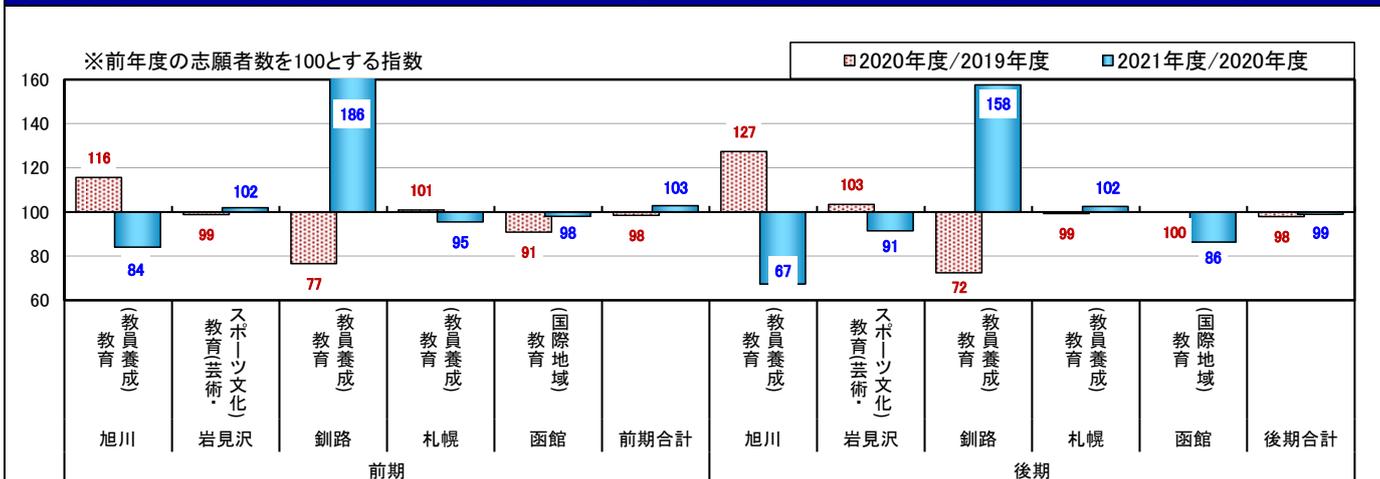


入試変更点 選抜方法：商<前>…従来の方式を英語重視枠に名称変更、数学重視枠新規実施
 募集人員：商<前>…280人→<英語重視枠>230人、<数学重視枠>50人
 ※申請は一括で行うが、初めに数学重視枠の配点基準で上位50名の合格者を決定し、次に合格者に含まれなかった受験者の中から英語重視枠の配点を用いた残りの合格者を決定。
 商<後>…90人→70人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
 大学全体では、前期は前年度大幅減少の反動で74人(110)の増加。夜間主コースを除いても、(106)のやや増加。後期は昼間コースのみの募集だが、前年度大幅減少の反動で121人(142)の大幅増加。募集人員が20人減少した影響は見られず、志願倍率は、3.2倍→5.9倍にアップ。

<前期日程>
 ○商(106)は、前年度減少の反動でやや増加。選抜方法の変更があったが、募集単位は<英語重視枠><数学重視枠>を一括で募集し、合格者の判定方法の変更だけだったので、志願動向への影響はなかった。
 ○商夜(137)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も5.1倍→7.0倍にアップ。

北海道教育大：前年度の反動で、前期はやや増加、後期は微減 前期：+43人 後期：-21人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
 大学全体では、前期は43人(103)のやや増加で4年ぶりの増加。修学校別では、前年度の反動で、釧路校(186)は激増、旭川校(84)は大幅減少。後期は21人(99)の微減だが2年連続減少。修学校別では、前期と同様に釧路校(158)は大幅増加、旭川校(67)は大幅減少。

<前期日程>
 ○旭川校・教育(教員養成)(84)は、2年連続増加の反動で大幅減少。専攻・分野別では、10専攻・分野中3専攻・分野が増加。特に、(教員養成/数学)(135)、(教員養成/社会科)(133)は、いずれも30%以上の大幅増加。一方で、(教員養成/英語)(34)は前年度激増の反動で激減、(教員養成/芸術・保健体育-音楽)(50)は半減、4専攻・分野が大幅減少、1専攻・分野が減少。
 ○岩見沢校・教育(芸術・スポーツ文化)(102)は、微増だが3年ぶりに増加。専攻・コース別では、11専攻・コース中4専攻・コースが増加。特に、(芸術・スポーツ文化/スポーツ文化-アウトドア・ライフ)(184)は80%以上の激増、(芸術・スポーツ文化/音楽文化-音楽教育・音楽文化)(150)は大幅増加。一方で、(芸術・スポーツ文化/音楽文化-声楽)(57)、

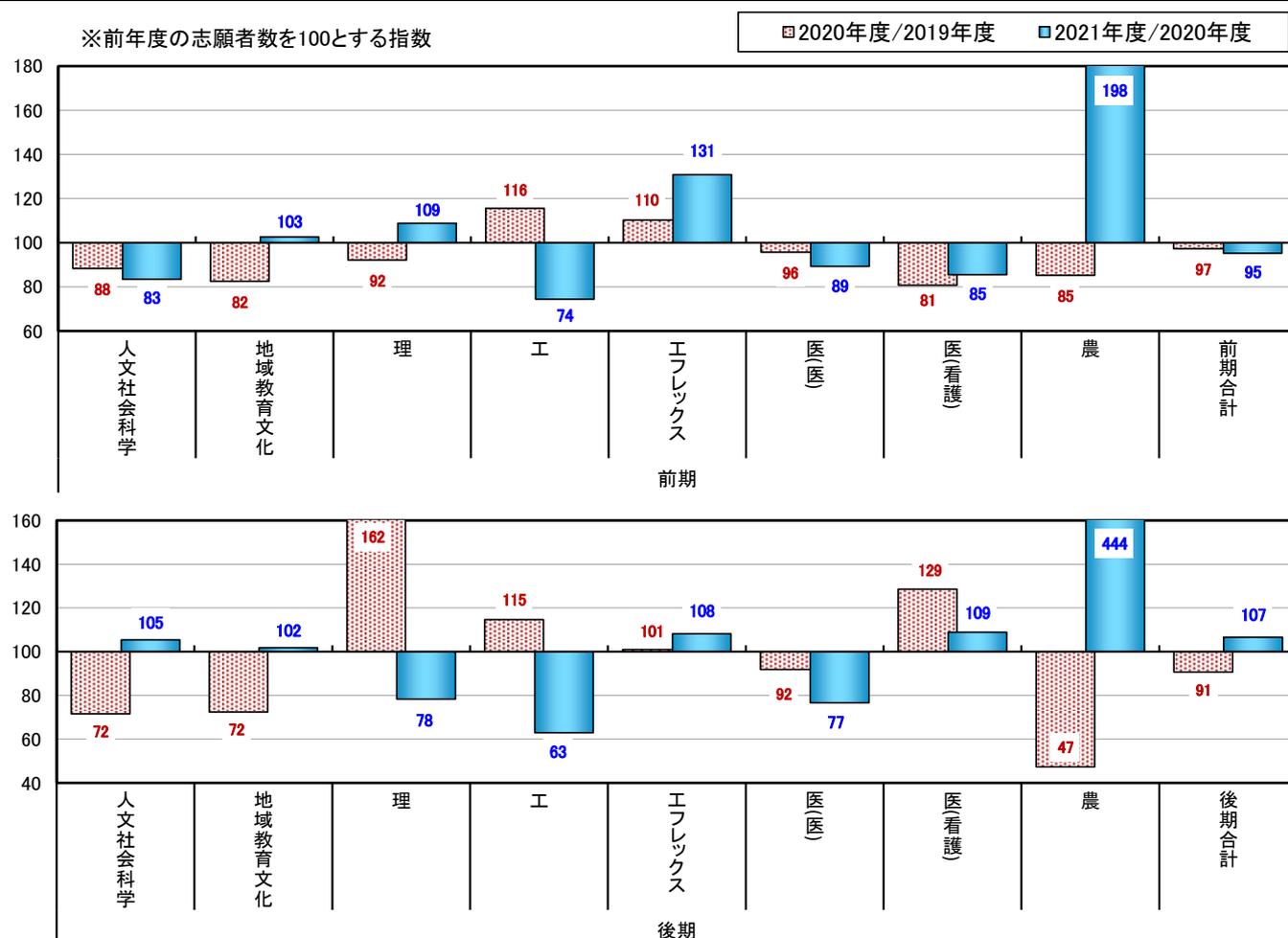
(芸術・スポーツ文化／音楽文化－鍵盤楽器)(64)、(芸術・スポーツ文化／美術文化－メディア・タイムアート)(73)は、いずれも大幅減少。

- 釧路校・教育(教員養成)(186)は、前年度大幅減少の反動で90%近い激増。志願倍率も2.7倍→5.1倍にアップ。
- 札幌校・教育(教員養成)(95)は、やや減少。専攻・分野別では、9専攻・分野中2専攻・分野が増加。(教員養成／養護)(209)は2年連続大幅減少の反動で倍以上。(教員養成／芸術体育－音楽)(121)は大幅増加で4年ぶり増加。一方で、減少した5専攻・分野では、(教員養成／特別支援)(61)、(教員養成／芸術体育－保健体育)(65)は、いずれも大幅減少。なお、(教員養成／理数)(100)と(教員養成／芸術体育－図画工作・美術)(100)は共に前年度と志願者数が同数。
- 函館校・教育(国際地域)(98)は、微減だが4年連続減少。専攻・グループ別では、(国際地域／地域教育)(160)は激増、(国際地域／地域協働－地域環境)(137)は大幅増加。一方で、(国際地域／地域協働－地域政策)(58)、(国際地域／地域協働－国際協働)(77)は大幅減少。

＜後期日程＞

- 旭川校・教育(教員養成)(67)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、後期募集を行う7専攻中2専攻が増加。特に、(教員養成／社会科)(132)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(教員養成／理科)(32)は前年度倍以上だった反動で激減。(教員養成／国語)(51)、(教員養成／英語)(53)は、いずれも半減に近い減少。
- 岩見沢校・教育(芸術・スポーツ文化)(91)は、減少。2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。専攻・コース別では、8専攻・コース中4専攻・コースが増加。特に、(芸術・スポーツ文化／スポーツ文化－アウトドア・ライフ)(161)は、激増。一方で、2専攻・コースが減少。特に(芸術・スポーツ文化／スポーツ文化－スポーツ・コーチング科学)(60)は、40%減少で大幅減少。なお、(芸術・スポーツ文化／美術文化－美術・デザイン)(100)と(芸術・スポーツ文化／美術文化－美術文化)(100)は共に前年度と志願者数が同数。
- 釧路校・教育(教員養成)(158)は、前年度大幅減少の反動で60%近い大幅増加。
- 札幌校・教育(教員養成)(102)は、3年連続前年度並で、志願者数は4年連続280人台で変化は少ない。専攻別では、後期募集を行う6専攻で増減が3専攻ずつに分かれた。(教員養成／養護)(150)、(教員養成／生活創造)(125)はいずれも大幅増加。一方で、(教員養成／特別支援)(76)、(教員養成／学校)(83)、(教員養成／理数)(84)はいずれも大幅減少。
- 函館校・教育(国際地域)(86)は、減少で4年連続減少。専攻・グループ別では、4専攻・グループ中で増減が2専攻・グループずつに分かれた。特に、(国際地域／地域教育)(114)の増加、(国際地域／地域協働－地域政策)(75)、(国際地域／地域協働－国際協働)(83)の大幅減少が目立った。

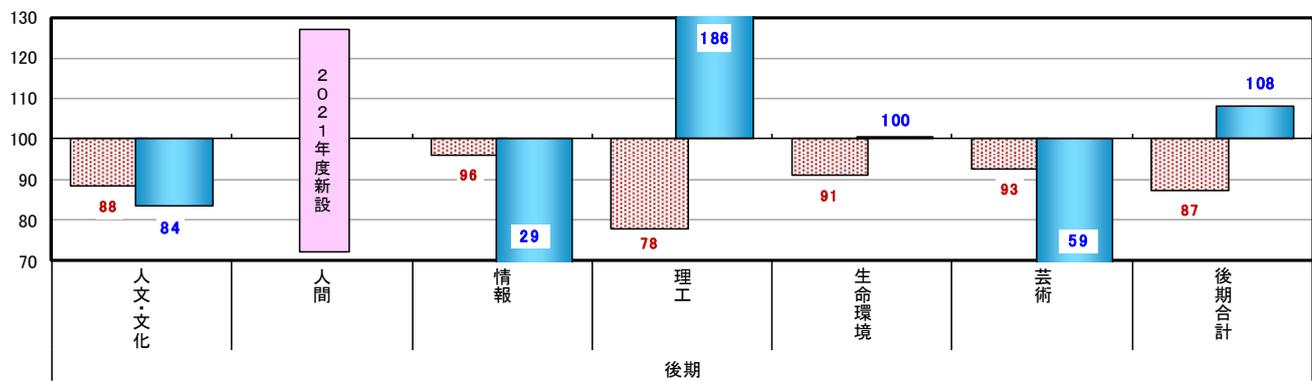
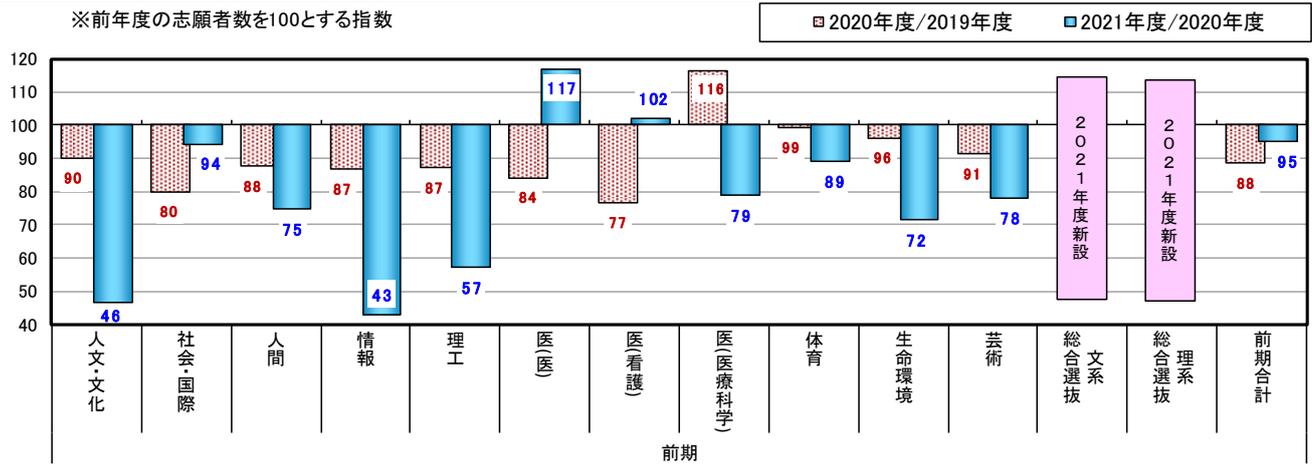
山形大：前期はやや減少で改組後4年連続減少、後期はやや増加 前期：-123人 後期：+91人



入試変更点 募集人員：医(医)〈前〉…(一般枠)50人、(山形県定着枠)15人→(一般枠)65人、(地域枠)8人

	<p>理<前>…135 人→130 人 共通テスト：人文社会科学(人文社会科学／グローバル・スタディーズ)<前> …国+歴公+数2+外+(理 or 理基2)→国+歴公2+数2+外+(理 or 理基2) 個別試験：人文社会科学(人文社会科学)<後>…外→論 地域教育文化(地域教育文化)<後>…面→論 工<後>…なし→論</p>
COMMENT	
※()内の数値は志願者数の前年度対比指数	
<p>大学全体では、前期は123人(95)のやや減少で、2017年度の改組後、翌年度から4年連続減少。工フレックス(131)を除くと(93)のやや減少。後期は91人(107)のやや増加。工フレックス(108)を除くと(106)のやや増加。</p>	
<p><前期日程></p>	
<p>○人文社会科学(83)は、大幅減少で2年連続減少。学科・コース別では、(人文社会科学／グローバル・スタディーズ)(74)、(人文社会科学／人間文化)(76)は大幅減少、(人文社会科学／総合法律・地域公共政策・「経済・マネジメント」)(93)はやや減少。 ○地域教育文化(103)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別・コース別では、(地域教育文化／文化創生)(110)は増加だが、(地域教育文化／児童教育)(96)はやや減少で2年連続減少。 ○理(109)は、2年連続減少の反動で増加。 ○工(74)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、(建築・デザイン)(252)は前年度半減近い大幅減少の反動で2.5倍以上の激増。一方で、(化学・バイオ工／バイオ化学工)(48)は前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少、(高分子・有機材料工)(54)、(情報・エレクトロニクス／電気・電子通信)(63)、(化学・バイオ工／応用化学・化学工)(80)は大幅減少。 ○医(医)(89)は、減少で5年連続減少。募集人員(前年度募集人員対比指数112)は増加したため、志願倍率は4.2倍→3.3倍にダウンとなり競争は緩和された。 ○医(看護)(85)は、2年連続大幅減少。志願倍率は2.7倍→2.3倍にダウン。 ○農(198)は、2年連続大幅減少の反動で2倍近い激増。</p>	
<p><後期日程></p>	
<p>○人文社会科学(105)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科・コース別では、(人文社会科学／総合法律・地域公共政策・「経済・マネジメント」)(134)は前年度大幅減少の反動から大幅増加。(人文社会科学／人間文化)(81)は大幅減少で、4年連続減少となり2017年度の改組後最少を更新。 ○地域教育文化(102)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。学科別・コース別では、(地域教育文化／文化創生)(131)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(地域教育文化／児童教育)(85)は大幅減少で2年連続減少。 ○理(78)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。 ○工(63)は、前年度大幅増加の反動と個別で論が課されることになったため大幅減少。2017年度の改組後は大幅増減が継続。学科・コース別では、(化学・バイオ工／応用化学・化学工)(132)は大幅増加。一方で、(情報・エレクトロニクス／電気・電子通信)(35)は激減、(情報・エレクトロニクス／情報・知能)(49)、(機械システム)(54)、(化学・バイオ工／バイオ化学工)(63)、(建築・デザイン)(85)は大幅減少。 ○医(医)(77)は、大幅減少で2年連続減少。 ○医(看護)(109)は、増加で3年連続増加。志願倍率は18.0倍→19.6倍にアップ。 ○農(444)は2年連続大幅減少の反動で4倍以上の激増で、2018年度以来志願者数が300人を上回った。志願倍率も3.1倍→13.8倍に大幅アップ。</p>	

筑波大：総合選抜を新規実施、前期やや減少、後期は前年度の反動で増加 前期：-211人 後期：+114人



入試変更点

※コロナ禍対策のため、一般選抜個別試験での調査書を用いた主体性等評価(調査書点数化)や一部、面接実施を見送り、調査書配点を除いた総点で選抜に変更。

選抜方法：新規実施<前>…総合選抜(文系)128人、(理系 I)154人、(理系 II)41人、(理系 III)90人
 ※2年次から志望する学類・専門学群(体育専門学群は除く)に所属

2段階選抜新規実施：人文・文化(比較文化)<前>…約5倍、情報(情報科学)<前>…約5倍
 (情報メディア創成)<前>…約5倍
 生命環境(生物)<前>…約5倍、<後>…約8倍 ※基準点を設ける
 (地球)<後>…約8倍
 芸術<後>…約6倍

第1段階選抜基準変更：理工(物理)<前>…約5倍(通過予定人数：225人)
 →約10倍(通過予定人数：200人)

募集人員：人文・文化(人文)…<前>70人→45人、<後>17人→20人
 (比較文化)…<前>50人→35人、<後>5人→0人 ※後期廃止
 (日本語・日本文化)…<前>27人→0人 ※前期廃止

社会・国際(社会)…<前>64人→40人、(国際総合)…<前>60人→36人
 人間(教育)…<前>28人→22人、<後>0人→3人 ※後期新規実施
 (心理)…<前>38人→26人、<後>0人→4人 ※後期新規実施
 (障害科学)…<前>20人→17人、<後>0人→3人 ※後期新規実施

情報(情報科学)…<前>50人→42人、<後>12人→0人 ※後期廃止
 (情報メディア創成)…<前>30人→20人、<後>8人→0人 ※後期廃止
 (知識情報・図書館)…<前>40人→0人、<後>15人→10人 ※前期廃止

理工(数学)…<前>28人→22人、(物理)…<前>45人→20人、<後>0人→10人 ※後期新規実施
 (化学)…<前>35人→14人、<後>0人→10人 ※後期新規実施
 (応用理工)…<前>82人→49人
 (工学システム)…<前>82人→55人、(社会工)…<前>83人→60人

医(医)…<前>(一般枠)49人→44人、(地域枠)19人→18人、(看護)…<前>45人→40人
 (医療科学)…<前>25人→15人

生命環境(生物)…<前>32人→14人、<後>20人→18人
 (生物資源)…<前>63人→52人、<後>20人→15人
 (地球)…<前>33人→21人、<後>5人→4人

芸術…<前>45人→50人、<後>15人→5人

<p>共通テスト：人間(教育)〈前〉…国+歴公+数+外+(理 or 理基2) ※歴公：世Aor 世Bor 日Aor 日Bor 地Aor 地Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 ※数：数I or 数II・Aor 数II or 数III・B →国+歴公+数2+外+(理 or 理基2) ※歴公：世Bor 日Bor 地Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 ※数：数I・A+数II・B (心理)〈前〉…国+歴公+数2+外+(理 or 理基2) ※歴公：世Aor 世Bor 日Aor 日Bor 地Aor 地Bor 現 or 倫 or 経 or 倫政 →国+歴公+数2+外+(理 or 理基2) ※歴公：世Bor 日Bor 地Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 (障害科学)〈前〉…国+歴公+数+外+(理 or 理基2) ※歴公：世Aor 世Bor 日Aor 日Bor 地Aor 地Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 →国+歴公+数2+外+(理 or 理基2) ※歴公：世Bor 日Bor 地Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 情報(情報メディア創成)〈前〉…パターン①：国+歴公2+数2+理+外、パターン②：国+歴公+数2+理2+外 →国+歴公+数2+理2+外 生命環境(生物資源)〈前〉…国+歴公+数2+外+(理 or 理基2) ※歴公：世Bor 日Bor 地Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 →国+歴公+数2+理+外 ※ 歴公：世Aor 世Bor 日Aor 日Bor 地Aor 地Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 (生物資源)〈後〉…国+歴公+数2+外+(理 or 理基2) ※歴公：世Bor 日Bor 地Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 →国+歴公+数2+理+外 ※歴公：世Aor 世Bor 日Aor 日Bor 地Aor 地Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 (地球)〈後〉…国+歴公+数2+外+(理2 or 理基2) →国+歴公+数2+理2+外</p> <p>個別試験：人文・文化(人文)〈後〉…論2 → 論 社会・国際(社会)〈前〉…※歴：世Bor 日B ※数：数II・B →※歴：世Bor 日Bor 地理B ※数：数I・II・A・B 社会・国際(国際総合)〈前〉…※数：(数II・B) or 数III →※数：(数I・II・A・B) or (数I・II・III・A・B)</p> <p>人間(教育)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B (心理)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B (障害科学)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：(数I・II・A・B) or (数I・II・III・A・B) 情報(情報科学)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B (情報メディア創成)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B 理工(数学)〈前〉…※数：数II・III・B ※理：物 or 化 or 生 or 地学 →※数：数I・II・III・A・B ※理：物+(化 or 生 or 地学) (物理)〈前〉…※数：数II・III・B ※理：物 or 化 or 生 or 地学 →※数：数I・II・III・A・B ※理：物+(化 or 生 or 地学) (化学)〈前〉…※数：数II・III・B ※理：物 or 化 or 生 or 地学 →※数：数I・II・III・A・B ※理：化+(物 or 生 or 地学) (応用理工)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B <後>…論+面 → 面 (工学システム)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B (社会工)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B 医(医)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B (医療科学)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B 生命環境(生物)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B (生物資源)〈前〉…※歴：世Bor 日Bor 地B ※数：数II・III・B →※歴：地B ※数：数I・II・III・A・B (地球)〈前〉…※数：数II・III・B → ※数：数I・II・III・A・B <後>…論 → 面+志望動機書 芸術<後>…実 → 面</p>
--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は211人(95)やや減少で2年連続減少。後期は、前年度減少の反動で114人(108)増加。今年度から前期で総合選抜を新規に実施したが、総合選抜を除いた学群・専門学群選抜の志願倍率は3.4倍→3.4倍と前年度並だった。

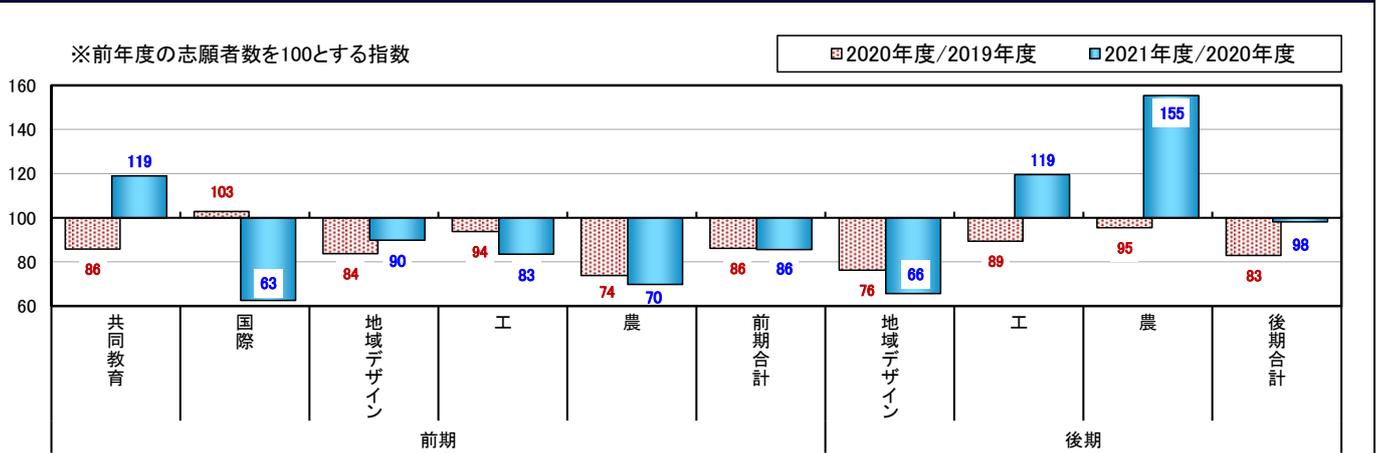
- <前期日程>
- 今年度から導入の総合選抜は、募集人員413人に対して、志願者数1,134人、志願倍率2.7倍だった。方式別の志願場率は、個別試験で物理必須の(理系I)が2.8倍、均等配点の(理系II)が4.0倍、数学重視の(理系III)が2.7倍で、(文系)は2.3倍と4方式の中で最も低倍率だった。
 - 人文・文化(46)は、半減以下の減少。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数53)も大幅減少したので、志願倍率は3.5倍→3.1倍にダウン。学類別では、(日本語・日本文化)は総合選抜のみで募集となり、(人文)(比較文化)のみでの募集となったがいずれも志願倍率がダウン。
 - 社会・国際(94)は、やや減少。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数61)が大幅減少したので、志願倍率は4.2倍→6.4倍にアップ。学類別では、(社会)の志願倍率が5.4倍→9.0倍にアップ。
 - 人間(75)は、大幅減少。募集人員(前年度募集人員対比指数76)も大幅減少したことで、志願倍率は4.2倍→4.1倍と前年度並。学類別で目立ったのは、(障害科学)で志願倍率4.6倍→1.9倍とダウン。

- 情報(43)は、半減以下の減少。募集人員(前年度募集人員対比指数 49)もほぼ半減だが、志願倍率は 3.7 倍→3.2 倍にダウン。学類別で目立ったのは、(情報科学)で志願倍率 4.2 倍→3.0 倍とダウン。
- 理工(57)は、大幅減少。募集人員(前年度募集人員対比指数 60)も大幅減少だが、志願倍率は 3.2 倍→3.0 倍にダウン。学類別の志願倍率は、6 学類のうち、(化学)だけが 2.7 倍→3.0 倍にアップ。(数学)は 2 年連続 3.1 倍、それ以外の学類はダウンした。(物理)は募集人員が 45 人→20 人に減少したが、第一段階選抜の基を 5 倍→10 倍に緩和したことで、志願倍率は 3.9 倍→3.7 倍のわずかなダウンに留まった。
- 医(医)(117)は、大幅増加。募集人員(前年度募集人員対比指数 91)が減少したことで、志願倍率は 2.6 倍→3.3 倍にアップ。前年度は、2013 年の後期廃止以来最も少ない志願者数で 200 人を下回ったが、今年度は 200 人をわずかに上回った。
- 医(看護)は、前年度並で志願者数は 2 年連続 100 人を下回った。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数 89)が減少したことで、志願倍率は 2.1 倍→2.4 倍にアップ。
- 医(医療科学)(79)は、大幅減少。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数 60)が大幅減少したことで、志願倍率は 2.3 倍→3.0 倍にアップ。
- 体育(89)は、系統への人気が低下していることもあって、2 年連続減少。
- 生命環境(72)は、大幅減少。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数 66)が大幅減少したことで、志願倍率は 2.8 倍→3.0 倍にアップ。学類別では、(地球)だけが志願倍率が 2.4 倍→3.8 倍にアップしたが、(生物)(生物資源)はいずれもダウン。
- 芸術(78)は、募集人員が増加したにもかかわらず、大幅減少で 2 年連続減少。志願倍率は 3.3 倍→2.4 倍にダウン。

＜後期日程＞

- 人文・文化(84)は、大幅減少で 2 年連続減少。(比較文化)の後期廃止で、(人文)のみの募集となった。募集人員(前年度募集人員対比指数 91)も減少したが、志願倍率は 12.8 倍→11.8 倍にダウン。
- 人間は、今年度から後期を新たに実施した。志願倍率は、(心理)が 16.3 倍で最も高く、(教育)は 9.3 倍、(障害科学)は 4.3 倍。
- 情報(29)は、激減だが、(情報科学)(情報メディア創成)の後期廃止で、(知識情報・図書館)のみの募集となったことが要因。(知識情報・図書館)のみの比較では前年度と同数の志願者数だが、募集人員(前年度募集人員対比指数 67)が大幅減少なので、志願倍率は 5.7 倍→8.6 倍にアップ。
- 理工(186)は、激増。(物理)と(化学)で後期を新たに実施することがその要因。学類別の志願倍率は、後期を新たに実施する(物理)が 12.8 倍、(化学)が 6.3 倍だった。前年度から引続き募集を行う 3 学類では、(応用理工)は前年度並、(社会工)が 6.9 倍→12.1 倍、(工学システム)が 6.8 倍→10.4 倍と共にアップ。
- 生命環境(100)は、前年度並。募集人員(前年度募集人員対比指数 79)が減少したことで、志願倍率は 5.1 倍→6.6 倍にアップ。学類別では、(生物資源)が 5.8 倍→7.0 倍とアップ、前年度志願者数が大幅減少した(生物)も 3.4 倍→5.8 倍とアップ。一方で、(地球)は 10.6 倍→8.3 倍にダウン。
- 芸術(59)は、大幅減少。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数 33)が激減したが、個別試験の実技を面接に変更した影響から、志願倍率は 13.3 倍→23.4 倍に大幅アップして、競争は激化。

宇都宮大：個別試験中止の影響は前期に大きく 2 年連続減少 前期：-199 人 後期：-8 人



入試変更点	個別試験：コロナ禍対策により試験場での個別試験実施を中止 共同教育<前>…系(分野)ごとに求める提出課題により評価 国際、地域デザイン、工、農<前>…大学入学共通テストの成績を換算し評価 全学部<後>…個別試験を課さない
-------	---

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期はコロナ禍対策により試験場での個別試験が中止された影響から、199 人(86)の減少で 2 年連続減少、志願者数は 1,200 人を下回った。学部別では、特に個別試験での教科試験の比重が高かった国際、農、工が大幅減少。後期は元々個別試験では教科試験が課されていないだったので影響は小さく、8 人(98)減少の前年度並に留まった。

＜前期日程＞

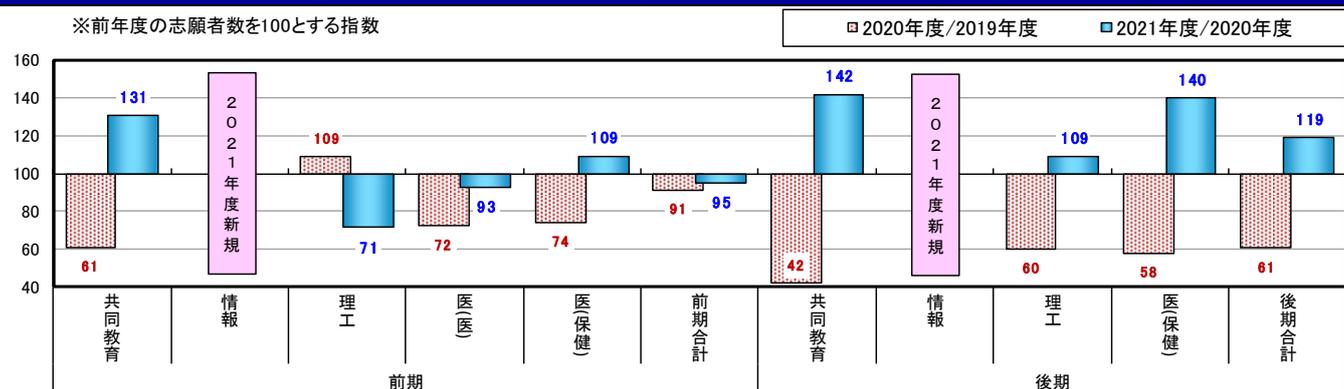
- 共同教育(119)は、旧教育から引き続いて 2 年連続減少の反動で大幅増加。提出課題が課されたので、試験場での個別試験中止の影響はなかった。

- 国際(63)、コロナ禍による系統への不安と個別試験中止で大幅減少。
- 地域デザイン(90)は、減少で2年連続減少。学科別では、(社会基盤デザイン)(112)は増加、(コミュニティデザイン)(105)はやや増加。一方で、(建築都市デザイン)(67)は大幅減少。
- 工(83)は、個別試験中止の影響を受けて、大幅減少で4年連続減少。志願倍率は1.9倍→1.6倍に低下。
- 農(70)は、個別試験中止の影響を受けて、2年連続大幅減少。全ての学科で減少し、(応用生命化学)(96)以外はいずれも大幅減少。

〈後期日程〉

- 地域デザイン(66)は、2年連続大幅減少。学科別では、(コミュニティデザイン)(129)は前年度半減近い大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(社会基盤デザイン)(23)は前年度大幅減少に続く激減で、志願倍率は6.6倍から1.5倍に大幅ダウン。(建築都市デザイン)(32)は前年度激増の反動で激減。
- 工(119)は、3年連続減少の反動で大幅増加。
- 農(155)は、3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(農業環境工)(173)、(生物資源科学)(169)、(農業経済)(168)は1.6倍以上の激増。一方で、(応用生命化学)(93)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。

群馬大：前期は6年連続減少、後期は大幅増加 前期：-69人 後期：+186人



入試変更点

学部改組：社会情報(社会情報)、理工(電子情報理工/情報科学コース)
 →情報(情報/人文情報、社会共創、データサイエンス、計算機科学)
 学科改組：理工(化学・生物化学、環境創生理工、機械知能システム理工、電子情報理工/電気電子コース、
 総合理工)→理工(物質・環境類、電子・機械類)
 募集停止：理工(総合理工)(フレックス制)…<前>27人→0人、<後>3人→0人
 募集人員：共同教育(学校/数学)…<前>13人→11人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は69人(95)の減少で6年連続減少、志願者数は、約1,400人にまで減少した。後期は前年度大幅減少の反動で1,166人(119)の大幅増加、2016年度以降前年度の反動による増減が継続。

〈前期日程〉

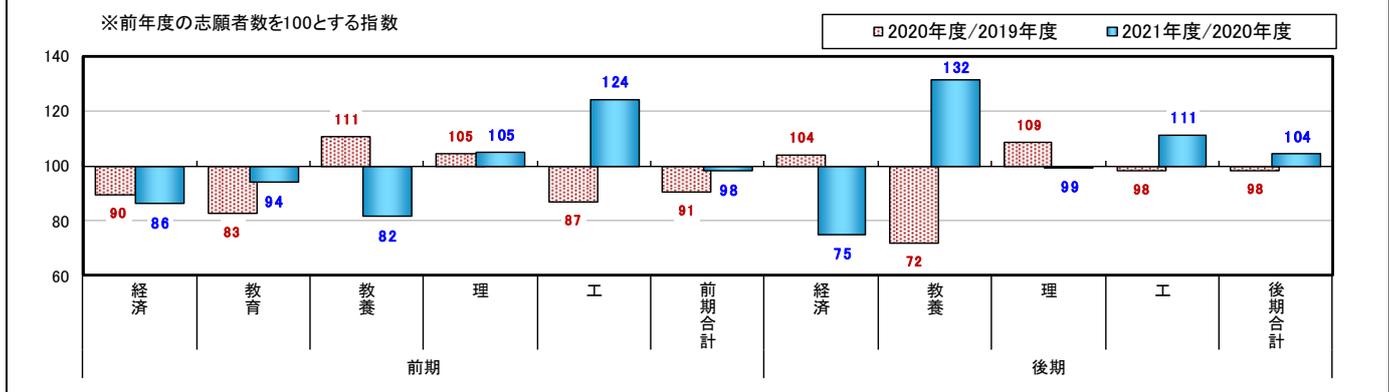
- 情報は、今年度から社会情報と理工(電子情報理工/情報科学コース)をもとに改組して設置。志願者数は208人で、志願倍率は8.7倍。前年度の社会情報の志願倍率14.6倍よりダウン。
- 共同教育(131)は、前年度改組されて募集人員の減少(募集人員の前年度対比指数87)により大幅減少だった反動で大幅増加。専攻別では、13専攻中8専攻で増加。特に、(学校教育/自然科学系-技術)(300)は前年度60%以下の激減の反動で3倍増。(学校教育/芸術・生活・健康系-保健体育)(263)、(学校教育/教育人間科学系-教育)(230)は前年度大幅減少の反動で2倍以上の激増。一方で、前年度に旧教育(学校教育/障害児)から改組された(学校教育/教育人間科学系-特別支援教育)(76)は大幅減少で、改組前から3年連続減少。(学校教育/芸術・生活・健康系-音楽)(78)は大幅減少で3年連続減少。
- 理工(71)は、今年度5学科から2類に改組。前年度との単純比較では大幅減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数86)も減少なので、競争の緩和は小さく、志願倍率は2.2倍→1.8倍のダウンに留まった。類別の志願倍率は、(電子・機械類)は2.2倍、(物質・環境類)は1.5倍。
- 医(医)(93)は、やや減少で2年連続減少。志願倍率も2.8倍→2.6倍にダウン。募集単位別では、(一般枠)(97)はやや減少、(地域医療枠)(73)は大幅減少。
- 医(保健)(109)は、前年度大幅減少の反動で増加。専攻別では、(保健/検査技術)(158)は2年連続大幅減少の反動で60%近い大幅増加。(保健/理学療法)(59)は前年度大幅増加の反動で40%以上の大幅減少。(保健/検査技術)(108)は前年度激減の反動は小さく、志願倍率は1.5倍→1.6倍と前年度並。

〈後期日程〉

- 情報は、今年度から社会情報と理工(電子情報理工/情報科学コース)をもとに改組して設置。志願者数は287人で、志願倍率は3.0倍。前年度の社会情報の志願倍率4.2倍よりダウン。配点別では、募集人員はいずれも12人と同じだが、A配点(小論文重視型)が10.5倍、B配点(共通テスト重視型)が6.8倍とA配点の競争が厳しかった。
- 共同教育(142)は、前年度改組されて募集人員の大幅減少(募集人員の前年度対比指数61)により半減以下だった反動で大幅増加。特に、(学校教育/自然科学系-技術)(231)は前年度半減以下の大幅減少の反動で倍増以上の増加。
- 理工(109)は、今年度5学科から2類に改組。前年度大幅減少の反動で増加。類別の志願倍率は、(電子・機械類)は10.1倍、

(物質・環境類)は5.0倍。
 ○医(保健)(140)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、(看護)(101)は前年度並で、他の3専攻はいずれも激増。

埼玉大：前期は微減で2年連続減少、後期はやや増加 前期：-53人 後期：+122人



入試変更点

調査書：全学部…特に利用なし→合否ラインに志願者が同点で並んだ場合は、調査書を活用し、順位を決定。
 英語外部試験：経済(経済)〈国際プログラム枠〉〈前〉…利用する→廃止
 募集人員：経済〈一般枠〉…〈前〉195人→210人
 理(分子生物)…〈前〉22人→20人、〈後〉18人→20人
 (生体制御)…〈後〉18人→14人
 個別試験：理(基礎化学)〈前〉…総合問題→なし
 (分子生物)〈前〉…総合問題→面
 (生体制御)〈後〉…理→論

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は53人(98)の微減だが2年連続減少。後期は122人(104)のやや増加。学部別では、系統への人気の高低を反映して、工が前期(124)、後期(111)と共に増加。経済が前期(86)、後期(75)と共に減少。

<前期日程>

○**経済(86)**は、系統への低い人気から2年連続減少。方式別では、〈一般枠〉(92)が2年連続減少、募集人員が195人から210人に増加(募集人員の前年度対比指数108のため、志願倍率は3.5倍→3.0倍にダウン。一方で、〈国際プログラム枠〉(58)は3年連続増加の反動と海外研修、海外留学がカリキュラムに含まれることでコロナ禍の影響を強く受けて半減に近い減少。
 ○**教育(94)**は、やや減少で前年度の大幅減少に引続き2年連続減少。課程・コース・系・専修・分野(以下「募集単位」)別では、18募集単位中4募集単位のみが増加、(学校教育/小学校一理系)(145)、(学校教育/中学言語一國語)(140)、(学校教育/乳幼児)(118)は大幅増加。一方で、減少した13募集単位中9単位は大幅減少。特に、(学校教育/中学生活一技術)(27)、(学校教育/中学身体一保健体育)(30)は激減。
 ○**教養(82)**は、2年連続増加の反動で大幅減少。
 ○**理(105)**は、やや増加で4年連続増加。学科別では、(基礎化学)(125)が2年連続減少の反動と個別試験の総合問題を廃止し共通テストのみでの選抜に変更したことによる負担減で、大幅増加。(物理)(122)は大幅増加で3年連続増加。(数学)(108)は前年度減少の反動で増加。一方で、(分子生物)(86)は前年度倍以上の増加の反動で減少、(生体制御)(94)は2年連続大幅増加の反動は小さくやや減少。
 ○**工(124)**は、2018年度の改組後、2年連続減少の反動で大幅増加し、改組後では最多の志願者数。学科別では、(電気電子物理工)(277)が前年度半減に近い減少の反動で約2.8倍増、(応用化学)(160)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(情報工)(73)が前年度大幅増加の反動で大幅減少。

<後期日程>

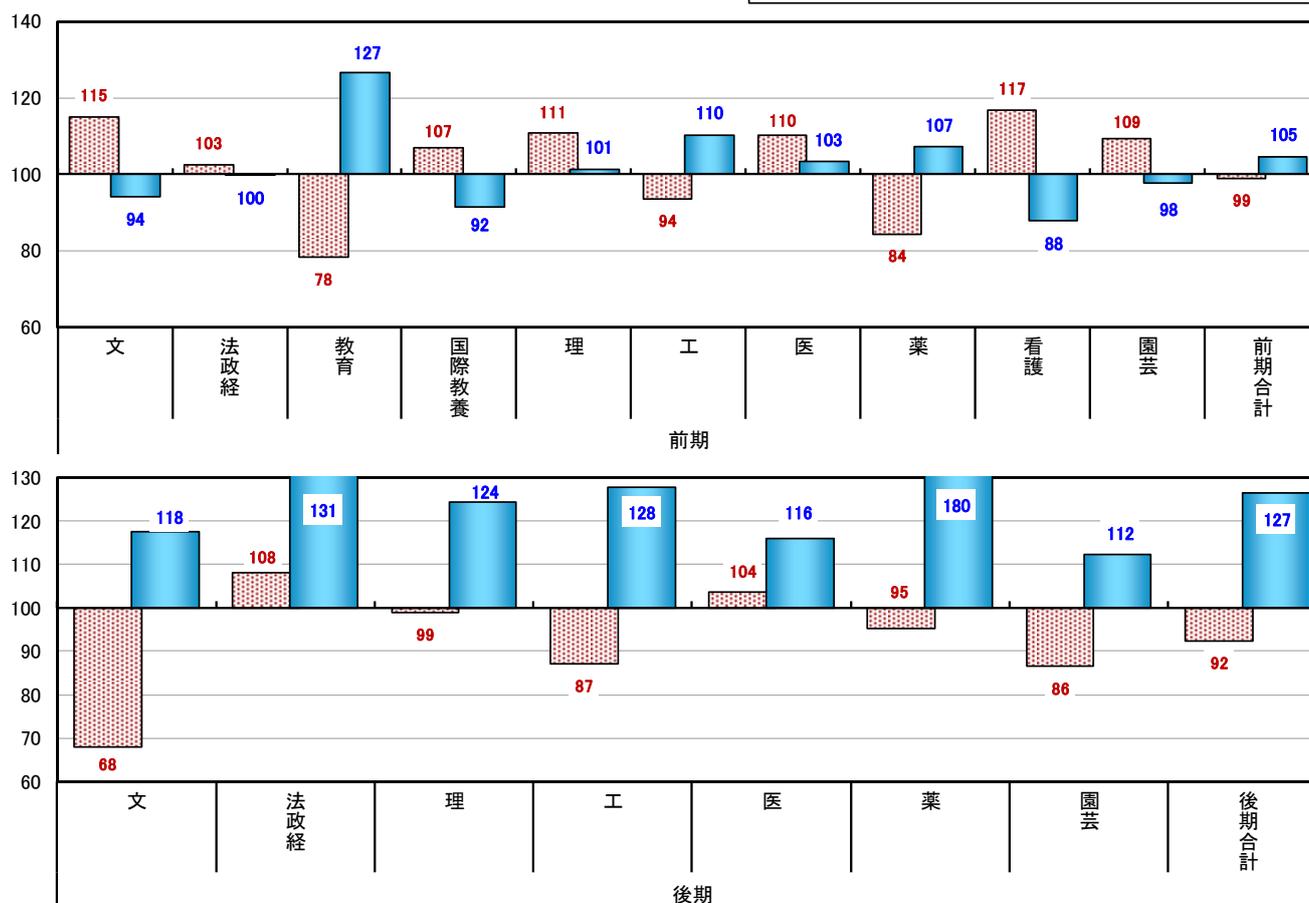
○**経済(75)**は、系統の人気低下で大幅減少。
 ○**教養(132)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
 ○**理(99)**は、前年度並。学科別では、(基礎化学)(154)が2年連続大幅増加、(分子生物)(136)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(生体制御)(50)が募集人員が4人減員で、個別試験を理科から論文に変更したことで半減、(物理)(78)が前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 ○**工(111)**は、2018年度の改組後、2年連続減少の反動で増加し、改組後では最多の志願者数。学科別では、(電気電子物理工)(261)が前年度大幅減少の反動で約2.6倍増、(環境社会デザイン)(142)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(応用化学)(76)は前年度お大幅増加の反動で大幅減少、(機械工・システムデザイン)(83)は改組後2年連続増加の反動で大幅減少。

千葉大：国公立大では6年連続で志願者数最多

前期：+291人 後期：+1,062人

※前年度の志願者数を100とする指数

■ 2020年度/2019年度 ■ 2021年度/2020年度



入試変更点

出願方法：紙の願書での出願→インターネット出願
 募集人員：国際教養…〈前〉(通常型)75人、(特色型)10人→(通常型)83人
 工…〈前〉466人→456人
 園芸(園芸)…〈後〉12人→9人
 個別試験：法政経〈前〉、教育(学校/英語を除く)〈前〉、理(化学、数学・情報、生物、地球科学)〈前〉、工〈前〉、薬〈前〉
 …英語外部試験新規利用(利用方法：得点加算、対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC(4技能)、
 GTEC CBT、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT、TOEIC LR&SW)
 国際教養〈前〉…外+(国 or 理)+(歴 or 数) ※理：物 or 化 or 生 or 地学
 →外+(国 or 理)+(歴 or 数) ※理：物 or 化 or 生
 薬〈前〉…数+理+外 ※理：化→数+理2+外 ※理：化+(物 or 生)
 園芸(園芸、応用生物化学)〈前〉…数+理+外 ※理：物 or 化 or 生 or 地学→数+理+外 ※理：物 or 化 or 生
 園芸(園芸)〈後〉…総合問題→理2

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体(113)では、1,353人の増加で、国公立大では6年連続で志願者数最多。日程別では、前期(105)は291人のやや増加で4年ぶりの増加、後期(127)は共通テストの平均点アップの影響もあって1,062人の大幅増加。

<前期日程>

- 文(94)は、前年度大幅増加の反動で減少。コース別では、(人文/国際言語文化)(119)は大幅増加だが、他の3コースはいずれも減少、特に(人文/歴史)(87)は2年連続減少。
- 法政経(100)は、前年度並。2018年度以降900人台の志願者数が継続。
- 教育(127)は、2年連続減少の反動で大幅増加。課程・コース・分野別では、(学校教員養成/中学数学)(82)は大幅減少、(学校教員養成/中学理科)(90)は減少だが、他の12募集単位は増加。特に(学校教員養成/小中家庭)(222)は倍増以上、(学校教員養成/中学国語)(191)、(学校教員養成/小中保体)(183)は激増。
- 国際教養(92)は、減少、ただし廃止された(特色型)を除いた(通常型)(97)のみではやや減少。開設2年目の2017年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 理(101)は、前年度増加の反動はなく前年度並。学科別では、化学(112)、(生物)(111)が10%を超える増加、一方で、(地球科学)(81)が大幅減少。
- 工(110)は、2年ぶりに増加。今の募集単位になった2017年度以降では2017年度の最多志願者数1,910に次ぐ志願者数となった。コース別では、(総合工/機械工)(72)が大幅減少、(総合工/共生応用化)(99)と(総合工/医工学)(100)が前年度並

だが、他の6コースは増加。特に、(総合工/電気電子工)(161)は激増、(総合工/都市環境システム)(133)、(総合工/物質科学)(127)、(総合工/情報工)(120)の3コースは大幅増加。

○**医(103)**は、やや増加で3年連続増加。志願倍率は<一般枠>が4.0倍、<地域枠>が2.9倍で、<一般枠>でのみ第1段階選抜が実施され、合格率は74.3%だった。

○**薬(107)**は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。志願倍率は5.1倍と5倍を上回った。

○**看護(88)**は、前年度大幅増加の反動で減少。2016年度以降、前年度の反動による増減が続いている。

○**園芸(98)**は、2年連続増加の反動は小さく微減に留まった。学科別では、(園芸)(145)は大幅増加、一方で(食料資源経済)(65)は大幅減少。

<後期日程>

○**文(118)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。2コースともに増加で、(人文/歴史)(129)は大幅増加。

○**法政経(131)**は、大幅増加で3年連続増加。志願倍率は12.5倍→16.4倍にアップ。横浜国立大の個別試験実施なしの影響で、上位大学前期からの併願先となったことが影響。第1段階選抜が実施され、合格率は81.2%だった。

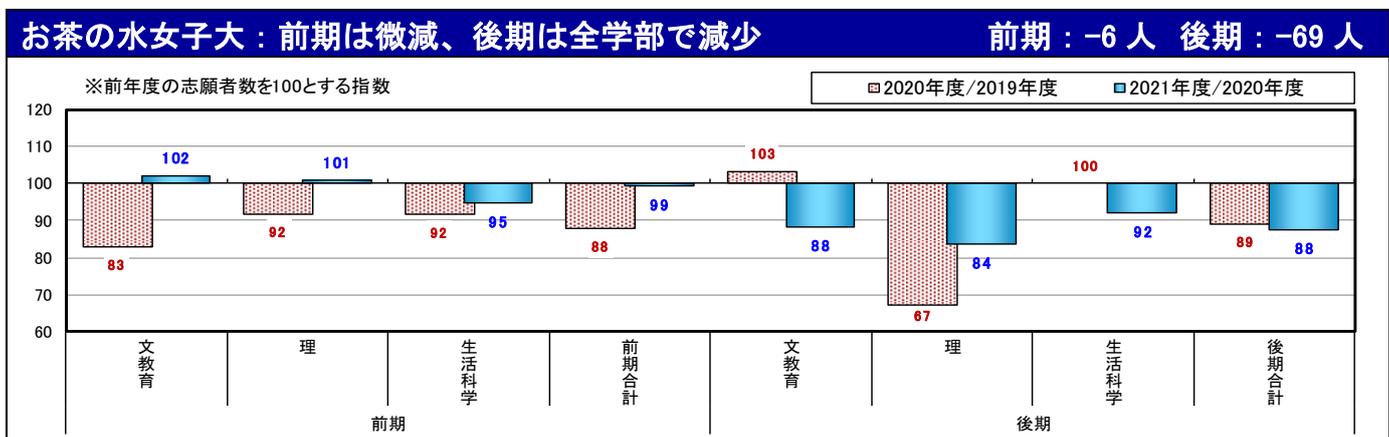
○**理(124)**は、7年連続減少の反動で、大幅増加。横浜国立大の個別試験実施なしの影響で、上位大学前期からの併願先となったことも影響。学科別では5学科全てが増加、特に(生物)(163)は激増、(地球科学)(146)、(数学・情報)(116)が大幅増加。

○**工(128)**は、大幅増加。改組後2年目の2018年度以降、前年度の反動による増減が継続。横浜国立大の個別試験実施なしの影響で、上位大学前期からの併願先となったことも影響。コース別では、7コースすべてが増加。(総合工/建築)(101)を除いた6コースは大幅増加。

○**医(116)**は、大幅増加で2年連続増加。志願倍率は<一般枠>が25.9倍、<地域枠>が9.0倍で、いずれも第1段階選抜が実施され、合格率は<一般枠>67.0%、<地域枠>77.8%で、<一般枠>が激戦だった。

○**薬(180)**は、4年連続減少の反動で激増。志願倍率は24.8倍と2017年度以来の20倍を上回った。

○**園芸(112)**は、前年度減少の反動で増加。学科別では、(園芸)(146)、(応用生命化学)(127)の大幅増加が目立った。



入試変更点

2段階選抜廃止：理(数学)<後>…約10倍→なし
 募集人員：理(化学)<前>…16人→15人、<後>4人→3人
 (数学)<前>…13人→14人
 (生物)<前>…18人→17人
 生活科学(人間・環境科学)<前>…19人→17人
 (食物栄養)<後>…5人→3人
 共通テスト：理(数学)<後>…国+歴公+数2+理2+外→数2+理2+外
 個別試験：理(情報科学)<後>…数→論述試験
 (数学)<後>…数→なし

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は6人(99)の微減で、3年連続減少。学部別では、文教育(102)、理(101)が微増で、生活科学(95)はやや減少。後期は69人(88)の2年連続減少。学部別では、3学部全てが減少。

<前期日程>

○**文教育(102)**は、前年度大幅減少の反動は小さく微増。学科・専修プログラム別では、(芸術・表現行動/音楽表現)(133)、(人間社会科学)(115)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(人文科学)(93)は前年度大幅減少の反動はなくやや減少で2年連続減少。

○**理(101)**は、前年度減少の反動は小さく前年度並。学科別では、(数学)(135)が2年連続大幅増加、(化学)(106)はやや増加で、他3学科は減少。(物理)(77)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(情報科学)(87)は減少、(生物)(95)はやや減少で2年連続減少。

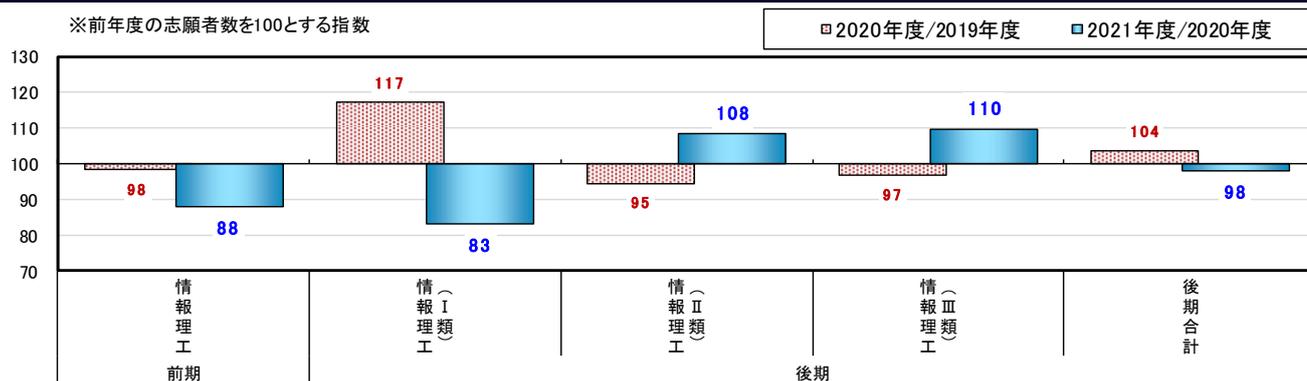
○**生活科学(95)**は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(食物栄養)(108)のみ増加。他3学科はいずれも減少で、(心理)(81)は前年度増加の反動で大幅減少。

＜後期日程＞

- 文教育 (88)** は、2年連続増加の反動で減少。学科・専修プログラム別では、(人間社会科学)(118)が大幅増加で2年連続増加。(芸術・表現行動/音楽表現)(100)が前年度大幅減少の反動はなく前年度並。一方で、(人文科学)(77)は2年連続増加の増加の反動で大幅減少。
- 理 (84)** は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(生物)(169)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、(情報科学)(108)が2年連続大幅減少の反動で増加。一方で、(数学)(35)は、個別試験の数学を廃止し共通テストのみとした影響で前年度の大幅減少に引き続いて激減。
- 生活科学 (92)** は、減少で4年連続増加なし。学科別では、(人間・環境科学)(113)が前年度大幅減少の反動で増加。(食物栄養)(81)が募集人員を5人から3人に減らしたことから前年度大幅増加の反動で大幅減少だが、志願倍率は11.8倍→16.0倍にアップして競争は激化。

電気通信大：前期は2年連続減少、後期は微減

前期：-199人 後期：-49人



入試変更点

2段階選抜：情報理工<後>…実施なし→8倍
 ※コロナ禍による特別措置(密集を避けるため試験教室定員削減のため)
 募集人員：情報理工<前>…370人→349人
 個別試験：情報理工<前>…A方式(数学重点)：数<200点>+理2<150点>+外(英)<100点>、
 B方式(理科重点)：数<150点>+理2<200点>+外(英)<100点>
 →(数学重点)数<200点>+理2<150点>+外(英)<100点>のみに変更

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は199人(88)の減少で2年連続減少。後期49人(98)は、コロナ禍による2段階選抜実施の影響もあり微減。志願者数は2,500人を下回った。

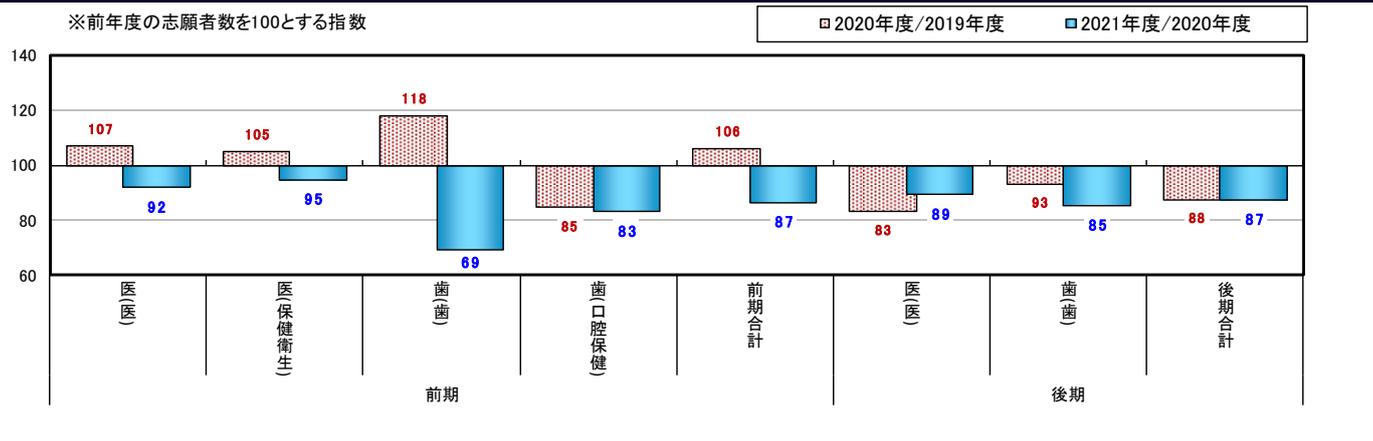
＜前期日程＞

- 情報理工 (88)** は、募集人員が21人減少(募集人員の前年度対比指数94)の影響もあって減少。2年連続減少。志願者数は1,500人を下回り、志願倍率は4.5倍→4.2倍にダウンした。

＜後期日程＞

- 情報理工 (98)** は、微減。コロナ禍による試験教室定員削減のため2段階選抜が実施され、<中期・後期>では、不合格者が480人と全国で2番目に多かった。類別では、理工系の(III類)(110)、融合系の(II類)(108)が増加。情報系の(I類)(83)は、2016年度の募集単位の変更後、初めて減少に転じた。

東京医科歯科大：前期・後期共に医(医)は減少、歯(歯)は大幅減少 前期：-102人 後期：-40人



入試変更点 2段階選抜方法：歯(歯)〈後〉…約6倍(通過予定人数：90人)→約12倍(通過予定人数：180人)
 ※第1段階選抜基準変更
 募集人員：医(医)〈前〉…81人→79人

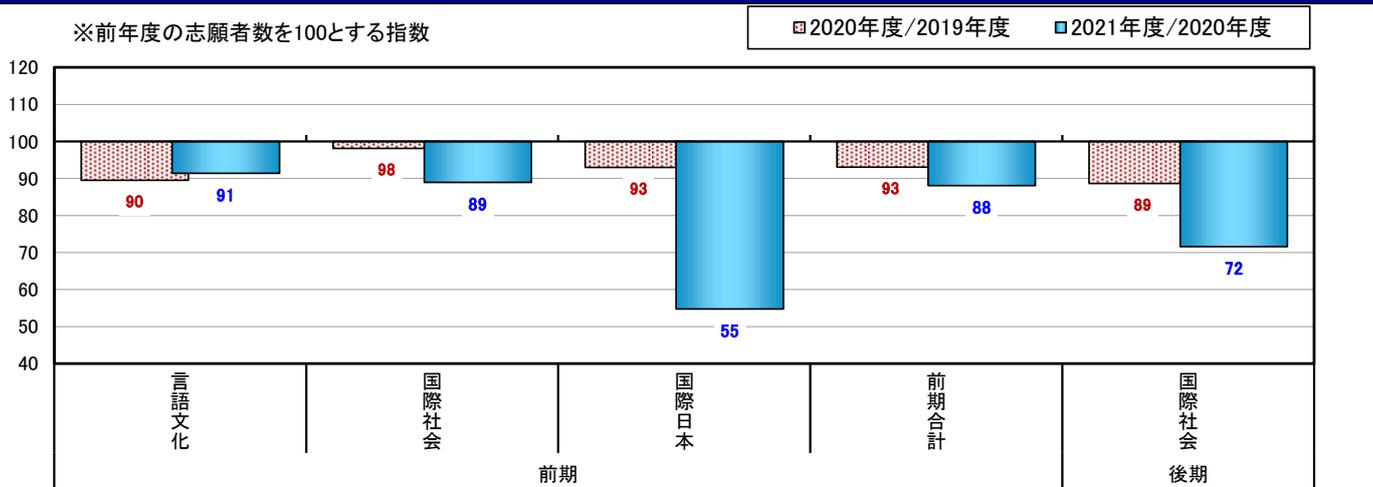
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度5年ぶりに増加した反動で102人(87)の減少。再び減少に転じた。後期は40人(87)の減少で2年連続減少。

〈前期日程〉
 ○医(医) (92)は、前年度増加の反動により減少。募集人員が2人減少したので、志願倍率は4倍台を維持。
 ○医(保健衛生) (95)は、前年度やや増加の反動でやや減少。専攻別では、(保健衛生/看護) (88)は減少で、2年連続減少。一方で、(保健衛生/検査技術) (101)は、前年度大幅増加の反動はなく1人増加で前年度並。
 ○歯(歯) (69)は、前年度大幅増加の反動で30%以上の大幅減少。志願倍率は5.2倍→3.6倍にダウンし、2017年度以来の4倍を下回った。
 ○歯(口腔保健) (83)は、2年連続大幅減少。志願倍率は2.5倍→2.1倍にダウンし、2011年度に学科開設以来最低となった。専攻別では、(口腔保健/口腔保健工) (157)は、前年度半減以下の反動で60%近い大幅増加。一方で、(口腔保健/口腔保健衛生) (65)は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は2014年度以来の2倍を下回った。

〈後期日程〉
 ○医(医) (89)は、前年度大幅減少の反動はなく、2年連続減少。志願倍率も16.8倍→15.0倍にダウン。
 ○歯(歯) (85)は、大幅減少で2年連続減少。志願倍率も10.0倍→8.5倍にダウン。

東京外国語大：コロナ禍の影響で、前期、後期ともに減少 前期：-201人 後期：-412人



入試変更点 コロナ禍による変更：受験料の改定と言語文化〈前〉、国際社会〈前〉の「英語スピーキングテスト(BCT-S)」の導入を1年延期
 提出書類に追加…「高校時代に取り組んだことや将来に向けての意欲についての自己評価」、「高校時代に主体性を持って取り組んだこと」をパソコン等で入力
 ※入力した情報は調査書とともに合否ラインに志願者が同点で並んだ場合に用いる
 個別：試験時間帯…10:00～16:30→13:00～17:45、英語の試験時間…150分→90分 ※コロナ禍による変更
 国際社会〈後〉…英→論(英語の課題文を読み、日本語で解答)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

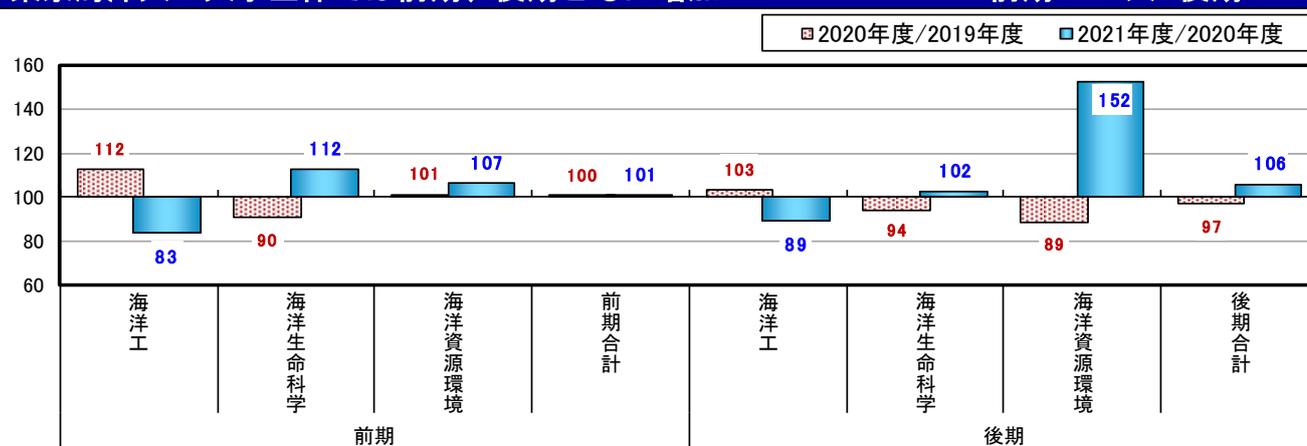
大学全体では、コロナ禍の影響による系統への人気低下を反映して、前期は 201 人(88)の減少で、募集人員が 579 人となった 2019 年度以降では 2 年連続減少。前期合計の志願倍率は前年度 3 倍を下回ったが、2.9 倍→2.6 倍とさらにダウン。国際社会のみ募集の後期は、412 人(72)の大幅減少で、募集人員が 56 人となった 2019 年度以降では 2 年連続減少。志願倍率は 25.9 倍→18.6 倍にダウンし、志願倍率は 20 倍を下回った。

<前期日程>

- 言語文化(91)は減少で、募集人員が 290 人となった 2019 年度以降では 2 年連続減少。志願倍率も 3.1 倍→2.8 倍にダウン。専攻言語別では、欧州系言語合計(ロシア語含む)(81)は大幅減少で、募集人員が 161 人となった 2019 年度以降では 2 年連続減少、志願倍率も 2.9 倍→2.3 倍にダウン。アジア・中東系言語合計(102)は前年度大幅減少の反動は小さく、微増だった。
- 国際社会(89)は減少で、募集人員が 254 人となった 2019 年度以降では 2 年連続減少。専攻地域別では、欧米地域合計(ロシア含む)(81)は大幅減少で、募集人員が 121 人となった 2019 年度以降では 2 年連続減少。これら以外の地域合計(99)は前年度並。
- 新設 3 年目の国際日本(55)は、大幅減少。志願倍率も 3.0 倍→1.7 倍にダウン。

東京海洋大：大学全体では前期、後期ともに増加

前期：+5人 後期：+51人



入試変更点

選抜方法：海洋工…<前><後>英語外部試験出願要件化
 海洋生命科学、海洋資源環境…<前><後>英語外部試験の対象試験拡大
 募集人員：海洋生命科学(海洋生物資源)…<前>43人→45人
 (食品生産化学)…<前>33人→32人、<後>15人→14人
 (海洋政策文化)…<前>26人→22人
 海洋資源環境(海洋資源環境)…<前>39人→37人、<後>16人→14人
 個別試験：海洋工(海洋電子機械工)…<前>数→数+外、<後>理→理+外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 5 人(101)の微増だが 2 年連続増加、後期も 51 人(106)のやや増加で、2017 年度以降、前年度の反動による増減が継続。英語外部試験利用の対象試験を拡大した海洋生命科学、海洋資源環境は、前期・後期ともに増加。一方で、英語外部試験を出願要件として新規実施した海洋工は、前期・後期ともに減少と対照的。

<前期日程>

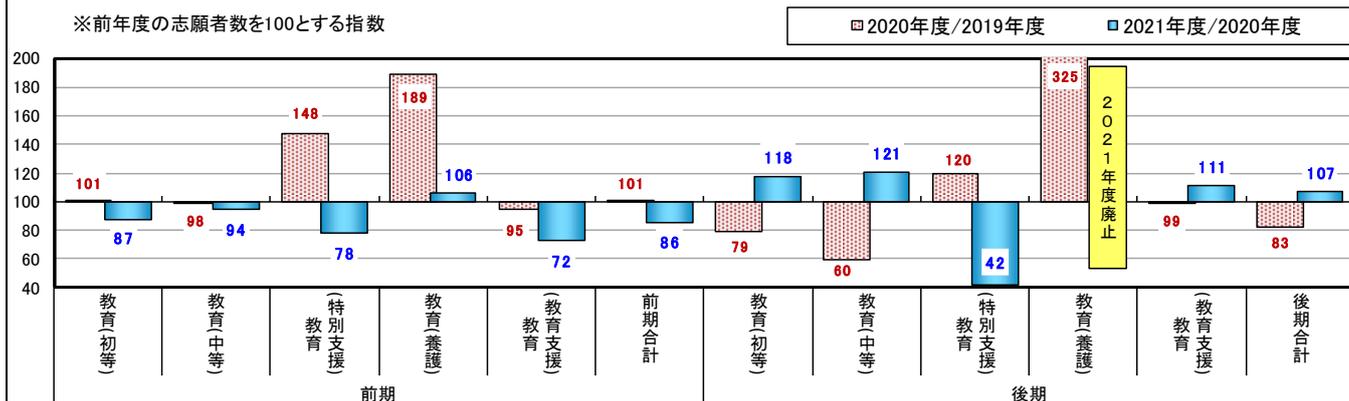
- 海洋工(83)は、前年度増加の反動に加え、英語外部試験を新規に出願要件とした影響もあり大幅減少。学科別では、3 学科のいずれも減少で、特に(流通情報工)(76)の大幅減少が目立った。個別試験に英語を追加した(海洋電子機械工)(91)は 3 年ぶりに減少。
- 海洋生命科学(112)は、2017 年度の改組以降、翌年から 3 年連続減少だった反動で増加。学科別では、(海洋政策文化)(129)が、前年度 30%以上の大幅減少の反動で大幅増加。募集人員(前年度募集人員対比指数 85)の減少もあり、志願倍率は 2.3 倍→3.5 倍へアップ。他の 2 学科である(海洋生物資源)(109)、(食品生産科学)(109)もいずれも増加。
- 海洋資源環境(107)は、増加で 2 年連続増加。学科別では、(海洋環境科学)(108)は 2017 年度の学部改組後初めての増加、募集人員(前年度募集人員対比指数 95)の減少で、志願倍率も 4.9 倍→5.5 倍へアップ。(環境資源エネルギー)(104)はやや増加で前年度の大幅増加に引続き 2 年連続増加。

<後期日程>

- 海洋工(89)は、2 年連続増加の反動に加え、英語学部試験を新規に出願要件とした影響もあり減少。学科別では、(海事システム工)(136)は前年度半減を超える大幅減少の反動で大幅増加、一方で、(流通情報工)(62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少と対照的。
- 海洋生命科学(102)は、前年度並。学科別では(食品生産科学)(124)、(海洋政策文化)(123)は大幅増加で、前年度の反動による増減が継続。一方で、(海洋生物資源)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 海洋資源環境(152)は、2017 年度の学部改組以降、翌年から 3 年連続減少だった反動で大幅増加。学科別では、(海洋資源エネルギー)(184)が 2 年連続大幅増加、(海洋環境科学)(139)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、募集人員(前年度募集人員対比指数 88)の減少で、志願倍率も 7.2 倍→11.4 倍へアップ。

東京学芸大：前年度の反動で前期は減少、後期は増加

前期：-258人 後期：+76人



入試変更点

募集人員：教育(初等/美術)…<後>0人→3人 ※後期日程新規実施
 (養護教育)…<後>4人→0人 ※後期日程廃止
 個別試験：教育(初等/国語)、(中等/国語)…<前>国→国+論
 (初等/社会)、(中等/社会)…<前>歴公→歴公+論
 (初等/数学)、(中等/数学)…<前>数→数+論
 (初等/理科)、(中等/理科)…<前>理→理+論
 (初等/音楽)…<前>共通試験+実→共通試験+面+実、<後>実→面+実
 (初等/美術)、(中等/保健体育)、(教育/生涯スポーツ)…<前>実→面+実
 (初等/英語)、(中等/英語)…<前>外→外+面
 (初等/情報教育)、(教育支援/情報教育)…<前>数→数+面
 (初等/ものづくり)、(中等/技術)…<前>数→面
 (初等/環境教育)…<前>歴公 or 理→論+(歴公 or 理)
 (中等/音楽)…<前><後>共通試験+実→共通試験+面+実
 (中等/書道)…<前>国+書道実技・書道理論→国+面+書道実技・書道理論
 (特別支援)…<前>論→論+面、<後>面→論+面

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 258 人(86)の減少で3年ぶりに減少、個別試験に論文や面接が追加され負担が大きくなったことが影響。後期は 76 人(107)のやや増加で前年度大幅減少の反動。

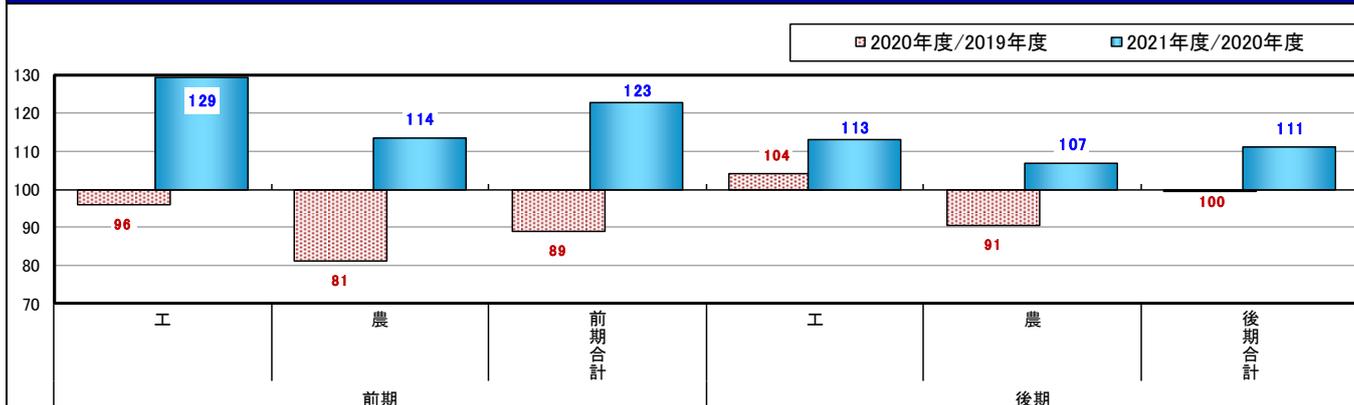
<前期日程>

- 教育(初等)(87)は、3年ぶりの減少で志願者数は800人を下回った。選修別では、16選修中増加したのは4選修のみで、(初等/学校教育)(200)が前年度大幅減少の反動で倍増と目立った。一方で、減少した12専攻では、(初等/ものづくり)(36)が、前年度大幅増加の反動で激減し、志願倍率も4.6倍→1.6倍へダウンしたのが目立った。
- 教育(中等)(94)は、やや減少で3年連続減少。専攻別では、11専攻中5専攻が増加で、(中等/英語)(147)、(中等/美術)(127)が大幅増加。一方で、5専攻が減少で、(中等/技術)(44)は半減以下で2年連続大幅減少、志願倍率は2.2倍→0.9倍と1倍を下回った。
- 教育(特別支援)(78)は、前年度大幅減少の反動で大幅減少し、3年ぶりに減少。
- 教育(養護)(106)は、やや増加で前年度大幅増加の反動はなく2年連続増加。
- 教育(教育支援)(72)は、大幅減少で、2年連続減少。専攻・コース別では、(教育支援/教育支援-生涯スポーツ)(140)が大幅増加、一方で(教育支援/教育支援-多文化共生教育)(47)は大幅減少、いずれも前年度の反動による増減。

<後期日程>

- 教育(初等)(118)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。新規に後期実施の(初等/美術)を除いても(111)の増加。選修別では、後期募集を行う10選修中6選修が増加で、特に(初等/学校教育)(259)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、志願倍率も5.4倍→14.0倍へとアップ。新規実施の(初等/美術)は志願者数40人で、志願倍率は13.3倍だった。
- 教育(中等)(121)は、2年連続減少の反動で大幅増加。専攻別では、後期募集を行う4専攻中、(中等/音楽)(100)が前年度並で、他の3専攻はすべて大幅増加。
- 教育(特別支援)(42)は、2年連続大幅増加の反動で、半減以下の大幅減少。志願倍率も17.0倍→7.2倍へダウン。
- 教育(教育支援)(111)は、増加。後期募集を行う3つの専攻・コースでは、(教育支援/教育支援-情報教育)(130)が2年連続大幅増加、(教育支援/教育支援-多文化共生教育)(120)は、前年度減少の反動で大幅増加。一方で、(教育支援/教育支援-生涯学習)(88)は、減少。

東京農工大：大学全体では3年ぶりの増加、前期は大幅増加 前期：+276人 後期：+196人



入試変更点 募集人員：工(知能情報システム工)…<前>65人→64人、<後>43人→42人
 工(生体医用システム工)…<前>30人→28人、<後>20人→18人
 工(応用化学) …<前>44人→42人、<後>29人→36人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は2年連続減少の反動で276人(123)の大幅増加、募集人員(前年度募集人員対比指数99)は微減で志願倍率は2.5倍→3.1倍にアップし、6年ぶりに3倍を上回った。後期も2年連続減少の反動で196人(111)の増加で、募集人員(前年度募集人員対比指数102)は微増だが志願倍率は7.2倍→7.9倍にアップ。

<前期日程>

- 工(129)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、6学科全てが増加で、5学科が大幅増加。特に(化学物理工)(169)の激増が目立った。(応用化学)(134)は大幅増加で、募集人員(前年度募集人員対比指数95)もやや減少したため、志願倍率も2.6倍→3.6倍にアップ。(知能情報システム工)(127)は唯一2年連続大幅増加、(機械システム工)(107)はやや増加に留まった。
- 農(114)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、5学科中4学科が増加し、(環境資源科学)(126)、(地域生態システム)(117)、(応用生物科学)(116)は大幅増加、(共同獣医)(114)は増加。前年度唯一増加した(生物生産)(95)は、やや減少。

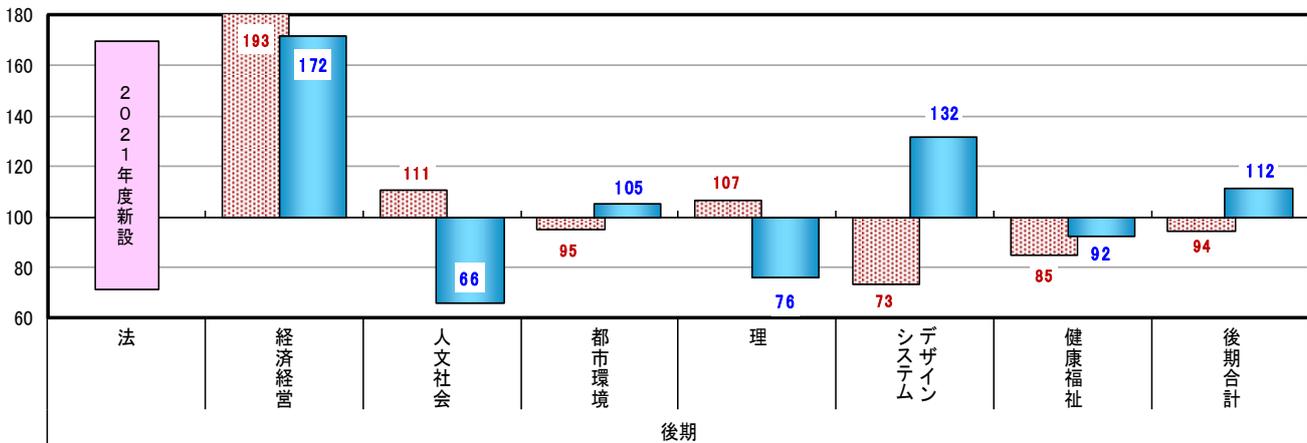
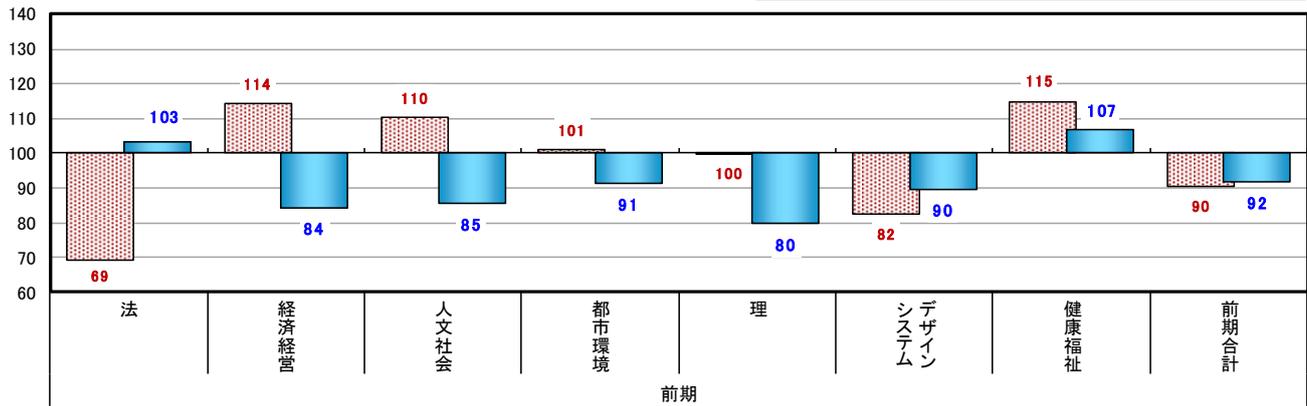
<後期日程>

- 工(113)は、2年連続増加。学科別では、6学科中5学科が増加。(生命工)(127)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(機械システム工)(126)、(生体医用システム工)(120)、(応用化学)(106)は2年連続増加、(化学物理工)(106)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加、(知能情報システム工)(98)は前年度大幅増加の反動は小さく前年度並。
- 農(107)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(地域生態システム)(169)は前年度大幅減少の反動が大きく大幅増加、一方(共同獣医)(68)は2年連続の大幅減少、(環境資源)(86)は3年連続減少。

東京都立大：前期は法、健康福祉のみ増加、後期合計は増加 前期：-435人 後期：+308人

※前年度の志願者数を100とする指数

■2020年度/2019年度 ■2021年度/2020年度



入試変更点

※コロナ禍対策のため、調査書等については採点の対象とはせず全ての受験生を一律満点として扱う。
第1段階選抜基準変更：

健康福祉(看護)〈後〉…約14倍(通過予定人数：70人)→約30倍(通過予定人数：120人)
 (理学療法)〈後〉…約14倍(通過予定人数：70人)→約30倍(通過予定人数：120人)
 (作業療法)〈後〉…約14倍(通過予定人数：70人)→約30倍(通過予定人数：90人)
 (放射線)〈後〉…約14倍(通過予定人数：112人)→約30倍(通過予定人数：240人)

募集人員：法(法)…〈前〉176人→150人、〈後〉0人→15人 ※後期日程新規実施

経済経営(経済経営)…〈前〉110人→100人

人文社会(人間社会)…〈前〉80人→70人、〈後〉15人→5人

(人文)…〈前〉51人→48人、〈後〉10人→5人

都市環境(都市基盤環境)…〈前〉31人→26人、〈後〉6人→8人

(建築)…〈前〉30人→27人

(環境応用化学)…〈前〉30人→25人、〈後〉8人→9人

システムデザイン(情報科学)…〈前〉30人→22人

(電子情報システム工)…〈前〉51人→49人

(機械システム工)…〈前〉54人→40人、〈後〉18人→19人

(航空宇宙システム工)…〈前〉28人→26人、〈後〉10人→8人

(インダストリアルアート)…〈前〉32人→30人

健康福祉(看護)…〈前〉40人→35人、〈後〉5人→4人

(理学療法)…〈後〉5人→4人

(作業療法)…〈後〉5人→3人

共通テスト：健康福祉(看護)〈後〉…数2+外+{理2 or (理 or 理基2)} → 国+数2+外+{理2 or (理 or 理基2)}

個別試験：法(法)〈前〉…国+外 → 国+(歴 or 数)

経済経営(経済経営)〈前・一般〉…国+外+(歴 or 数) → 国+(歴 or 数)

(経済経営)〈前・数理〉…数+外 → 数

人文社会〈前〉…国+外+(歴 or 数) → 国+論+(歴 or 数)

(人文)〈後〉…論 → なし ※個別試験廃止

都市環境(地理環境)〈前〉…数+外+(歴 or 理)から2 → 数+(歴 or 理)から2

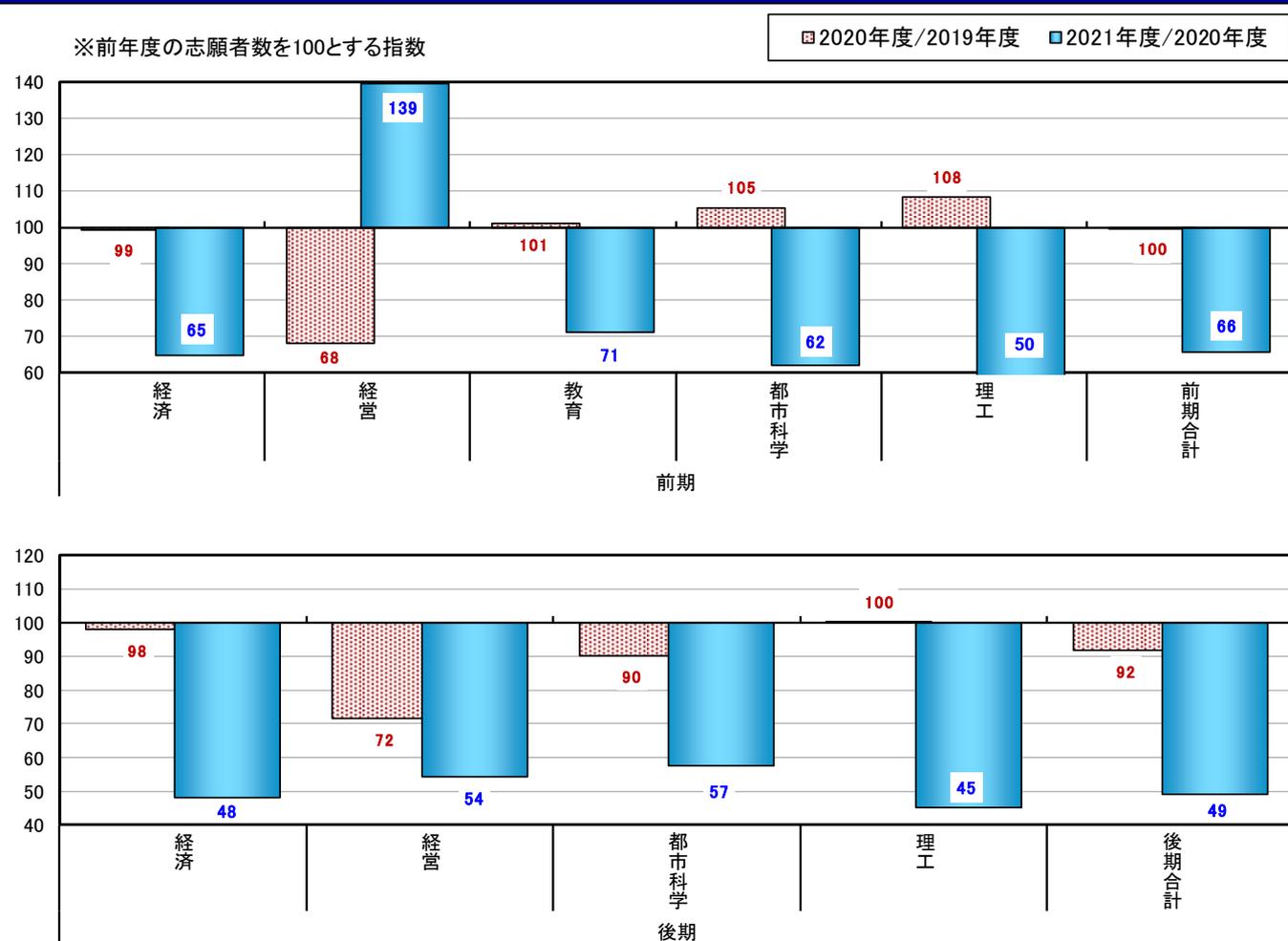
(都市基盤環境)、(建築)、(環境応用化学)〈前〉…数+理+外 → 数+理

(観光科学)〈前〉…数+外+(歴 or 理) → 数+(歴 or 理)

	都市環境(都市政策科学(文系))<前>…国+外+(歴 or 数)→国+(歴 or 数) (都市政策科学(理系))<前>…数+外+(歴 or 理)→数+(歴 or 理) 理(物理)、(化学)、(生命科学)<前>…数+理 2 +外→数+理 2 (数理科学)<前>…数+理+外→数+理 システムデザイン(インダストリアルアート)<前>…数+外+造形表現→数+造形表現 (情報科学)、(電子情報システム工)、(機械システム工)、(航空宇宙システム工)<前>…数+理+外→数+理
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数	
大学全体では、前期は 435 人(92)減少したが、募集人員(前年度募集人員対比指数 90)も減少したので、志願倍率は 5.3 倍→5.4 倍にわずかだがアップ。後期は、308 人(112)の増加で、前年度 6 年ぶりに減少したが、再び増加に転じた。なお、第一段階選抜不合格者数は、<前>は 326 人→445 人と大幅増加。<後>も 195 人→413 人と大幅増加。	
<p><前期日程></p> <p>○法(103)は、前年度大幅減少の反動で増加。募集人員(前年度募集人員対比指数 85)が、後期実施の影響で大幅減少したことで、志願倍率は 6.6 倍→8.0 倍にアップ。</p> <p>○経済経営(84)は、募集人員(前年度募集人員対比指数 92)の減少と、前年度増加の反動で大幅減少。特に、個別試験が外国語削除、数学のみとなった理系型の<数理>(79)は、前年度激増の反動で大幅減少。</p> <p>○人文社会(85)は、募集人員(前年度募集人員対比指数 90)減少と、前年度増加の反動で大幅減少。しかし、志願倍率は 5.1 倍→4.9 倍のわずかにダウン。学科別では、(人文)(92)は 3 年連続減少、(人間社会)(81)は大幅減少で、志願倍率も 5.2 倍→4.8 倍にダウン。</p> <p>○都市環境(91)は、2 年ぶりに減少。志願倍率は 3 年連続 5.2 倍で推移。学科別では、(環境応用化学)(135)は、募集人員(前年度募集人員対比指数 83)が減少したが、前年度の反動で大幅増加。(都市政策科学)は、前年度増加の反動で<文系>(69)、<理系>(75)ともに大幅減少。</p> <p>○理(80)は、大幅減少で 2018 年度の改組後では最少の志願者数で、志願倍率も 5.0 倍を下回った。学科別では、(数理科学)(116)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(化学)(43)は、前年度大幅増加の反動で半減以下。(生命科学)(74)は、2 年連続大幅減少で、志願者数は約 70 人で 2018 年度の改組後では最少の志願者数。</p> <p>○システムデザイン(90)は、3 年連続減少で、志願者数は 1,000 人を下回った。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数 86)が減少したことで、志願倍率は 5.3 倍→5.5 倍とアップ。学科別では、(電子情報システム工)(135)が、前年度半減以下の反動で大幅増加。(機械システム)(68)は、募集人員(前年度募集人員対比指数 74)減少と、前年度大幅増加の反動で大幅減少。</p> <p>○健康福祉(107)は、募集人員(前年度募集人員対比指数 95)はやや減少だが、3 年連続で増加。学科別では、(理学療法)(122)、(看護)(115)が大幅増加、(放射線)(104)がやや増加、(作業療法)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。</p>	
<p><後期日程></p> <p>○法は、今年度から後期を実施。募集人員 15 人、志願者数 169 人、志願倍率 11.3 倍。</p> <p>○経済経営(172)は、前年度はほぼ倍増、今年度は激増で 2 年連続増加。志願者数は 400 人に迫り、2018 年度の改組後では最多の志願者数で、志願倍率は 6.0 倍→11.5 倍→19.8 倍とアップ。</p> <p>○人文社会(66)は、2 年連続増加の反動と募集人員が半減以下になったことにより大幅減少で、2018 年度の改組後では最少の志願者数。しかし、募集人員の減少で志願倍率は 25%に迫る高倍率となった。なお、過去 4 年間の志願倍率は 9.9 倍→12.6 倍→15.0 倍→24.7 倍と 3 年連続アップ。学科別では、(人間社会)(57)、(人文)(81)といずれも大幅減少だが、志願倍率はアップで競争は激化。</p> <p>○都市環境(105)は、募集人員(前年度募集人員対比指数 108)の増加と 2 年連続減少の反動で増加。学科別では、(都市政策科学)(191)がほぼ倍増、(地理環境)(128)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、コロナ禍の影響を強く受けている系統である(観光科学)(76)が大幅減少。一方で、(都市基盤環境)(87)は減少。</p> <p>○理(76)は、2018 年度の改組後 2 年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、4 学科の全てが減少だが、特に(数理科学)(67)、(生命科学)(73)が 2 年連続大幅減少、(化学)(70)も前年度ほぼ倍増の反動で大幅減少。</p> <p>○システムデザイン(132)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加、志願者数も 900 人を上回った。過去 3 年間の志願倍率の推移を見ると 15.0 倍→11.0 倍→14.7 倍で、2 年ぶりに 14.0 倍を上回った。学科別では、5 学科の全てが増加だが、特に、(電子情報システム)(179)が 2 年連続大幅減少の反動で激増。</p> <p>○健康福祉(92)は、減少で 2 年連続減少。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数 83)が大幅減少で、志願倍率は 12.0 倍→13.3 倍にアップして競争は激化。学科別では、(理学療法)(152)が大幅増加、(作業療法)(100)、(看護)(101)が前年度並。一方で、(放射線)(63)は前年度倍増以上の反動で大幅減少、2016 年度から反動による大幅増減が継続。</p>	

横浜国立大：個別試験実施見送りの影響で、大幅減少

前期：-967人 後期：-2,425人



入試変更点

コロナ禍による変更：全学部で一般選抜個別試験実施を見送り、共通テストの成績により選抜
 ただし、教育学部では面接や実技等に相当する提出物を求める

課程・コース・領域改組：教育…学校教員養成課程／人間形成コース、教科教育コース、特別支援教育コース
 →学校教員養成課程／言語・文化・社会系教育コース、自然・生活系教育コース、
 芸術・身体・発達支援系教育コース(音楽・美術・保健体育・心理学専門領域、
 特別支援教育専門領域)

募集人員：経済…〈前〉125人→(一般)125人(DSEP)5人(LBEEP)10人、〈後〉90人→(一般)75人、(DSEP)5人
 経営…〈前〉128人→(一般)128人(DSEP)7人、〈後〉98人→(一般)78人、(DSEP)3人
 都市科学(都市社会共生)…〈後〉20人→12人
 都市科学(建築)…〈前〉41人→40人、〈後〉20人→19人
 理工(化学・生命科／化学EP・化学応用EP)…〈前〉75人→71人、〈後〉60人→56人

共通テスト：経済〈前〉…国+歴公2+数2+外+(理2or理基2) ※歴公：世Aor世Bor日Aor日Bor地理Aor地理Bor倫政
 →国+歴公2+数2+外+(理or理基2) ※歴公：世Bor日Bor地理Bor倫政 ※地歴A科目除外
 経済〈後〉…国+歴公2+数2+外+(理2or理基2) ※歴公：世Aor世Bor日Aor日Bor地理Aor地理Bor倫政
 →国+歴公+数2+外+(理or理基2) ※歴公：世Bor日Bor地理Bor倫政 ※地歴A科目除外

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、コロナ禍の影響を考慮して、個別試験実施を見送り、共通テストの成績により選抜(ただし、教育では面接や実技等に相当する提出物を求める)に変更したため、合格目標ラインが見極めにくくなったこと、共通テスト失敗し個別試験での逆転を狙う層を失ったことで、前期・後期とも大幅減少となった。日程別では、前期は967人(66)の大幅減少、後期は2,425人(49)の半減以下で、いずれも4年連続減少。

- ＜前期日程＞
- 経済(65)**は、大幅減少で3年連続減少。募集人員(前年度募集人員対比指数112)が増加したことも加わって、志願倍率は4.3倍→2.5倍にダウン。新設の(DSEP)の志願倍率は3.4倍、(LBEEP)の志願倍率は2.3倍で、学部全体の志願倍率を(DSEP)は上回ったが、(LBEEP)は下回った。
 - 経営(139)**は、前年度も個別試験の実施はなかったので、コロナ禍による変更の影響はなく、前年度大幅減少の反動もあって大幅増加。前期、後期を通じて全学部の中で、唯一増加した学部となった。ただし、募集人員(前年度募集人員対比指数121)も大幅増加なので、志願倍率は2.1倍→2.4倍のアップに留まった。なお、新設の(DSEP)の志願倍率は2.9倍で学部全体の志願倍率を上回った。
 - 教育(71)**は、課程・コース・領域の大規模な改組が行われたが、学部全体では大幅減少で3年ぶりの減少。ただし、募集人員

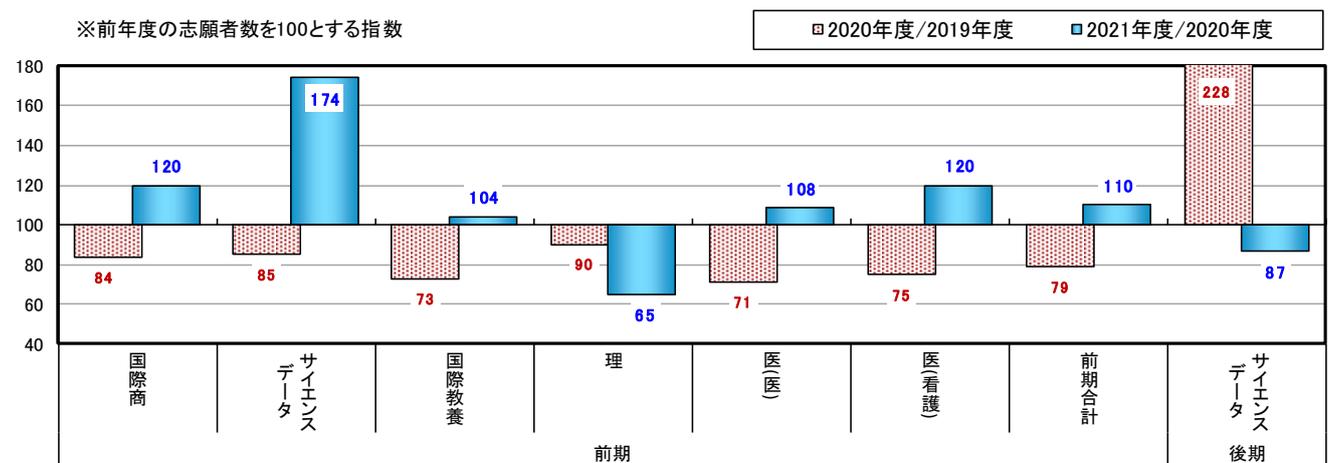
(前年度募集人員対比指数 75)も大幅減少なので、志願倍率は 2.3 倍→2.2 倍とわずかなダウンに留まった。
 ○都市科学(62)は、大幅減少で 2 年ぶりの減少。学科別では、(環境リスク共生)(88)を除き大幅減少で、(建築)(39)は激減。
 ○理工(50)は、半減で 2 年ぶりに減少。学科・教育プログラム別では、(機械・材料・海洋系/材料工)(100)は前年度並だが、他の募集単位はすべて大幅減少。特に、(化学系/化学・化学応用)(36)、(機械・材料・海洋系/材料工)(45)、(数物・電子情報系/情報工)(46)、(機械・材料・海洋系/海洋空間のシステムデザイン)(47)、(数物・電子情報系/物理工)(50)はいずれも半減以下。

＜後期日程＞

○経済(48)は、半減以下の大幅減少。志願倍率は 12.5 倍→6.8 倍にダウン。
 ○経営(54)は、2 年連続減少、志願倍率は 9.0 倍→5.9 倍にダウン。
 ○都市科学(57)は、大幅減少で 3 年連続減少。学科別では、(環境リスク共生)(154)は 2 年連続大幅増加だが、他の 3 学科はいずれも大幅減少。特に、(都市基盤)(41)、(建築)(45)は半減以下。
 ○理工(45)は、半減以下の大幅減少。学科・教育プログラム別では、(数物・電子情報系/数理科学)(61)、(機械・材料・海洋系/材料工)(52)を除いた 7 つの募集単位はいずれも半減以下、特に(数物・電子情報系/物理工)(34)はほぼ前年度の 3 分の 1 の志願者数に留まった。

横浜市立大：前期は 4 学部で増加、理のみ大幅減少

前期：+198 人 後期：-13 人



入試変更点 第 1 段階選抜基準：医(医)＜前＞…約 3 倍(通過予定人数：210 人)
 →共通テストの配点の合計点原則 750 点以上、倍率約 3 倍(通過予定人数：210 人)
 募集人員：医(医)…＜前＞(地域医療枠)14 人→10 人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

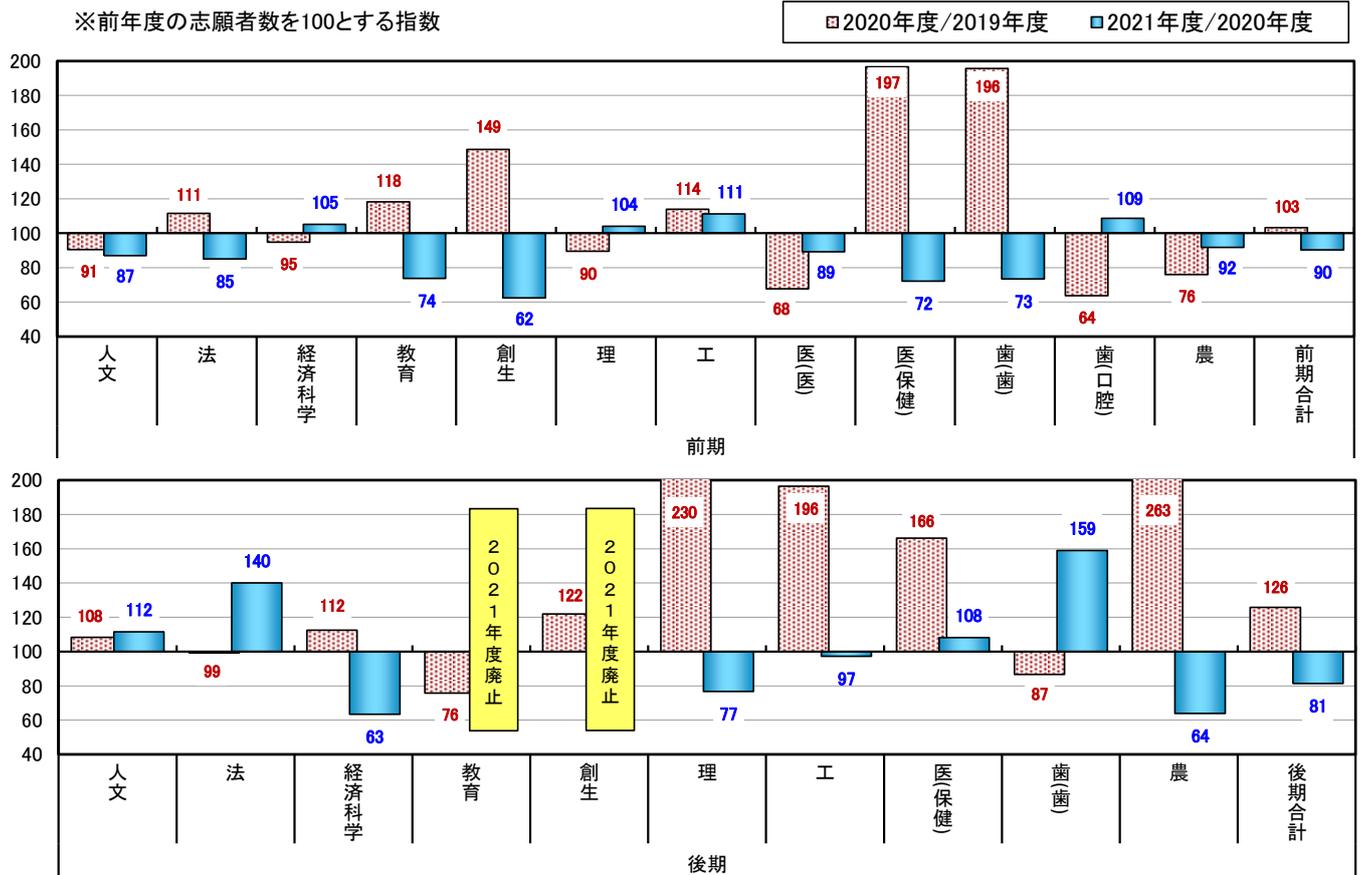
大学全体では、前期は 198 人(110)の増加で 3 年ぶりの増加。理 97 人(65)の大幅減少を除いた 5 学部・学科(医、看護は学科別集計)は全て増加、特にデータサイエンス 105 人(174)の激増と、国際商 122 人(120)、医(看護)23 人(120)の大幅増加が目立った。後期はデータサイエンスのみの募集だが、前年度倍増以上の激増の反動で減少し 13 人(87)の減少、志願倍率も 19.6 倍→17.0 倍にダウン。

＜前期日程＞

○国際商(120)は、系統への人気は低下しているが、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も 3.2 倍→3.9 倍にアップ。
 ○データサイエンス(174)は、2018 年度の新設以降 2 年連続大幅減少の反動で激増。志願倍率も 3.5 倍→6.2 倍にアップ。
 ○国際教養(104)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まり、志願者数は 2 年連続 700 人を下回った。
 ○理(65)は、大幅減少で 2 年連続減少し、志願者数は 200 人を下回った。志願倍率も 4.0 倍→2.6 倍にダウン。方式別では、個別試験が数+理 2 の<A 方式>(90)は 2 年連続減少、個別試験が数+理 1 の<B 方式>(41)は前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少。
 ○医(医)(108)は、前年度大幅減少の反動で増加。募集人員(前年度募集人員対比指数 95)が減少したため、志願倍率は 3.2 倍→3.7 倍にアップし、競争激化。
 ○医(看護)(120)は、2 年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は 1.8 倍→2.1 倍にアップし、2 年ぶりに 2 倍を上回った。

新潟大：前期は減少、後期は大幅減少

前期：-335人 後期：-466人



入試変更点

選抜方法：理<前>…選抜方式変更＝選抜方法A、選抜方法B、選抜方法C
 →理数重点選抜、理科重点選抜、野外科学志向選抜

工(工)<前>…選抜方式追加＝1方式→2方式(共通テスト重視型、個別学力検査重視型)

教育、創生…後期廃止

募集人員：理(理)<前>…133人→130人、<後>…32人→30人
 工(工)<前>…310人→320人、<後>…60人→50人
 医(保健/看護)<前>…49人→46人、<後>…8人→6人
 (保健/検査技術科学)<前>…19人→21人
 歯(歯)<前>22人→24人

共通テスト：医(保健/看護)…国+歴公+数2+外+{理2 or (理+理基2)}
 ※理：生+(物 or 化 or 地学)→物 or 化 or 生 or 地学 ※生物が必須から選択へ

個別試験：教育<前>…教科試験等に加え、面接追加
 医(保健)<後>…論+面→面 ※小論文除外
 医(保健/検査技術科学)<前>…外→数+外 ※数学追加

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は335人(90)の減少で、2年ぶりに減少。後期は466人(81)の大幅減少だが、廃止の教育、創生を除くと(94)のやや減少。前年度倍以上だった理、農はいずれも大幅減少。

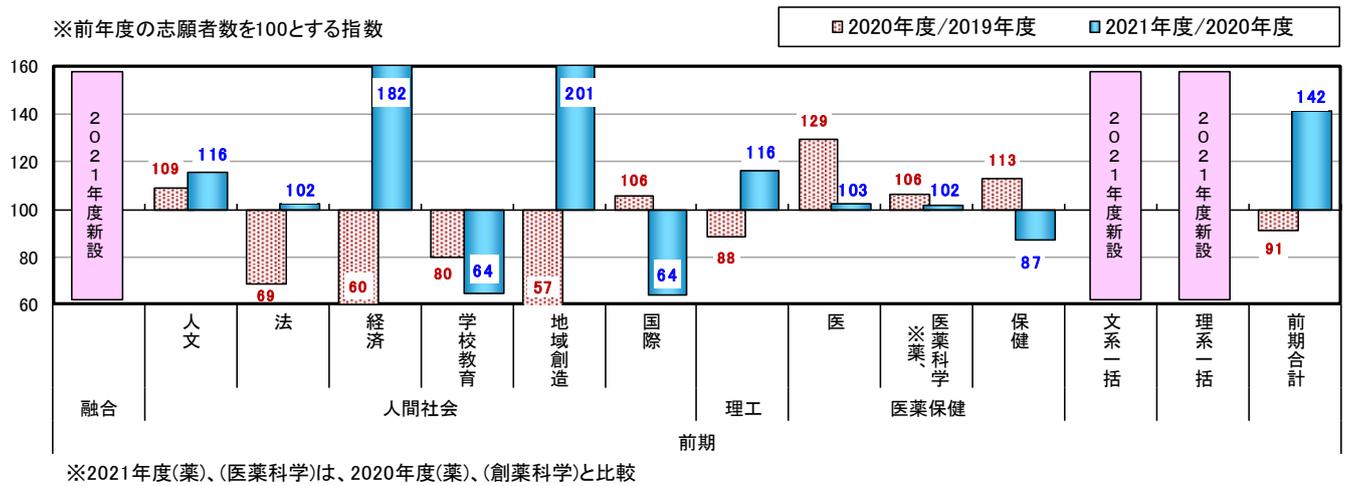
- <前期日程>**
- 人文(87)は、2年連続減少。
 - 法(85)は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は4年ぶりに200人を下回った。
 - 経済科学(105)は、改組2年目だがやや増加。
 - 教育(74)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も3.3倍→2.4倍にダウン。
 - 創生(62)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2017年度の学部新設以来、最少の志願者数。
 - 理(104)は、やや増加で3年ぶりに増加。方式別では3つの選抜方式の名称と個別試験科目や配点に変更された。個別試験科目が「英語+数学+理科1科目」の<理数重点選抜>は同じ個別試験科目だった旧<選抜方法A>との比較では(144)の大幅増加。なお、<理数重点選抜>に変更されたことで、総合点800点は変わらないが、英語100点→200点、数学400点→300点、理科300点→300点と3教科間でより均等な配点に変更された。個別試験科目が「面接+(数学、理科)から2科目」の<野外科学志向選抜>は同じ個別試験科目だった旧<選抜方法C>との比較では(83)の大幅減少。<理科重点選抜方法>は旧<選抜方法B>から数学の選択がなくなり「英語+理科2」となったが、旧<選抜方法B>との比較では(64)と大幅減少した。
 - 工(111)は、2年連続増加。学部全体の志願倍率は2.1倍で4年ぶりに2倍を上回った。また、<共通テスト重視型>と<個別学力検査重視型>の2方式が導入され、それぞれの学部全体での志願倍率は<共通テスト重視型>が1.5倍、<個別学力検査重視型>は4.3倍と個別試験学力に期待する層が多かった。
 - 医(医)(89)は、前年度大幅減少の反動はなく2年連続減少、志願倍率は3.8倍にダウンし、5年ぶりに4倍を下回った。

- 医(保健)(72)は、前年度倍増近かった反動で大幅減少。3専攻全て減少、特に(保健/検査技術科学)(54)は半減近い減少。
- 歯(歯)(73)は、前年度倍増に近い増加の反動で大幅減少。志願倍率も8.2倍→5.5倍へダウン。
- 歯(口腔生命福祉)(109)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 農(92)は、前年度大幅減少の反動はなく2年連続減少。

〈後期日程〉

- 人文(112)は、2年連続増加。志願倍率9.2倍で、近年では2015年度の10.4倍に次ぐ高倍率。
- 法(140)は、3年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も6.4倍→9.0倍にアップし、6年ぶりに9倍を上回る。
- 経済科学(63)は、改組2年目だが大幅減少。志願倍率も7.0倍→4.5倍にダウン。
- 理(77)は、前年度2.3倍増の反動で大幅減少。
- 工(97)は、前年度倍増近かった反動は小さくやや減少。しかし、募集人員が10人減少(募集人員前年度対比指数83)のため、志願倍率は5.5倍→6.4倍にアップし競争激化。
- 医(保健)(108)は、前年度大幅増加の反動はなく2年連続増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(118)が大幅増加。
- 歯(歯)(159)は、2年連続減少の反動で大幅増加。
- 農(64)は、前年度2.6倍を超える激増の反動で大幅減少。

金沢大：後期廃止で前期大幅増加も志願倍率アップは0.3ポイント 前期：+1,098人



入試変更点

学域新設：融合(先導科学)…<前>(文系)20人、(理系)20人
 ※学域募集以外に一括入試からの移行人数=(文系)3人、(理系)3人

学類改組：医薬保健(薬)(創薬科学)→(薬)(医薬科学)

選抜方法：調査書の扱い変更…学力検査合計点での可否のボーダー層の志願者への調査書を点数化した得点を加算して可否を判定(配点は共通テストと個別試験の合計配点の概ね2%)

後期廃止…人間社会(人文、法、地域創造、国際)、
 理工(数物科学、物質化学、地球社会基盤)、
 医薬保健(保健/看護、放射線技術科学、検査技術科学)

日程変更…文系一括入試<後>62人→<前>68人、理系一括入試<後>82人→78人

人間社会(法)…方式別募集から学科募集へ

学類別募集へ変更…(薬(6年制))と(創薬科学(4年制))の一括募集
 →(薬(6年制))、(医薬科学(4年制))の学類別募集

医薬保健(保健/理学療法、作業療法)<前>…理学・作業併願入試新規実施

募集人員：人間社会(人文)<前>…100人→123人、(経済)<前>…110人→106人、(学校教育)<前>…64人→58人
 (地域創造)<前>…55人→63人、(国際)<前>…48人→53人

理工(数物科学)<前>…64人→71人、(物質化学)<前>…55人→69人
 (機械工、フロンティア工、電子情報通信)<前>…252人→239人 ※3学類一括入試
 (地球社会基盤)<前>…78人→80人、(生命理工)<前>…50人→49人

医薬保健(薬)<前>…32人→53人
 (創薬科学)<前>…32人→(医薬科学)<前>18人 ※2020年度は(薬)と(創薬科学)は一括募集
 (保健/看護)<前>…55人→64人、(保健/放射線技術)<前>…29人→36人
 (保健/検査技術科学)<前>…29人→32人

個別試験：人間社会(人文)<前>…国+外→国+外+総合問題 ※総合問題追加
 (経済)<前>…数+外→国+数+外 ※国語追加
 (学校教育)<前>…(選択パターンA)外+(国 or 数 or 理)→国+外+(数 or 理 or 総合問題)
 ※国語が選択から必須へ、選択に総合問題追加
 (学校教育)<前>…(選択パターンB)外+(国 or 数 or 理)→数+外+(国 or 理 or 総合問題)
 ※数学が選択から必須へ、選択に総合問題追加
 (地域創造)<前>…(国 or 数 or 外)から2→国+数+外 ※3教科必須へ
 (国際)<前>…国+外→国+外+(数 or 総合問題) ※選択に数学と総合問題追加

医薬保健(医)<前>…数<200>+理 2<200>+外<200>+面<100>=総点<700> →数<300>+理 2<300>+外<300>+面<150>=総点<1,050> ※配点変更 (保健/看護)<前>…理+外→数+理+外 ※数学追加 (保健/理学療法、作業療法)<前>…理+外→理 2+外 ※理→理 2へ

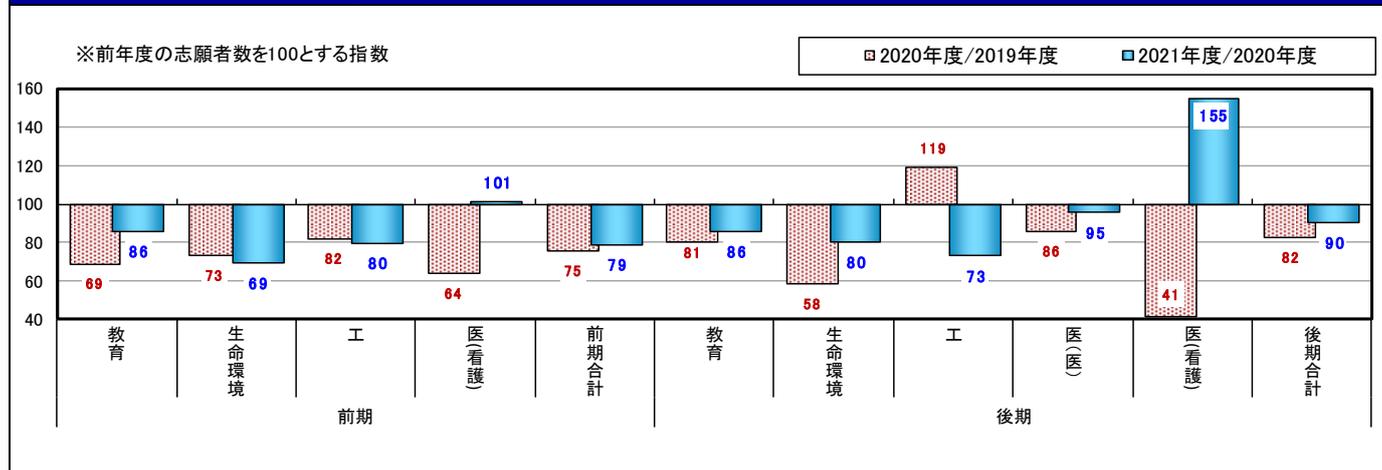
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は後期廃止による募集人員の増加(募集人員の前年度対比指数 120)の影響と 2 年連続減少の反動で 1,098 人(142)の大幅増加だが、志願倍率は 2.1 倍→2.4 倍のアップに留まった。前年度の後期を含めた前・後期合計の志願者数との比較では、前年度 2,200 人近い志願者数だった後期の廃止の影響は大きく、(77)の大幅減少。

<前期日程>

- 新設の融合は、志願者数 141 人、志願倍率 3.5 倍。方式別の志願倍率は(文系)が 3.7 倍、(理系)は 3.4 倍だった。
- 人間社会(118)は、大幅増加。学類別で増加したのは 4 学類で、(地域創造)(201)、(経済)(182)は前年度大幅減少の反動で激増。(人文)(116)は大幅増加で 2 年連続増加だが、募集人員の増加率(募集人員の前年度対比指数 123)が上回ったため志願倍率は 2.0 倍→1.9 倍にわずかにダウン。(法)(102)は前年度大幅減少の反動はほとんどなく微増に留まった。一方で減少した 2 学類は系統への人気も低いこともあっていずれも大幅減少で、(学校教育)(64)は 2 年連続大幅減少。(国際)(64)は 2 年連続増加の反動で大幅減少。
- 理工(116)は、2 年連続減少の反動で大幅増加。募集単位別では、(生命理工)(93)は前年度の大幅減少に引続き、やや減少で 5 つの募集単位中で唯一減少。(数物科学)(145)は 3 年連続減少の反動で大幅増加。(物質化学)(120)は 2 年連続減少の反動で大幅増加だが、募集人員の増加率(募集人員の前年度対比指数 125)が上回ったため志願倍率は 2.2 倍→2.1 倍にわずかにダウン。3 学類一括入試の(機械工・フロンティア工・電子情報通信)(118)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。(地球社会基盤)(102)は、前年度大幅増加の反動はなく微増。
- 医薬保健(医)(103)は、前年度大幅増加の反動はなく 2 年連続増加。志願倍率は 3.8 倍で、第 1 段階選抜が、実施予告倍率 3 倍程度を上回ったため、実施され合格率は 79.7%だった。
- 医薬保健(保健)(87)は、前年度増加の反動で減少。募集単位別では、(保健/検査技術科学)(144)は 2 年連続減少の反動で大幅増加、4 つの募集単位中唯一増加。理学・作業併願入試を新規実施の(保健/理学療法、作業療法)(66)は大幅減少で併願可の効果は見られなかった。(保健/看護)(72)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 医薬保健(薬)(医薬科学)の合計(102)は、前年度の(薬)(創薬科学)の合計との比較では、微増だが 2 年連続増加。今年度から 6 年制の(薬)と 4 年制の(医薬科学)に分けての募集となったが、それぞれの志願倍率は薬剤師養成の(薬)が資格直結型であることから人気が高く 3.4 倍、一方で(医薬科学)は 1.1 倍と 4 年制の募集人員削減にも関わらず低倍率となった。
- 後期から日程変更した一括入試は、<文系>が志願者数 371 人、志願倍率 5.5 倍。<理系>が、志願者数 321 人、志願倍率 4.1 倍だった。後期実施だった前年度の志願倍率は<文系>が 5.5 倍、<理系>が 6.4 倍だったが、前期合格による欠席者が多く、実質倍率は文系 1.8 倍、理系 2.4 倍だったので、前期移行により競争は激化した。

山梨大：前期は 2 年連続大幅減少、後期は減少 前期：-241 人 後期：-192 人



<p>入試変更点</p>	募集人員：教育(学校/幼少発達)…<前>15 人→12 人、<後>5 人→4 人 (学校/障害児)…<前>12 人→10 人、<後>5 人→4 人 (学校/言語)…<前>10 人→7 人、<後>3 人→2 人 (学校/生活社会)…<前>15 人→11 人、<後>5 人→3 人 (学校/科学)…<前>18 人→14 人、<後>6 人→4 人 (学校/芸術身体)…<前>8 人→6 人 生命環境(生命工)…<前>30 人→27 人 (地域食物科学)…<前>32 人→30 人 (環境科学)…<前>25 人→22 人 (地球社会システム)…<前>43 人→40 人 工(土木環境工)、(応用化学)…<後>7 人→5 人 (機械工)…<前>37 人→33 人、<後>8 人→5 人 (電気電子工)…<前>35 人→33 人、<後>7 人→5 人 (コンピュータ理工)…<前>35 人→30 人、<後>8 人→5 人
---------------------	---

	<p>(メカトロニクス工)…<前>35人→33人 (先端材料理工)…<前>25人→19人、<後>6人→5人 共通テスト：教育(学校/幼小発達)、(学校/障害児)、(学校/芸術身体) …<後>国+歴公+数2+外+(理 or 理基2)→{国 or 歴公 or 数2 or 外 or (理 or 理基2)}→3 (学校/言語)…<後>国+歴公+数2+外+(理 or 理基2)→国+歴公+外 (学校/生活社会)…<前>国+数2+外+{歴公+(理 or 理基2)}→3 ※数：数 I or 数 I・A+数 II or 数 II・B →国+数2+外+{歴公+(理 or 理基2)}→3 (学校/生活社会)…<後>国+数2+外+{歴公+(理 or 理基2)}→3 →{国 or 歴公 or 数2 or 外 or (理 or 理基2)}→3 生命環境(生命工、地球食物科学)…<前>国+歴公+数2+理2+外 ※理：物 or 化 or 生 or 地学 →国+歴公+数2+理2+外 ※理：物 or 化 or 生 医(医)…<後>国<200>+歴公<100>+数2<100>+理2<100>+外<300>=総点<800> →国<200>+歴公<100>+数2<100>+理2<100>+外<600>=総点<1,100> 個別試験：教育(学校/幼小発達)…<前>{(国 or 数 or 外)→2}→外+面 (学校/言語)…<前>国+外→国+外+面 (学校/生活社会)…<前>{(国 or 数 or 理 or 外)→2}→外+面 (学校/科学)…<前>数+理→数+理+面 (学校/芸術身体)…<前>実→実+面 生命環境(生命工、地域食物科学)…<前>数+理→論 (環境科学)…<前>数+理2→論 (地球社会システム)…<前>外+(国 or 数)→論</p>
--	--

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は241人(79)で2年連続大幅減少、志願者数は1,000人を下回った。後期も192人(90)の減少で2年連続減少。主体性評価の強化のため、個別試験で面接や小論文を追加したことによる負担増が影響。

<前期日程>

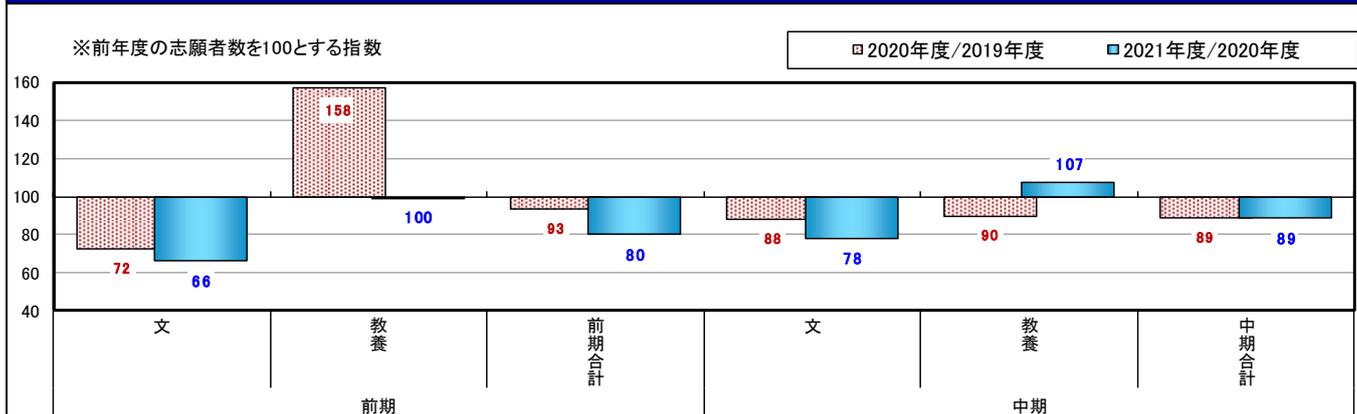
- 教育(86)は、(学校/障害児)を除く5コースで面接が追加になりすべてのコースでの実施となったことによる負担増と系統への低い人気から2年連続減少。ただし、募集人員(前年度募集人員対比指数77)も減少したので、志願倍率は2.5倍→2.8倍へアップ。コース別では、(学校/科学)(136)は前年度減少率60%以上の激減の反動で大幅増加、(学校/障害児)(110)は2年連続増加。これら以外の4コースはいずれも大幅減少。特に、(学校/言語)(30)は2年連続増加の反動で、70%減少の激減。
- 生命環境(69)は、全学科で小論文が追加となり負担増となったこともあって、2年連続大幅減少。学科・コース別では、(地域社会/観光政策科学)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、その他の5学科・コースはいずれも大幅減少。
- 工(80)は、2年連続大幅減少。学科別では、(土木環境工)(124)、(先端材料理工)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。その他の5学科はいずれも減少し、特に、(電気電子工)(48)は半減以下の減少で2年連続大幅減少。
- 医(看護)(101)は、前年度大幅減少の反動はなく、前年度並に留まった。

<後期日程>

- 教育(86)は、(教育/科学)を除くコースで共通テストの科目負担が軽減されたが、系統への低い人気から2年連続減少。ただし、募集人員(前年度募集人員対比指数75)も減少したので、志願倍率は10.3倍→11.7倍へアップ。コース別では、(学校/障害児)(138)は2年連続大幅増加、(学校/芸術身体)(100)は前年度並、その他の4コースは大幅減少。特に、(学校/幼小発達)(54)は前年度倍増近い大幅増加の反動で大幅減少、(学校/科学)(63)、(学校/言語)(67)は2年連続大幅減少。
- 生命環境(80)は、2年連続大幅減少。学科別では、(地域社会システム)(151)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、その他の3学科は全て大幅減少。(地域食物科学)(48)は前年度増加の反動で半減以下、(生命工)(54)は前年度の反動による極端な増減が継続、(環境科学)(71)は2年連続大幅減少。
- 工(73)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数73)も減少したので、志願倍率は前年度と同様の6.8倍で競争は前年度並。学科別では、(先端材料理工)(163)は2年連続50%以上の大幅増加。一方で、(機械工)(33)は激減で2年連続大幅減少と対照的。(電気電子工)(62)、(コンピュータ理工)(65)、(土木環境工)(67)は、いずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 医(医)(95)は、個別試験の配点比率アップで、共通テストでの逃切りを考える層が敬遠したこともあって、やや減少で2年連続減少。志願者数は1,100人を下回り、後期のみの募集となった2011年度以降では最小となった。2段階選抜が実施され、合格率は85.1%、合格者最低点は661点(73.4%)だった。
- 医(看護)(155)は、前年度大幅減少の反動で50%を超える大幅増加。

都留文科大：前期は2年連続減少、中期は改組後4年連続減少

前期：-136人 中期：-293人



入試変更点

選抜方法：教養(学校教育)…<前>5教科型：実施→廃止

共通テスト：教養(学校教育)…<前>3教科型：国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2)

→3教科型：{国 or 歴公 or 数 or 外 or (理 or 理基2)} →3

※外が必須から選択へ、国 or 数から1科目以上選択

<中>3教科型：国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2)

→3科目型：{国 or 歴公 or 数 or 外 or (理 or 理基2)} →3

※外が必須から選択へ、国 or 数から1科目以上選択

(地域社会)…<前>歴公+外+(国 or 歴公 or 数 or 理 or 理基2)

→歴公+{国 or 歴公 or 数 or (理 or 理基2)} →2 ※外が必須から選択へ

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は共通テストの5教科7(8)科目平均点アップの影響が期待できた教育(学校教育)<5教科型>の廃止もあって136人(80)の大幅減少で2年連続減少。中期は293人(89)の減少で、2018年度の改組以降は4年連続減少。

<前期日程>

○文(66)は、2年連続大幅減少。学科別では、全ての学科で減少。(比較文化)(48)は前年度激増の反動で半減以下の大幅減少。(英文)(60)は前年度が選抜方法の変更と募集人員の減少もあって減少率80%以上の激減だった反動はなく、2年連続大幅減少。留学必須のためコロナ禍による海外渡航制限の影響を受けた(国際教育)(62)は、大幅減少で3年ぶりの減少。

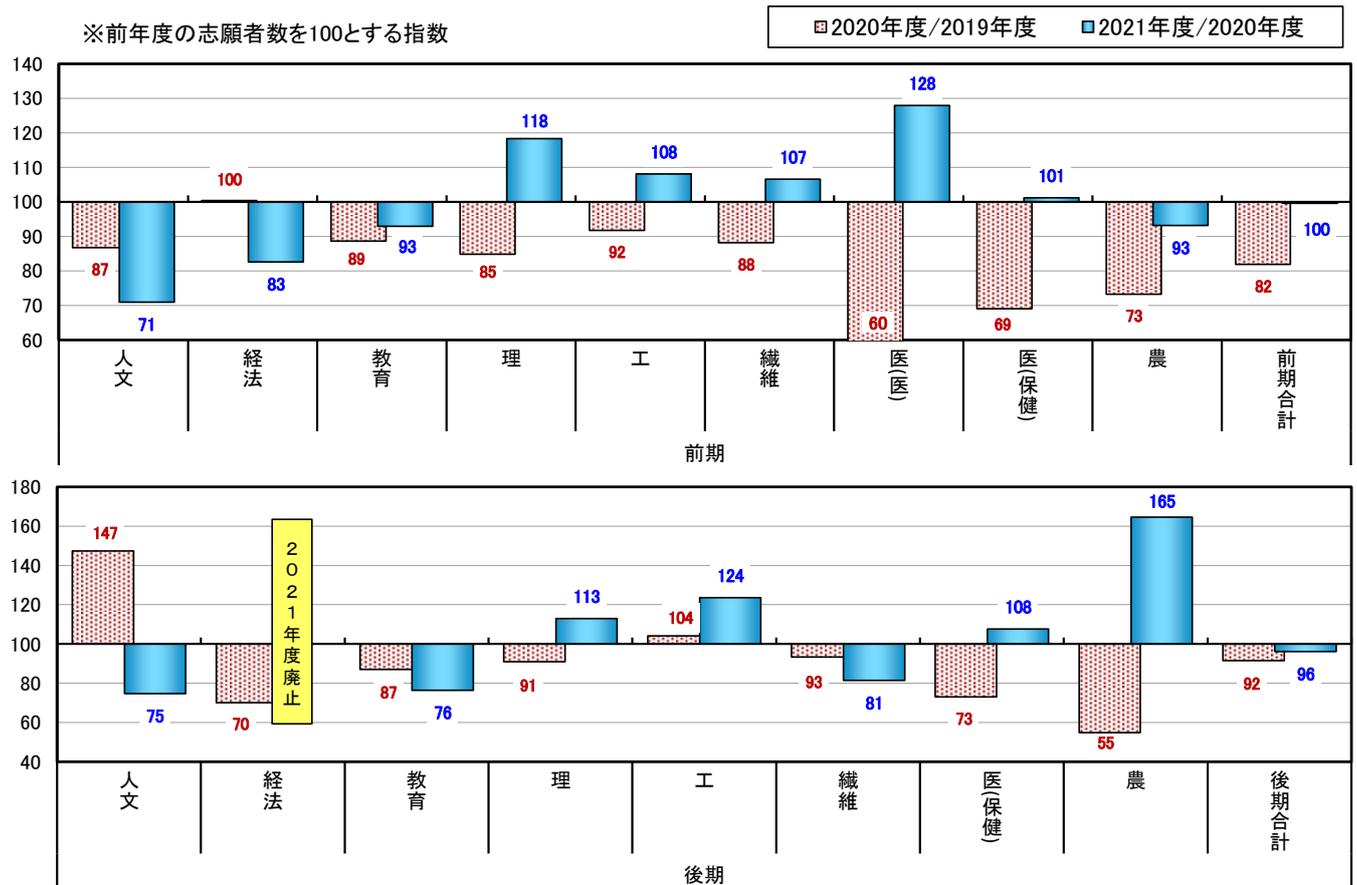
○教養(100)は、前年度50%以上大幅増加の反動はなく、前年度並。学科別では、(地域社会)(182)は、2年連続減少の反動に加え、共通テストの英語が必須から選択になったことも影響し激増。一方で、(学校教育)(47)は共通テストの5教科7(8)科目平均点アップの影響が期待できた<5教科型>の廃止の影響と前年度3倍を超える激増の反動で、半減以下の大幅減少と対照的な結果となった。

<中期日程>

○文(78)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、全ての学科で減少。(英文)(63)は募集人員が減少した前年度に引続き2年連続の大幅減少。(比較文化)(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(国際教育)(80)は、前年度大幅増加の反動に加えて、留学必須のためコロナ禍による海外渡航制限の影響を受けて大幅減少。(国文)(90)は、2年連続減少。

○教養(107)は、2018年度改組後、3年ぶりに増加。学科別では、(地域社会)(146)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加、(学校教育)(85)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少と対照的。

信州大：前期は前年度並、後期は減少でいずれも改組後最少 前期：-14人 後期：-114人



入試変更点

第1段階選抜基準変更：医(医)〈前〉…5倍(通過予定人数：475人)→4倍(通過予定人数：380人)

選抜方法：経法…〈後〉実施→廃止

募集人員：経法…〈後〉15人→0人

教育(学校/理科)…〈後〉5人→6人

教育(学校/家庭科)…〈前〉10人→11人、〈後〉2人→3人

理(理/化学)…〈前〉20人→17人、〈後〉14人→17人

工(建築)…〈後〉15人→14人

医(保健/看護)…〈後〉10人→5人

農(農学生命)…〈後〉16人→24人

農(農学生命/生命機能)…〈前〉33人→30人

農(農学生命/動物資源)…〈前〉28人→25人

農(農学生命/植物資源)…〈前〉33人→30人

農(農学生命/森林・環境共生)…〈前〉28人→25人

共通テスト：教育(学校/現代、国語、ものづくり・技術、家庭科、特別支援、心理支援)〈前〉

…国+歴公+数2+外+(理2 or 理基2)→国+数2+外+(歴公 or 理 or 理基2)→3

教育(学校/国語)〈後〉…国+歴公+外→国+歴公+数2+外+(理 or 理基2)

教育(学校/保健体育)〈後〉…国+外+(歴公 or 数2 or 理2 or 理基2)

→国+外+(歴公 or 数2 or 理2 or 理基2)→2

教育(学校/特別支援)〈後〉…国+歴公+数2+外+(理2 or 理基2)

→国+数2+外+(歴公 or 理 or 理基2)→3

医(医)〈前〉…国+歴公+数2+理2+外 ※理：物 or 化 or 生 or 地学

→国+歴公+数2+理2+外 ※理：物 or 化 or 生

農〈前〉〈後〉…国+数2+理2+外→国+歴公+数2+理2+外

個別試験：人文〈前〉〈後〉、経法〈前〉〈後〉…コロナ禍により、個別試験を中止し、調査書の点数化を取りやめ、

大学入学共通テストの成績でのみ選考する

教育〈前〉…面接(調査書の活用含む)実施を見送る ※コロナ禍対策によるもの

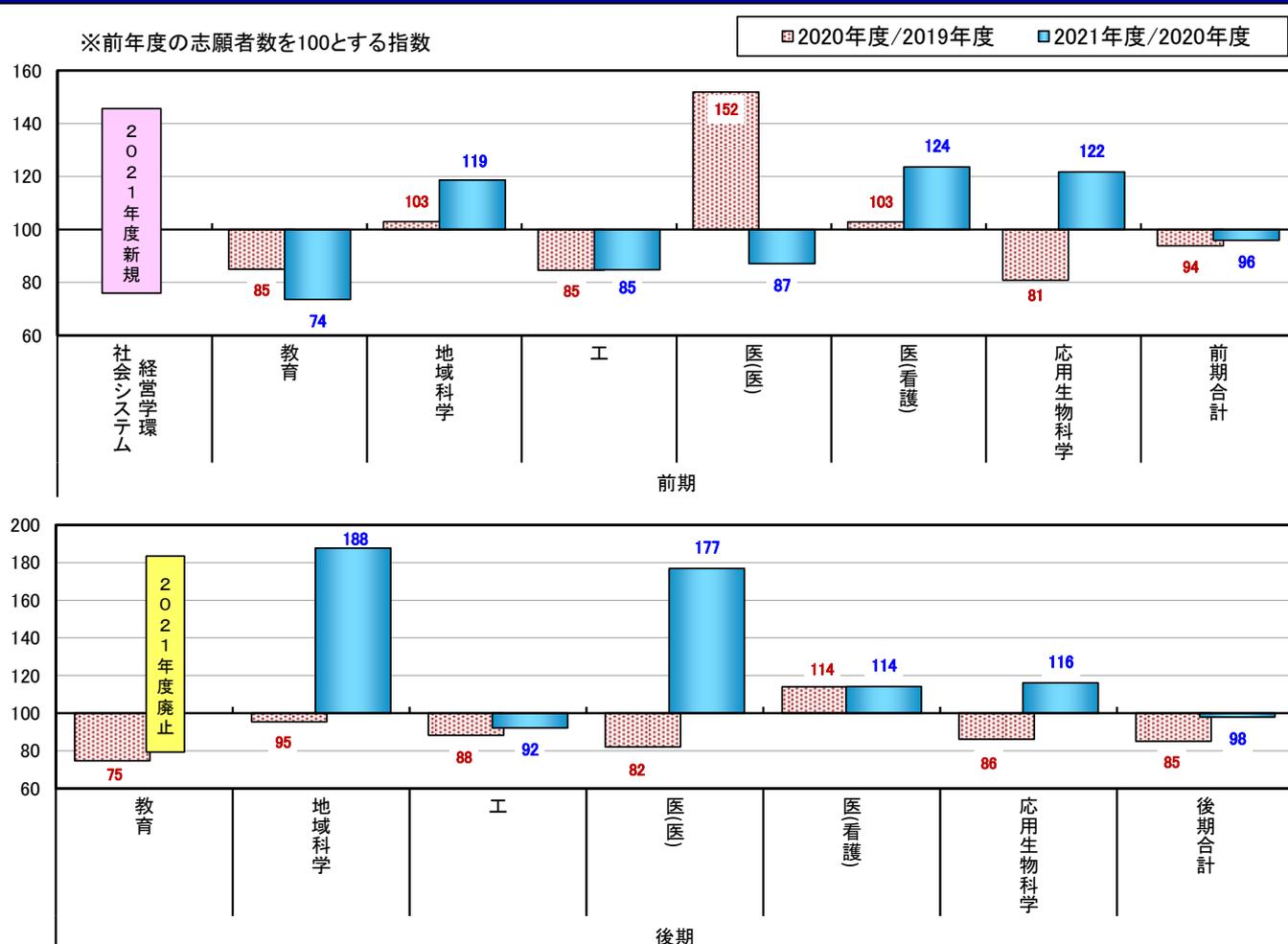
教育(学校/社会)〈前〉…歴公+(国 or 数 or 外)→歴公2+(国 or 外)

理(理/物質循環)〈前〉…論→総合問題

工(物質化学)〈後〉…面→理 ※理：化

	繊維(化学・材料)〈前〉…理 ※物 or 化 →理 ※物 or 化 or 生 農〈前〉…理2 ※物 or 化 →理 ※物 or 化 or 生 農〈後〉…面→理+調
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数	
大学全体では、前期は14人(100)減少の前年度並で、改組を行った2016年度以降では最少。後期は114人(96)のやや減少で2年連続減少、志願者数は3,000人を下回り、前期同様に改組を行った2016年度以降では最少。	
<前期日程> ○人文(71)は、個別試験中止の影響が大きく、大幅減少で2年連続減少。 ○経法(83)は、個別試験中止の影響が大きく、系統への低い人気も加わって大幅減少。学科別では、(応用経済)(76)は大幅減少で4年連続減少、(総合法律)(88)は減少。 ○教育(93)は、やや減少で2年連続減少。志願者数は300人を下回り、2016年度の改組後では最少となった。課程・コース別では、14コース中5コースが減少。(学校/保健体育)(127)、(学校/社会科)(125)、(学校/国語)(124)、(学校/現代)(118)、(学校/英語)(117)は大幅増加。一方で、(学校/ものづくり・技術)(48)、(学校/理科)(49)、(学校/数学)(78)、(学校/図画工作・美術)(79)は大幅減少。 ○理(118)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、6学科・コース中4学科・コースが増加。(理/物質循環)(205)は倍増以上の激増、(理/化学)(148)、(数学)(132)は大幅増加。一方で、(理/生物)(59)、(理/地球)(84)は大幅減少。 ○工(108)は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、(機械システム工)(83)の大幅減少を除く5学科はいずれも増加。特に(建築)(135)、(水環境土木工)(122)は大幅増加。 ○繊維(107)は、3年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(機械・ロボット)(181)は激増、(先進繊維・感性工)(119)は大幅増加。一方で、(応用生物科学)(74)は大幅減少。いずれも前年度の増減の反動。 ○医(医)(128)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。後期廃止翌年の2017年度以降、前年度の反動による増減が継続。 ○医(保健)(101)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。専攻別では、(保健/看護)(112)は増加、(保健/検査技術科学)(105)はやや増加。一方で、(保健/作業療法)(81)は大幅減少、(保健/理学療法)(95)はやや減少。 ○農(93)は、募集人員(前年度募集人員対比指数90)の減少もあり、やや減少で3年連続減少。学科・コース別では、(農学生命/植物資源)(127)は大幅増加。一方で、(農学生命/森林・環境共生)(72)は大幅減少、(農学生命/動物資源)(87)は減少、(農学生命/生命機能)(93)はやや減少。	
<後期日程> ○人文(75)は、3年連続増加の反動に加えて、個別試験中止の影響で大幅減少。 ○教育(76)は、大幅減少で2年連続減少。課程・コース別では、(学校/心理支援)(100)を除いて、大幅な増減。特に、(学校/特別支援)(229)は倍増以上の激増、(学校/数学)(174)、(学校/社会科)(150)、(学校/家庭科)(141)は大幅増加。一方で、(学校/英語)(45)、(学校/野外教育)(46)、(学校/図画工作・美術)(49)は50%以上の大幅減少。 ○理(113)は、4年連続減少の反動で増加。学科・コース別では6学科・コース中2学科・コースのみが増加。(理/化学)(264)は2.6倍以上、(理/物理)(186)は1.8倍以上の激増。一方で、(理/物質循環)(69)、(理/地球)(85)は大幅減少。 ○工(124)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(建築)(206)は倍増以上の激増、(物質化学)(148)、(機械システム工)(123)は大幅増加。一方で、(水環境土木工)(91)は減少、(電子情報システム工)(96)はやや減少。 ○繊維(81)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(応用生物科学)(134)、(先進繊維・感性工)(117)は大幅増加。一方で、(化学・材料)(56)は2年連続大幅増加の反動で激減、(機械・ロボット)(81)は大幅減少。 ○医(保健)(108)は、前年度大幅減少の反動で増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(125)は大幅増加、(保健/看護)(114)は増加。一方で、(保健/作業療法)(71)は大幅減少。 ○農(165)は、募集人員(前年度募集人員対比指数150)の増加と前年度大幅減少の反動で大幅増加。2018年度以降、前年度の反動による大幅増減が継続。	

岐阜大：前期はやや減少、後期は微減だが廃止の教育を除くと大幅増加 前期：-92人 後期：-68人



入試変更点

学環新設：社会システム経営学環
 選抜方法：後期廃止…教育(学校教育/国語、数学、理科、音楽、保健体育、技術、家政、英語、心理、特別支援)
 募集人員：教育(学校教育/国語)…<前>19人→16人、<後>3人→0人
 (学校教育/社会)…<前>28人→22人
 (学校教育/数学)…<後>6人→0人
 (学校教育/理科)…<前>20人→23人、<後>7人→0人
 (学校教育/音楽)…<前>7人→8人、<後>3人→0人
 (学校教育/保健体育)…<前>7人→13人、<後>7人→0人
 (学校教育/技術)…<前>6人→8人、<後>4人→0人
 (学校教育/家政)…<前>8人→6人、<後>2人→0人
 (学校教育/英語)…<前>14人→17人、<後>7人→0人
 (学校教育/学校教育-心理)…<前>8人→7人、<後>4人→0人
 (学校教育/学校教育-教職基礎)…<前>8人→10人
 (学校教育/特別支援)…<前>15人→13人、<後>3人→0人
 個別試験：教育(学校教育/国語、社会、家政、英語、学校教育、特別支援)<前>
 …(国 or 数 or 外)→2 →面+(国 or 数 or 外)→2
 (学校教育/数学、理科、技術)<前>…数+(国 or 外)→数+面+(国 or 理 or 外)
 (学校教育/音楽)<前>…実+(国 or 数 or 外)→面+実+口述試験+(国 or 数 or 外)
 (学校教育/保健体育)<前>…実+(国 or 数 or 外)→実+面

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は92人(96)のやや減少で3年連続減少、新設の社会システム経営学環を除くと(92)の減少。後期も68人(98)の微減だが3年連続減少、ただし後期廃止となった教育を除くと(123)の大幅増加。

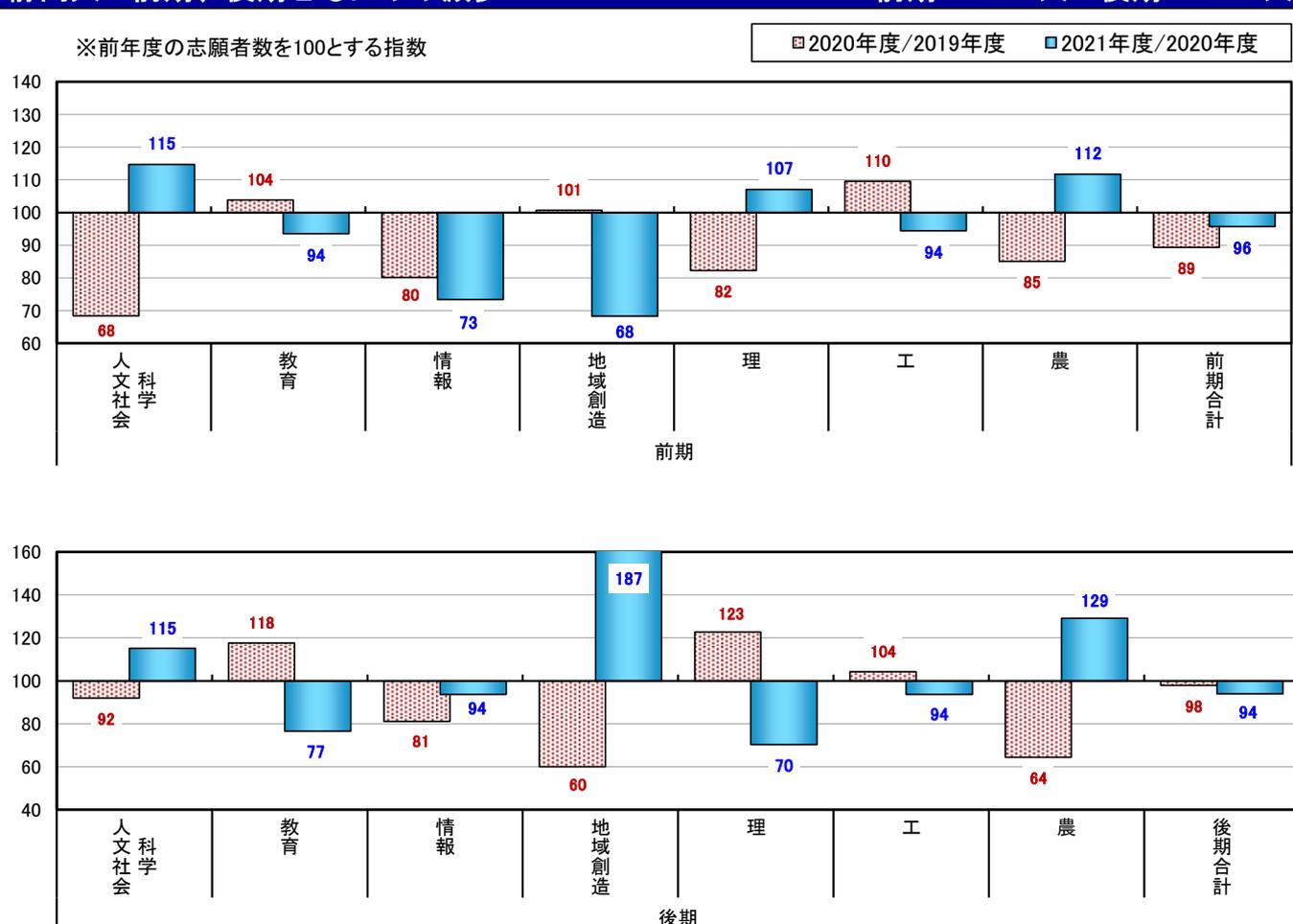
<前期日程>
 ○新設の社会システム経営学環は、志願者数83人で志願倍率は5.5倍で、前期全体の志願倍率3.2倍を上回った。
 ○後期日程を廃止した教育(74)は、3年連続大幅減少。課程・講座・専攻・コース別では、(学校教育/学校教育-教職基礎)(160)は2年連続大幅減少の反動に加えて、募集人員の増加(募集人員の前年度対比指数125)の影響も加わり、1.6倍の激増、(学校教育/特別支援)(128)も大幅増加で、募集人員の減少(募集人員の前年度対比指数87)も加わり、志願倍率は1.7倍→2.5倍へアップ。一方で、(学校教育/美術)(57)、(学校教育/家政)(57)、(学校教育/理科)(57)、(学校教育/技術)(63)、(学校教育/国語)(67)、(学校教育/心理)(75)は大幅減少。

- 地域科学**(119)は、大幅増加で前年の微増に引続き、2年連続増加。
- 工**(85)は、2年連続大幅減少、2019年度のやや減少を加えて3年連続減少。学科・コース別では、(電気電子・情報工/電気電子)(118)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、(機械工/知能機械)(106)、(化学・生命工/物質化学)(104)はいずれも前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。一方で、(社会基盤工)(48)は半減以下の大幅減少で、志願倍率は2.3倍までダウン。また、(機械工/機械)(64)、(化学・生命工/生命化学)(77)、(電気電子・情報工/応用物理)(85)はいずれも2年連続大幅減少。
- 医(医)**(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。志願倍率も11.1倍→9.6倍にダウン。
- 医(看護)**(124)は、大幅増加で2年連続増加。
- 応用生物科学**(122)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科・課程別では3学科・課程の全てが増加で、(生産環境科学)(129)、(応用生命科学)(126)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。(共同獣医)(108)は増加だが、3年連続減少の反動は小さく、志願倍率は3.7倍と2年連続で4倍を下回った。

＜後期日程＞

- 地域科学**(188)は、2年連続減少の反動で1.8倍以上の激増。
- 工**(92)は、減少で2年連続減少。学科・コース別では、(社会基盤工)(138)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(電気電子・情報工/電気電子)(103)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(電気電子・情報工/応用物理)(59)は大幅減少、(化学・生命工/物質化学)(83)は2年連続大幅減少、(化学・生命工/生命化学)(84)は大幅減少で、3年連続減少。
- 医(医)**(177)は、前年度大幅減少で2年連続減少だった反動で1.7倍以上の激増。志願倍率45.6倍は近年では募集人員が35人だった2013年度の52.1倍以来の高倍率。
- 医(看護)**(114)は、2年連続増加。
- 応用生物科学**(116)は、2年連続減少の反動で大幅増加。課程別では、(生産環境科学)(124)は大幅増加で志願倍率は10.2倍と2013年度以来の10倍を上回った。(応用生命科学)(109)は増加で2年ぶりに志願者数が100人に達した。

静岡大：前期、後期ともにやや減少 前期：-121人 後期：-229人



入試変更点

選抜方法：理(創造理学(グローバル人材育成)コース)＜前＞…新規実施
 募集人員：人文社会(法)…＜前＞53人→57人
 教育(学校/美術)…＜前＞6人→7人、＜後＞5人→4人
 理(創造理学)…＜前＞0人→7人、＜後＞10人→7人
 工(数理システム工)…＜前＞21人→25人
 共通テスト：人文社会(社会、言語文化)＜後＞…国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2)
 →国+歴公2+数2+外+(理 or 理基2)

	<p>(法)〈後〉…外+{国 or 歴公 or 数 or (理 or 理基 2)}→2 →国+歴公 2+数 2+外+(理 or 理基 2)</p> <p>(経済)〈後〉…国+歴公+数 2+外+(理 or 理基 2) →国+歴公 2+数 2+外+(理 or 理基 2)</p> <p>教育(学校/美術)〈後〉…国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基 2) →国+数 2+外+(歴公 or 理 or 理基 2)→3</p> <p>理(創造理学)〈後〉…数 2+理 2+外→国+歴公+数 2+理 2+外</p> <p>個別試験：人文社会(社会、言語文化)〈前〉…国+外→国+外+論 (法)〈前〉…国+外 ※国：現+古+漢→国+外 ※国：現+論(小論文形式での出題を含む)</p> <p>教育(学校/音楽、美術、保健体育を除く)〈前〉…(国 or 数 or 外)→2 →論+(国 or 数 or 外)→2 (学校/音楽、美術、保健体育)〈前〉…実→論+実 (学校/数学、美術を除く)〈後〉…面→面(小論文を含む) (学校/美術)〈後〉…実→面(小論文を含む)</p> <p>理(化学)〈後〉…理→理+論 農(応用生命科学)〈後〉…理→理+面</p>
--	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 121 人(96)のやや減少で、学部・学環別では、人文社会科学(115)は大幅増加。後期は 229 人(94)のやや減少で、学部・学環別では、地域創造学環、農、人文社会科学は前年度の反動で大幅増加。

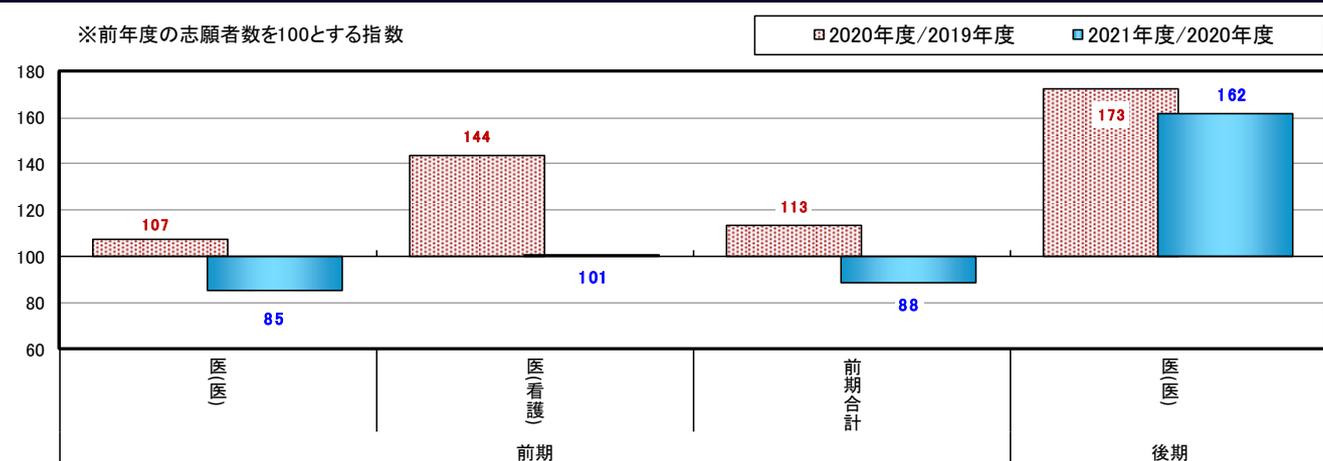
＜前期日程＞

- 人文社会科学(115)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、募集人員が 4 人増加の(法)(59)は個別試験の国語に小論文形式の出題を含むという変更の影響で大幅減少、志願倍率も 3.4 倍→1.9 倍と 2 倍を下回った。(経済)(184)は 2 年連続減少の反動で激増、(社会)(140)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 教育(94)は、やや減少で 3 年ぶりに減少。専攻・専修別では増加した 9 つの専攻・専修は全て 20%以上の大幅増加で、特に(学校教育/教科教育-家庭)(270)、(学校教育/教科教育-技術)(209)は 2 倍以上の激増。一方で、減少した 7 つの専攻・専修も 20%以上の大幅減少で、特に(学校教育/発達教育-実践教育)(27)は 70%以上の激減、(学校教育/教科教育-理科)(39)、(学校教育/教科教育-保健体育)(40)も激減。
- 情報(73)は、2 年連続大幅減少。3 学科全てが減少で、(情報社会)(51)はほぼ半減、(行動情報)(69)は大幅減少。文系型の(行動情報)〈選抜区分 B〉(59)は 3 年連続増加の反動で激減。
- 地域創造学環(68)は、大幅減少。コース別では、3 コースとも大幅減少で、特に(アート系)(50)は 2 年連続大幅増加の反動で半減。
- 理(107)は、2 年連続減少の反動でやや増加。新規実施の(創造理学コース)を除くと(99)の前年度並。学科別では、(地球科学)(141)、(数学)(130)は大幅増加。一方で、(物理)(64)、(生物科学)(68)は大幅減少と対照的。
- 工(94)は、2 年連続増加の反動でやや減少。学科別では、(電気電子工)(146)は大幅増加、(数理システム工)(105)はやや増加。一方で、(化学バイオ工)(58)は激減、(電子物質科学)(77)は大幅減少、(機械工)(95)はやや減少。
- 農(112)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(応用生命科学)(162)が大幅増加だが、(生物資源科学)(85)は大幅減少と対照的で、いずれも前年度とは逆の増減。

＜後期日程＞

- 人文社会科学(115)は、大幅増加。学科別では(経済)(188)は激増で 3 年連続増加。一方で、(法)(73)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 教育(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻・専修別では減少した 6 つの専攻・専修は全て 20%以上の大幅減少で、特に(学校教育/教科教育-家庭)(41)は前年度倍以上の激増の反動で大幅減少、(学校教育/教科教育-数学)(54)は前年度 3 倍以上の激増の反動で大幅減少。一方で、(学校教育/教科教育-国語)(150)、(学校教育/養護教育)(126)はいずれも大幅増加で、前年度とは逆の増減。
- 情報(94)は、やや減少で 2 年連続減少。学科別では、(行動情報)(116)が大幅増加。一方で、(情報科学)(78)は大幅減少で 2 年連続減少。
- 地域創造学環(187)は、激増で、前年度の反動による増減が継続。
- 理(70)は、2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、(数学)(172)は前年度大幅減少の反動で激増、(物理)(125)は大幅増加で 3 年連続増加。一方で、募集人員が 3 人減少の(創造理学コース)(21)は前年度激増の反動に加えて、共通テストが 3 教科型から国語と地歴・公民が加わった 5 教科型になったこともあり激減。
- 工(94)は、3 年連続増加の反動は小さくやや減少。学科別では、(電子物質科学)(110)は増加で 2 年連続増加、(数理システム工)(110)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(電気電子工)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(機械工)(84)は大幅減少で 3 年連続減少。
- 農(129)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では 2 学科がいずれも大幅増加。

浜松医科大：医(医)は前期大幅減少、後期は2年連続激増 前期：-57人 後期：+136人



入試変更点 募集人員：医(医)…(一般枠)〈前〉66人→64人、〈後〉14人→15人
(地域医療枠)〈前〉9人→11人、〈後〉1人→なし ※地域医療枠〈後〉廃止

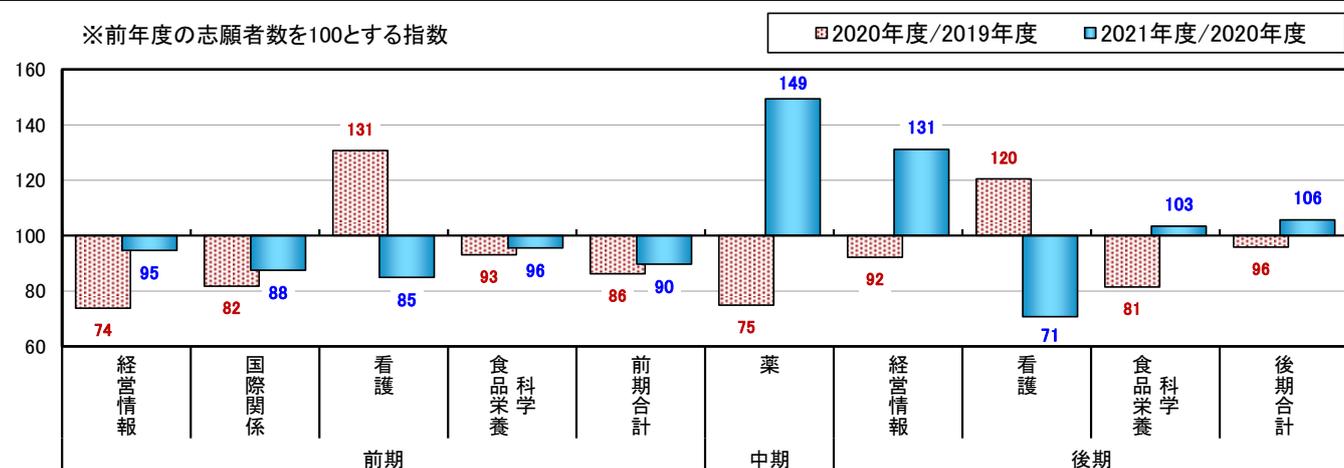
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

医(医)は、前期は58人(85)の大幅減少、後期は136人(162)で2年連続激増。前期のみ募集の医(看護)は、1人(101)の微増だが、4年連続増加。

<前期日程>
○医(医)(85)は、〈一般枠〉(94)は2年連続減少したが、募集人員も2人減少で、志願倍率は4.7倍→4.6倍と前年度並。志願者数は3年ぶりに300人を下回った。新設2年目の〈地域医療枠〉(51)は、募集人員が2人増加だが半減で、志願倍率も8.6倍→3.5倍にダウン。

<後期日程>
○医(医)(162)は、個別試験が小論文と面接なので、共通テストの平均点アップにより共通テストでの逃げ切りを考える受験生に狙われて、2年連続で激増。今年度より〈地域医療枠〉が廃止になったが、存続した〈一般枠〉のみでは(181)と80%以上の激増とさらに高い増加率だった。これにより、志願倍率も14.1倍→23.8倍にアップ。

静岡県立大：前期は減少、中期は大幅増加 前期：-109人 中期：+367人 後期：+20人



入試変更点 募集人員：国際関係(国際関係)…〈前〉47人→42人
(国際言語文化)…〈前〉94人→84人
看護(看護)…〈前〉70人→85人
個別試験：看護(看護)〈前〉…外+面→面

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は109人(90)の減少で2年連続減少。薬のみ募集の中期は、367人(149)の大幅増加で、2017年度以降前年度の反動による増減が継続。後期は20人(106)のやや増加で、2015年度以降前年度の反動による増減が継続。

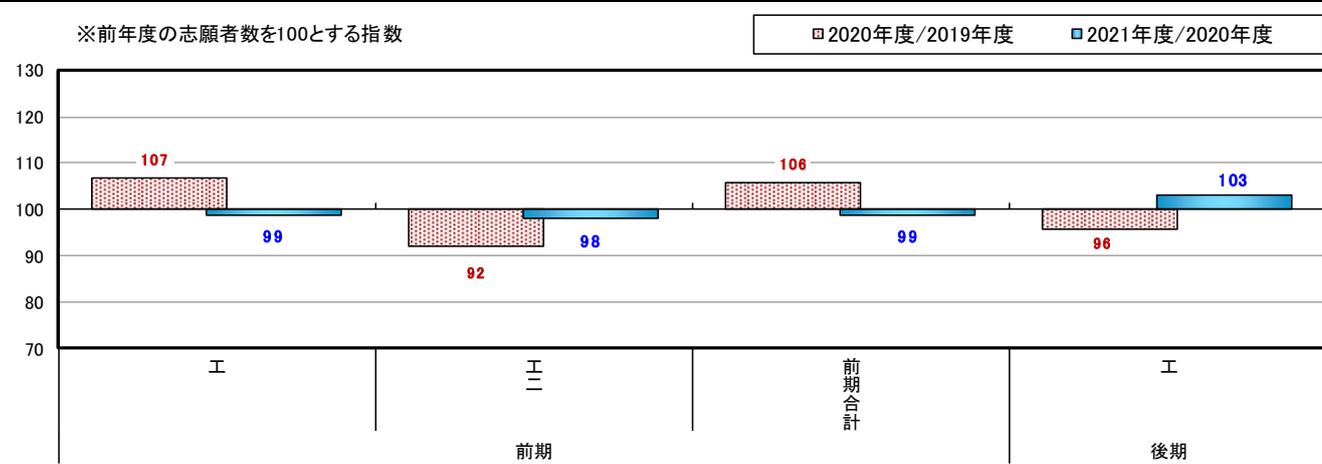
<前期日程>
○経営情報(95)は、やや減少で2年連続減少。志願倍率は4.1倍→3.0倍→2.9倍にダウン。
○国際関係(88)は、減少で2年連続減少。学科別では、(国際関係)(155)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(国際言語文化)(60)は大幅減少で2年連続減少。
○看護(85)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少となり、募集人員増加もあり志願倍率は2.4倍→1.7倍と2倍を下回った。
○食品栄養科学(96)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(栄養生命科学)(122)は2年連続減少の反動で大幅増加、(食品生命科学)(122)も大幅増加。一方で、(環境生命科学)(60)は大幅減少。

〈後期日程〉

- 経営情報(131)は、大幅増加で、2014 年度以降前年度の反動による増減が継続
- 看護(71)は、2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は 21.2 倍→15.0 倍にダウン。
- 食品栄養科学(103)は、やや増加で、2017 年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、(食品生命科学)(175)は前年度大幅減少の反動で激増。一方で、(環境生命科学)(71)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。

名古屋工業大：前期は微減、後期はやや増加

前期：-23 人 後期：+66 人



入試変更点 募集人員：工(電気・機械工)〈前〉…110 人→105 人、〈後〉…70 人→65 人
提出書類：エントリーカード…工(創造工学教育課程)のみ提出→工(全学科・課程)、工二(全学科)が提出

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 23 人(99)の微減。工のみでも 21 人(99)の微減。大学全体および工はそれぞれ微減だが、2016 年度の改組以降、翌年度から前年度の反動による増減が続いている。後期は工のみの募集で、前年度やや減少の反動で、66 人(103)のやや増加。

〈前期日程〉

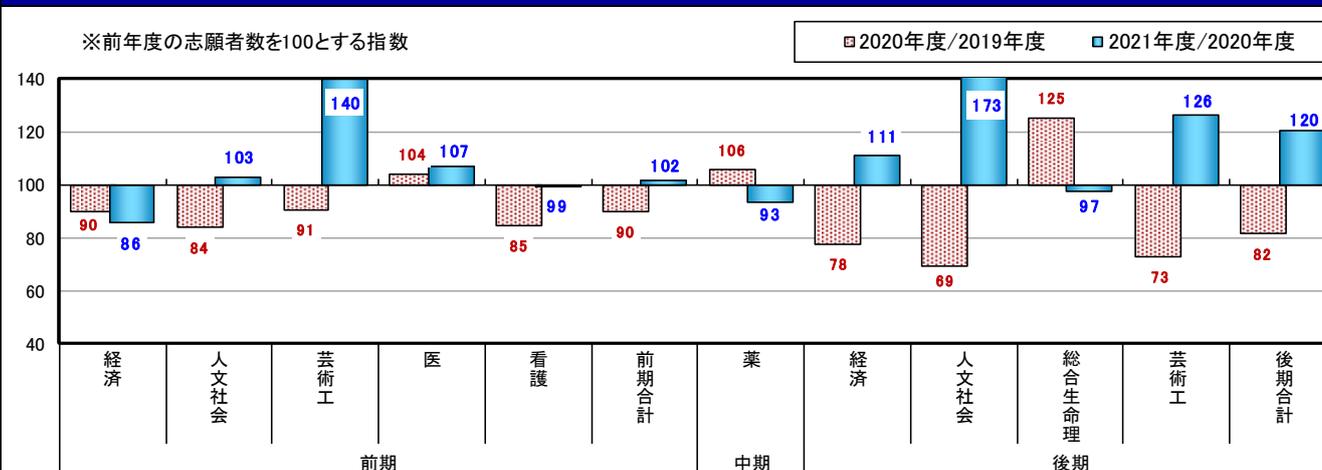
- 工(99)は、微減。学科・コース・分野別(以下、「募集単位別」)では、9 募集単位中、(社会工/建築・デザイン)が前年度と志願者数が同数だったが、これを除くと増減が 4 募集単位ずつに分かれた。増加した募集単位では、(創造工学/情報・社会)(292)は前年度大幅減少、(社会工/環境都市)(264)は前年度激減、(創造工学/材料・エネルギー)(215)は 2 年連続大幅減少とこれらの反動によりいずれも倍増以上となった。一方で、減少した募集単位では(物理工)(68)、(生命応用化学)(79)がいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少となった。

〈後期日程〉

- 工(103)は、やや増加。学科・コース・分野別(以下、「募集単位別」)では、9 募集単位中 5 募集単位が増加と増減はほぼ均衡した。増加した募集単位では、(創造工学/情報・社会)(214)は系統への高い人気から倍増以上の増加、(社会工/環境都市)(146)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(物理工)(142)は前年度の大減反動で 40%以上の大幅増加となった。一方で、減少した募集単位では、(社会工/経営システム)(95)がやや減少だったが、他の 3 募集単位はいずれも 10%を超える減少率だった。

名古屋市立大：中期のみ減少、後期は大幅増加

前期：+26 人 中期：-76 人 後期：+246 人



入試変更点 募集人員：芸術工(情報環境デザイン) … 〈前〉13 人→16 人、〈後〉13 人→10 人
芸術工(産業イノベーションデザイン) … 〈前〉13 人→16 人、〈後〉13 人→10 人
医(医) … 〈前〉70 人→60 人

	個別試験：総合生命理(総合生命理)〈後〉…理の選択方法変更 ※物、化、生から各2問、計6問のうちから4問選択 →物 or 化 or 生から1科目選択 芸術工(情報環境デザイン)〈前〉…数+外+実→数+外+(論 or 実) 医(医)〈前〉…物 or 化 or 生→物+化
--	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は2年連続減少の反動は小さく26人(102)の微増に留まった。薬のみの中期は、前年度3年ぶりにやや増加した反動で76人(93)の減少となり再び減少に転じた。学科別では、いずれも反動で(生命薬科学)(89)は減少、(薬)(96)はやや減少。後期は大幅減少の反動から246人(120)の大幅増加。

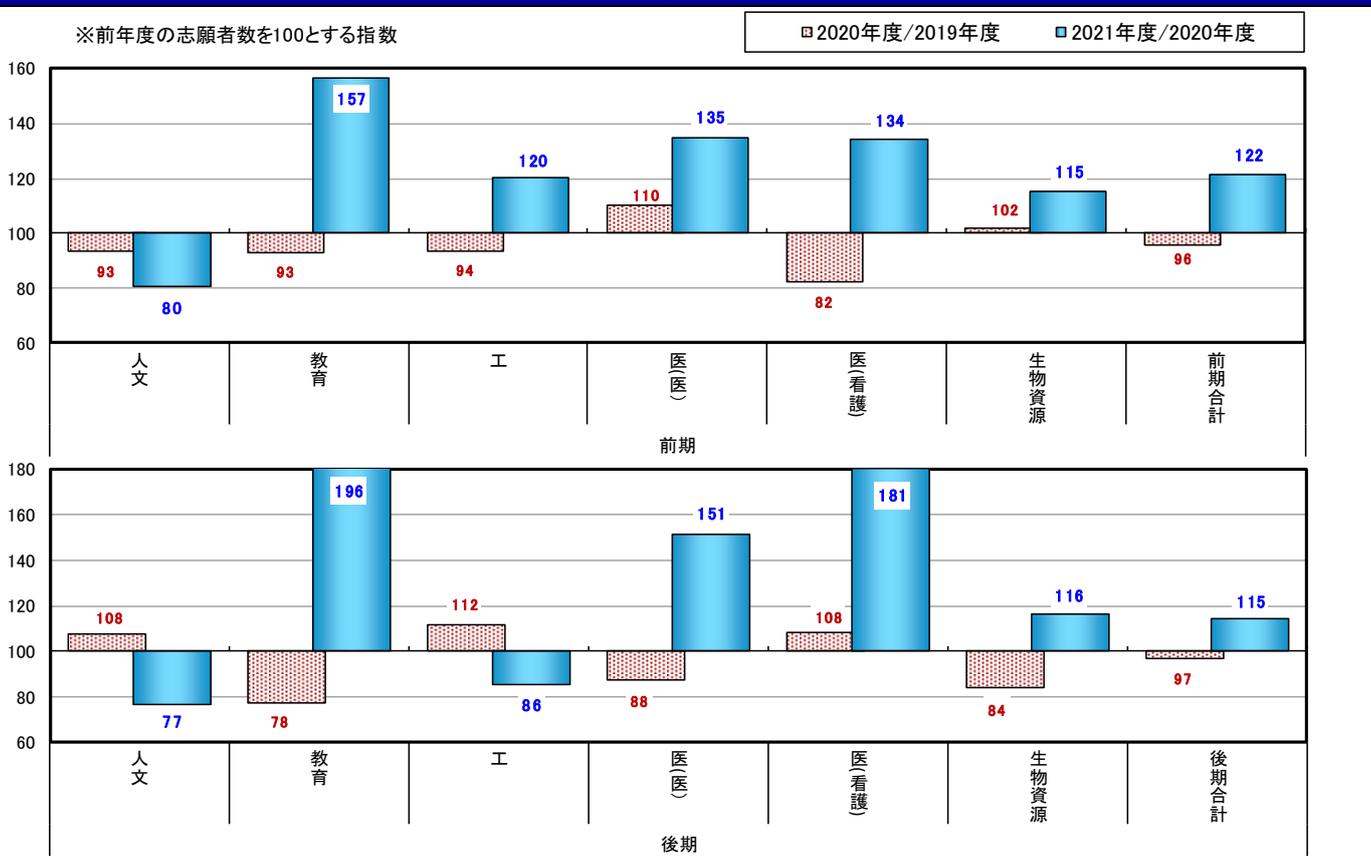
〈前期日程〉

- 経済(86)**は、減少で2年連続減少。志願倍率は4.0倍→3.5倍にダウン。
- 人文社会(103)**は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(国際文化)(113)は前年度大幅減少の反動で増加、(現代社会)(102)は前年度大幅減少の反動は小さく微増。一方で(心理社会)(97)はやや減少で2年連続減少。
- 芸術工(140)**は、前年度減少の反動で大幅増加。2013年度より前年度の反動による増減が継続。学科別では(情報環境デザイン)(170)は今年度より、個別試験で実技の他に小論文での受験も可能になった影響もあり激増で、2年連続増加。(産業イノベーションデザイン)(143)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。2015年度より前年度の反動による増減が継続。(建築デザイン)(124)も前年度やや減少の反動で大幅増加。
- 医(107)**は、募集人員が10人減少にもかかわらず、やや増加で2年連続増加。志願倍率は、2.8倍→3.5倍にアップ。なお、第1段階選抜の基準は共通テストの総配点550点中400点以上(概ね73%以上)にすると1月20日に公表された。
- 看護(99)**は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。

〈後期日程〉

- 経済(111)**は、前年度大幅減少の反動で増加。2013年度より前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈Mコース〉(133)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、〈Eコース〉(91)は減少で3年連続減少。
- 人文社会(173)**は、2年連続減少の反動で激増。学科別では、3学科とも大幅減少の反動で、(現代社会)(208)は倍増以上、(国際文化)(191)は激増、(心理教育)(135)は大幅増加。
- 総合生命理(97)**は後期のみ募集だが、2018年度の新設以降2年連続増加したが、その反動は小さくやや減少。
- 芸術工(126)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。(産業イノベーションデザイン)(157)は前年度半減近かった反動で大幅増加、(建築都市デザイン)(143)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(情報環境デザイン)(81)は2年連続大幅減少。

三重大：前期・後期ともに大幅増加で、4年ぶりに増加 前期：+542人 後期：+318人



入試変更点	廃止・改称：教育(学校/数学)…数学教育専攻・情報教育専攻→数学教育コース ※情報教育専攻廃止し、数学教育専攻の名称変更 選抜方法：工〈後〉調査書の扱い変更…各コースの合否ラインに同点で並んだ場合、調査書を総合的に評価し順位を付ける ※(総合/建築)を除く
-------	--

<p>募集人員：人文(文化)〈後〉…23人→18人 教育(学校/国語・初等)〈前〉…10人→11人 (学校/社会・初等)〈前〉…7人→8人 (学校/数学・初等)〈前〉…8人→9人 (学校/理科・初等)〈前〉…5人→10人 (学校/音楽・初等)〈前〉…3人→4人 (学校/美術・初等)〈前〉…5人→6人 (学校/保体・初等)〈前〉…5人→6人 (学校/技術・初等)〈前〉…4人→5人 (学校/家政・初等)〈前〉…4人→5人 (学校/英語・初等)〈前〉…5人→6人</p> <p>共通テスト：人文(文化)〈後〉…〔外+{国 or 歴公 or 数 or (理 or 理基2)}〕→2〕 →国+歴公2+数2+外+(理 or 理基2) (法律経済)〈後〉…〔外+{国 or 歴公 or 数 or (理 or 理基2)}〕→2〕 →〔国+数2+外+{歴公 or (理 or 理基2)}〕→3〕 教育(学校/音楽・初等)〈後〉…〔{国 or 歴公 or 数2 or 外 or (理 or 理基2)}〕→3〕 →国+歴公+数2+外+(理 or 理基2)</p> <p>個別試験：教育(学校/国語)〈前〉…{(国 or 数 or 外)→2}→国+(数 or 外) 医(看護)〈前〉…外+面→外+面+(国 or 数) 人文〈後〉…論→論+ペーパーインタビュー ※ペーパーインタビューは志望理由についての350~400字程度の記述試験 生物資源〈後〉…数 or 理→(数 or 理)+ペーパーインタビュー ※ペーパーインタビューは字数制限のある記述試験</p>
--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は3年連続減少の反動で542人(122)の大幅増加、志願者数は2013年度以来の3,000人を上回った。後期も3年連続減少に反動で318人(115)の大幅増加、志願者数は2,500人を上回った。

＜前期日程＞

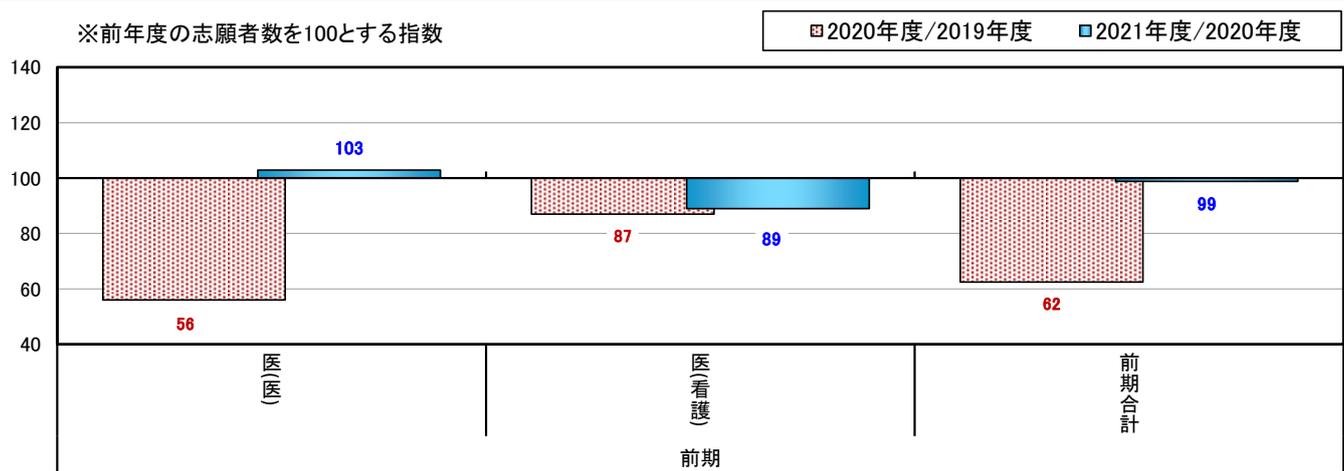
- 人文(80)**は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(文化)(60)は2年連続増加の反動で40%の大幅減少で、志願倍率は2倍を下回った。(法律経済)(95)はやや減少で3年連続減少、志願者数は2013年度以来の300人を下回った。
- 教育(157)**は、約60%の大幅増加で、志願者数は2008年度以来の800人を上回った。課程・コース・専攻・選修別(以下「募集単位別」)では、24募集単位中14募集単位が増加と増加した募集単位別が目立った。増加した募集単位では、(学校教育/学校-教育学)(1408)は前年度減少率70%を超える激減で志願倍率も6.1倍→1.7倍に大幅ダウンした反動と、データネット(駿台・ベネッセ主催共通テスト自己採点集計)時点での志望者数が半減だったことによる志望変更による流入も加わって激増。(学校教育/保健体育-初等)(567)は2年連続大幅減少の反動で激増。一方で減少した募集単位では、(学校教育/技術-中等)(36)、(学校教育/技術-初等)(44)、(学校教育/家政-初等)(44)は半減以下の大幅減少。
- 工(120)**は改組後3年目だが、大幅増加。コース別では、(総合工/総合工)(271)は前年度半減以下の反動で約2.7倍の激増、(総合工/応用化学)(140)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(総合工/電気電子工)(73)、(総合工/機械工)(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 医(医)(135)**は、大幅増加で2年連続増加。系統への人気が高まりもあって、志願者数は2017年度以来の400人を上回り、志願倍率も4.0倍→5.3倍にアップ。
- 医(看護)(134)**は、個別試験の科目負担増があったが、系統への人気の高まりと2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 生物資源(115)**は、前年度の微増に引続き大幅増加で、志願者数は3年ぶりに400人を上回った。学科別では、(海洋生物資源)(150)が2017年度の改組後減少が続いていた反動で1.5倍増の大幅増加。(共生環境)(126)は3年連続大幅減少の反動で大幅増加。

＜後期日程＞

- 人文(77)**は、系統への低い人気に加えて、2年連続増加の反動で大幅減少、募集人員が減少(前年度募集人員対比指数91)したが、志願倍率は7.8倍→6.6倍にダウン。学科別では、(文化)(50)は前年度激増の反動に加え、募集人員が減少(前年度募集人員対比指数78)および共通テスト科目負担増への敬遠から半減、一方で、(法律経済)(116)は前年度大幅減少の反動で増加、志願者数は2年ぶりに200人を上回った。
- 教育(196)**は、前年度大幅減少の反動で倍増近い増加。2014年度の改組後、前年度の反動による増減が継続。募集単位別では後期募集を行う10募集単位中、増加した募集単位は8募集単位と増加が目立った。増加した募集単位では、(学校教育/保健体育-初等)(524)は3年連続減少、しかも過去2年は大幅減少だった反動で5倍以上激増。(学校教育/数学-初等)(370)は、3.7倍の激増。(学校教育/特別支援)(297)は前年度約半減だった反動で、(学校教育/社会-初等)(293)は5年連続減少の反動で、いずれも3倍近い激増。一方で減少した募集単位では、(学校教育/音楽-初等)(65)は大幅減少、(学校教育/社会-中等)(96)はやや減少。
- 工(86)**は、前年度増加の反動で減少、志願者数は2019年度の改組後では最も少なくなった。コース別では、(総合工/建築)(169)は激増で2年連続増加。(総合工/電気電子工)(124)は大幅増加、一方で、(総合工/機械工)(57)は前年度増加の反動で減少率60%を超える大幅減少、(総合工/応用化学)(64)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(総合工/情報工)(84)は大幅減少で2年連続減少。
- 医(医)(151)**は、約1.5倍の大幅増加。2年連続大幅減少の反動と、共通テストの平均点アップにより、共通テスト重視の配点および個別試験が小論文だけなので、共通テストの高得点を生かそうとした層に狙われた。
- 医(看護)(181)**は、系統への高い人気と共通テストの平均点アップにより、共通テスト重視の配点および個別試験が小論文だけなので、共通テストの高得点を生かそうとした層に狙われて激増。
- 生物資源(116)**は、2017年度の改組後、3年連続減少した反動で大幅増加。学科別では、(資源循環)(199)は前年度は約半減で2年連続大幅減少だった反動で倍増、一方で(共生環境)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

滋賀医科大：医(医)はやや増加、(看護)は2年連続減少

前期：-4人



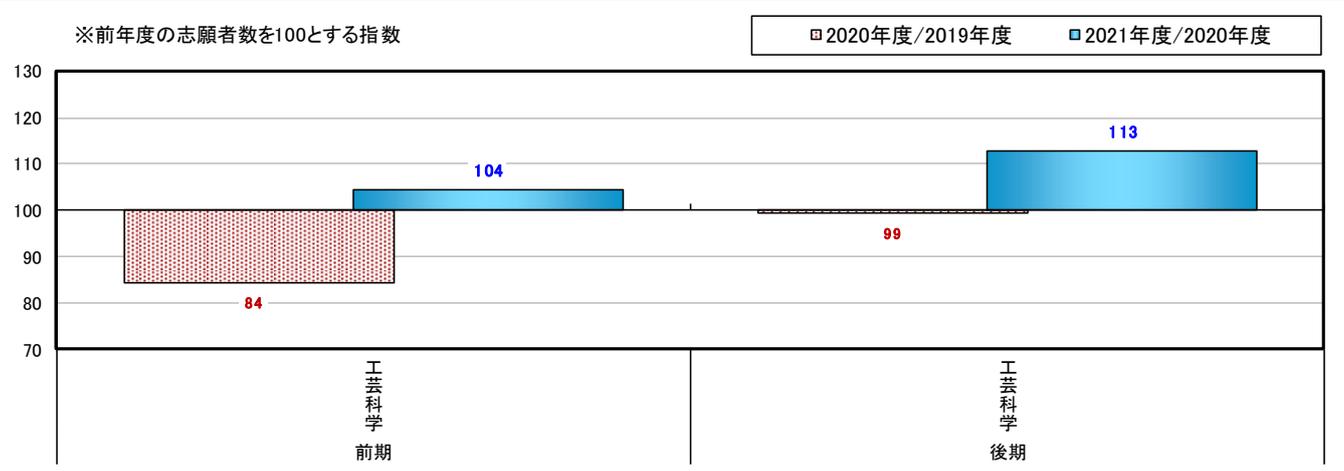
入試変更点 募集人員：医(看護)・・・前>50人→45人
 共通テスト：医(医)＜前>・・・英(筆記(100点))※リスニングは利用しない
 →英(リーディング(160点)+リスニング(40点))を100点満点に換算
 医(看護)＜前>・・・英(筆記(200点))※リスニングは利用しない
 →英(リーディング(160点)+リスニング(40点))

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
 大学全体で前期のみの募集。医(医)は、7人(103)のやや増加で6年ぶりに増加に転じた。医(看護)は、11人(89)の減少で2年連続減少。ただし、募集人員が5人減少(募集人員の前年度対比数90)なので、志願倍率は2.00倍→1.98倍とほぼ前年度並。

＜前期日程＞
 ○医(医)(103)は、方式別では＜一般枠>(113)は、前年度から＜地域医療枠>の新設に伴い募集人員が75人→55人に20人減少したが、変更後2年目となる今年度は22人(113)の増加。しかし、志願倍率は3.6倍に留まり、2年連続4倍を下回った。新設2年目の＜地域医療枠>(78)は、15人で20%以上の大幅減少で、志願倍率も13.6倍→10.6倍にダウン。

京都工芸繊維大：前期、後期ともに4年ぶりに増加

前期：+49人 後期：+172人



入試変更点 個別試験：工芸科学(デザイン科学/デザイン・建築)＜前>・・・数+外+(実 or 総合問題)→数+外+総合問題

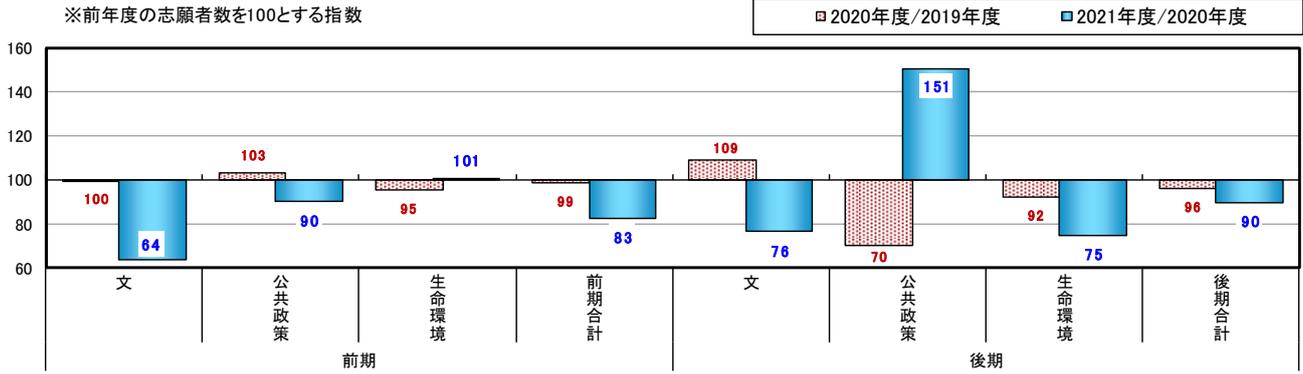
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
 大学全体では、前期は49人(104)のやや増加、後期は172人(113)の増加。前期、後期ともに3年連続減少の反動。

＜前期日程＞
 ○工芸科学(104)は、やや増加。学域・課程別では、(デザイン科学/デザイン・建築)(116)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、(設計工/電子システム工)(112)は2年連続大幅減少の反動で増加。一方で、(応用生物/応用生物)(81)は大幅減少で2017年度の改組翌年から4年連続減少、(設計工/機械工)(90)は前年度大幅増加の反動で減少。

＜後期日程＞
 ○工芸科学(113)は、増加。学域・課程別では、(設計工/機械工)(216)が倍以上の増加、志願倍率は8.0倍→17.3倍にアップ。(デザイン科学/デザイン・建築)(160)は前年度大幅減少の反動で激減。一方で、(設計工/電子システム工)(48)が前年度倍増の反動で半減以下、(応用生物/応用生物)(55)は、ほぼ半減。

京都府立大：前期、後期、ともに2年連続減少

前期：-177人 後期：-67人



入試変更点

調査書：全学部<前><後>…特に利用なし→調査書を点数化して加点
 募集人員：文(日本・中学文)…<前>20人→19人
 (欧米言語文化)…<前>18人→14人、<後>4人→5人
 (歴史)…<後>7人→5人
 (和食文化)…<前>16人→15人
 公共政策(公共政策)…<後>8人→7人
 (福祉社会)…<後>8人→7人
 生命環境(環境デザイン)…<前>25人→30人、<後>5人→0人 ※後期日程廃止
 (環境・情報科学)…<前>20人→19人
 (森林科学)…<後>6人→5人
 (生命分子化学)…<後>5人→3人
 共通テスト：文(日本・中国文、欧米言語文化、歴史)<前>…国+歴公+外→国+歴公+数+外+(理 or 理基2)
 (和食文化)<後>…国+歴公+数+理+外 ※理：化 or 生
 →国+歴公+数+理+外 ※理：物 or 化 or 生 or 地学
 個別試験：生命環境(森林科学)<前>…数+理2+外→数+理2

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は177人(83)の大幅減少、後期は67人(90)の減少で、ともに2年連続減少。

<前期日程>

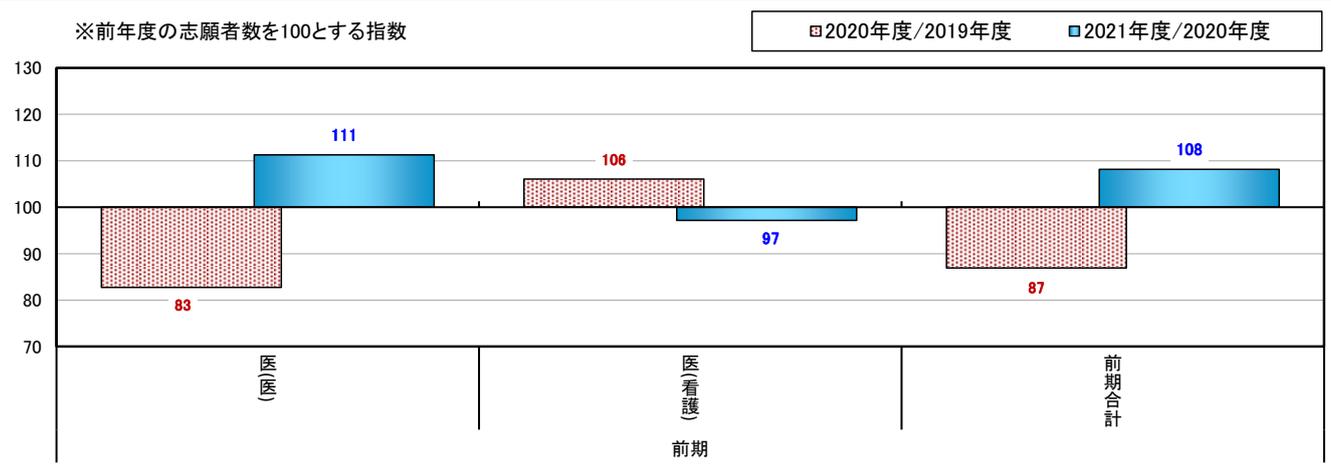
- 文(64)は、共通テストで数学と理科が追加になったことが敬遠され、大幅減少。学科別では、(歴史)(61)、(日本・中国文学)(61)が、3年連続増加の反動もあり大幅減少。(欧米言語文化)(69)は、募集人員を18人から14人に減らしたことも影響し、2年連続大幅減少。開設3年目の(和食文化)(72)は、前年度大幅増加の反動もあり大幅減少。
- 公共政策(90)は、2年ぶりに減少。学科別では、(公共政策)(114)は2年連続増加。(福祉社会)(65)は大幅減少で、4年連続増加なし。
- 生命環境(101)は、3年連続減少の反動はなく、前年度並。学科別では、(環境デザイン)(137)は前年度減少の反動と募集人員の25人から30人への増員(募集人員前年度対比指数120)の影響があつて大幅増加。(農学生命科学)(123)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(生命分子化学)(61)、(森林科学)(72)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。(森林科学)は個別試験の科目負担の軽減の影響は見られなかった。

<後期日程>

- 文(76)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(欧米言語文化)(108)が唯一前年度大幅減少の反動で増加したが、募集人員増員により志願倍率は29.5倍→25.6倍にダウンし競争は緩和。他の3学科はいずれも大幅減少。(和食文化)(58)は激減で、志願倍率も3.8倍→2.2倍にダウン。(日本・中国文学)(64)は3年連続大幅増加の反動で大幅減少。(歴史)(65)は2年連続大幅増加の反動により大幅減少、募集人員減員にもかかわらず、志願倍率は23.1倍→21.0倍にダウン。
- 公共政策(151)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加、2010年度から前年度の反動による増減が継続。学科別では、(公共政策)(163)、(福祉社会)(128)のいずれも大幅増加。
- 生命環境(75)は、今年度から(環境デザイン)の後期募集を廃止したから、4年連続減少。ただし、存続する3学科での比較では(122)で2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(生命分子化学)(158)、(農学生命科学)(143)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方、(森林科学)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

京都府立医科大：医(医)は前期増加、(看護)はやや減少

前期：+26人



入試変更点 第1段階選抜基準変更：医(医)＜前＞…4倍→3倍
 (看護)＜前＞…5倍→3倍
 個別試験：医(医)＜前＞…数+理2+外+面→数+理2+外+面+論
 (看護)＜前＞…論+面→総合問題+面

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

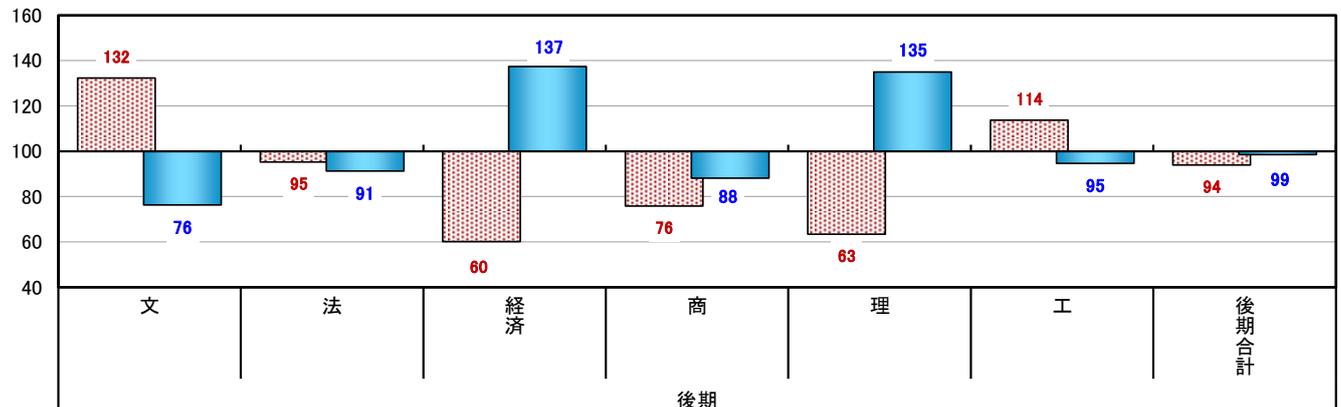
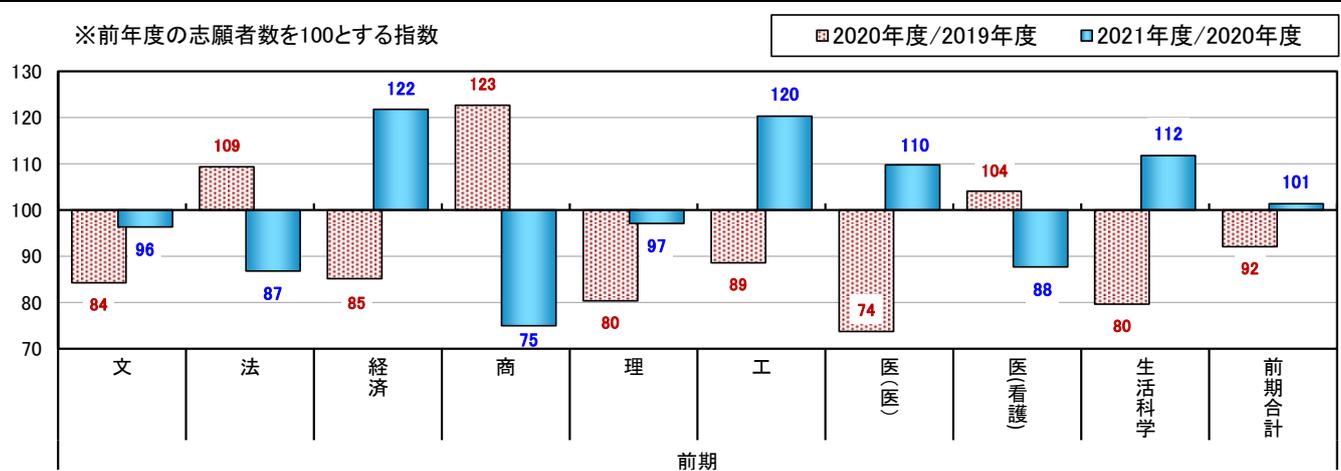
大学全体で前期のみの募集。医(医)は、28人(111)の増加。医(看護)(97)は2人のみの減少。

＜前期日程＞

- 医(医)(111)は、個別試験における小論文追加による負担増はあったが、前年度大幅減少の反動で増加し、志願倍率は2.5倍→2.8倍にアップした。しかし、かつては連続で超えていた3倍には届かなかった。
- 医(看護)(97)は、2年連続増加の影響は小さく、2人のみの減少。志願倍率は、2019年度以降ほぼ1.5倍で大きな変化はない。

大阪市立大：前期、後期共に大学全体では前年度並

前期：+47人 後期：-33人



入試変更点 出願資格：医(医)＜大阪府指定医療枠＞前…大阪府出身者のみ出願可→全国から出願可
 個別試験：医(看護)＜前＞…外+(国 or 数)→数+外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、14人(100)の微増で前年度並。前期は47人(101)の微増で前年度並、学部別では経済(122)、工(120)の2学部が大幅増加、一方で商(75)が大幅減少。後期も33人(99)の微減で前年度並、学部別では経済(137)、理(135)の2学部が大幅増加、一方で文(76)が大幅減少。

＜前期日程＞

- 文(96)は、やや減少で2年連続減少。
- 法(87)は、前年度の反動で減少。志願者数は2年ぶりに400人を下回った。
- 経済(122)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 商(75)は、2年連続増加の反動で大幅減少。
- 理(97)は、やや減少で4年連続減少。募集単位別では、〈理科選択〉(121)、生物(120)は大幅増加、一方で(物理)(83)は大幅減少。
- 工(120)は、前年度減少の反動で大幅増加。機械工(84)の大幅減少を除く5学科が増加。特に、(電子情報工)(157)、(電子・物理工)(139)、化学バイオ工(121)は大幅増加。
- 医(医)(110)は、2年連続大幅減少の反動は小さく、増加だが志願倍率は2.8倍で3倍を下回った。
- 医(看護)(88)は、前年度の反動で減少。
- 生活科学(112)は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、(食品栄養科学)(120)、(人間福祉)(118)が大幅増加。

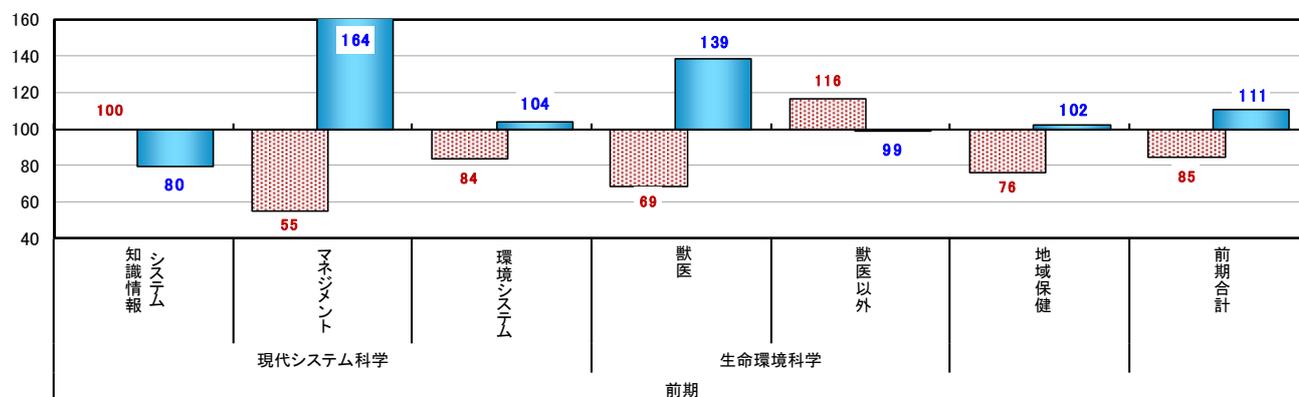
＜後期日程＞

- 文(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 法(91)は、3年連続減少。
- 経済(137)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2015年度以降、大幅な増減が継続。方式別では、〈高得点選抜〉(161)が前年度半減以下の反動で激増。
- 商(88)は、前年度大幅減少に引き続き減少。
- 理(135)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2017年度以降大幅な増減が続いている。学科別では、5学科の増減はすべて大幅増減。特に、(数学)(193)、(化学)(166)は激増。
- 工(95)は、前年度増加の反動は小さくやや減少に留まった。学科別で増減が目立ったのは、(機械工)(108)が増加、一方で(都市)(71)は大幅減少、(化学バイオ工)(89)、建築(90)は減少。

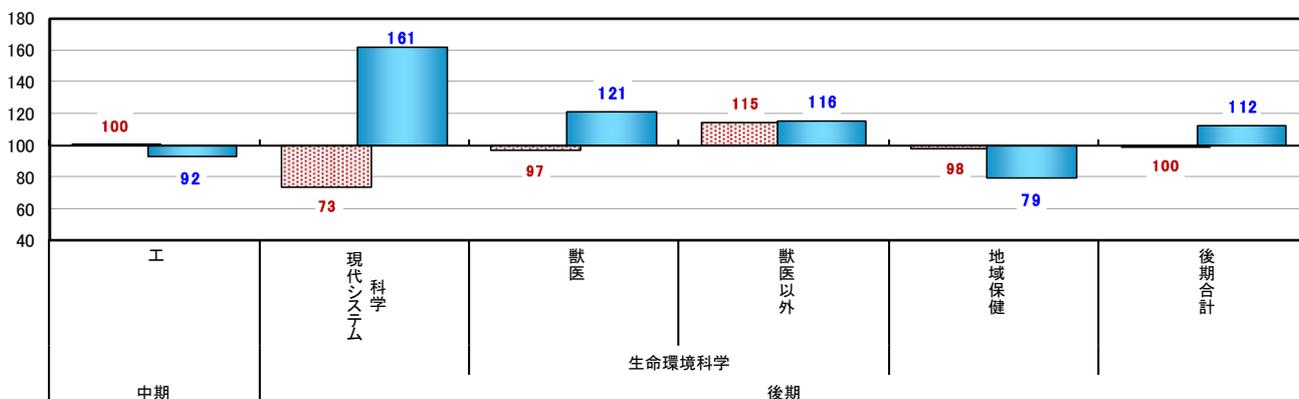
大阪府立大：前期・後期は増加、中期は減少 前期：+198人 中期：-380人 後期：+150人

※前年度の志願者数を100とする指数

□ 2020年度/2019年度 □ 2021年度/2020年度



※前年度の志願者数を100とする指数

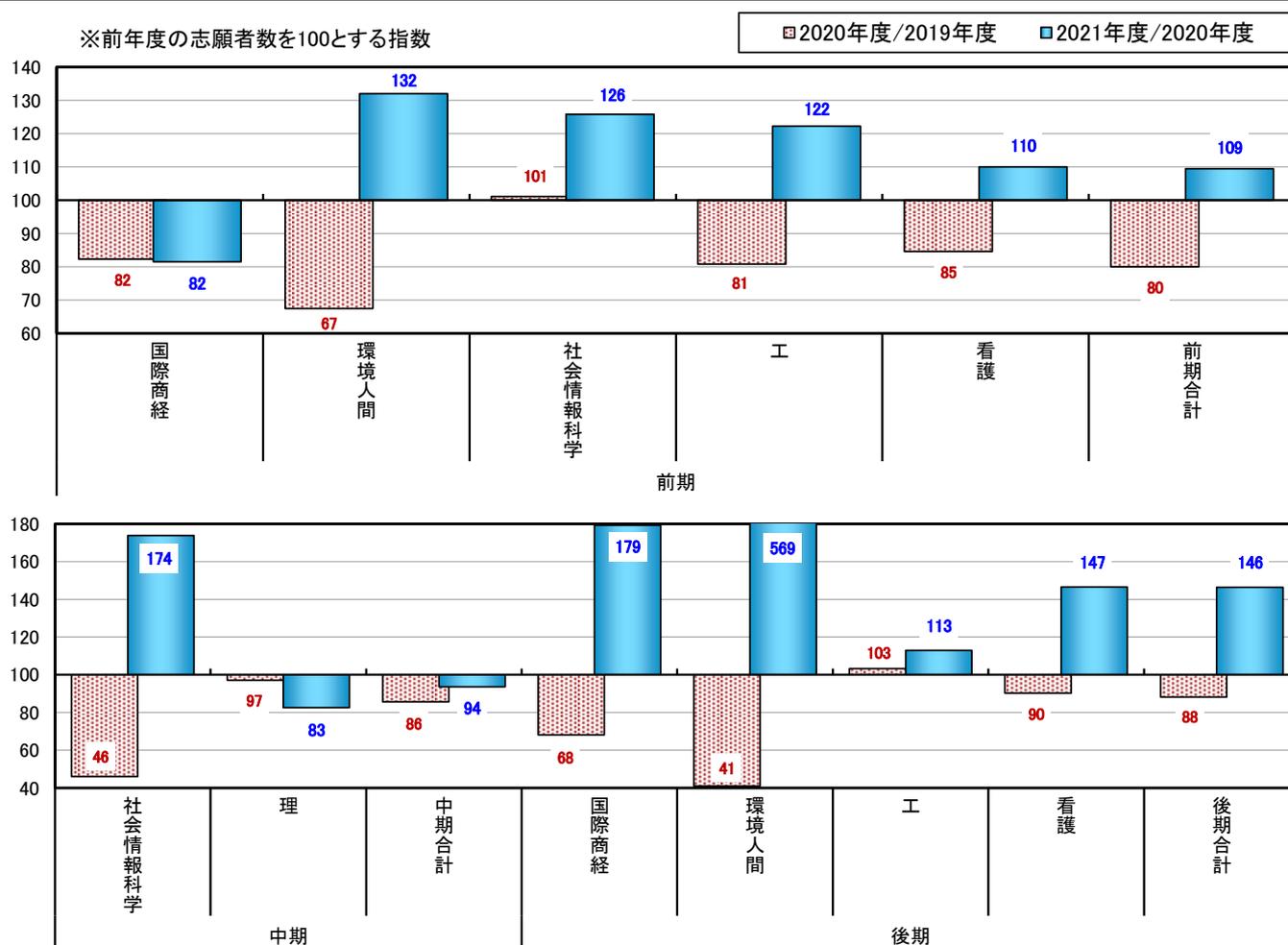


入試変更点

選抜方法：地域保健(看護)〈前〉…受験区分を2区分〈理系型〉〈文系型〉に分割
 募集人員：生命環境科学(応用生命科学)…〈前〉70人→60人
 生命環境科学(緑地環境科学)…〈前〉32人→30人
 共通テスト：生命環境科学(緑地環境科学)〈後〉、(理)〈化学重点〉〈後〉…数2+理2+外→国+数2+理2+外

	<p>生命環境科学(理<数学重点>)〈後〉…理2+外→国+理2+外 生命環境科学(理<物理重点>)〈後〉…数2+外→国+数2+外 生命環境科学(理<生物重点>)〈後〉…数2+理+外→国+数2+理+外 地域保健(総合リハビリテーション/作業療法)〈後〉…数+外+(理 or 理基2)→国+数2+外 地域保健(教育福祉)〈後〉…国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2)→国+数+外+(歴公 or 理 or 理基2) 個別試験：生命環境科学(理<数学重点>)〈前〉…数+理2+外 ※理：物 or 化 or 生→数+理2+外 ※理：物+化 地域保健(看護)〈後〉…論→面</p>
<p>COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数</p>	
<p>大学全体では、32人(100)の微減だが、3年連続減少。前期は前年度大幅減少の反動で198人(111)の増加。工のみ募集の中期は380人(92)の減少で、2013年度以降、前年度の反動による増減が継続した。学類別では、3学科全てが減少で、(機械)(87)が減少、(物質化学)(94)および(電気電子)(96)がやや減少。後期は3年連続減少の反動で150人(112)の増加。</p>	
<p>＜前期日程＞</p> <p>○現代システム科学(123)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学類・方式別では、(マネジメント)(164)は前年度半減近い減少の反動で激増。一方で、(知能情報システム)(80)は大幅減少。(環境システム)(104)は受験型で対照的な増減で、〈英語小論文型〉(115)は大幅増加、〈理数型〉(85)は大幅減少。</p> <p>○生命環境科学(104)は、やや増加で2年連続増加。学類別では、(応用生命科学)(150)は大幅増加で2年連続増加。(獣医)(139)も大幅増加で、2011年度以降、前年度の反動による増減が継続。(理)(94)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少、募集単位別で増減が目立ったのは、〈生物重点〉(147)が大幅増加、〈化学重点〉(75)、〈物理重点〉(83)が大幅減少。(緑地環境科学)(51)は3年連続増加の反動で半減近い大幅減少。</p> <p>○地域保健(102)は、前年度大幅減少の反動はなく微増。学類・専攻別では、(総合リハビリテーション/理学療法)(123)、(総合リハビリテーション/栄養療法)(122)は大幅増加、一方で(教育福祉)(84)は大幅減少。募集単位を〈文系型〉と〈理系型〉に分けた(看護)は学類全体では(101)で前年度並。志願倍率は〈文系型〉が1.7倍、〈理系型〉が2.1倍で〈理系型〉の競争が厳しかった。</p>	
<p>＜後期日程＞</p> <p>○現代システム科学(161)は、前年度大幅減少の反動で激増。</p> <p>○生命環境科学(117)は、2019年度の改組後2年連続増加。学類別では、(応用生命科学)(194)は2年連続減少の反動で激増、(獣医)(121)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(緑地生産化学)(92)は前年度大幅増加の反動で減少。(理)(101)は学類全体では前年度大幅増加の反動はなく前年度並、募集単位別では大幅増減が目立ち、(化学重点)(139)、(物理重点)(137)はそれぞれ30%を超える大幅増加、一方で(数学重点)(40)は激減。</p> <p>○地域保健(79)は大幅減少で2年連続減少。学類・専攻別では、(教育福祉)(53)は2年連続増加の反動で大幅減少、(看護)(70)で4年ぶりの大幅減少、(総合リハビリテーション/栄養療法)(76)は大幅減少で3年連続減少。一方で、(総合リハビリテーション/理学療法)(179)は激増で2014年度以来の志願倍率が20倍を上回った。</p>	

兵庫県立大：前期は増加、後期は大幅増加だが、中期は減少 前期：+160人 中期：-166人 後期：+708人



入試変更点 選抜方法：理<中>…第1段階選抜新規実施：実施予告倍率14倍(通過予定人数1,890人)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は160人(109)の増加で、国際商経(82)以外はいずれも増加。2017年度以降前年度の反動による増減が継続。中期は166人(94)の減少で2年連続減少となり、理(83)が大幅減少。後期は2年連続減少の反動で708人(146)の大幅増加で、全学部で増加。

<前期日程>

- 国際商経(82)は、2019年度の改組後、2年連続大幅減少。学科・コース別では、2学科とも減少で、特に(国際商経/グローバルビジネス)(49)は半減以下の大幅減少、(国際商経/経済学・経営学)(86)も前年度の大幅減少に引続き減少。
- 環境人間(132)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学部全体の募集人員が115人になった2017年度以降、翌年から前年度の反動による大幅増減が継続。
- 社会情報科学(126)は、大幅増加で2019年度開設から2年連続増加。志願者数は230人近くとなった。
- 工(122)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では3学科ともに大幅増加。いずれも前年度の反動。
- 看護(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。

<中期日程>

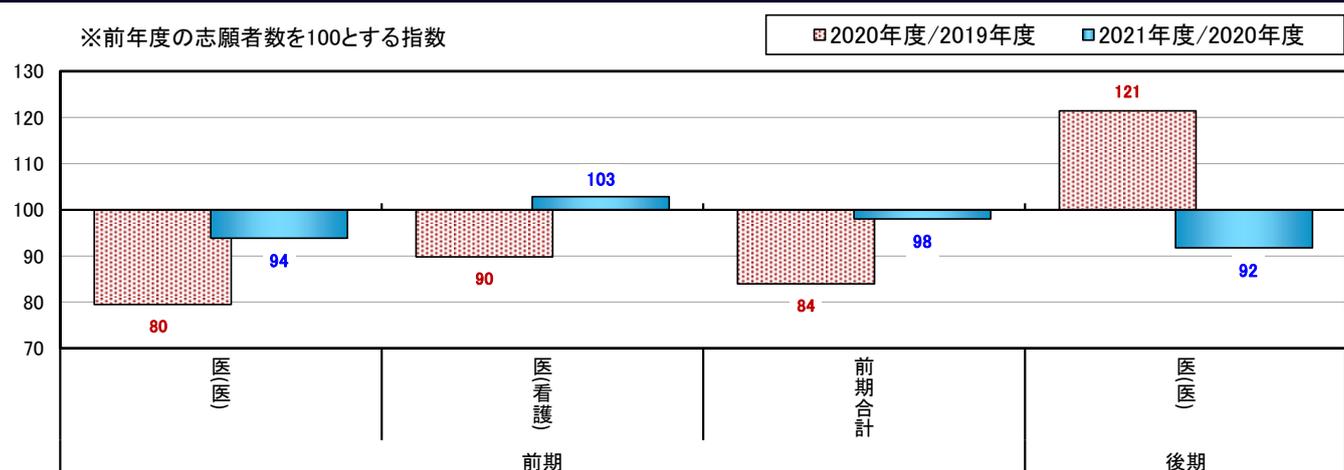
- 社会情報科学(174)は、2019年度開設だが、前年度大幅減少の反動で激増。志願倍率も15.5倍→27.0倍にアップ。
- 理(83)は、第1段階選抜を新規実施した影響から大幅減少で2年連続減少、志願倍率は13.9倍で第1段階選抜予告倍率14倍を下回り、2段階選抜は実施されなかった。学科別では2学科とも減少で、(物質科学)(77)は3年連続増加の反動で大幅減少、(生命科学)(90)は減少で2年連続減少。

<後期日程>

- 国際商経(179)は、2019年度に改組後3年目の募集だが、前年度大幅減少の反動で激増。
- 環境人間(569)は、前年度減少率約60%の大幅減少の反動に加えて、もともと個別試験を課さないことで共通テストの得点での逃げ切りを狙う層が集中した結果、6倍近い激増。学部全体では2017年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 工(113)は、系統への人気の高まりもあって、増加で4年連続増加。学科別では3学科とも増加で、(応用化学工)(125)は大幅増加、(機械・材料工)(111)は増加、(電気電子情報工)(105)はやや増加。また、(応用化学工)(電気電子情報工)はいずれも4年連続増加。
- 看護(147)は、前年度減少の反動で大幅増加し、志願者数は2017年度以来の140人を上回った。

奈良県立医科大：医(医)は前期やや減少、後期減少

前期：-6人 後期：-80人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

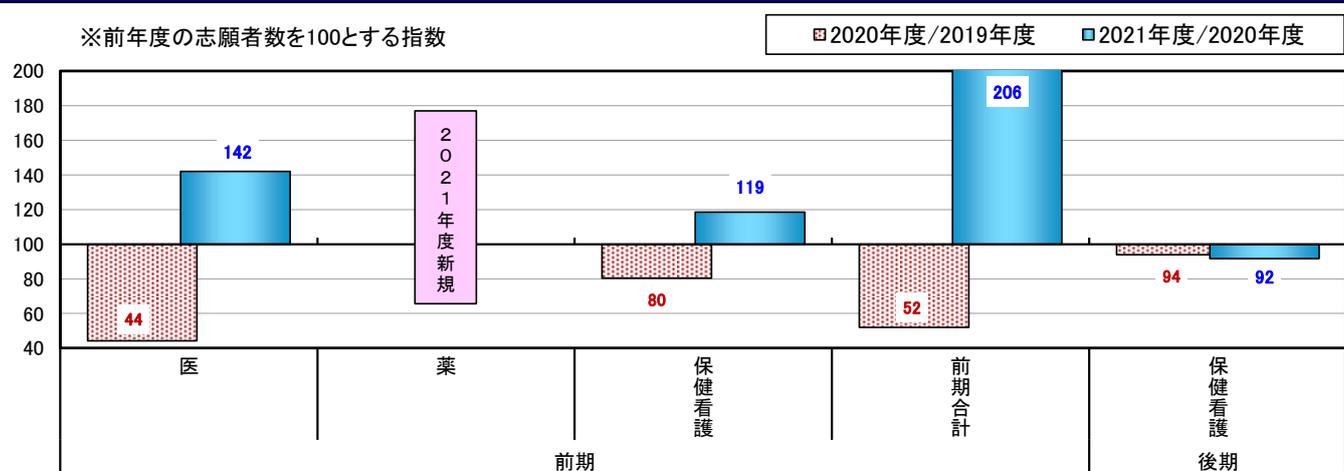
前期は、大学全体では前年度の大幅減少に引続き6人(98)の微減。学科別では、医(医)は10人(94)のやや減少、医(看護)は4人(103)のやや増加。後期は、医(医)のみの募集で、前年度大幅増加の反動で80人(92)の減少。

<前期日程>

- 医(医)(94)は、前年度大幅減少の反動はなく、やや減少で2年連続減少。志願倍率も7.4倍→7.0倍にダウン。募集人員が22人となった2013年度以降では最も低くなった。
- 医(看護)(103)は、前年度減少の反動でやや増加。募集単位別では、<一般枠>(108)は前年度減少の反動で増加、志願者数は100人を2年ぶりに上回り、志願倍率も2.4倍→2.6倍にアップ。一方で、<地域枠>(91)は3年ぶりに減少し、志願倍率4.4倍→4.0倍にダウン。<一般枠>と<地域枠>とで対照的な志願状況。

和歌山県立医科大：前期の医は大幅増加、新設の薬は志願倍率2.6倍

前期：+273人 後期：-9人



入試変更点 学部新設：薬(薬) …<前>70人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

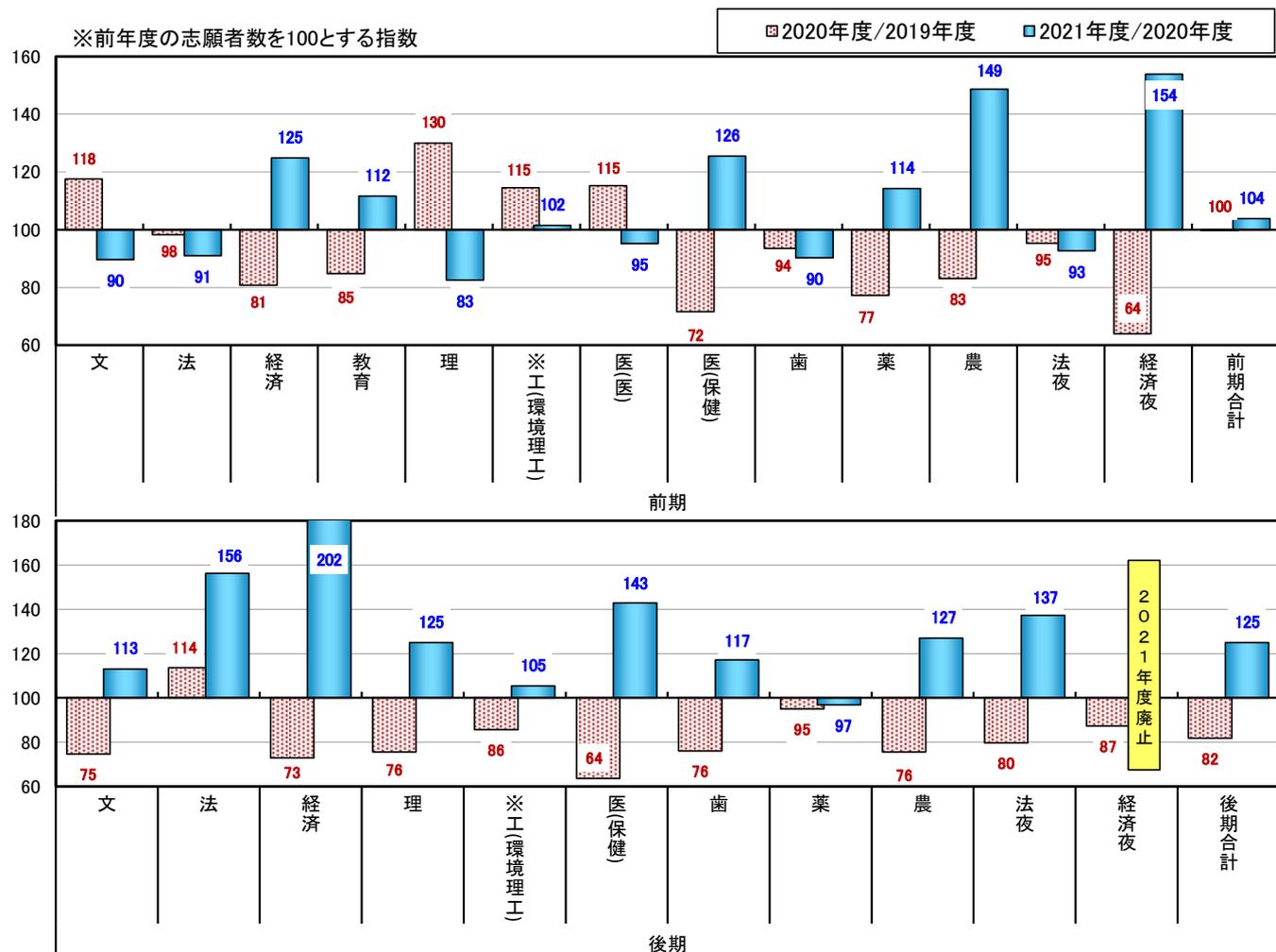
大学全体では、前期は273人(206)の倍以上。新設の薬を除いても88人(134)の大幅増加。後期は保健看護のみの募集で9人(92)の減少で2年連続減少だが、志願倍率はかろうじて10.0倍と10倍台に留まった。

<前期日程>

- 医(142)は、前年度半減以下の大幅減少の反動で、40%以上の大幅増加。2015年度以降、前年度の増減の反動が継続した。募集単位別では、<一般枠>(143)は、前年度半減以下の大幅減少の反動で、40%以上の大幅増加。志願倍率も2.0倍→2.9倍にアップ。<県民医療枠>(140)も、前年度半減以下の大幅減少の反動で、大幅増加。志願倍率も2.7倍→3.7倍にアップ。
- 保健看護(119)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願者数は2年ぶりに100人を上回り、志願倍率も2.2倍→2.6倍にアップ。
- 新設の薬は、募集人員70人、志願者数185人で、志願倍率は2.6倍だった。なお、公立大の薬で中期以外での実施は和歌山県立医科大が初めてだったが、前期での実施ということで公立大の中では最も低倍率だった。

岡山大：前期はやや増加、後期は大幅増加

前期：+128人 後期：+337人



※2021年度 新「工」は、2020年度 旧「工」+旧「環境理工」と比較

入試変更点

学部改組：工(機械システム系)〈前〉89人、〈後〉20人→工(工/機械システム系)〈前〉97人、〈後〉10人
 環境理工(環境デザイン工、環境管理工)〈前〉62人、〈後〉16人
 →工(工/環境・社会基盤系)〈前〉73人、〈後〉10人
 工(電気通信系、情報系)〈前〉106人、〈後〉21人、環境理工(環境数理)〈前〉15人
 →工(工/情報・電気・数理・データサイエンス系)〈前〉137人、〈後〉10人
 工(化学生命系)〈前〉88人、〈後〉23人、環境理工(環境物質工)〈前〉30人
 →工(工/化学・生命系)〈前〉122人、〈後〉10人

選抜方法：経済夜〈後〉…後期廃止
 募集人員：法…〈前〉141人→140人
 経済…〈後〉25人→24人
 経済夜…〈前〉14人→15人、〈後〉6人→0人
 農…〈前〉78人→86人、〈後〉18人→10人

個別試験：薬(薬)〈前〉…数+理2+外 ※理：物 or 化 or 生→数+理2+外+面 ※理：化+(物 or 生)
 (創製薬科学)〈前〉…数+理2+外 ※理：物 or 化 or 生→数+理2+外+面 ※理：化+(物 or 生)
 〈後〉…論→論+面
 医(保健/看護)〈前〉…理1+外+面 ※理：物 or 化 or 生→理1+外 ※理：物 or 化 or 生
 (保健/放射線技術)〈前〉…数+理2+外+面 ※理：物+(化 or 生)
 →数+理2+外 ※理：物+(化 or 生)
 (保健/検査技術)〈前〉…数+理2+外+面 ※理：(物 or 化 or 生)→2
 →数+理2+外 ※理：(物 or 化 or 生)→2
 ※面：実施→廃止 コロナ禍対策によるもの

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、465人(110)の増加。前期は128人(104)のやや増加。後期は難関大からの併願先として狙われて、337人(125)の大幅増加、学部別で減少したのは薬のみで、募集人員(前年度募集人員対比指数78)が大幅減少したこともあって、後期全体の志願倍率も5.5倍→8.8倍にアップ。なお、法夜、経済夜を除くと、前期は110人(103)のやや増加、後期は373人(130)の大幅増加。

＜前期日程＞

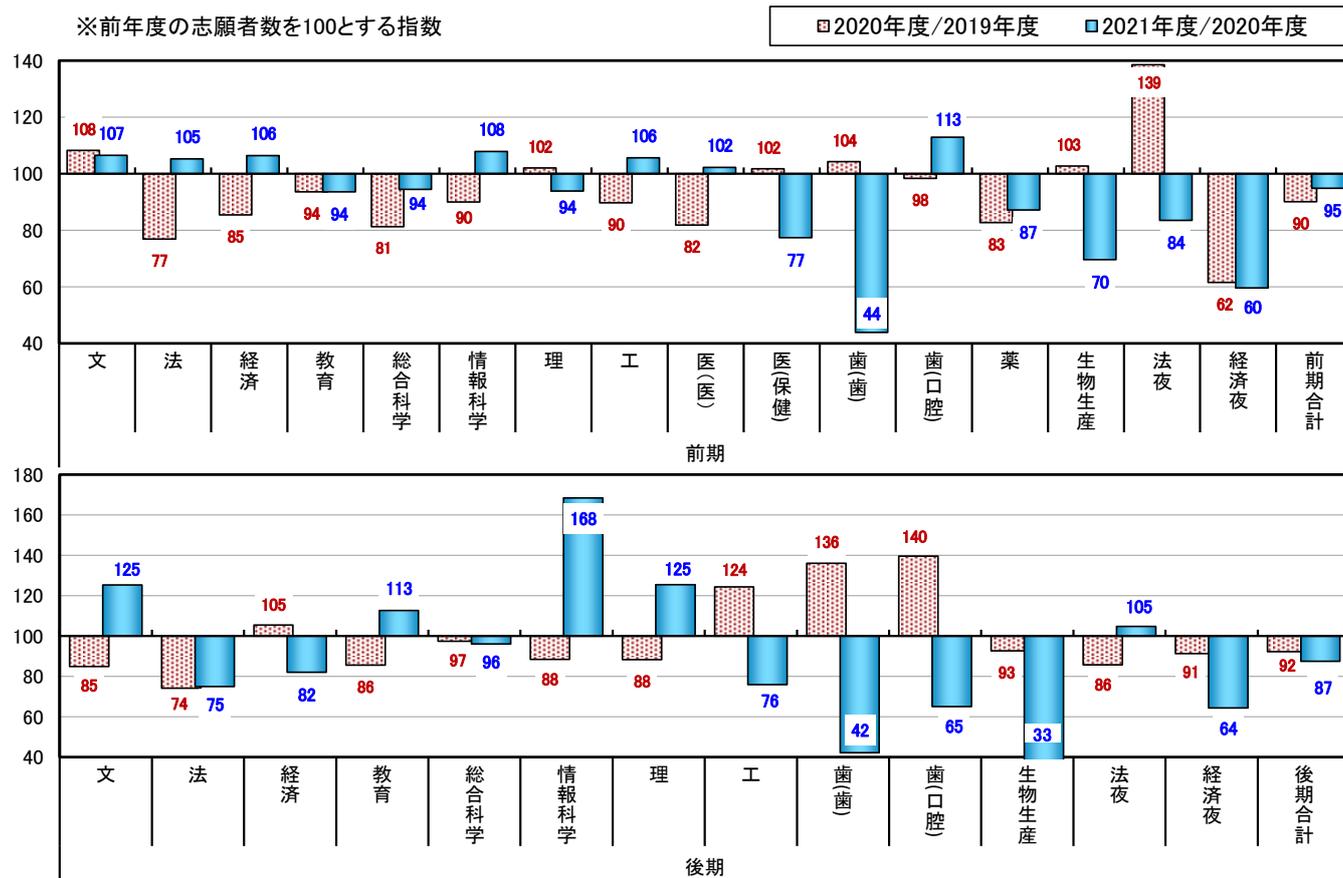
- 文(90)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 法(91)は、減少で3年連続減少。
- 経済(125)は、3年連続減少の反動で大幅増加。
- 教育(112)は、前年度大幅減少の反動で増加。課程・コース・教科別では、(学校教育／特別支援)(200)は倍増、(学校教育／中学(実技))(130)、学校教育(学校教育／幼児)(124)、学校教育(学校教育／小学校)(117)はいずれも大幅増加。一方で、(養護教諭養成)(63)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(物理)(147)は5学科中唯一の増加で大幅増加。一方で、(生物)(54)、(数学)(63)、(化学)(75)はいずれも大幅減少、(地球科学)(92)は減少で2年連続減少。
- 工は、旧工と旧環境理工が統合されたので、学部全体は旧2学部の合計、学科・系別は統合前の該当する旧学部・学科別の合計と比較する。学部全体では、(102)の微増で2年連続増加。学科・系別では、(工／機械システム系)(122)は旧工(機械システム系)との比較で、2年連続減少の反動で大幅増加、募集人員(前年度募集人員対比指数109)が増加したが、志願倍率は1.7倍→1.9倍にアップ。(工／情報・電気・数理・データサイエンス系)(108)は旧工(電気通信系)(情報系)と旧環境理工(環境数理)の合計との比較で、2年連続増加。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数113)が増加したことで、志願倍率は2.3倍→2.2倍にダウン。(工／環境・社会基盤系)(107)は旧環境理工(環境デザイン工)(環境管理工)の合計との比較で、やや増加で3年連続増加。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数118)が増加したことで、志願倍率は2.2倍→2.0倍にダウン。一方で、(工／化学・生命系)(81)は旧工(化学生命系)と旧環境理工(環境物質工)の合計との比較で、前年度大幅増加の反動で大幅減少。さらに、募集人員(前年度募集人員対比指数103)がやや増加したことで、志願倍率は2.4倍→1.9倍にダウン。
- 医(医)(95)は、2年連続増加の反動でやや減少。
- 医(保健)(126)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、(保健／放射線技術)(182)は激増、(保健／検査技術)(126)は大幅増加。一方で、(保健／看護)(93)はやや減少で2年連続減少となり、志願倍率は2.1倍→1.4倍→1.3倍までダウン。
- 歯(90)は、減少で3年連続減少、志願倍率は2.2倍にダウン。
- 薬(114)は、3年連続減少の反動から増加。学科別では、(創薬科学)(132)は大幅増加、(薬)(105)はやや増加。
- 農(149)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。

＜後期日程＞

- 文(113)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 法(156)は、大幅増加で2年連続増加。
- 経済(202)は、2年連続減少の反動で、倍増以上の激増。
- 理(125)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(地球科学)(333)は前年度半減以下の反動で3倍以上の激増、(生物)(160)、(物理)(136)は大幅増加、いずれも前年度減少の反動。一方で、(数学)(38)は前年度倍増以上の反動で激減、(化学)(90)は減少で2年連続減少。
- 工は、旧工と旧環境理工が統合されたので、学部全体は旧2学部の合計、学科・系別は統合前の該当する学科別の合計と比較する。学部全体では、(105)のやや増加だが、募集人員が半減なので、志願倍率は4.0倍→8.3倍に大幅アップ。学科・系別では、(工／情報・電気・数理・データサイエンス系)(140)は旧工(電気通信系)(情報系)の合計との比較で、2年連続減少の反動で大幅増加。さらに、募集人員(前年度募集人員対比指数48)が半減以下で、志願倍率は3.5倍→10.2倍に大幅アップ。(工／機械システム系)(136)は旧工(機械システム系)との比較で、3年連続減少の反動で大幅増加、さらに募集人員半減で、志願倍率は2.8倍→7.6倍に大幅アップ。(工／化学・生命系)(123)は旧工(化学生命系)との比較で、前年度大幅減少の反動で大幅増加。さらに、募集人員(前年度募集人員対比指数43)が半減以下で、志願倍率は2.7倍→7.6倍に大幅アップ。(工／環境・社会基盤系)(63)は旧環境理工(環境デザイン工)(環境管理工)の合計との比較で、前年度大幅増加の反動で大幅減少。しかし、募集人員(前年度募集人員対比指数63)もほぼ同じ割合で減少したことで、志願倍率は7.8倍→7.9倍と前年度並。
- 医(保健)(143)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、(保健／放射線技術)(196)、(保健／看護)(161)が大幅増加、いずれも前年度大幅増加の反動。
- 歯(117)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 薬(97)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(創薬科学)(126)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、薬(83)は前年度増加の反動で大幅減少と対照的。
- 農(127)は、3年連続減少の反動で大幅増加。

広島大：前期、後期ともに2年連続減少

前期：-223人 後期：-282人



COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は223人(95)のやや減少、後期は282人(87)の減少。学部別では、情報科学はいずれも2年連続減少の反動で前期(108)は増加、後期(168)も大幅増加。一方で、系統への人気が低い歯は前期(62)、後期(46)とも大幅減少。なお、法夜、経済夜を除くと、前期は168人(96)のやや減少、後期は260人(88)の減少。

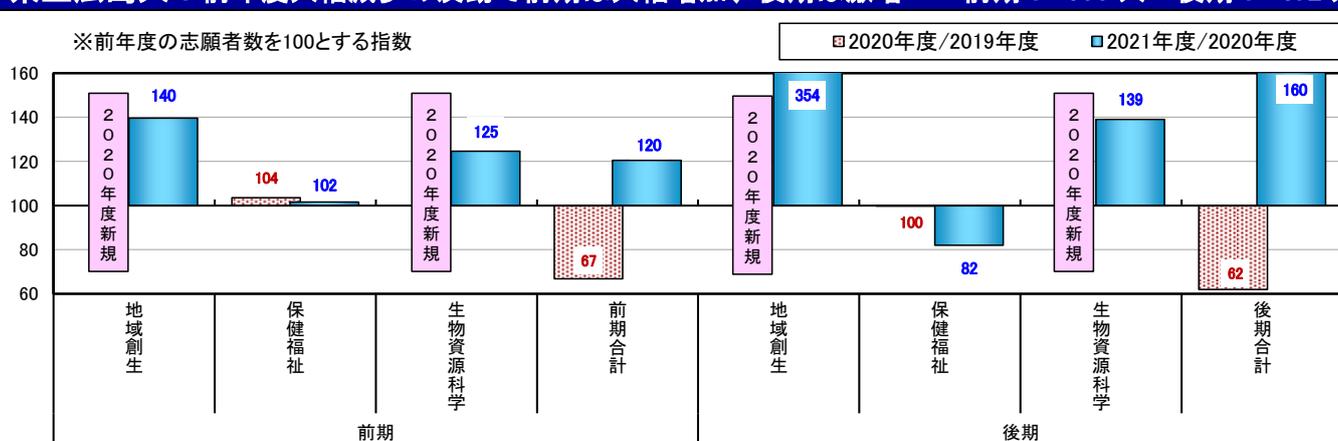
<前期日程>

- 文(107)は、やや増加で2年連続増加。
- 法(105)は、系統への低い人気も影響し、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。
- 経済(106)は、2年連続大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
- 教育(94)は、やや減少で2年連続減少。系別では、(学校)(106)は2年連続減少の反動でやや増加、(生涯)(103)はやや増加で2015年度以降、前年度の反動による増減が継続。一方で、(言語)(79)は大幅減少で4年連続減少、(人間)(84)は大幅減少で2016年度以降、前年度の反動による増減が継続、(科学)(85)は2年連続大幅減少。
- 総合科学(94)は、2年連続減少。学科別では、(総合科学)(94)はやや減少で2年連続減少、(国際共創)(97)はやや減少で3年連続減少。
- 情報科学(108)は、2年連続減少の反動で増加。
- 理(94)は、2年連続増加の反動でやや減少。学科別では、(地球惑星システム)(206)は倍増以上の激増、(数学)(127)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、(生物科学)(47)は前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少、(物理)(70)は2年連続増加の反動で大幅減少。
- 工(106)は、2018年度に募集単位を改めて以降2年連続減少の反動でやや増加。募集単位別では、入学時に4つの類に所属せずに、1年次前期終了時点で成績と希望によって各類に配属される(工学特別)(205)は前年度半減以下だった反動で倍増以上の激増。類別募集は、(第三類)(122)は大幅増加、(第二類)(110)は増加。一方で、(第四類)(61)は大幅減少、4つの類のいずれも前年度の反動で増減。
- 医(医)(102)は、前年度大幅減少の反動は小さく微増。
- 医(保健)(77)は、大幅減少。3つの専攻のいずれも大幅減少。募集単位別では、(保健/看護(文科系))のみ大幅増加。
- 歯(歯)(44)は、2年連続増加の反動と系統への低い人気で大幅減少。志願倍率も5.2倍→2.3倍へダウン。募集人員が33人になった2011年度以降で初めて志願者数が100人を下回った。
- 歯(口腔)(113)は、5年連続減少の反動で増加。専攻別では、(口腔保健)(125)は大幅増加で2年連続増加、一方で、(口腔工)(96)はやや減少で6年連続減少。
- 薬(87)は、減少で2年連続大幅減少。学科別では、(薬科学)(60)が2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率も3.4倍→2.0倍へダウン。
- 生物生産(70)は、前年度増加の反動と系統への低い人気で大幅減少。

＜後期日程＞

- 文(125)は、3年連続減少の反動で大幅増加。
- 法(75)は、2年連続大幅減少。
- 経済(82)は、2年連続増加の反動で大幅減少。募集単位別では、(文科系)(69)は大幅減少、(理科系)(733)は7倍以上激増。
- 教育(113)は、4年連続減少の反動で増加。系別では(人間)(154)が3年連続減少の反動で大幅増加。
- 総合科学(96)は、2年連続やや減少。
- 情報科学(168)は、2年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も6.3倍→10.7倍へアップ。志願者数は2018年度に新設以降で最多。
- 理(125)は、大幅増加。学科別では、(数学)(184)、(化学)(135)はともに大幅増加。一方で、(地球惑星システム)(45)は2年連続大幅増加の反動で半減以下の大幅減少。
- 工(76)は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は2018年度に募集単位を改めて以降では最少。募集単位別では、(第一類)(47)は半減以下の大幅減少。※2019年度から3回だけなので不要
- 歯(歯)(42)は、3年連続増加の反動で半減以下の大幅減少。志願倍率も20.9倍→8.8倍へダウンし、10倍を下回った。
- 歯(口腔)(65)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 生物生産(33)は、激減で2年連続減少。志願倍率も12.7倍→4.2倍へダウンして、5倍を下回った。

県立広島大：前年度大幅減少の反動で前期は大幅増加、後期は激増 前期：+138人 後期：+492人



入試変更点

選抜方法：全学部…「県立広島大学・地域への志向性」を任意提出させ、点数化して評価
 地域創生(地域創生/健康科学)＜後期＞…募集廃止
 保健福祉(保健福祉-コース選択)＜前期＞…新規募集(募集人員6人)
 学科改組：保健福祉(看護、理学療法、作業療法、コミュニケーション障害、人間福祉)
 →(保健福祉/看護、保健福祉/理学療法、保健福祉/作業療法、保健福祉/コミュニケーション障害、保健福祉/人間福祉)
 ※保健福祉学科を新たに設け、既存の学科をコースに改組
 募集人員：地域創生(地域創生/健康科学)＜前期＞…17人→20人
 保健福祉(看護)＜後期＞8人→保健福祉(保健福祉/看護)＜後期＞6人
 (理学療法)＜後期＞4人→(保健福祉/理学療法)＜後期＞3人
 (作業療法)＜後期＞4人→(保健福祉/作業療法)＜後期＞3人
 (コミュニケーション障害)＜後期＞4人→(保健福祉/コミュニケーション障害)＜後期＞3人
 (人間福祉)＜後期＞5人→(保健福祉/人間福祉)＜後期＞4人
 個別試験：保健福祉(コミュニケーション障害)＜前期＞…論+面→面
 (人間福祉)＜前期・後期＞…論+面→面+総合問題

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度大幅減少の反動により138人(120)の大幅増加で3年ぶりに増加。後期は前年度大幅減少の反動により492人(160)の激増で5年ぶりに増加。

＜前期日程＞

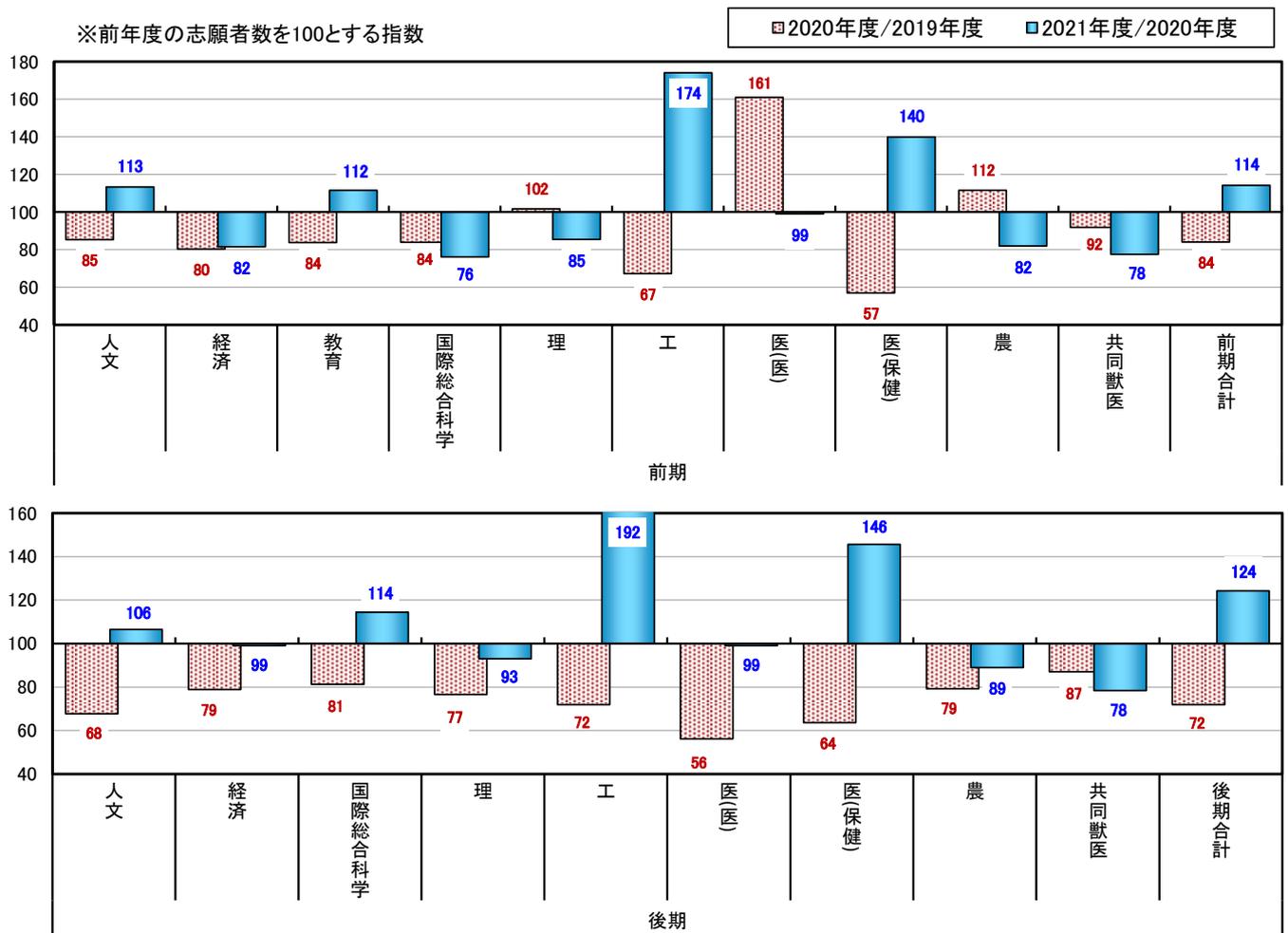
- 地域創生(140)は、経営情報、人間文化から改組後2年目だが、増加率40%の大幅増加。経営情報と人間文化を合わせた志願倍率との比較では2017年度以来の3倍を上回った。コース・志向枠別では、4コース・志向枠が全て増加。地域(地域産業/応用情報志向枠)(212)は倍増以上、それ以外の3コース・志向枠は、いずれも大幅増加。
- 保健福祉(102)は学科改組したが、4人増加の微増で、3年連続増加。コース別で前年度の学科別と比較すると、(保健福祉/看護)(142)は前年度減少率40%近い大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(保健福祉/人間福祉)(59)、(保健/作業療法)(80)、(保健/理学療法)(84)は、いずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。新設の(保健福祉-コース選択)は志願倍率3.5倍で、学部全体の志願倍率2.6倍を上回った。
- 生物資源科学(125)は、生命環境から改組後2年目だが、大幅増加。学科・コース別では、(地域資源開発)(242)は2.5倍近い大幅増加。一方で、(生命環境/生命科学)(91)は減少、(生命環境/環境科学)(93)はやや減少。

＜後期日程＞

- 地域創生(354)は、経営情報、人間文化から改組後2年目で、(地域創生/健康科学)＜後期＞が廃止された。残った(地域創生-経過選択)(487)は、募集単位の比較では5倍近い大幅増加、志願倍率も4.5倍→22.0倍に大幅アップ。

○学科改組した保健福祉(82)は、大幅減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数76)が減少したことで、逆に志願倍率は13.1倍→14.2倍にアップ。コース別で前年度の学科別と比較すると、(保健福祉/看護)(99)は11.9倍→15.7倍、(保健福祉/コミュニティ障害)(100)は11.0倍→14.7倍、(保健福祉/作業療法)(84)は16.0倍→18.0倍、(保健福祉/理学療法)(76)は13.8倍→14.0倍の4コースは競争が激化。(保健福祉/人間福祉)(50)は14.0倍→8.8倍と唯一競争が緩和。
 ○生物資源科学(139)は、生命環境学部から改組後2年目で、(生命環境-経過選択)が唯一の募集区分だが大幅増加で、志願倍率は16.0倍→22.3倍にアップ。

山口大：前期は増加、後期は大幅増加で反動による大幅増減が継続 前期：+438人 後期：+607人



入試変更点

学科改組：理(生物・化学)→理(化学)、理(生物)
 募集人員：工(機械工)…<前>55人→54人
 (感性デザイン工)…<後>13人→14人
 農(生物資源環境科学)…<後>9人→7人
 共通テスト：教育(学校教育/教科教育-数学)…国+歴公+数2+理+外→国+歴公+数2+外+(理 or 理基2) ※理基：物基 or 化基 or 生基 or 地基
 (学校教育/教科教育-英語)…国+歴公+数+外+(理 or 理基2)→国+歴+数+外+(理 or 理基2)
 (学校教育/情報教育)…数2+理+外→国+数2+外+(理 or 理基2) ※理基：物基 or 化基 or 生基 or 地基
 工(機械工、電気電子工、感性デザイン工)<前><後>…数2+理+外→国+歴公+数2+理+外
 工(社会建設工、応用化学、知能情報工、循環環境工)<前><後>…数2+理+外→国+歴公+数2+理2+外
 医(医)<前><後>…国+歴公+数2+理2+外 ※理：化+(物 or 生)→国+歴公+数2+理2+外 ※理：物 or 化 or 生
 (保健/看護)<前>…国+歴公+数2+理2+外→国+歴公+数2+外+(理 or 理基2) ※理基：物基 or 化基 or 生基 or 地基
 (保健/看護)<後>…国+歴公+数2+理+外→国+歴公+数2+外+(理 or 理基2) ※理基：物基 or 化基 or 生基 or 地基
 (保健/検査技術)<前>…国+歴公+数2+理2+外 ※数：数I・A+(数II除く数②)→国+歴公+数2+理2+外 ※数：数I・A+数②
 (保健/検査技術)<後>…国+数2+理2+外 ※数：数I・A+(数II除く数②)→国+歴公+数2+理2+外 ※数：数I・A+数②
 農(生物機能科学)<後>…数2+理2+外→国+歴公+数2+理2+外
 共同獣医(獣医)<後>…数2+理2+外→国+数2+理2+外
 個別試験：教育(学校教育/家政)<前>…外→国 or 数 or 理 or 外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
 大学全体では、前期は前年度大幅減少の反動で、438人(114)の増加。後期は前年度大幅減少の反動で607人(124)の大幅増加、2018年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。なお、志願者数は2年ぶりに3,000人を上回った。

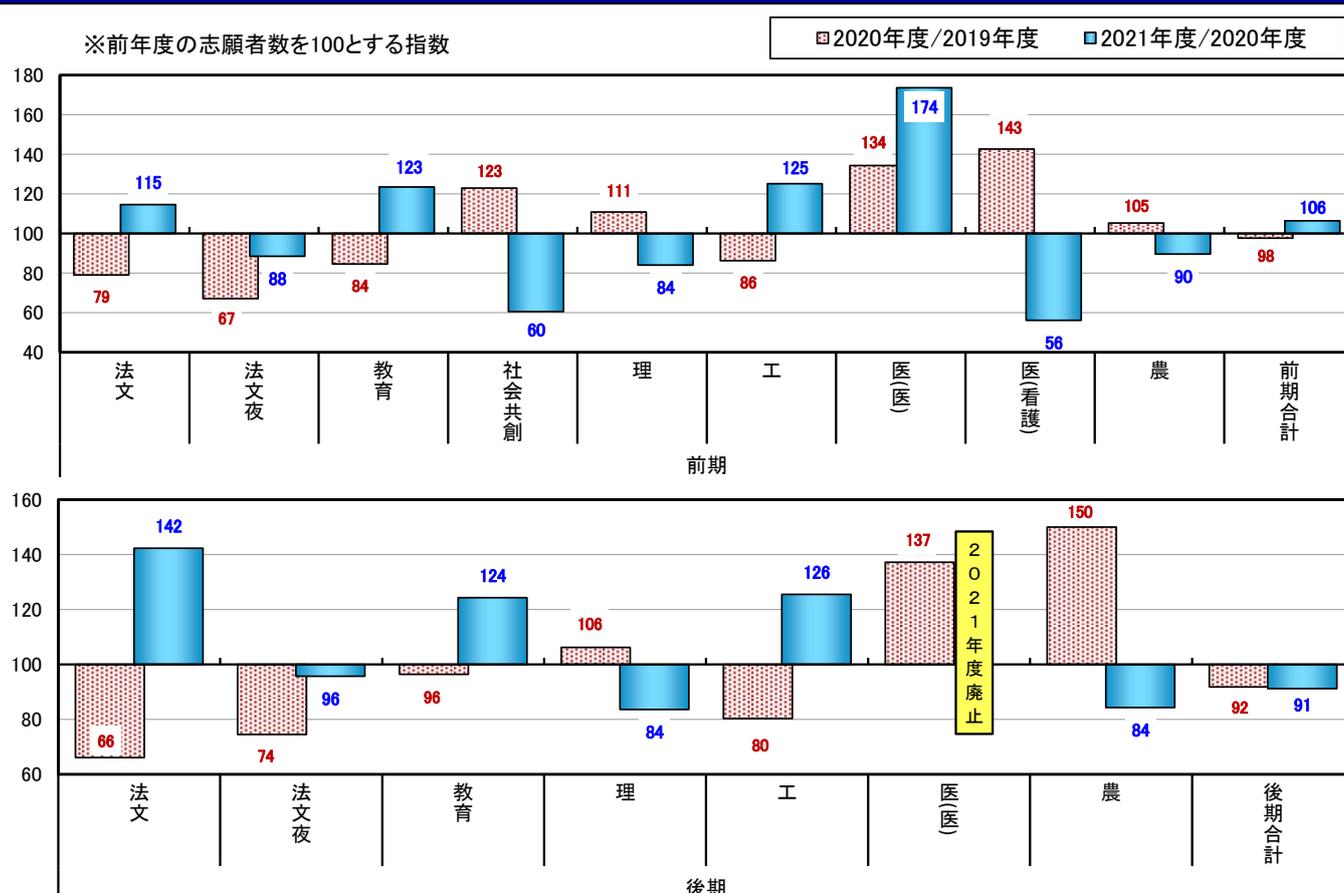
＜前期日程＞

- 人文(113)は、2年連続大幅減少の反動で増加。志願者数は2年ぶりに300人を上回った。
- 経済(82)は、2年連続大幅減少。志願倍率も2.4倍→1.9倍とダウンし、募集人員が221人だった2012年度以来の2倍を下回った。
- 教育(112)は、2年連続減少の反動から増加。コース・選修別では、17コース・選修中9コース・選修が増加。特に、(学校教育/教科教育-音楽)(244)、(学校教育/教科教育-国語)(210)はいずれも倍増以上の激増。一方で、7コース・選修が減少。特に、(学校教育/教科教育-家政)(34)は3分の1の激減。なお、(学校教育/教科教育-社会科)(100)は前年度と同数。
- 国際総合科学(76)は、系統への人気低下もあって、3年連続大幅減少。志願者数は周知が行き届かなかった開設初年度の2015年度に次ぐ少数だった。
- 理(85)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(化学)、(生物)は前年度(生物・化学)から2学科に改組したが、2学科合計では(125)の大幅増加、(数理科学)(107)は前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。一方で、(地球圏システム科学)(44)、(物理・情報科学)(56)はいずれも前年度増加の反動で大幅減少。
- 工(174)は、前年度大幅減少の反動と共通テストの平均点アップによる共通テスト重視配点の影響も加わり1.7倍以上の激増。学科別では、7学科すべてが増加で、(循環環境工)(492)は5倍近い激増、(応用化学)(228)は倍増以上の激増、(電気電子工)(193)も倍増近い激増、(感性デザイン工)(125)は大幅増加。
- 医(医)(99)は、近隣の香川大・医<前>、愛媛大・医<前>の後期廃止に伴う募集人員増加があったため、前年度大幅増加の反動は小さく微減に留まった。
- 医(保健)(140)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、2専攻とも大幅増加。
- 農(82)は、2016年度以降前年度の反動による増減が継続して大幅減少。学科別では、2学科とも大幅減少。
- 共同獣医(78)は、系統への低い人気もあって、大幅減少で3年連続減少。志願倍率も4.2倍→3.3倍にダウンし、2016年度以来の4倍を下回った。

＜後期日程＞

- 人文(106)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。
- 経済(99)は、微減だが2年連続減少。
- 国際総合科学(114)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 理(93)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(地球圏システム科学)(162)は1.6倍以上の激増、(化学)、(生物)は前年度(生物・化学)から2学科に改組したが、2学科合計では(生物・化学)が2年連続大幅減少だった反動から(122)の大幅増加。一方で、(物理・情報科学)(66)は大幅減少で3年連続減少、(数理科学)(85)は2年連続大幅減少。
- 工(192)は、前年度大幅減少の反動と共通テストの平均点アップによる共通テスト重視配点の影響も加わり、倍増近い激増。学科別では、全ての学科で大幅増加し、特に(電気電子工)(331)は3倍以上、(社会建設)(279)、(循環環境工)(254)は2倍以上の激増。
- 医(医)(99)は、前年度大幅減少の反動なく、微減だが2年連続減少。香川大・医(医)と愛媛大・医(医)の後期廃止により中四国地区で唯一の後期募集を行う国公立大医学部医学科となり、データネット(駿台・ベネッセ主催共通テスト自己採点集計)時点では志望者は激増していたが、高い目標ラインや第1段階選抜通過ラインを見て敬遠された。
- 医(保健)(146)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、2専攻のいずれも40%以上の大幅増加。
- 農(89)は、減少で3年連続減少。学科別では、(生物機能科学)(153)が2年連続大幅増加、(生物資源環境)(52)が2年連続大幅減少と対照的。
- 共同獣医(78)は、系統への低い人気をあり、大幅減少で2年連続減少。志願倍率は9.7倍で2014年度以来の10倍を下回った。

愛媛大：前期はやや増加、後期は医(医)の廃止もあって3年連続減少 前期：+171人 後期：-200人



入試変更点

選抜方法：医(医)<後>…後期廃止
 全学部<前><後>…調査書：点数化しない→点数化する
 募集人員：社会共創(産業イノベーション)…<前>13人→12人
 (地域資源マネジメント/文化資源マネジメント)…<前>8人→7人
 (地域資源マネジメント/スポーツ健康マネジメント)…<前>12人→10人
 医(医)…<前>40人→55人、<後>25人→0人
 共通テスト：社会共創(地域資源マネジメント/農山漁村マネジメント)<前>
 …国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2)→国+歴公+数+外+(理 or 理基2)
 医(看護)<前>…国+歴公+数+外+(理 or 理基2)→国+数2+外+(歴公 or 理 or 理基2)→3
 個別試験：社会共創(環境デザイン)<前>…外+面→面+総合問題
 医(医)<前>…数+理2+外+面→数+理2+面+総合問題 ※総合問題の内容は英文読解等

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は171人(106)のやや増加。法文(夜間主)(88)を除くと(107)のやや増加。後期は200人(91)の減少で、3年連続減少。募集人員も25人(募集人員指数89)減少のため、志願倍率は9.7倍→9.9倍とわずかにアップ。なお、法文(夜間主)(96)を除いても同じく(91)の減少。

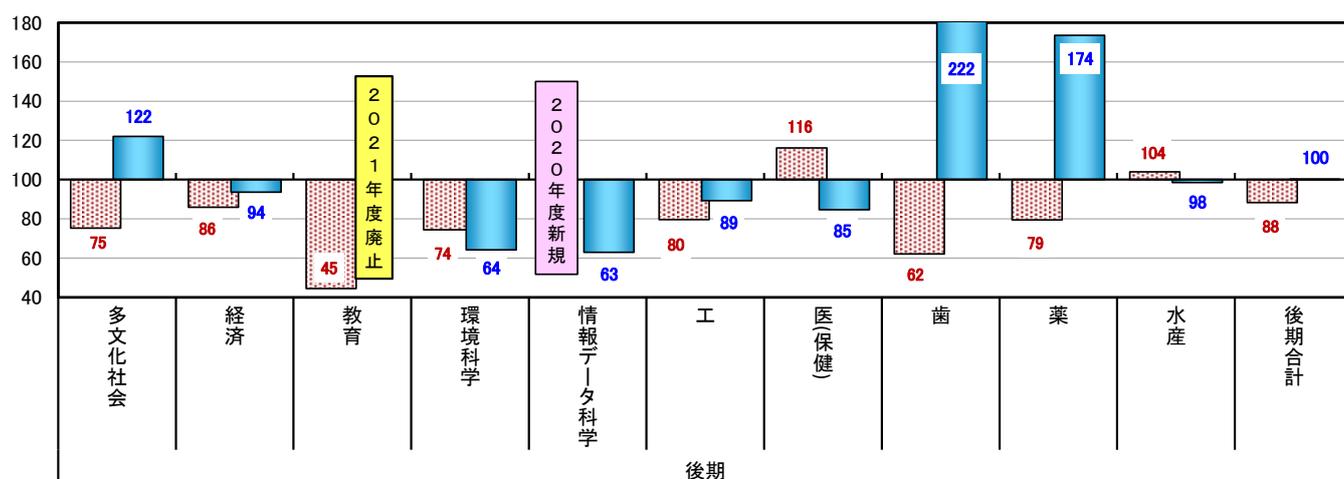
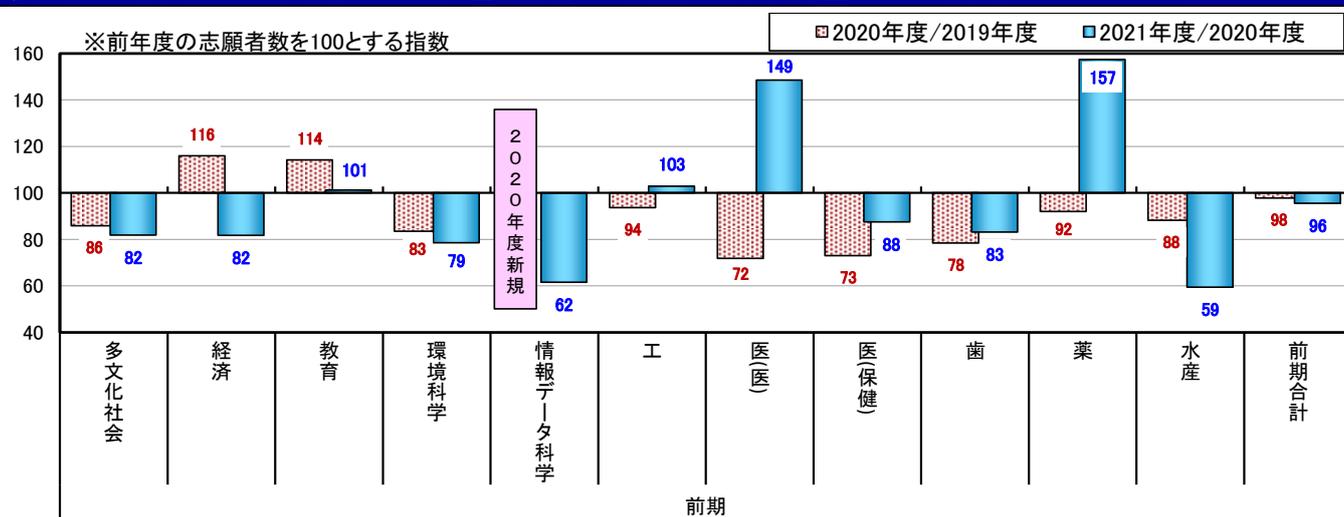
<前期日程>

- 法文(115)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は2.2倍→2.5倍にアップ。
- 教育(123)は、3年連続減少の反動で大幅増加。コース・専攻別では、11コース・専攻中7コース・専攻で大幅増加。特に、(学校教育/中等教育-家政教育)(356)は3倍以上の激増、(学校教育/中等教育-理科教育)(175)は2年連続大幅減少の反動で激増、(学校教育/中等教育-保健体育)(167)は2年連続大幅増加。一方で、(学校教育/中等教育-技術教育)(43)、(学校教育/中等教育-国語教育)(50)は半減以下の大幅減少。
- 社会共創(60)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、(産業イノベーション)(247)は前年度大幅減少の反動で倍以上の激増、(地域資源マネジメント/文化資源マネジメント)(150)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(環境デザイン)(24)は前年度4倍以上の激増の反動で激減。
- 理(84)は、2年連続増加の反動で大幅減少。募集単位別では、(物理受験)(144)のみ大幅増加。他の4つの募集単位はいずれも大幅減少。特に、(地学受験)(31)は激減で志願者数が1倍を下回り0.6倍までダウン。
- 工(125)は、2年連続減少の反動で大幅増加。募集単位別では、(理型入試(社会デザインコースを除く))(130)は大幅増加、(文理型入試(社会デザインコース))(77)は大幅減少と対照的。
- 医(医)(174)は、後期廃止で募集人員が15人(募集人員指数138)増加した影響もあって、3年連続大幅増加で、志願倍率は7.7倍→9.7倍にアップ。2段階選抜実施予告倍率約6倍を上回ったので、第1段階選抜が実施された。
- 医(看護)(56)は、前年度大幅増加の反動で40%以上の大幅減少。2016年度以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 農(90)は、2年連続増加の反動で減少。志願倍率は1.9倍→1.7倍とダウン。学科別では、3学科全てが減少で、特に(食料生産)(85)は2年連続増加の反動で大幅減少。

＜後期日程＞

- 法文(142)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も7.6倍→10.8倍とアップ。
- 教育(124)は、(学校教育/初等教育-小学校)のみの募集だが、2年連続減少の反動で大幅増加。
- 理(84)は、3年連続増加の反動で大幅減少。募集単位別では、(A(数学))(114)は増加、(B(面接))(57)は大幅減少と対照的。
- 工(126)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。募集単位別では、(文理型入試(社会デザインコース))(133)、(理型入試(社会デザインコース以外))(125)のいずれも大幅増加。
- 農(84)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科全てが減少で、特に(生物環境)(75)、(食料生産)(85)の2学科はいずれも大幅減少。

長崎大：前期はやや減少で2年連続減少、後期は前年度並 前期：-123人 後期：+2人



入試変更点

- 選抜方法：全学部<前><後>…調査書：点数化しない→点数化する
- 多文化社会…第1段階選抜基準変更：
- <前>いずれかの基準を満たした者を第1段階選抜の合格者とする
- ①センター試験の外国語の得点率が80%以上の者
 - ②センター試験の外国語の得点率が75%以上かつセンター試験の外を除いた3教科3科目又は3教科4科目の得点を配点比率に換算した合計点100点満点中75点以上の者
 - ③多文化社会学部が指定する英語外部試験のスコアを有し、出願時に提出した者
- ↓
- いずれかの基準を満たした者を第1段階選抜の合格者とする
- ①共通テストの外国語の得点率が75%以上の者
 - ②多文化社会学部が指定する英語外部試験のスコアを有し、出願時に提出した者
- <後>いずれかの基準を満たした者を第1段階選抜の合格者とする
- ①センター試験の外国語の得点率が85%以上の者
 - ②センター試験の外国語の得点率が80%以上かつセンター試験の外を除いた2教科2科目の得点を配点比率に換算した合計点100点満点中80点以上の者
 - ③多文化社会学部が指定する英語外部試験のスコアを有し、出願時に提出した者
- ↓
- いずれかの基準を満たした者を第1段階選抜の合格者とする
- ①共通テストの外国語の得点率が80%以上の者

	<p>②多文化社会学部が指定する英語外部試験のスコアを有し、出願時に提出した者 薬(薬)〈後〉…第1段階選抜基準変更：センター試験が600点満点中480点以上の者 →約20倍(通過予定人数：120人)</p> <p>教育(学校教育／小学校教育、特別支援教育)〈後〉…後期廃止 募集人員：教育(学校教育／小学校教育)…〈前〉69人→71人、〈後〉2人→0人 (学校教育／中学校教育－実技系)…〈前〉4人→5人 (学校教育／特別支援教育)…〈前〉7人→11人、〈後〉3人→0人 工…〈前〉221人→224人 薬(薬)…〈前〉30人→28人</p> <p>共通テスト：多文化社会〈前〉〈後〉…みなし満点として利用 対象試験：英語外部試験の対象試験からGTEC(3技能)除外 ※以下の環境科学、情報データ科学、工の選択科目変更はコロナ禍対策によるもの 環境科学〈後〉選抜方法A…国+歴公2+外 ※地歴：世Bor日Bor地理B →国+歴公2+外 ※地歴：世Bor日Bor地理B ※1科目はA科目へ変更可能 情報データ科学〈前〉…国+歴公+数2+理2+外→国+歴公+数2+外+{理2or(理+理基2)} 〈後〉…数2+理2+外→数2+外+{理2or(理+理基2)} 工〈前〉…国+歴公+数2+理2+外→国+歴公+数2+外+{理2or(理+理基2)} 〈後〉…数2+理2+外→国+歴公+数2+外+{理2or(理+理基2)} 個別試験：全学部…思考力・判断力・表現力を評価する高度な記述式問題を導入 …面接またはペーパー・インタビュー(面接に代わる筆記試験)を課す 教育(学校教育／小学校教育、幼児教育、特別支援教育)〈前〉 …外+面+(国or数)→外+面+(国or歴公or数or理) (学校教育／中学校教育－文系)〈前〉…面+(国or数or外)→面+(国or歴公or外) (学校教育／中学校教育－理系)〈前〉…外+面+(数or理)→面+(数or理) 環境科学〈後〉…面→論+面 水産〈後〉…面→面+総合問題</p>
--	---

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は123人(96)のやや減少で2年連続減少。後期は2人(100)の増加で前年度並。後期廃止の教育を除くと91人(106)のやや増加。なお、多文化社会〈前〉〈後〉、医(医)〈前〉、歯(歯)〈後〉、薬(薬)〈後〉、水産〈前〉で2段階選抜が実施された。

〈前期日程〉

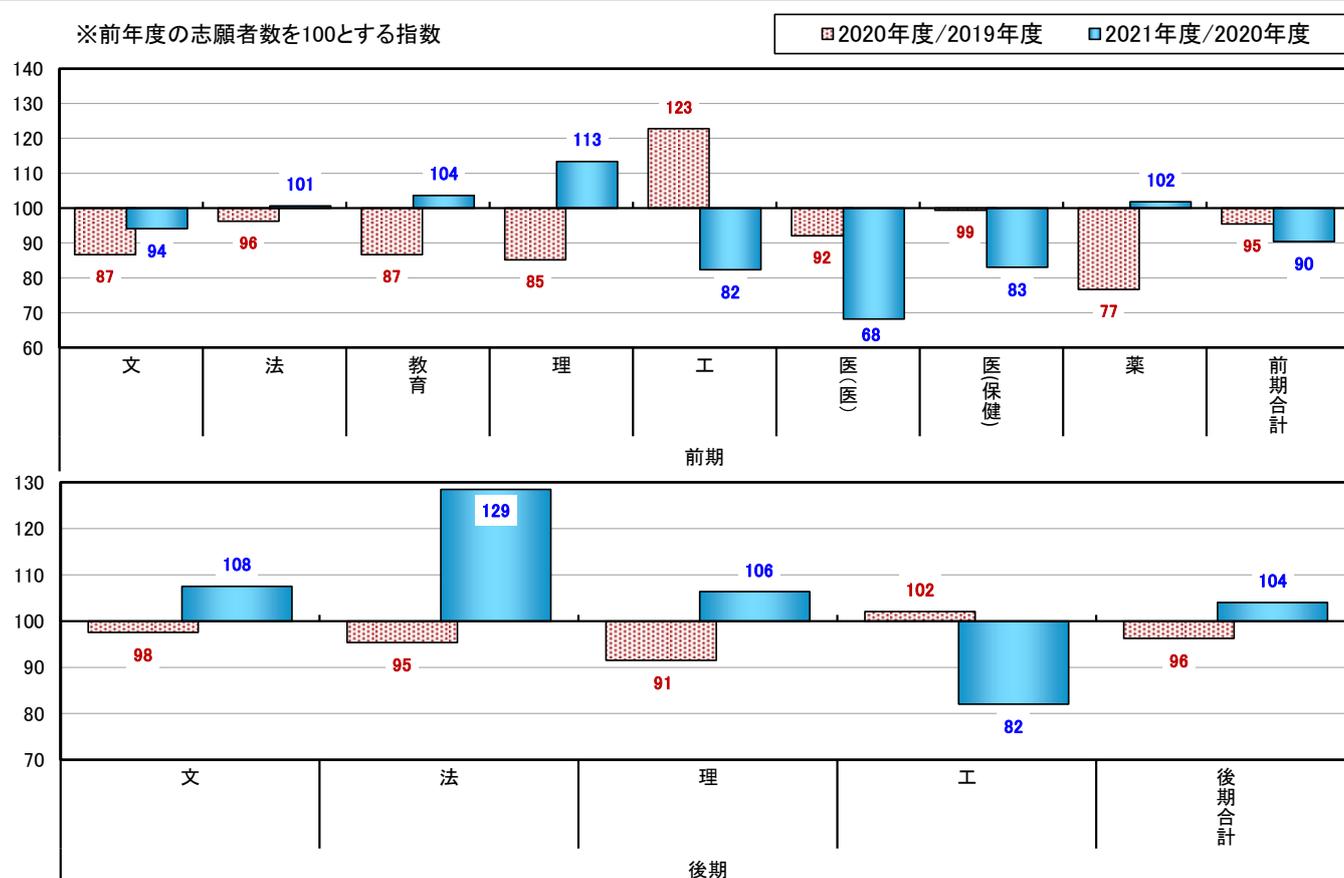
- 多文化社会(82)は、コロナ禍の影響を受ける系統への人気低下により、大幅減少で2年連続減少。募集単位別では、(多文化社会／オランダ特別)(136)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(多文化社会／オランダ特別以外)(78)は大幅減少で2年連続大幅減少と対照的。
- 経済(82)は、系統への低い人気と3年連続増加の反動で大幅減少。
- 教育(101)は、微増だが3年連続増加。コース・系別では、(学校教育／小学校教育)(131)は大幅増加、(学校教育／中学校教育－文系)(107)はやや増加。一方で、(学校教育／特別支援教育)(56)、(学校教育／幼児教育)(60)、(学校教育／中学校教育－実技系)(65)はいずれも大幅減少。
- 環境科学(79)は、2年連続大幅減少。募集単位別では、(選抜方法A(文系))(109)は前年度半減の反動で増加、(選抜方法B(理系))(61)は前年度大幅増加の反動で大幅減少と対照的。
- 情報データ科学(62)は、開設2年目で大幅減少。志願倍率も2.7倍→1.7倍にダウン。
- 工(103)は、3年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。
- 医(医)(149)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は3.7倍→5.6倍にアップ。
- 医(保健)(88)は、減少で2年連続減少。専攻別では、3専攻全て減少で、(保健／理学療法)(77)、(保健／作業療法)(80)は大幅減少、(保健／看護)(94)はやや減少。
- 歯(83)は、2年連続大幅減少。志願倍率も4.0倍→3.3倍にダウン。
- 薬(157)は、4年連続減少の反動から大幅増加。学科別では、募集人員2人(募集人員指数93)減少の6年制の(薬)(163)が4年制の(薬科学)(149)より増加率は大きく、志願倍率は(薬)が3.0倍→5.2倍にアップ、(薬科学)は2.9倍→4.3倍にアップ。
- 水産(59)は、系統への低い人気と合否判定は個別試験のみの成績で実施することから、平均点がアップした共通テストの成績を生かせないこともあって大幅減少で3年連続減少。志願者数は150人を下回り、志願倍率も5.2倍→3.1倍にダウン。なお、第1段階選抜は共通テスト900点満点中450点以上が合格者という資格試験方式。

〈後期日程〉

- 多文化社会(122)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。前年度の反動による大幅な増減が4年連続した。
- 経済(94)は、系統の低い人気から、やや減少で3年連続減少。
- 環境科学(64)は、3年連続大幅減少で、志願者数は90人を下回り、志願倍率も5.2倍→3.3倍にダウン。特に、(選抜方法A(文系))は2年連続大幅減少で志願者数は50人を下回った。
- 情報データ科学(63)は、開設2年目で大幅減少。志願者数は100人を下回り、志願倍率も9.5倍→6.0倍にダウン。
- 工(89)は、減少で3年連続減少。志願倍率は5.6倍→5.0倍へダウン。
- 医(保健)(85)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、(保健／理学療法)(121)が大幅増加、(保健／作業療法)(112)は増加。一方で、(保健／看護)(63)は大幅減少で、辛うじて志願倍率10倍を維持。
- 歯(222)は、3年連続減少の反動で倍増以上の激増。志願倍率も12.1倍→27.0倍にアップ。

- 薬(174)は、3年連続減少の反動で激増。学科別では、6年制の(薬)(204)が倍以上の激増、4年制の(薬科学)(146)も大幅増加。
- 水産(98)は、前年度並。志願倍率は2019年度以降3年連続で3倍を下回った。

熊本大：前期は2年連続減少、後期はやや増加 前期：-303人 後期：+42人



入試変更点 個別試験：教育(養護教諭)〈前〉…数+(国 or 外)→数+面+(国 or 外)
 医(保健/検査技術)〈前〉…数+理2+外→数+理2+外+面

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は303人(90)の減少で2年連続減少。学部別では、理(113)は前年度大幅増加の反動で増加、教育(104)は前年度減少の反動は小さくやや増加。後期は42人(104)のやや増加で8年ぶりの増加。学部別では、減少したのは工(82)のみと前年度と逆の増減となった。

＜前期日程＞

- 文(94)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(文)(120)は大幅増加、(総合人間)(104)はやや増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。一方で、(歴史)(61)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(コミュニケーション情報)(87)は2年連続減少で、志願倍率も3.1倍→2.1倍→1.8倍にダウン。
- 法(101)は、前年度並。
- 教育(104)は、前年度増加の反動は小さくやや増加に留まった。課程・専攻別では、(中学/国語)(210)は倍以上の激増、(中学/技術)(150)、(中学/保健体育)(125)、(小学)(118)は大幅増加。一方で(中学/美術)(63)、(中学/家庭)(70)、(養護教諭)(77)は大幅減少。
- 理(113)は、増加。2013年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 工(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2018年度の学科改組以前を含めると、2015年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、全ての学科で減少で、(材料応用化学)(67)、(土木建築)(83)は大幅減少、(機械数理工)(87)は減少、(情報電気工)(93)はやや減少。
- 医(医)(68)は、大幅減少で2年連続減少。志願倍率は5.4倍→3.7倍にダウン。
- 医(保健)(83)は、大幅減少。専攻別では、(保健/検査技術)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(保健/看護)(84)は2年連続大幅減少。
- 薬(102)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。学科別では、(創薬・生命薬科学)(129)は前年度減少の反動で大幅増加、(薬)(95)はやや減少で2年連続減少。

＜後期日程＞

- 文(108)は、3年連続減少の反動で増加。学科別では、(総合人間)(163)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(コミュニケーション情報)(38)は大幅増加の反動で激減。
- 法(129)は、3年連続減少の反動で大幅増加。

- 理(106)は、前年度減少の反動で増加。
- 工(82)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科全てで減少。(材料応用化学)(72)、(情報電気工)(77)は大幅減少、(機械数理工)(91)は減少、(土木建築)(94)はやや減少。